

令和6年度 仕様書

工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)

工事場所 川越市立旭町2丁目3番地7

【工事の概要】

川越市立川越高等学校A棟及びC棟のトイレを改修する工事である。

構造・規模

普通教室棟 RC造 地上5階建て

商業科棟 RC造 地上7階建て

- ・建築工事 一式
- ・電気設備工事 一式
- ・機械設備工事 一式

Table with 2 columns: 工 事 名 (Project Name) and 川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟) (Saitama City Saitama High School Toilet Renovation Work (A and C Buildings)).

- I 工事概要
1. 工事場所: 川越市立川越高等学校川越市街2丁目3番地7)
2. 敷地面積: 38.891 m
3. 工事種目 (建物概要): 用途, 構造, 階数, 延床面積
4. 工事内容: 上記(中)併設工事一式
・既存土等の撤去
・内部装飾 乾式化
・トイレブース交換
・手摺設置

- 6. 工事範囲
※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

Table with 2 columns: 工事項目 (Work Item) and 工事種目 (Work Type). Lists items like 仮設工事, 防水改修工事, 外壁改修工事, etc.

- II 建築改修工事仕様
(1) 質理回答書: 本特記仕様書(改修)及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁建築部監修「公共建築改修工事標準仕様書(令和4年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)...
(2) 改修標準仕様書及び仕様仕様書で「特記しなければ、」以下に具体的な材料、工法、検査方法を明示している場合において、それらが関係法令等(条件を含む)と異なる場合には、具体的な対応について監督員と協議すること。
(3) 本特記仕様書の表記
1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
3) 特記事項に記載の[]内の表示番号は、「川越市立川越高等学校」の当該項目、当該図表を示す。
4) 特記事項に記載の[]内の表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5) 特記事項に記載の()内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
6) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記号は省略する。また、()内は製品名を示す。
7) 本工事において、「環境物品等の調達に関する基本方針(令和4年2月25日閣議決定)」及び「埼玉県グリーン調達推進方針(最新版)」による特定調達品目のうち、「判断の基準」を満たす環境物品等(以下「特定環境物品等」という)を選択するよう努めるものとする。
なお、(注)印は当該図表で定めのある品目を示す。
8) 注は改修標準仕様書及び仕様仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

Table with 2 columns: 章 項目 (Chapter Item) and 特 記 事 項 (Special Notes). Contains detailed specifications for safety, construction methods, materials, and labor.

Table with 2 columns: 17 化学物質の測定測定 (17 Chemical Substance Measurement) and 18 防 水 改 修 工 事 (Waterproofing Work). Includes tables for chemical substance measurement and waterproofing methods.

Table with 2 columns: 9 工事用搬入路 (Construction Access Route) and 6 改質アスファルトシート 防水 (Modified Asphalt Sheet Waterproofing). Includes tables for access routes and waterproofing specifications.

5 アルミニウム製建具	性能値等 [5.2.2~5][表5.2.1、2] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	網戸等 種類 材質 網径 網目 ・防虫網 ※合成樹脂製 ※0.25mm以上 ※16~18メッシュ ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製 ・防鳥網 ステンレス(SUS304)線材 1.5mm 網目寸法5mm
6 樹脂製建具	性能値等 [5.2.2][5.3.2~5] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級 外部二面する建具の種類 ・T-A種・T-B種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合の断熱性の等級 外部二面する建具の種類 ・H-A種・H-B種・H-C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示
	ガラス ※遮光ガラス 水切り板、ぜん板等 ※図示 表面色 ・標準色 ・特注色
7 鋼製建具	性能値等 [5.2.2][5.4.2、4][表5.4.2] 簡易気密型ドアセットの気密性及び水密性の等級 ・適用する(※建具表による) ○適用しない 外部二面する鋼製建具の高気密性の等級 ・S-4・S-5・S-6(適用する建具 ※建具表による) 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	鋼板の厚さ 大変建具1枚の戸の有効開口幅が50mm又は有効高さか2.400mmを超えるもの ※建具表による 上記以外の鋼製建具 ※表5.4.2による 建具表による
8 鋼製軽量建具	性能値等 [5.2.2][5.5.2~4] 簡易気密型ドアセットの気密性の等級 ・適用する(※建具表による) ○適用しない 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	材料 鋼板類 ※垂釣めつき鋼板・ビコ鋼製鋼板・カー鋼板・ステン鋼板 召合せ、縦小口包み板等の材質 ※鋼板 建具表による
9 ステンレス製建具	性能値等 [5.2.2][5.4.2][5.6.2~5] 簡易気密型ドアセットの気密性及び水密性の等級 ・適用する(※建具表による) ○適用しない 外部二面するステンレス製建具の耐風圧性の等級 ・S-4・S-5・S-6(適用する建具 ※建具表による) 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	材料 鋼板 ※SUS304、SUS430J1又はSUS430J1 表面仕上げ ※H-L ・鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
10 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※各種 (16.7.2~4) 建物内側の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※特別対象外
	・フラッシュ戸 表面材の各板の種類 合板の種類 規格等 備考 ・普通合板 図 表面の種類 規格等 備考 ・天然木化粧合板 図 ・特殊加工化粧合板 図 表面板の厚さ ※表(16.7.6)による ・かまち戸 かまち種類() 鏡板種類() 見込み寸法 ※30mm 建具表による

11 建具用金物	・ふすま 張りの種別(・I型・II型) 上張り(押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子又はゴビロ紙程度 縁止上げ ・塗り縁 ・生地縁(素地) ・生地縁(ウレタンクリヤー塗装) 見込み寸法 ※19.5mm 建具表による
	・戸ふすま 見込み寸法 ※30mm 建具表による ・紙張り 障子 見込み寸法 ※30mm 建具表による 枠及びくつずりの材料 建具表による
12 鍵	金物の種類及び見掛け部の材質等 [5.7.1~3] ※表5.7.1)及び適用は建具表による 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※表5.7.2)による 建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※表5.7.3)による 建具表による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント等の取付位置 ・建具表による 図示 木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書表16.8.5)による 建具表による
	マスターキー ・製作する(・新規 ・既存マスター合わせ) ・製作しない [5.7.4] その他の鍵 ※各室3本1組 錠鑰 ・無 ・有
13 自動ドア開閉装置	引き戸用開閉装置及び外出装置の種類 [5.8.2、3]
	性能値 自動ドア 耐風圧、温度上昇、防錆 検出装置(センサー)の種類 凍結防止措置 ・SSD-1 ※表5.8.1)による ・適用する ・SSD-2 ・上記に於かない場合 ※適用しない ・DSD-1 () 適用する場合 ※表5.8.1)による ・DSD-2 () () ・多機能・イレレススイッチ ・マトリックス ・光線・反射・スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能・イレレススイッチ
14 自閉式上吊り引戸装置	多機能・イレレス出入口に設置される引き戸 出入口引き戸開閉装置の性能値 ※表5.8.2)による 防錆の適用 ・する ※しない ・上記に於かない場合 検出装置(センサー)の種類 ※建具表による 上記表と同じ 凍結防止措置 ・行う(適用箇所は建具表による) ・行わない
	引き戸用開閉装置の性能値 ※表5.8.3)による ・上記に於かない場合() 戸の開閉方式 ※建具表による 図示
15 重量シャッター	性能 [5.9.3] シャッターの種類 耐風圧強度 ・管理用シャッター 耐風圧強度() N/m ・外壁用シャッター 耐風圧強度() N/m ・屋内用シャッター ・屋内用防塵シャッター
	閉方式の種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 ・二重チェーン、急降下制御装置、急降下停止装置等を設けた電動シャッターの設置箇所 ※図示 ・障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ※図示 ・屋内用防塵シャッター若しくは防塵シャッターの危害防止機構 ※5.10.2)(4)(a)(b)に適合するもので、以下のいずれかの機能を有するものとする ※a) 障害物感知装置 自動閉鎖型 (b) 可動基板式 設置箇所 ※図示 ・管理用シャッターのシャッターケースの設置箇所 ※図示
16 軽量シャッター	材料 スラット及びシャッターケース用鋼板の材質 種類 ・JIS G 3302(溶接溶接めつき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312(塗装溶接溶接めつき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12
	閉閉方式の種類 ・上部電動式(手動併用) ※手動式 [5.11.2~4] 耐風圧の種類 () N/m 材料 スラットの材質 種類及びめっきの付着量 ・JIS G 3312(塗装溶接溶接めつき鋼板及び鋼帯) めっき付着量(※Z06又はF06) ・JIS G 3322(塗装溶接溶接めつきアルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量(※A290) スラットの形状 ・インターロック形 ・オーバーラッピング形
17 オーバーヘッドドア	性能 [5.12.2、3] セクション材料 耐風圧 閉閉方式 取付形式 ガイドレール による区分()による区分()による区分()による区分() ※スチールタイプ ・125 ※ララ式 ・スタンダード形 ※溶接溶接 ・アルミニウムタイプ ・100 ・チェーン式 ・ローヘッド形 めっき鋼板 ・ファイバークラスチックタイプ ・75 ・電動式 ・ハイリフト形 ・ステンレス鋼板 ・バーチカル形
	適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。 [3.7][5.13.2~4] 合わせガラス 種類 性能 色調 ・フロート合わせガラス ・フロート板合わせガラス ・I類 ・網入磨き合わせガラス ・熱線吸収・フロート板合わせガラス ・II-1類 II-2類 ・網入磨き・熱線吸収合わせガラス 強化ガラス 材料板ガラスによる種類 種類 性能 ・フロートガラス ・フロート強化ガラス ○I類 III類 ○型板ガラス ○型板強化ガラス 熱線吸収板ガラス 種類 性能 色調 ・熱線吸収フロート板ガラス ・1種・2種 ・ブルー・グレー・ブロンズ ・熱線吸収網入磨き板ガラス
18 ガラス	性能値等 [5.13.1~3] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	ガラスの種類 厚さは建具表及び図面による。 合わせガラス 種類 性能 色調 ・フロート合わせガラス ・フロート板合わせガラス ・I類 ・網入磨き合わせガラス ・熱線吸収・フロート板合わせガラス ・II-1類 II-2類 ・網入磨き・熱線吸収合わせガラス 強化ガラス 材料板ガラスによる種類 種類 性能 ・フロートガラス ・フロート強化ガラス ○I類 III類 ○型板ガラス ○型板強化ガラス 熱線吸収板ガラス 種類 性能 色調 ・熱線吸収フロート板ガラス ・1種・2種 ・ブルー・グレー・ブロンズ ・熱線吸収網入磨き板ガラス

19 ガラスブロック	性能値等 [5.13.5] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	ガラスの種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による 鋼製及び鋼製経塗 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ステンレス製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による
20 ガラス用フィルム	性能値等 [5.13.5] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 目地幅(mm) 伸縮調整 防火性能 ・正方形 ・125x125 80 ・ ・ ※8~15 内側 ※15以下 ※6以下 ・160x160 95 ・ ・ ※15~25 内側 ※15以下 ※6以下 ・200x200 95 ・ ・ ※15~25 内側 ※15以下 ※6以下 ・320x320 95 ・ ・ ※15~25 内側 ※15以下 ※6以下 ・長方形 ・250x125 80 ・ ・ ※15~25 内側 ※15以下 ※6以下 ・320x160 95 ・ ・ ※15~25 内側 ※15以下 ※6以下 目地幅の曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 材料 壁用金属枠及び附帯材の材質及び形状 ※図示 方骨 材質 ※ステンレス鋼 SUS304 寸法 ※図示 50mm 形状 ※丸山形・角山形・平山形 化粧目地モルタルの色 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 ガラスブロックの目地幅の寸法 ※5.13.5)(2)(a)(b)による 伸縮調整目地の位置 ※6mm以下(2)幅10~25mmの目地を設ける 目地幅の横方向の納まり ※ガラスブロックの製造所の仕様による 図示
6 内装改修工事	既存仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚を考慮し、既存仕切壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 天井材の撤去に伴う当該天井の取り合う天井の改修範囲 ※壁厚を考慮し、既存仕切壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※既存のまま 図示 ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ(接着剤とも) [6.2.2] ○下地モルタルとも(○図示の範囲) ・除去範囲全て 合成樹脂塗料の除去工法 ・機械的除去工法 ・目付工法 コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及び エポキシ樹脂モルタルは、「4章 外装改修工事」による。 改修後の床の納まり 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2] ※4.4.9)によるモルタル塗り(塗り厚25mmを超える場合の処理 ※図示) ○図示 表面仕上げの種類 適用箇所 [6.5.1] 機軸加工 ・A種 ・B種 ・C種 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 手加工 ・A種 ・B種 ・C種
	・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 [6.5.2] 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 保存処理 材面の品質 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による普通合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による構造用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 等級 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による化粧用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 間伐材等の適用

6 造作用集成材 図	性能値等 [6.5.2] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 含水率 保存処理 材面の品質 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」以外の製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 材面の品質 含水率 防虫処理 間伐材等の適用 ・「集材材の日本農林規格」による化粧用集成材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材の品質 見付け材の品質 間伐材等の適用 ・「集材材の日本農林規格」による化粧用集成材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材の品質 見付け材の品質 間伐材等の適用 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧用集成材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材の品質 含水率 間伐材等の適用 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧用集成材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材の品質 見付け材の品質 間伐材等の適用 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧用集成材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材の品質 見付け材の品質 間伐材等の適用 ・CLT(直交集成材) 図 施工箇所 曲げ性能(強度等級) 種別 接着性能(使用膠材) 樹種 寸法(mm) 間伐材等の適用 ホルムアルデヒド放散量 ※特別対象外 [6.5.2] ・「集材材の日本農林規格」による普通合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による構造用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 等級 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による化粧用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 間伐材等の適用
7 造作用単板積層材 図	性能値等 [6.5.2] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 [6.5.2] 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 保存処理 材面の品質 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による普通合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による構造用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 等級 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による化粧用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 間伐材等の適用
8 合板等	性能値等 [6.5.2] 耐風圧性、気密性及び水密性の等級、枠の見込み寸法 外部二面する建具の種類 ・A種・B種・C種(適用する建具 ※建具表による) 上記以外の建具(※建具表による) 図示 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 断熱ドア、断熱サッシ 図 とする場合 断熱性の等級() (適用する建具 ※建具表による) 耐震ドアとする場合 面内変形耐震性の等級() (適用する建具 ※建具表による)
	・「製材の日本農林規格」による普通合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による構造用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 等級 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理 間伐材等の適用 ・「製材の日本農林規格」による化粧用合板 図 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 間伐材等の適用

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include construction materials like '合板の日本農林規格による天然木化粧合板', 'パーティクルボード', 'MDF', and '接合具等'. Each item has a table with specifications like '施工箇所', '厚さ', '接着剤', etc.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 'カーペット敷き', 'タフテッドカーペット', 'タイルカーペット', 'タイルカーペットの敷き方', '塗料のホルムアルデヒド放放量', 'フロ어링張り', '畳敷き', 'せっこうボード', '木質系セメント板', '天然木化粧合板', '特殊加工化粧合板', 'メラミン樹脂化粧板', 'ポリエステル樹脂化粧板'.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 'パーティクルボード', '吸音材料', '繊維強化セメント板', '繊維板', 'ハードボード', 'ミディアムデンシティファイバーボード', 'せっこうボード', '合板類の引掛け', '壁紙のホルムアルデヒド放放量', 'モルタル', 'タイル張り', '伸縮調整目地の位置', 'セメントモルタルによるタイル張り', '標準的な曲りの役物', '標準的な曲りの役物', '目地のシーリング材', '種類及び品質'.

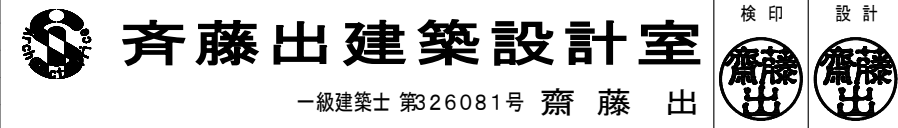
Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 'フリーアクセスフロア', '可動間仕切', '移動間仕切', 'トイレブース', '階段昇り止め', '手すり', '黒板及びホワイトボード', '表示', 'ブラインド', 'ロールスクリーン', 'カーテン', 'カーテンレール'.

40	ブラインドボックス 及びカーテンボックス	溝型×深さ(mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示 材質 ・ 集成材(仕上材) ・ アルミニウム製 押出し型材(市販品) 種類(標準仕様書表14.2.1) ・ B0-1種 ・ B0-2種 色合い ・ 標準色() ・ 特注色() ・ 鋼製(仕上材)
41	天井点検口	材質 寸法 形式 外枠 内枠 ※アルミニウム製 ○450×450 ○一般形 ・ 屋内外用 ○縦線タイプ ○縦線タイプ ・ 600×600 ・ 気密形 ○屋内用 ・ 目地タイプ ・ 目地タイプ
42	床点検口	材質 寸法 形式 備考 ・ アルミニウム製 ・ 450×450 ・ 一般形 ・ 屋内外用 ・ 鍵付き ・ ステンレス製 ・ 600×600 ・ 密閉形 ・ 室内用
43	くつろぎマット	材質 受け枠 備考 ・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製
44	流しユニット	材質 寸法(mm) 備考 W D H ・ 流し台 ・ 1200 ・ 550 ・ 800 市販品 ・ 1500 ・ 600 ・ 850 トラップ付き ・ 1800 ・ 650 天板ステンレス製 ・ コンロ台 ・ 600 ・ 550 ・ 620 市販品 ・ 600 ・ 600 ・ 670 バックガード有り ・ 650 天板ステンレス製 ・ つり戸棚 ・ 1200 ・ 450 ・ 500 市販品 ・ 900 ・ 700 ・ 水切り ・ 1200 ・ - ・ - 市販品 ・ 900 ・ - ・ - ステンレス製 ・ 600 ・ - ・ - ・ 1段式
45	鋼製書架及び物品棚	品質・性能 JIS A 4420による。 形状 ※図示
46	屋内掲示板	種類 規格等 JISによる種類 ・ 鋼製書架 JIS S 1039の規格による ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 鋼製物品棚
47	洗面カウンター	材質 形状 寸法 ※図示 合板類 MDF 及びバーティカルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規格対象外
48	防煙垂れ壁	材質 厚さ(mm) 高さ(mm) 備考 ※綿入り磨板ガラス ※6.8 ※500 アルミ製枠付き ・ 綿入り磨板ガラス
49	収納家具	材質 形状 寸法 ※図示 合板類 MDF 及びバーティカルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規格対象外
7	①材料	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規格外対象外 ○防火材料 ※屋内の壁、天井仕上り部防火材料とする。 ・ 仕上り剤による
	②下地調整	塗替えR/B種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※塗替え面積の30% ・ 図示
	③錆止め塗料塗り	下地調整 下地調整の種類別 下地の種類 塗替え 新規 及び劣化部の補修 木部 ・ F4種 ※F3種 ・ F4種 ・ F5種 鉄鋼面 ・ F4種(注) ・ F4種 垂れめつき面 ※F4種(注) ・ F4種 垂れめつき面(鋼製建具) ※F4種 ※F5種 F3種 モルタル、プaster面 ・ F4種 ※F5種 ・ F4種 ・ F5種 ・ 行う コンクリート面(吹き外) ・ F4種 ※F5種 F4種 ・ 行わない ALC/セレン面 ・ F4種(注) ・ F4種 ・ F5種 ・ 行う 押出成形セメント板 ・ F4種(注) ・ F4種 ・ F5種 ・ 行う コンクリート面(吹) ・ F4種(注) ・ F4種 ・ F5種 ・ 行う せつこうボード面及び その他ボード面 ・ F4種 ※F5種 ・ F4種 ・ F5種 -

④塗装	[7.4.2~7.14.2] 塗装の種類 塗装面 塗替え 新規 ○合成樹脂系樹脂系ペイント(吹付) 木部塗料外 ※F4種 ・ ※F4種 塗料の種類 木部塗料内 ※F4種 ・ ※F4種 ※1種 ・ 2種 垂れめつき面(鋼製建具) ※F4種 ・ ※F4種 垂れめつき面(鋼製建具以外) ※F4種 ・ ※F4種 ・ クリヤラッカー塗料(D) ※F4種 ・ ※F4種 ・ フタル酸樹脂系エナメル塗料(FE) - - ・ アクリル樹脂系非水分散型塗料(NP) ※F4種 ・ ※F4種 ・ 耐熱性塗料塗り(OP) 鉄鋼面 上塗り等級() 級 ・ ※F4種 上塗り等級() 級 ・ ※F4種 エポキシ面及び押出成形セメント板面 - - ・ つや有合成樹脂系エマルジョンコンクリート面等 ※F4種 ・ ※F4種 ・ ヨンペイント塗り(BP-G) 屋内の木部 ※F4種 ・ ※F4種 屋内の鉄鋼面 ※F4種 ・ ※F4種 屋内の垂れめつき面 ※F4種 ・ ※F4種 ・ 合成樹脂系エマルジョンペイント塗り(OP) ※F4種 ・ ※F4種 ・ 合成樹脂系エマルジョン樹脂塗料塗り(BP-T) ※F4種 ・ ※F4種 ・ ウレタン樹脂系ニス塗り(LD) ※F4種 ・ ※F4種 ・ ラッカーエナメル塗料(LB) ※F4種 ・ ※F4種 ・ オイルステイン塗り(OS) - - ・ 木材保護塗料塗り(WP) ※F4種 ・ ※F4種	
8	耐震改修工事	特記仕様書(改修その7~8)による
9	環境配慮改修工事	①石綿含有建材の事前調査 [9.1.1] 工事着手に先立ち、目視及び貫する設計図書等により石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、報告する。 調査項目(※改修範囲) ・ 図示 貫す資料() ②石綿含有建材分析調査 [9.1.1] 分析対象 アモサイト、クリソライト、クロソライト、アクチノライト、アンソファイト、トレモライト 分析方法 材料名 定性分析方法 定量分析方法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 ・ ※ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 ・ ※ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 ・ ※ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 ・ 箇所 試料の採取 1材料あたり3箇所 吹き付け材及び保温材等 ※10cm ² /箇所 ・ /箇所 成形板 ※100cm ² /箇所 ・ /箇所 採取箇所 ・ 図示 分析結果を監督員へ提出すること
	③石綿検じん濃度測定	測定時期、場所及び測定点 [9.1.1] 適用 測定 測定時期 測定場所 測定点 ベテリ 測定1 名称 (如里作業室ごと) 測定2 測定1 測定1 測定1 測定3 測定2 測定2 測定2 測定4 測定3 測定3 測定3 測定5 測定4 測定4 測定4 測定6 測定5 測定5 測定5 測定7 測定6 測定6 測定6 測定8 測定7 測定7 測定7 測定9 測定8 測定8 測定8 測定10 測定9 測定9 測定9 さいたま市内で測定を行う場合は市条例を遵守して実施すること。 測定方法 測定5のみ ※バティックカッター、粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムモニター)等、排気の粉じん濃度を迅速に計測できる機器にて測定 測定5 以下は下表による メッシュ径(mm) 測定3 測定1, 4, 7, 9 測定2, 6, 8, 10 25 25 47 試料の吸じん流量(L/min) ※1 ※5 ※5 試料の吸じん時間(min) ※5 ※120 ※240
	④石綿含有吹き付け材の除去(レベル1)	除去対象範囲 ・ 図示 除去方法 ※9.1.3(2)(ア)による 除去した石綿含有吹き付け材等の飛散防止措置 ※密封処理 ※温風化 ・ 固形化 ※密閉処理 ※温風化 ・ 固形化 除去した石綿含有吹き付け材等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)
	⑤石綿含有保温材等の除去(レベル2)	除去方法 ※9.1.4(3)による(原形のまま、手はらしか可能な場合) 除去対象範囲 ・ 図示 ・ [9.1.3(2)]による(損傷、劣化等で石綿露出を発生させるおそれがある場合) 除去対象範囲 ・ 図示 除去した石綿含有保温材等の飛散防止措置 ※密封処理 ※温風化 ・ 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)
	⑥石綿含有成形板の除去(レベル3)	除去対象範囲 ○図示 作業場から外部への石綿の飛散防止のための養生方法 ※ビニールシート等による隔離養生(責任不要)を行う 除去した石綿含有成形板の処分 ・ 石綿含有せつこうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ○石綿含有せつこうボードを除く石綿含有成形板 ○埋立処分(安定型最終処分場) ○中間処理(溶融施設または無害化処理施設)

7	石綿含有建築用仕上塗料等の除去(レベル3)	除去対象範囲 ・ 図示 着工前の飛散防止工 行う ・ 行わない 除去方法 除去した石綿含有建築用仕上塗料等の飛散防止措置 ※密封処理 ※温風化 ・ 固形化 除去した石綿含有建築用仕上塗料等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)
8	リフトリセマックアイの処理	除去対象範囲 ・ 図示 除去方法 処分 ・ 埋立処分(安定型最終処分場)
9	断熱アスファルト防改修工事	工法の種類 [9.2.3] ・ P1B工法 ・ P2A工法 ・ P0D工法 ・ T1B工法 ・ M0D工法 ・ M0C工法
10	外断熱改修工事	断熱材 [9.2.2~4] 種類() 厚さ() mm 施工箇所() ・ ポリウレタンフォーム() ※規格外 ・ 外装材種類() 防火性能() 既存外壁の措置 ・ 既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし ・ 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない 欠損箇所の改修工法 [4.1.4]による 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 不陸等の下地調整 断熱材の施工 ※断熱材の製造所の仕様による 遮気層の有無 あり() mm ※図示 ・ なし 外装材の外壁への取り付け及び外装材の施工 ・ 外装材の製造所の仕様による
11	ガラス改修工事	5 建具改修工事 18 ガラス の「複層ガラス」による [9.4.2]
12	断熱・防音改修工事	フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 [9.5.2~4] ※規格外対象外 ・ 断熱材内張り工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく 発泡プラスチック断熱材 種類() 厚さ(mm) 施工箇所 ・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種 ・ A種H 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 施工箇所 図示 ・ 断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく 発泡プラスチック断熱材 厚さ(mm) ・ せつこうボード等を張り付けたものを使用
13	屋上緑化改修工事	植栽基盤及び材料 [9.6.2~4] 屋上緑化経路システム ・ 適用する ・ 適用しない 芝及び地被類の移植並びに工種等 ※図示 製り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 かん水装置 ・ 設置する(種類) 既存保水層の撤去 ・ 行う ・ 行わない 新植した芝及び地被類の移植期間 ※引き渡しの日から1年
14	透水性アスファルト舗装改修工事	適用範囲 歩道 [9.7.2~5, 9] 既存舗装の撤去及び再利用 ※図示 路床の材料 種類 材料 厚さ(mm) ・ 盛土 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 図示 ・ 建設用砂利から再生した加工土 図示 ・ 凍上抑制層 ・ 再生クラッシュチャラン 図示 ・ 切込み砂利 図示 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂 75µmふるい通過量6%以下 ・ フィルター層 川砂、海砂又は良質な山砂 75µmふるい通過量6%以下 ・ 図示 ・ 路床安定処理(添加材料による安定処理) 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 図示 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰・特号・1号 ・ 消石灰(・特号・1号) 添加量 (kg/m ²) kg/m ² (目標CBR 3以上) 目標CBRを満足する添加量の確認方法 ・ 安定処理土のCBR試験
15	PCB含有シーリング材処分	試験 砂の粒度試験 行う 路床土の支持力比(CBR)試験 行う(箇所) 行わない 現場CBR試験 行う(箇所) 行わない 路面摩阻係数の試験 行う 行わない 路面クロム溶出試験 行う 行わない 試験 路床の構成及び厚さ 図示 路床材料 種類 砕石 ・ クラッシュラン ・ 粒度調整砕石 再生材 ・ クラッシュラン 図示 ・ 粒度調整砕石 図示 ・ 水硬型粒度調整砕石 図示 舗装の構成 ・ 図示 舗装の平たん性 ※厳しく不陸なものも、 開閉度アスファルト 混合物等の抽出試験 行う 行わない
	⑤各部留	種類 採取する部位・箇所数 備考 ・ PCB含有シーリング 部 箇所 分析箇所(第一次判定) 箇所 ・ PCB含有シーリング 部 箇所 分析箇所(第二次判定) 箇所
	⑥ガス圧接	詳細を監督員との協議による

16	舗装版切替時に発生する濁水の処理 (舗装版切替時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書)	濁水の処理 1) 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 種類及び処理量 ・ 図示による 処理方法 ・ 中間処理後、最終処分場へ搬入(処理・焼却含む) ・ 中間処理後、最終処分場又はセメント工場へ搬入(処理・焼却含む) 2) 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合、事前に監督員と協議するものとする。 共通事項 1) 受注者は、舗装版切替作業を行なう中濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥(油分を含む汚泥)として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。 2) 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3) 受注者は、汚泥の中間処理を行う場合に、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4) 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理(以下「マニフェスト」という。)により管理するものとする。 提出書類等 1) 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2) 受注者は、作業完成後速やかにマニフェストの写しを監督員へ提出しなければならないものとする。 その他 1) 濁水処理計画については、舗装版の切替延長や切替厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としなないものとする。 2) 受注者は、舗装版切替時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。 3) 疑義が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。
10	①鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) 種類記号 呼び径(mm) 備考 ○SDP95A ※D16以下 ・ SD845 ※D19以上 ・
	2 溶接金網	形状等 (5.2.2) 種類 種類記号 網目の形状、寸法、鉄線の径(mm) 使用部位 ・ 溶接金網 ・ 鉄筋格子
	③継手及び定着	鉄筋の継手方法等 (5.3.4) 部位 継手方法 呼び径(mm) 柱、梁の主筋 ・ ガス圧接 ・ 機械式継手 ※D19以上 耐力壁の鉄筋 ・ 溶接継手 基礎、耐圧スラブ、土圧壁 ・ 重ね継手 その他の鉄筋(鉄筋カサマシ) ○重ね継手 継手位置 ・ 図示による(構造関係共通図 配筋標準図 5.1.6.1, 7.1.7.3, 8.1) 基礎主筋の継手位置 ・ 図5.2 ・ 図5.3 ・ 図5.4 ・ 図示による() 柱及び梁の重ね継手の長さ ・ 図示による() 耐力壁の筋筋の重ね継手の長さ ※図示による(構造関係共通図 配筋標準図 3(1)(ウ)) ・ 図示による() 柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所へ設ける部分の位置及び施工方法等 ・ 図示による() 鉄筋の定着長さ ※図示による(構造関係共通図 配筋標準図 3(2)) ・ 図示による() 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図(配筋標準図)による。これによらない箇所は図示による。
	④鉄筋のかり厚さ及び巾留(溶接金網含む)	最小かり厚さ(目地側から算出を行う) ※図示による(構造関係共通図 配筋標準図 4(1)表4.1) ・ 図示による() 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 () 主筋のかり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等) ・ あり 適用箇所 ・ 最小かり厚さ()mm
	⑤各部留	※図示による (5.3.7)
	6 ガス圧接	圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10) 外観試験 ※行う(全ての圧接部) 抜取試験 ※監督員選定試験(試験方法 標準仕様書5.4.10(イ)による) 引張試験 試験方法 ※標準仕様書5.4.10(イ)(b)による
	7 機械式継手	適用箇所 (5.5.2) ・ 図示による() H22建告第1463号に適合する性能 ・ A級 機械式継手の種類 ・ 図示による() 鉄筋相互のあき ・ 図示による() 施工完了後の継手部の試験 ・ 図示による() 不合格となった継手部への措置 ・ 図示による()
	8 溶接継手	適用箇所 (5.6.3) ・ 図示による() H22建告第1463号に適合する性能 ・ A級 溶接継手の種類 ・ 図示による() 鉄筋相互のあき ・ 図示による() 施工完了後の継手部の試験 ・ 図示による() 不合格となった継手部への措置 ・ 図示による()
	⑨その他	差筋アンカー ・ D10 ※D13



斉藤出建築設計室
一級建築士 第326081号 齋藤出




11 コンクリート工事	①コンクリートの種類等 (6.2.1)	類別 (6.2.1) ※I類(J S A 5308 への適合を認識されたコンクリート) ・ II類(J S A 5308 に適合したコンクリート) 普通コンクリート (6.2.1~6.2.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○24</td> <td>2.3程度</td> <td>○15又は18・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> 構造体強度補正値 S (6.3.2) ※標準仕様書 表6.3.2による 補正値 S = 3 (月 日 ~ 月 日、月 日 ~ 月 日) S = 6 (月 日 ~ 月 日、月 日 ~ 月 日)	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所	○24	2.3程度	○15又は18・18		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所																						
	○24	2.3程度	○15又は18・18																							
	・	・	・	・																						
	・	・	・	・																						
	・	・	・	・																						
	・	・	・	・																						
	②セメント (6.3.1)	種類 (6.3.1) ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種 適用箇所(※下記以外全て) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする。 ・高炉セメント B 種 () 適用箇所(・ 1Fより下部(立上り部含む)) ・フライアッシュセメント B 種 () 適用箇所(・)																								
	③骨材 (6.3.1)	アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) ※A ・ B (コンクリート 中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下)																								
	④混和材料 (6.3.1)	・混和剤 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・混和材 (6.3.1) 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による																								
5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4)	打継ぎの位置 (6.6.4) 梁及びスラブ ※スラブの中央又は端から1/4の付近 ・図示による() 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による() 目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ・標準仕様書 9.7.3(1)(ア)~(ウ)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打継部で処理する ・図示による()																									
6 ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1)	ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1) ・図示による()																									
6 湿潤養生 (6.7.2)	湿潤養生の期間 (6.7.2) ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日																									
7 コンクリートの仕上り (6.2.5)(6.8.2)	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2) <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ A 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ B 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ C 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> </table> コンクリートの仕上りの平たんさ <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ a 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ b 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ c 種</td> <td>※図示による()</td> </tr> </table>	種 別	適用箇所	・ A 種	※図示による()	・ B 種	※図示による()	・ C 種	※図示による()	種 別	適用箇所	・ a 種	※図示による()	・ b 種	※図示による()	・ c 種	※図示による()									
種 別	適用箇所																									
・ A 種	※図示による()																									
・ B 種	※図示による()																									
・ C 種	※図示による()																									
種 別	適用箇所																									
・ a 種	※図示による()																									
・ b 種	※図示による()																									
・ c 種	※図示による()																									
8 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.1)	打増し厚さ (6.8.1) ・打放し仕上げの打増し厚さ(外観に面する部分に限る) ・ 20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ(内観に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・ 20mm 打増し範囲 ・図示による()																									
⑨型枠 (6.8.2)	せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板(※12mm) () コンクリート 打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合、強度、変形率について、事前に関係者と協議する。 ・断熱材を使用した型枠の使用 適用箇所 () ・ MC R 2 型用シート の使用 適用箇所 () 打増し厚さ ・ 20mm 打増し範囲 () スリーブの材質・規格等 ・図示による()																									
10 軽量コンクリート (6.10.1.2)	存置期間及びひび割れ (6.8.4) ※標準仕様書6.8.4による ・普通エコセメントの場合(※図示による())																									
11 寒中コンクリート (6.11.1.2)	適用箇所 (6.10.1.2) ・図示による() 種類 ・ 1種 ・ 2種 気乾単位容積質量 ・標準仕様書 表6.10.11による スラブ ※21cm																									
12 暑中コンクリート (6.12.2)	適用期間(月 日 ~ 月 日) (6.11.1.2) 構造体強度補正値 S を積算温度を基に定める場合 ・図示による()、S=()																									
13 マスコンクリート (6.13.1.2)	適用期間(月 日 ~ 月 日) (6.12.2) 構造体強度補正値 S ※8N/mm ² ・図示による()、S=()																									
14 マスコンクリート (6.13.1.2)	適用箇所 (6.13.1.2) ・図示による() セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・ 中熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・高炉セメント B 種 () ・ フライアッシュセメント B 種 () ・ シリカセメント 混和材料の適用 ・あり(・標準仕様書6.13.2(2)(ア)による ・標準仕様書6.13.2(2)(イ)による) スラブ ※15cm 構造体強度補正値 S ※標準仕様書 表6.13.11による																									

14 無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類 (6.14.1) ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種 ・高炉セメント B 種 () ・フライアッシュセメント B 種 () 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・ 図示による() 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150ml に 1 回以上及び落下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.3.2(ウ)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画配合書の設計値 以下、「設計値」という。) ±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値 ±15 を超え ±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運転車の生コンは打放す。その後、設計値 ±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運転車の3 台毎に1 回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値 ±20kg/m ³ を超える場合は、生コンを打込み前に持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後、全運転車の測定を行い設計値 ±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値 ±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運転車の3 台毎に1 回、単位水量の測定を行う。 4) 3) の不合格生コンを確認し持ち帰ったことを確認する。 (4) 単位水量管理についての記録簿を 書面(計画配合書、製造管理記録簿、打込み時の外気温、コンクリート 温度等)と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高部技術部が検定された電子レンジ法、ロー法又は秤電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート 製造所以外の機関とする。
15 コンクリートの単位水量測定	12 その他特記事項 ※ 学校運営に配慮した施工計画とすること ※ 夏休み期間中でも部活動等がある場合があるので、安全面に配慮すること ※ 次の学校行事では作業を中止すること 7月26日：学校説明会 8月4日：市主催事業 8月18日：市主催事業 8月30日：文化祭 8月31日：文化祭 9月28日：学校説明会 10月2日：体育祭 10月15日：中間考査 10月16日：中間考査 10月17日：中間考査 10月18日：中間考査 10月20日：市主催事業 このほかに突発的な行事等がある場合は、施設管理者の指示に従うこと ※ 関連工事 ①工事名：川越市立川越高等学校エレベーター改修工事 作業期間：令和6年7月12日から令和6年9月4日まで(予定) 作業概要：既存エレベーター(乗用、11人乗り、2基)を改修するもの 原則1基ずつ改修を進める予定だが、作業の都合により2基とも運転を休止する場合がある 作業箇所が近接しているため、仮設箇所、工事動線等を協議・調整すること



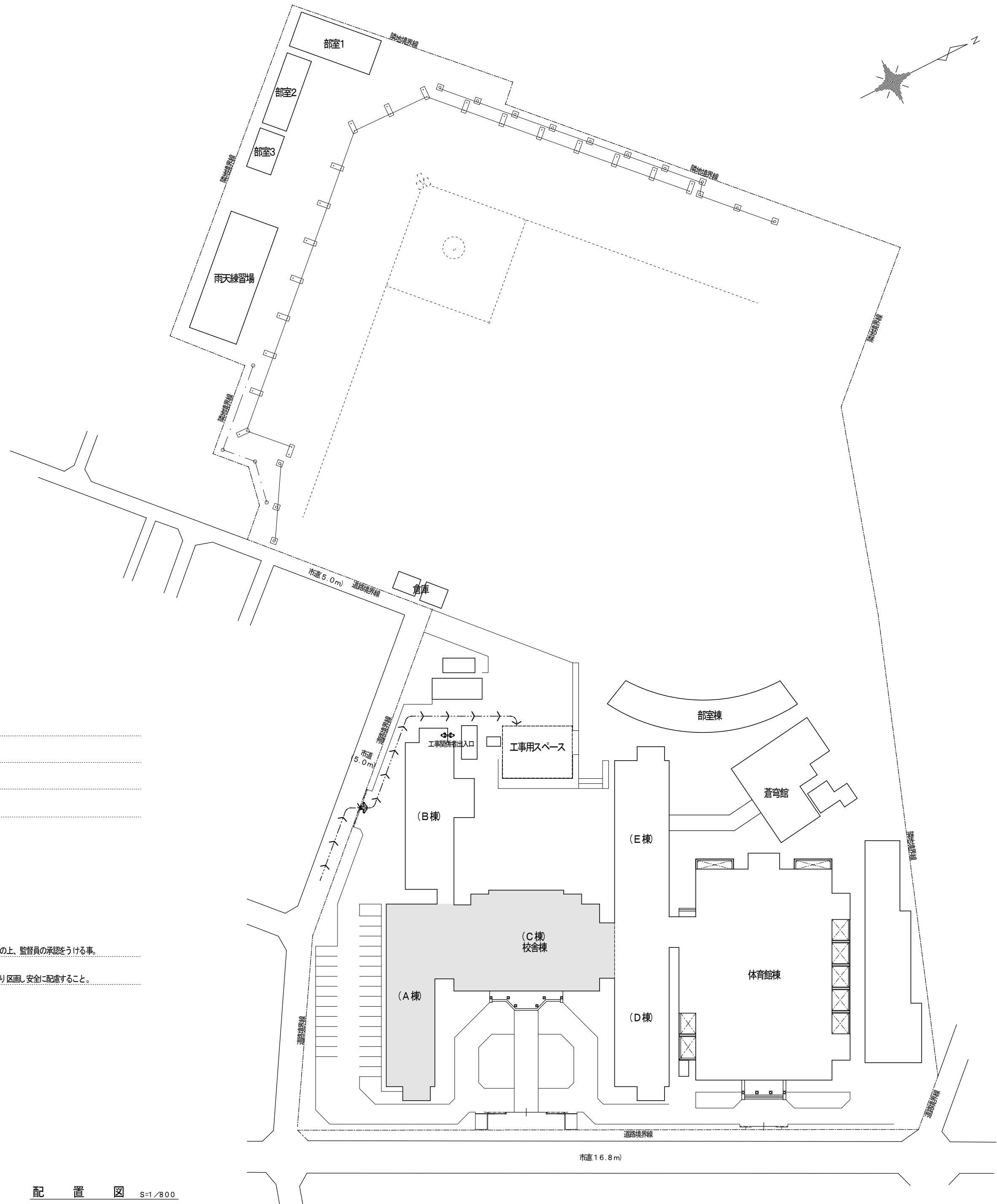
工事場所: 川越市立川越高等学校(川越市旭町2丁目3番地7)

案内図

- 凡例
-  工事建物を示す
 -  工事対象部分を示す
 -  工事車両出入口を示す(予定)
 -  工事車両通行経路を示す(予定)

※仮設計画は周囲の状況を調査し、仮設計画図を作成の上、監督員の承認をうける事。

※工事用スペースはカラーコーン、コーンバー等により区画し安全に配慮すること。



配置図 S=1/800

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



設計

変更年月日

設計年月日 R 5 . 1 . 31

工事名称

川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)

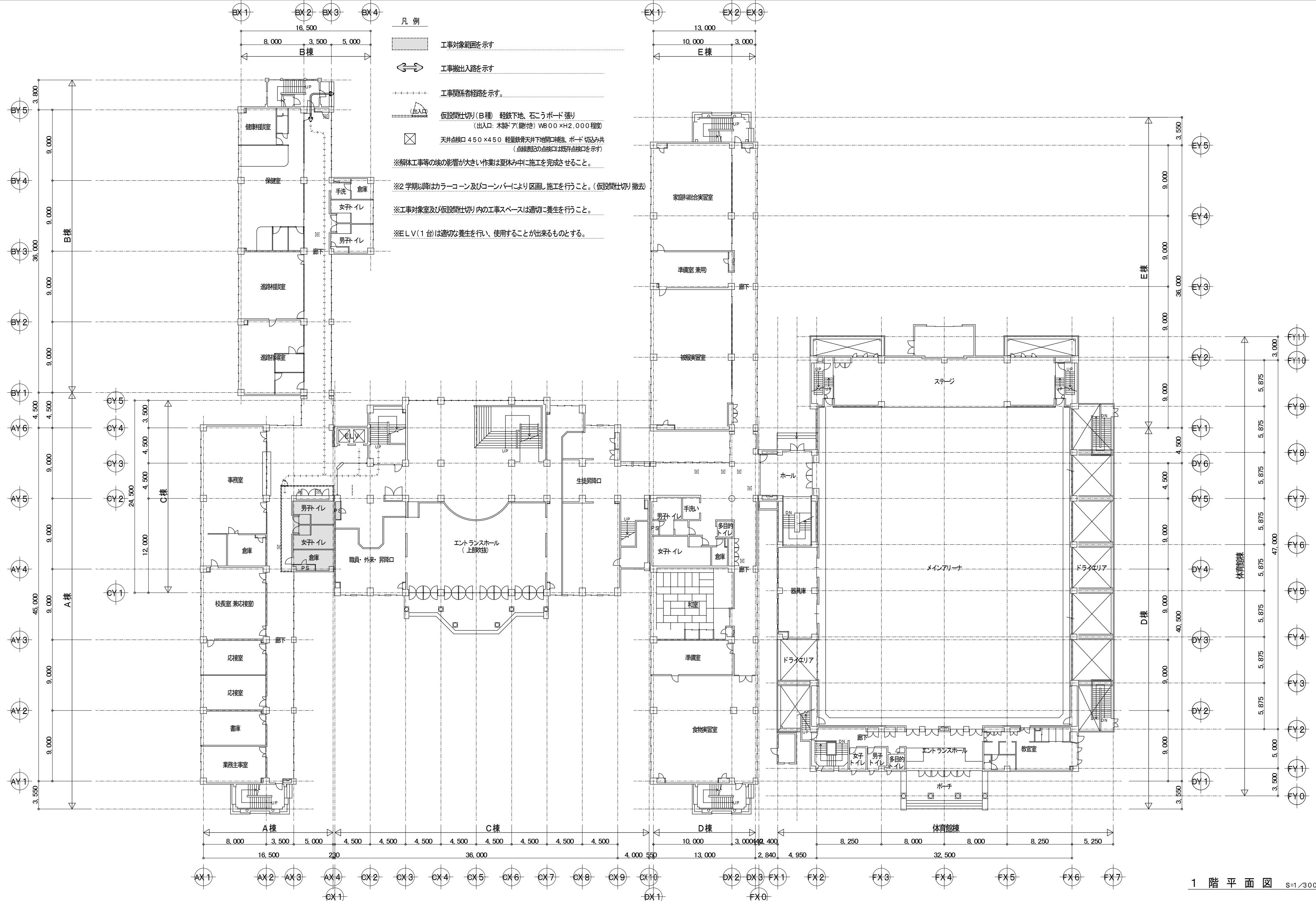
図面名称

案内図・配置図

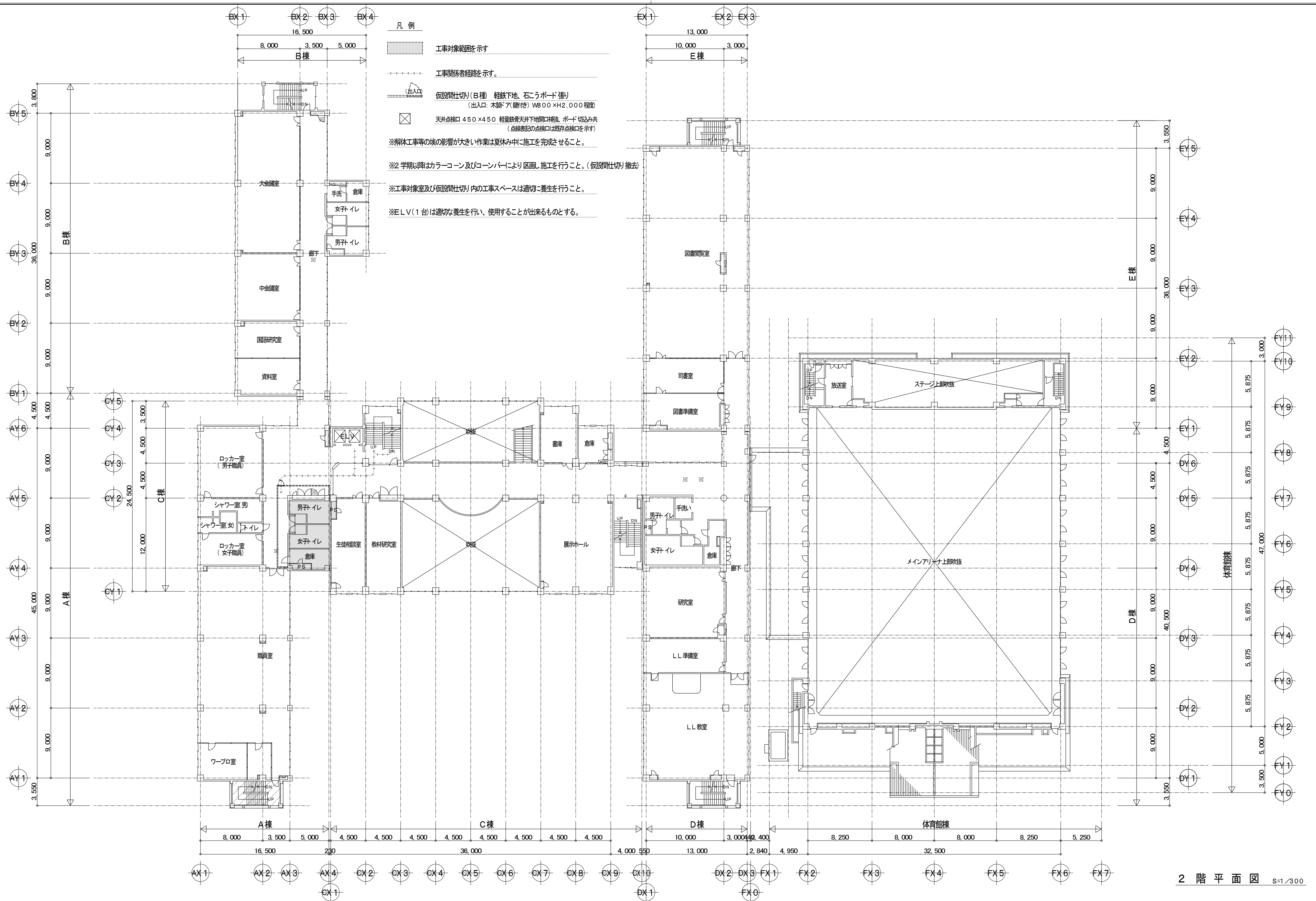
Scale S=1/800

No.

A-07

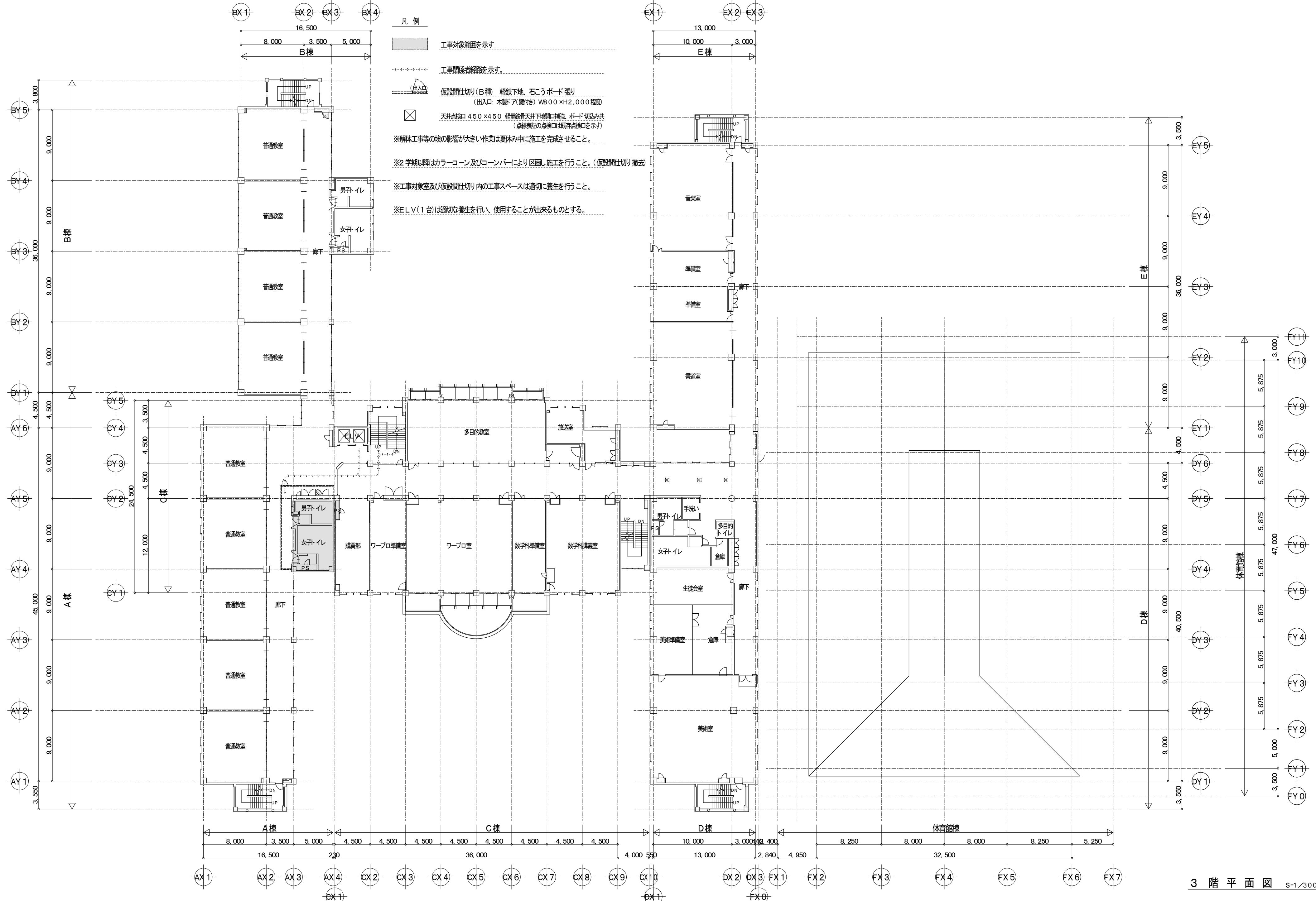


1階平面図 S=1/300



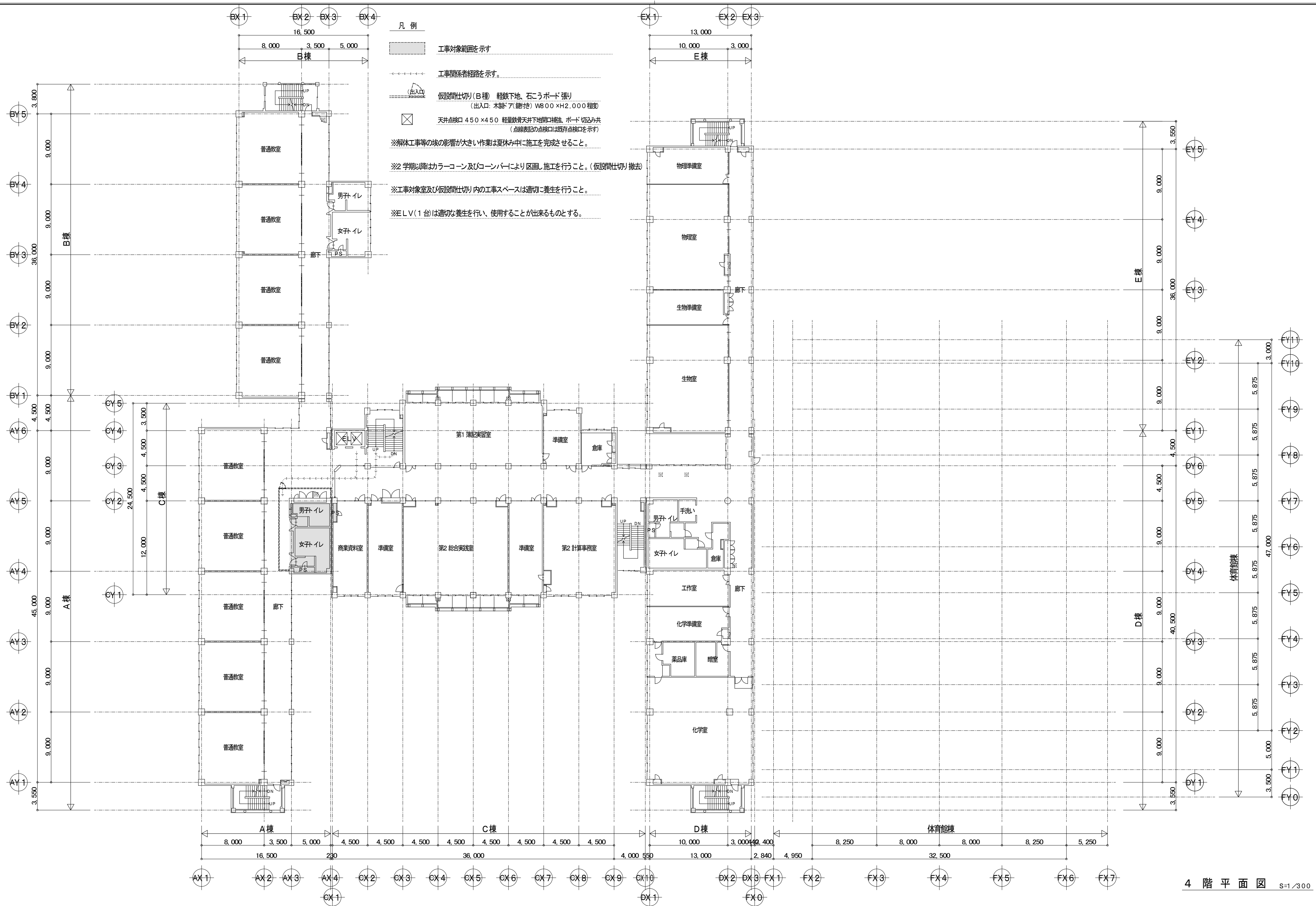
- 凡例
- 工事対象範囲を示す
 - 工事関係者経路を示す
 - 仮設間仕切り (B種) 軽鉄下地、石膏ボード張り
(出入口: 木製ドア(鍵付き) W800 x H2,000程度)
 - 天井点検口 450 x 450 軽量鉄骨天井下地開口補強、ボード切込み共
(点検口の点検口は既存点検口を示す)
- ※解体工事等の埃の影響が大きい作業は夏休み中に施工を完成させること。
- ※2学期以降はカラーコーン及びコーンパーにより区画し施工を行うこと。(仮設間仕切り撤去)
- ※工事対象室及び仮設間仕切り内の工事スペースは適切に養生を行うこと。
- ※E LV(1台)は適切な養生を行い、使用することが出来るものとする。

2階平面図 S=1/300



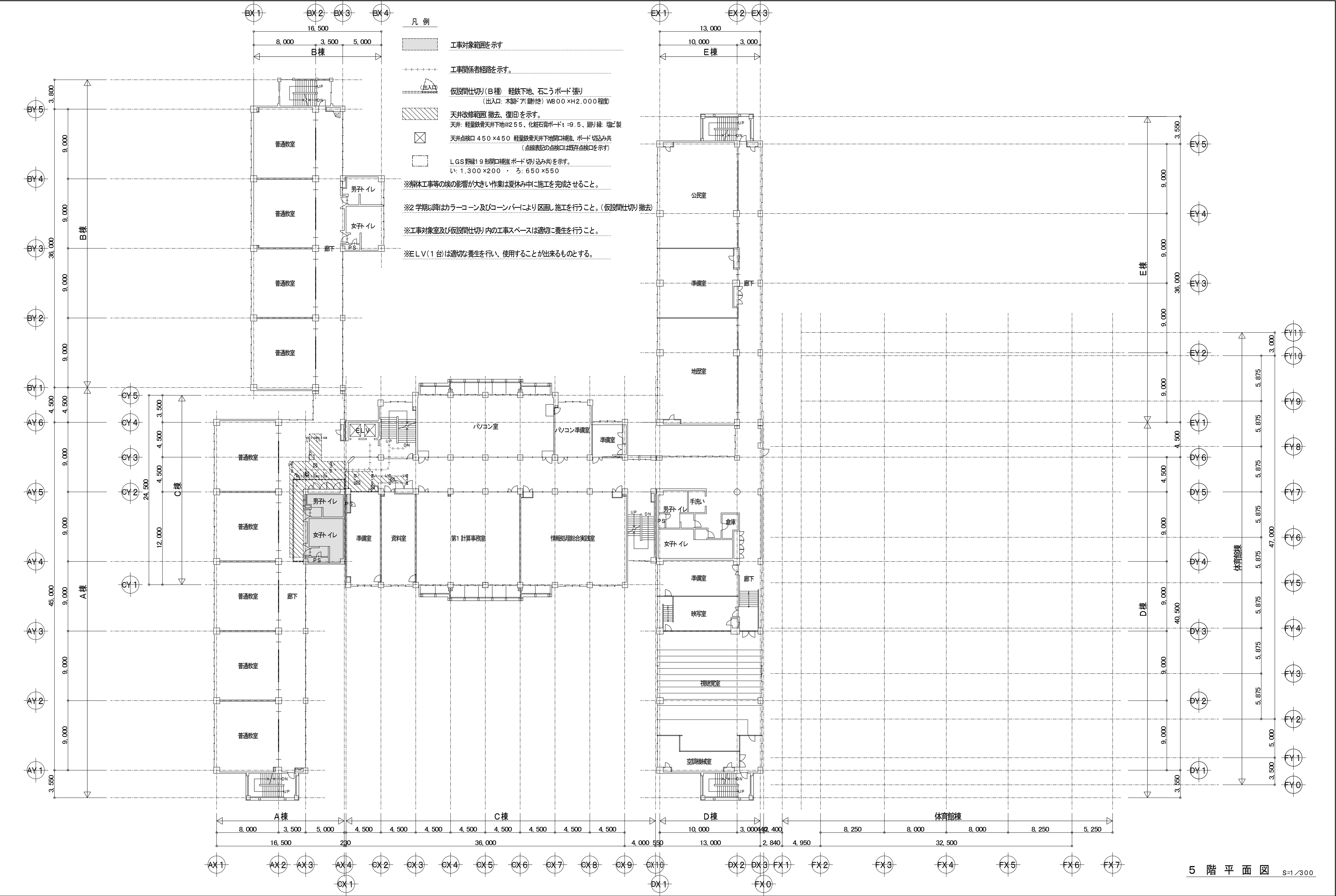
- 凡例
- 工事対象範囲を示す
 - 工事関係者経路を示す。
 - 仮設間仕切り(B種) 軽鉄下地、石膏ボード張り
(出入口: 木脚ア(鍵付き) W800×H2,000程度)
 - 天井点検口 450×450 軽量鉄骨天井下地開口補強、ボード切込み共
(点検表裏の点検口は既存点検口を示す)
- ※解体工事等の埃の影響が大きい作業は夏休み中に施工を完成させること。
- ※2学期以降はカラーコーン及びコーンパーにより区画し施工を行うこと。(仮設間仕切り撤去)
- ※工事対象室及び仮設間仕切り内の工事スペースは適切に養生を行うこと。
- ※ELV(1台)は適切な養生を行い、使用することが出来るものとする。

3階平面図 S=1/300

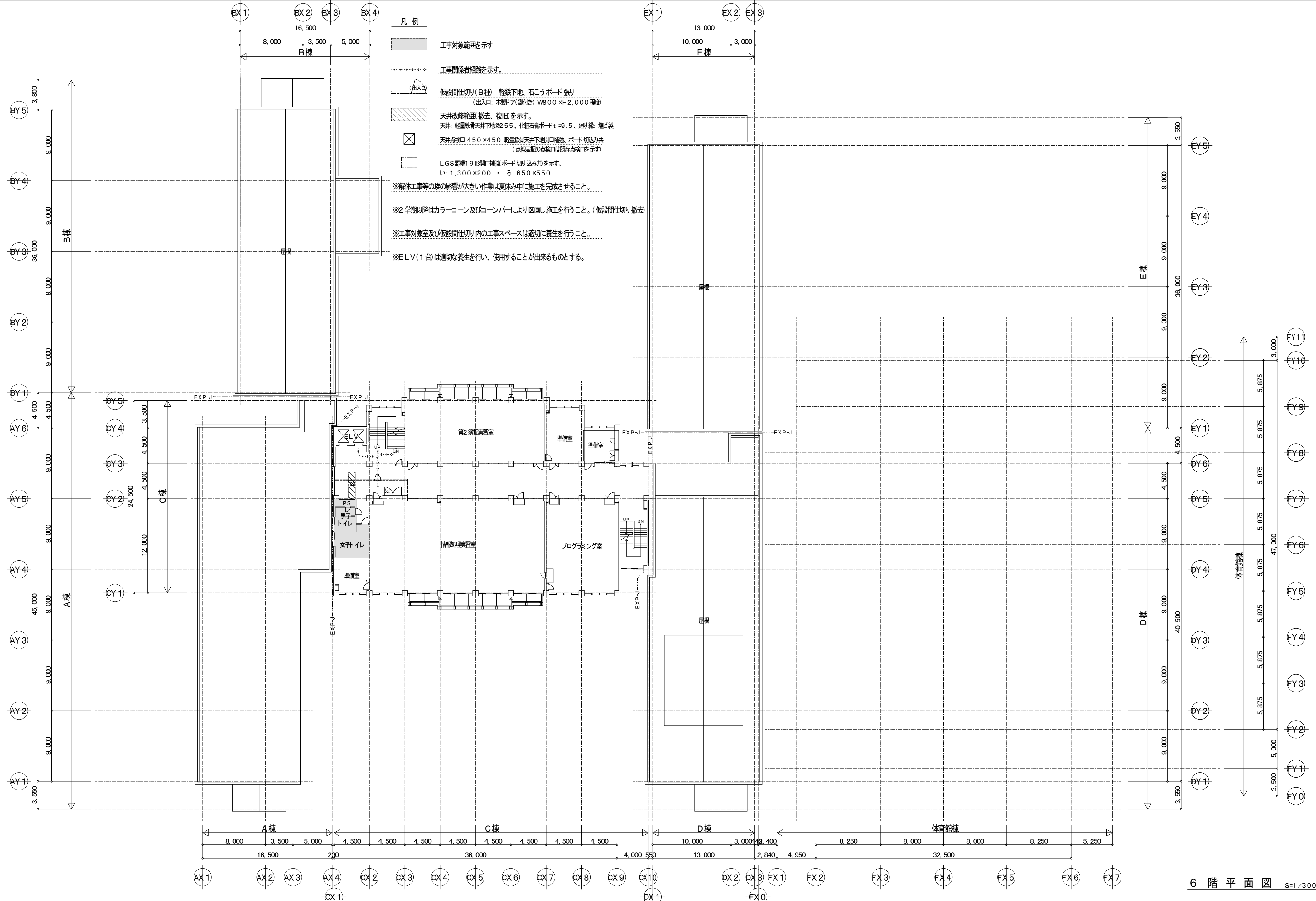


- 凡例
- 工事対象範囲を示す
 - 工事関係者経路を示す
 - 出入口 仮設間仕切り(B種) 軽鉄下地、石膏ボード張り
(出入口: 木製ドア(鍵付き) W800 x H2,000程度)
 - 天井点検口 450 x 450 軽量鉄骨天井下地開口補強、ボード切込み共
(点検口の点検口は既存点検口を示す)
- ※解体工事等の埃の影響が大きい作業は夏休み中に施工を完成させること。
- ※2学期以降はカラーコーン及びコーンパーにより区画し施工を行うこと。(仮設間仕切り撤去)
- ※工事対象室及び仮設間仕切り内の工事スペースは適切に養生を行うこと。
- ※E LV(1台)は適切な養生を行い、使用することが出来るものとする。

4階平面図 S=1/300



5階平面図 S=1/300

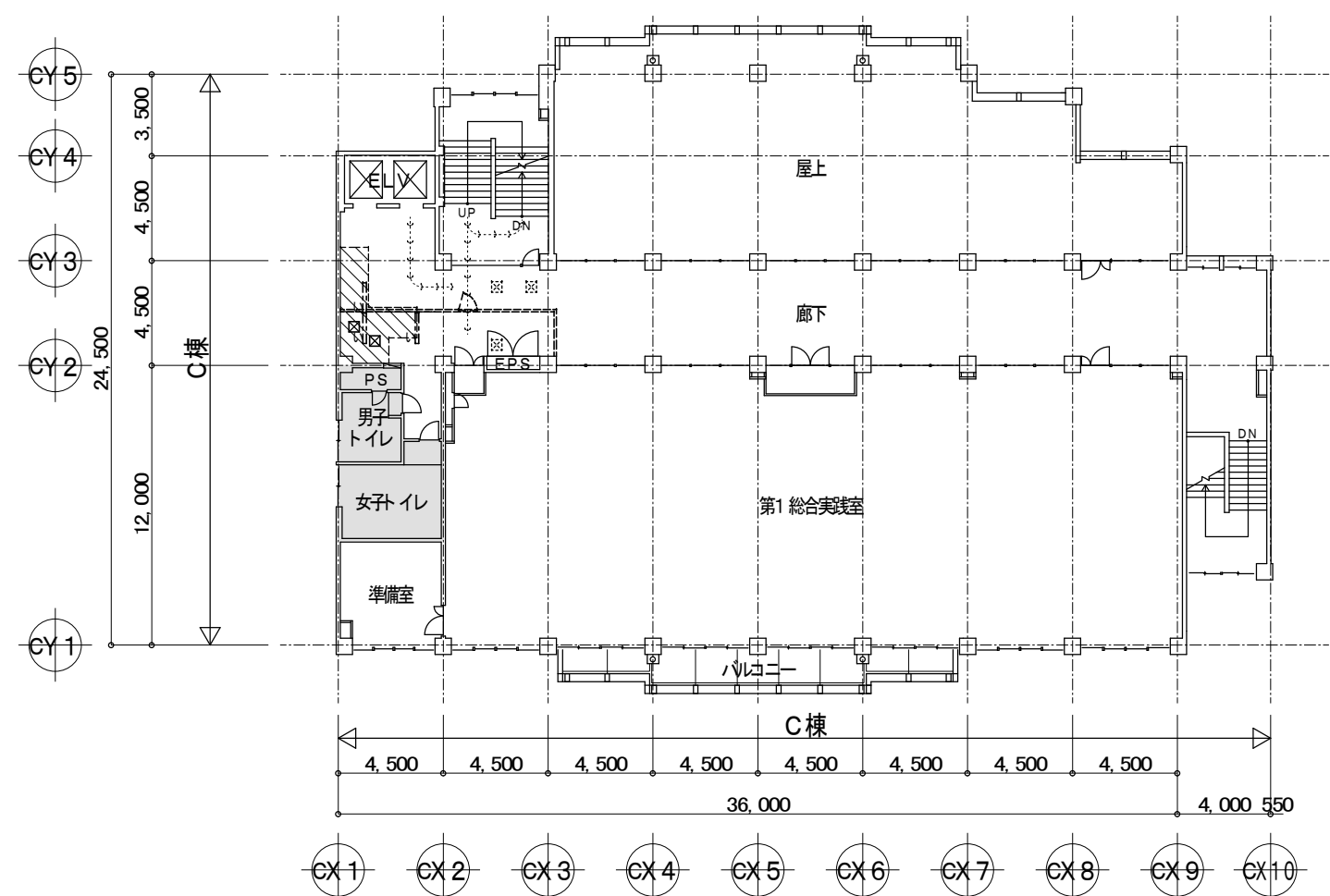


- 凡例**
- 工事対象範囲を示す
 - 工事関係者経路を示す。
 - 仮設間仕切り(B種) 軽鉄下地、石膏ボード張り
(出入口: 木脚ア(鍵付き) W800 x H2,000程度)
 - 天井改修範囲 撤去、復旧を示す。
天井: 軽量鉄骨天井下地@255、化粧石膏ボードt=9.5、廻り縁: 塩化ビニル製
 - 天井点検口 450 x 450 軽量鉄骨天井下地開口部、ボード切込み共
(点線表記の点検口は既存点検口を示す)
 - LGS野縁19形開口補強ボード切込み共を示す。
L: 1,300 x 200 ・ R: 650 x 550
- ※解体工事等の埃の影響が大きい作業は夏休み中に施工を完成させること。
- ※2学期以降はカラーコーン及びコーンバーにより区画し 施工を行うこと。(仮設間仕切り撤去)
- ※工事対象室及び仮設間仕切り内の工事スペースは適切に養生を行うこと。
- ※E LV(1台)は適切な養生を行い、使用することが出来るものとする。

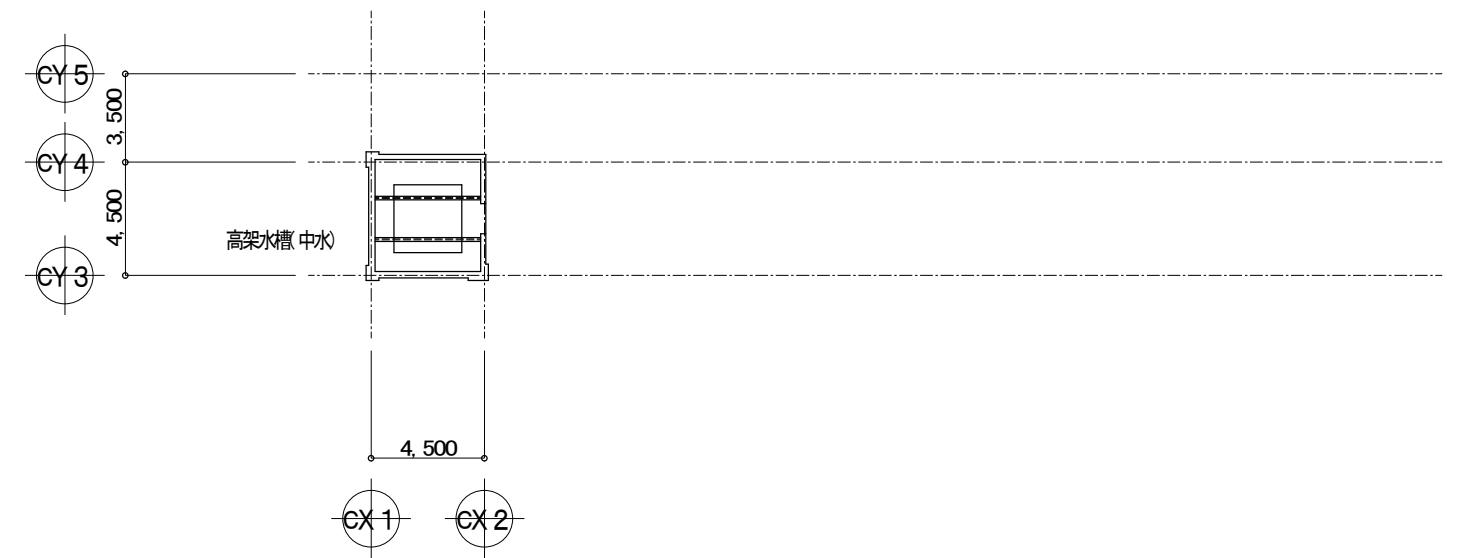
6階平面図 S=1/300

凡例

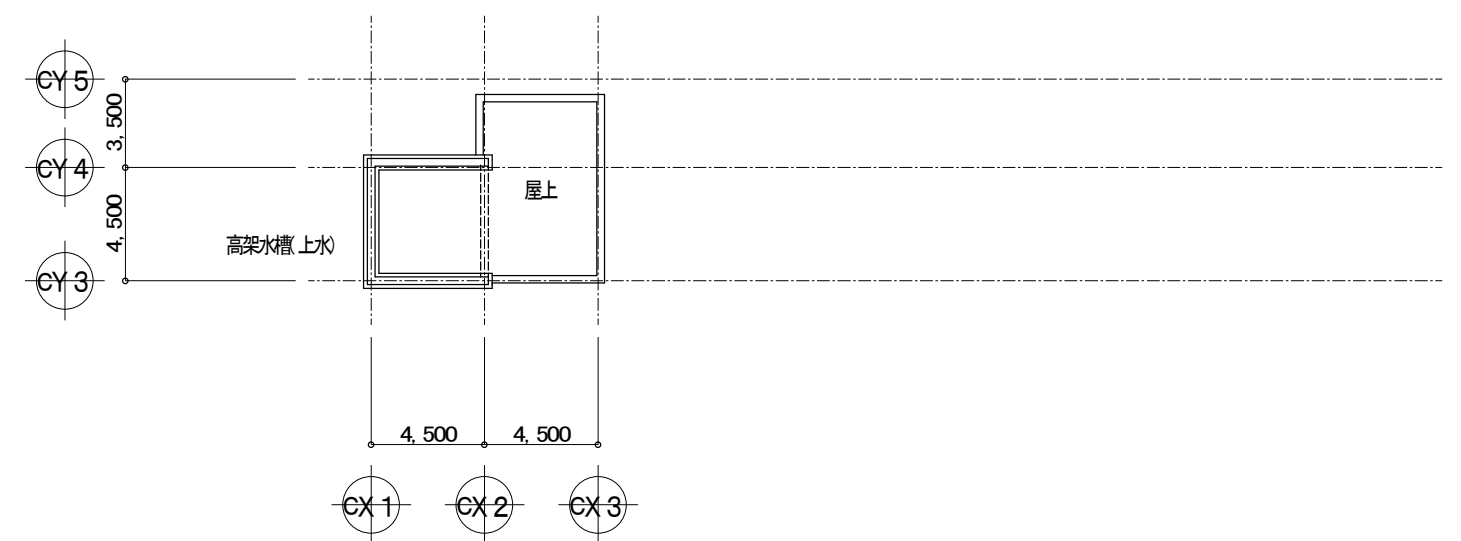
- 工事対象範囲を示す
 - 工事関係者経路を示す
 - 仮設間仕切り(B種) 軽鉄下地、石膏ボード張り
(出入口: 木製ア(鍵付) W800×H2,000程度)
 - 天井改修範囲 撤去、復旧を示す。
天井: 軽鋼鉄骨天井下地φ255、化粧石膏ボード: 9.5、廻り縁: 塩工製
 - 天井点検口 450×450 軽鋼鉄骨天井下地開口補強、ボード切込み共
(点線表記の点検口は既存点検口を示す)
 - LGS野縁19形開口補強ボード切込み共を示す。
い: 1,300×200 ろ: 650×550
- ※解体工事等の埃の影響が大きい作業は夏休み中に施工を完成させること。
- ※2学期以降はカラーコーン及びコーンバーにより区画し施工を行うこと。(仮設間仕切り撤去)
- ※工事対象室及び仮設間仕切り内の工事スペースは適切に養生を行うこと。
- ※ELV(1台)は適切な養生を行い、使用することが出来るものとする。



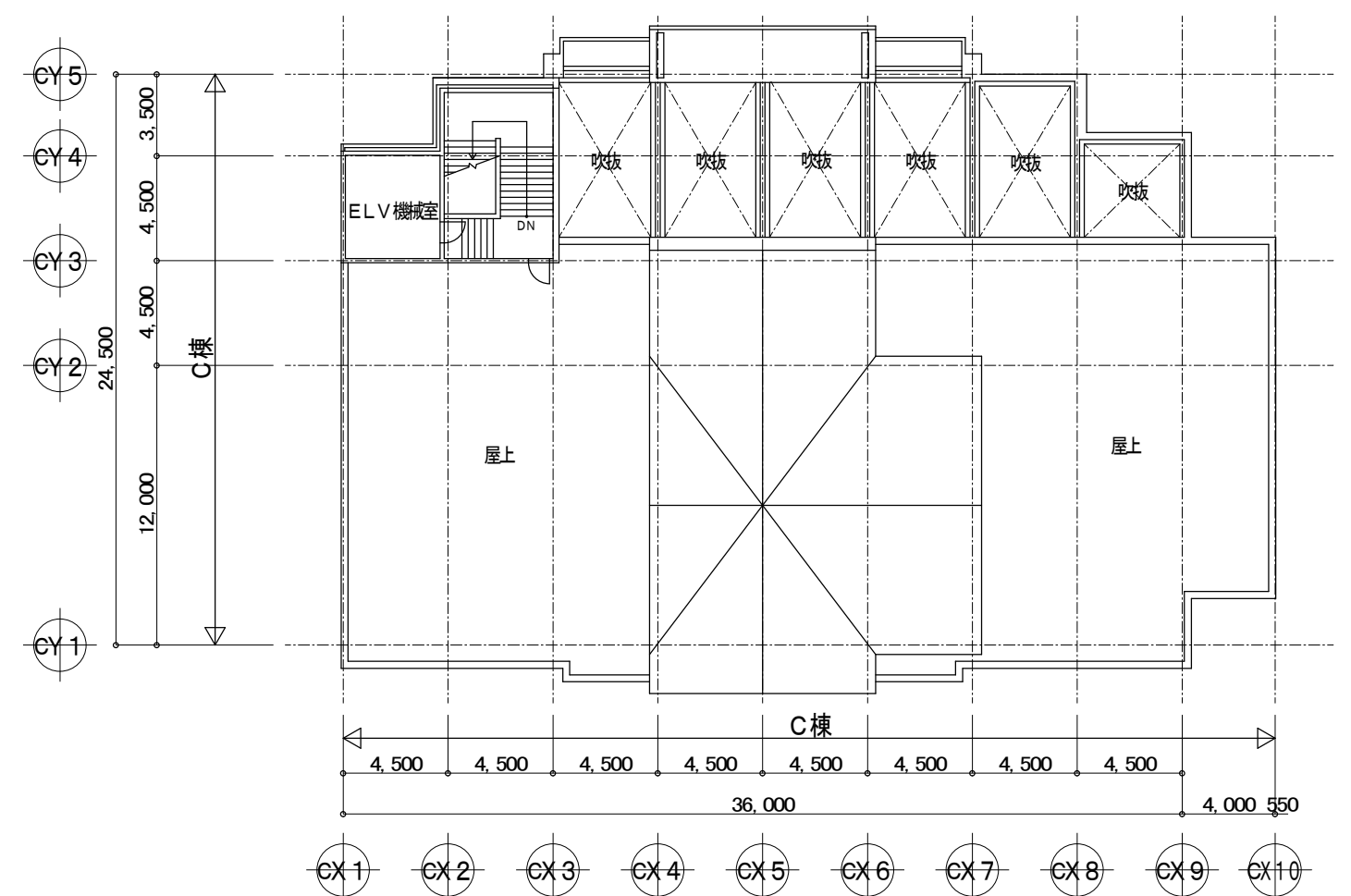
7階平面図 S=1/300



PHR階上部平面図 S=1/300



PHR階平面図 S=1/300



R階平面図 S=1/300

現況

凡例

撤去範囲を示す

±0 廊下床を基準とした床高さを示す(単位: mm)

※衛生器具の撤去は機械改修工事参照。

※凡例及び仕上表以外の事項は図示による。

※アスベスト含有仕上塗材(吹付タイル)は粉じん飛散防止材付の上吹けされている材料(ボード、モルタル)ごと撤去する。

※撤去部材等の仕様は次の通り。

木製ア: 800×2,000(ガラス: F-4, 150×1,700)

トイレブース: 木製 t=40×1,900

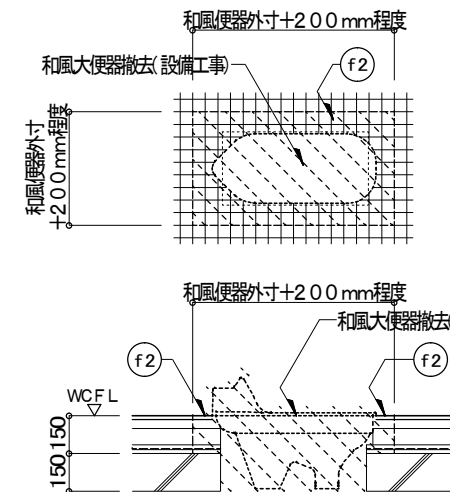
洗面カウンター: マラミンポストフォーム(L)×4440・125×t30

ステンレス流し: ステンレス t=1.2(L-30×30×3@1,200下地)

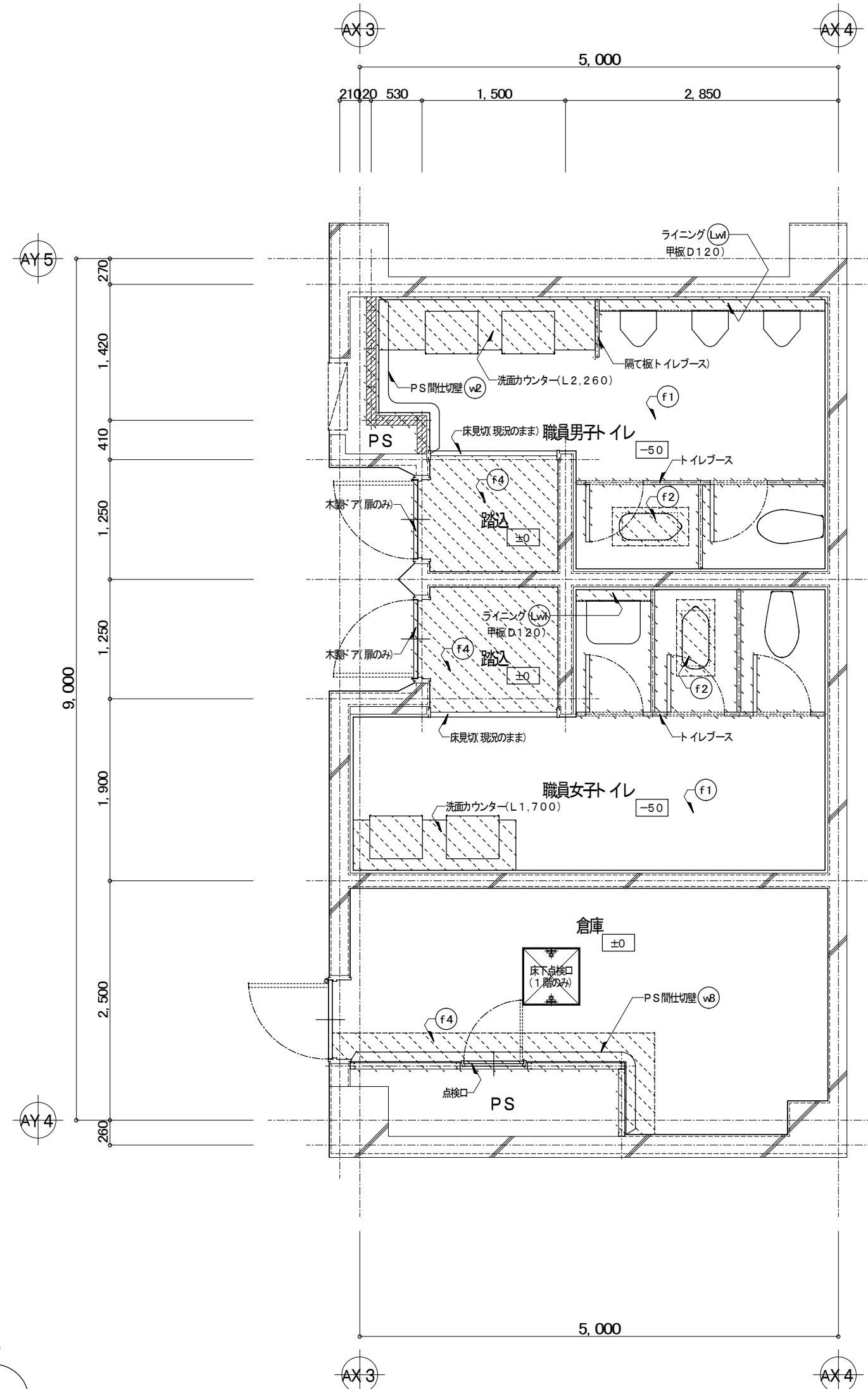
点検口: スチール製(600×600)

現況仕上表 (※3)はアスベスト含有塗材(レベル3)を示す

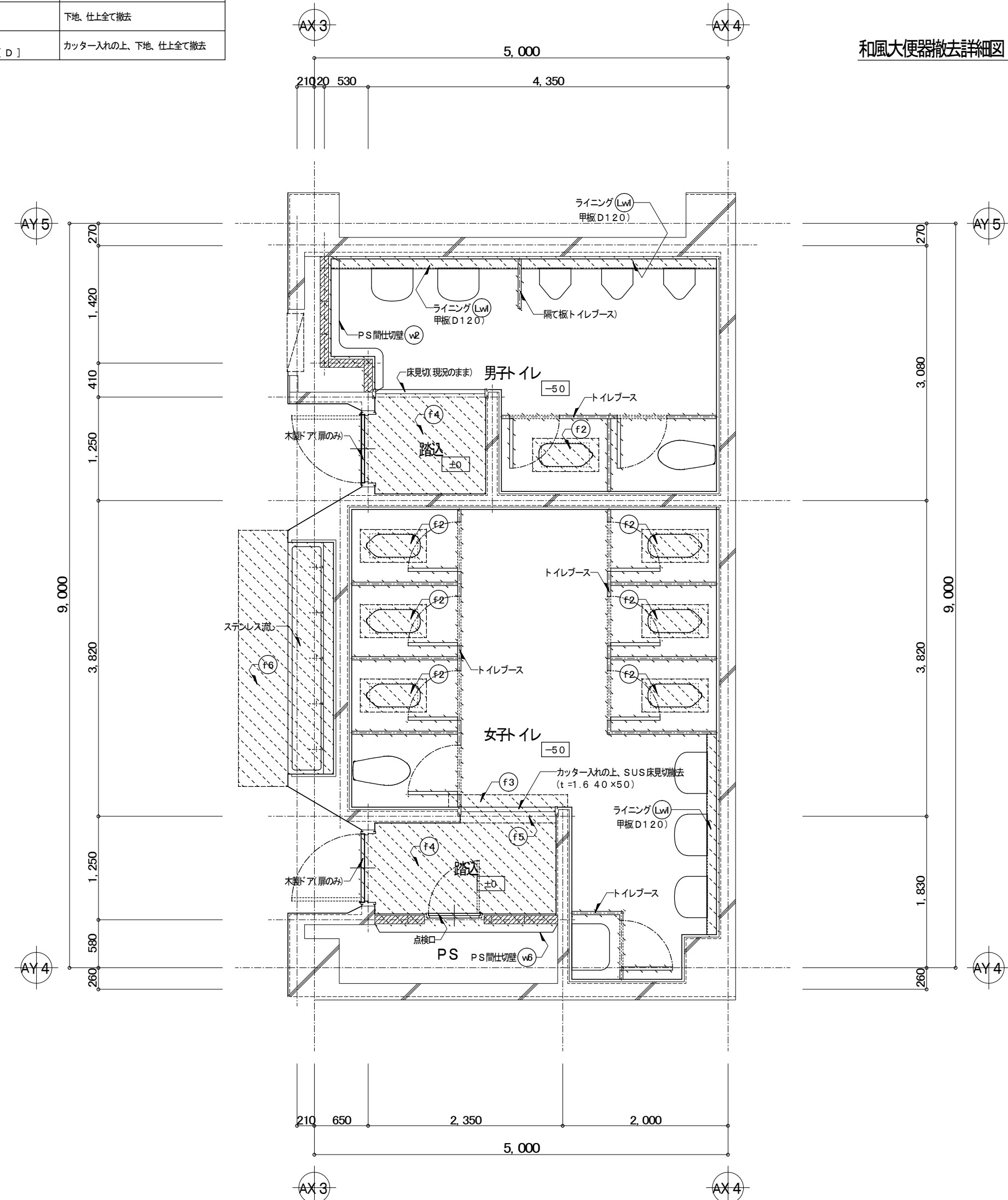
符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
f1	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	既存面直仕上
f2	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
f3	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地モルタル、仕上撤去
f4	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上のみ)	ビニル床シート t=2.3	仕上撤去
f5	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上のみ)	ビニル床シート t=2.3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
f6	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上のみ)	ビニル床シート t=2.3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
v2	壁	上段: CBt=100種、モルタル金ゴテ 下段: CBt=100種、モルタル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
v6	壁	CBt=100種、モルタル金ゴテ	吹付タイル(※3)	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
v8	壁	LGS壁下地(5形@300、石膏ボード t=12.5)	吹付タイル(※3)	下地、仕上全て撤去
Lw1	ライニング	CBt=100種、モルタル下地	陶器質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去



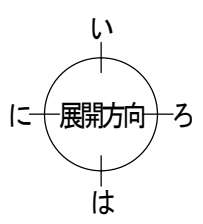
和風大便秘器撤去詳細図 S=1/30



1・2階平面詳細図 S=1/50



3～5階平面詳細図 S=1/50



(A棟)

改修

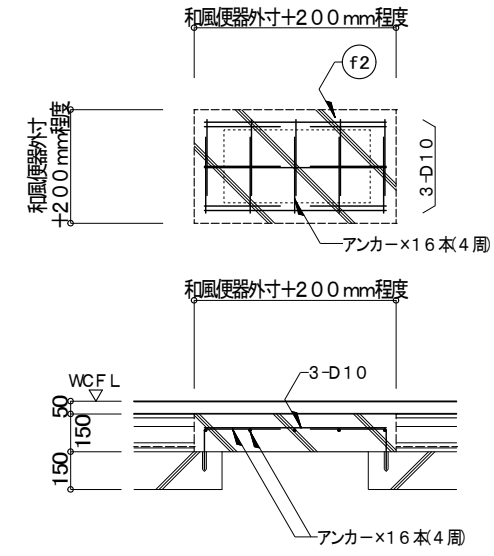
凡例

- ±0 廊下床を基準とした床高さを示す(単位: mm)
- 和風便器撤去部コンクリート充填 =150を示す
- 床及びライニング撤去部、無収縮モルタル =50 充填を示す
- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア: 点検口、トイレブース、建具表参照
- ステンレス流し: 隔て板、家具表参照
- 手洗い槽: 樹脂被覆タイプφ34
- 小: 小便器用600×480×550 カ: カウンター 580×150×2 覆1 鏡
- L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※壁掛洗面器用 2 覆1 鏡

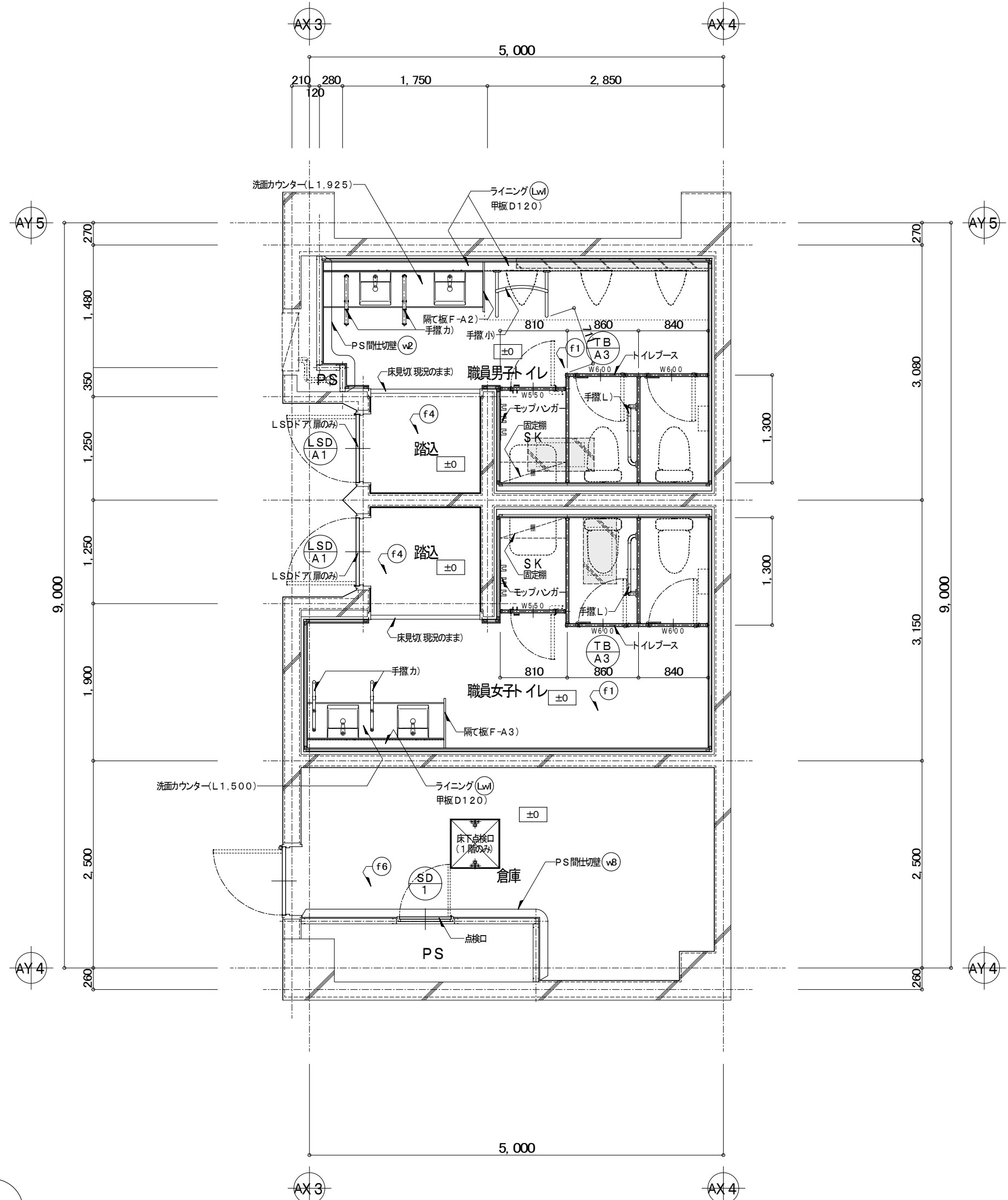
- 甲板: メラミンポストフォーム t=2.0×D1
- 固定棚仕様
- 網板: メラミンポストフォーム t=2.0×250D
- 支持金具: ステンレスアングル120×120(ビス止め) ×3
- 洗面カウンター: 人工大理石 D=450×[L] ボウル一体タイプ(水栓・鏡表) ※機械設備工事参照
- モップハンガー: ステンレス製 モップキャッチ金具3 個 ※既製品
- ※手摺及び器具類の取付けは仕様書と照合すること。(全て本工事を含む)

改修仕上表

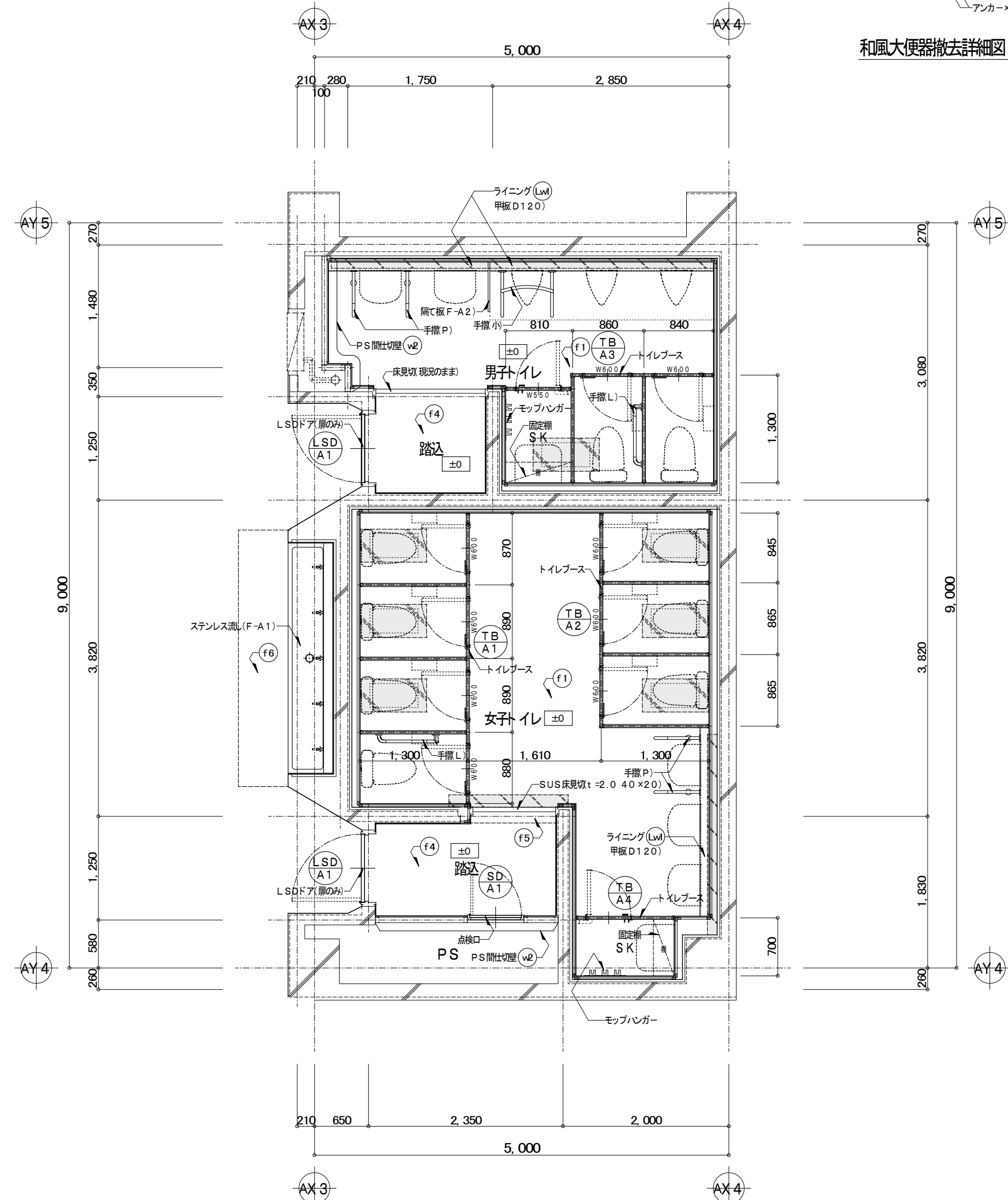
符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(F1)	床	カチオン下地調整(コテ塗) セルフレベリング床材 せつこう系 t=4.5	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(F4)	床	ケレン清掃	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(F5)	床	セルフレベリング床材 せつこう系 t=8	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(F6)	床	セルフレベリング床材 せつこう系 t=8	ビニル床シート t=2.0	
(v2)	壁	LGS壁下地65形φ300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(v6)	壁	LGS壁下地65形φ300 石膏ボード t=12.5	複層塗料(ゆずり)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形φ300 T-1合板 t=12	メラミン化粧板 =3(目地シール)	



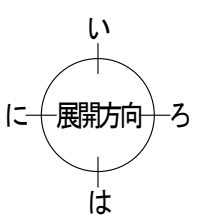
和風便器撤去詳細図 S=1/30



1・2階平面詳細図 S=1/50



3～5階平面詳細図 S=1/50



(A棟)

現況

凡例

撤去範囲を示す

※衛生器具の撤去は機械設備工事とする。

※撤去部材等の仕様は対こる。

点検口: スチール製(600×600)

照壁ボックス: スチール製 t=1.6 加工(250×250×[L])

ステンレス流し: ステンレス t=1.2(L-30×30×3 @1.200 下地)

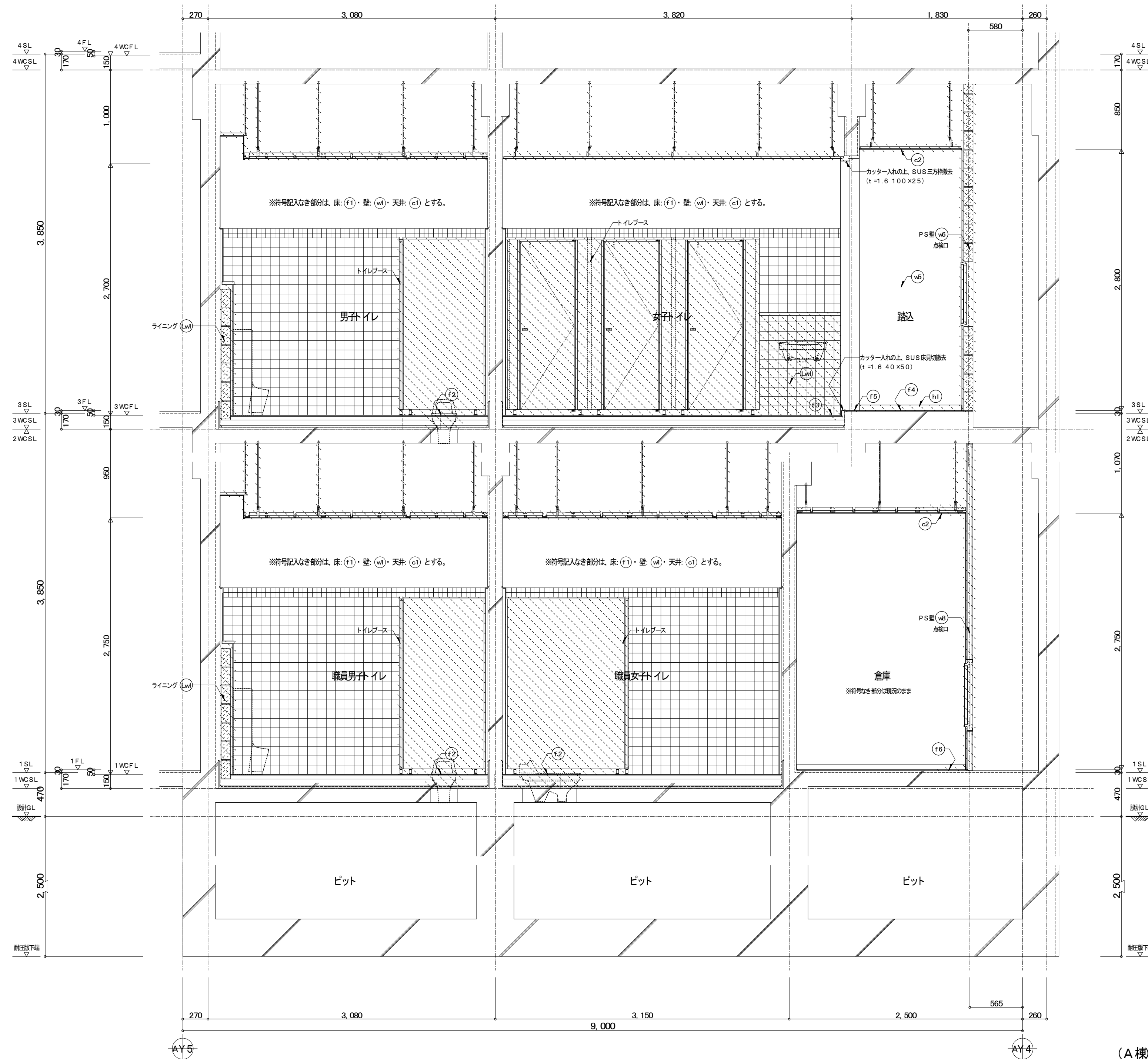
※アスベスト含有仕上塗材(吹付タイル)は封じ・飛散防止材吹付の上

吹付されている材料(ポード、モルタル)ごと撤去する。

※その他は図示による。

現況仕上表 特記(※3)はアスベスト含有建材レベル3を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(F1)	床	均しモルタル、アスファルト防水層 ※3、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	既存面直仕上
(F2)	床	均しモルタル、アスファルト防水層 ※3、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(F3)	床	均しモルタル、アスファルト防水層 ※3、保護モルタル 押えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地モルタル、仕上撤去
(F4)	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上含み)	ビニル床シート t=2.3	仕上撤去
(F5)	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上含み)	ビニル床シート t=2.3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(F6)	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上含み)	ビニル床シート t=2.3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(H1)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(W)	壁	上段: コンクリート打放し 下段: コンクリート、モルタル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	断熱絶仕
(WB)	壁	コンクリート打放し	吹付タイル ※3	直張り仕上
(WB)	壁	CBt=100積、モルタル金ゴテ	吹付タイル ※3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(WB)	壁	LGS壁下地65形@300、石膏ボード t=12.5	吹付タイル ※3	下地、仕上全て撤去
(LW)	ライニング	CBt=100積、モルタル下地	陶器質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	下地、仕上全て撤去
(C1)	天井	LGS野縁	フレキシブルポード t=5(※3) EP塗り	現況下地、仕上全て撤去
(C2)	天井	LGS野縁	化粧石膏ボード t=9	現況下地、仕上全て撤去



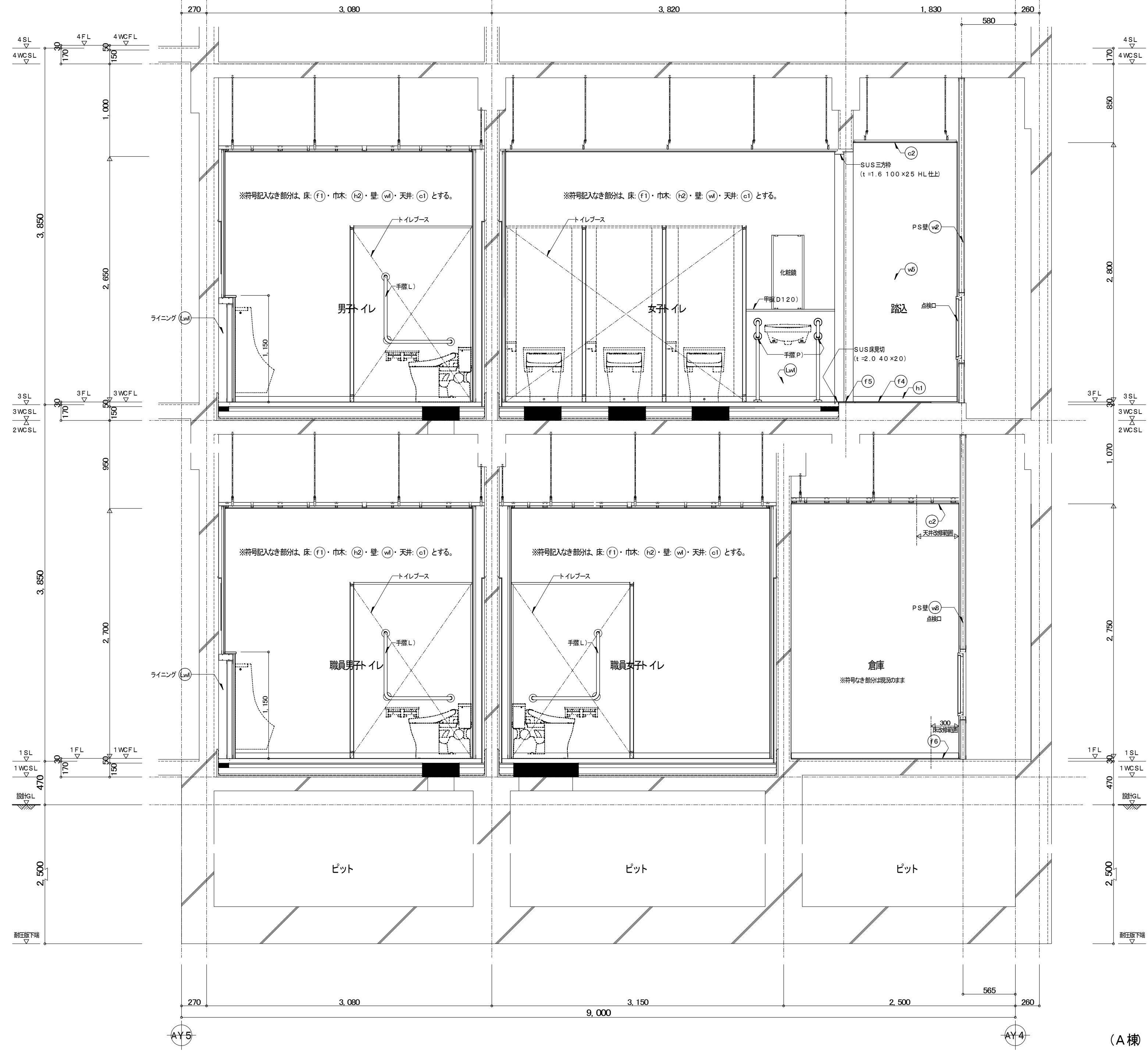
改修

凡例

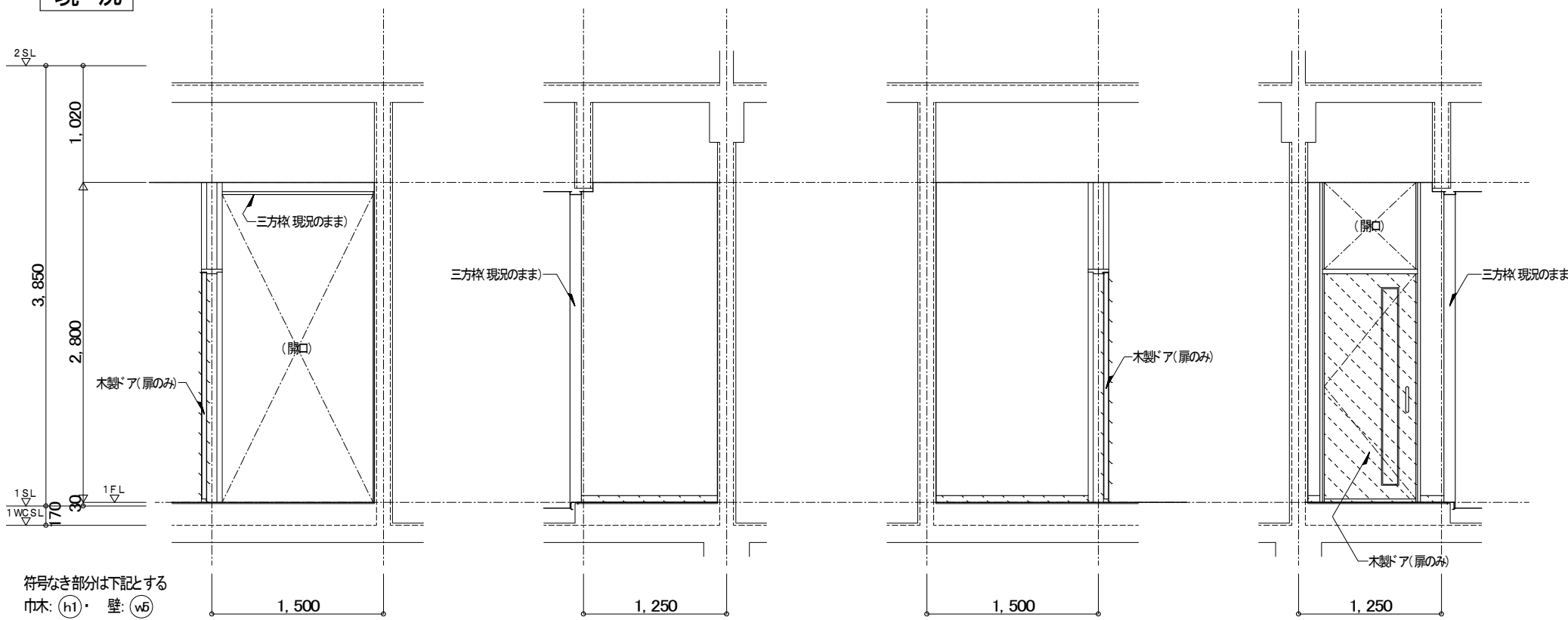
- 和風便器撤去部コンクリート充填 ≧1.50を示す
- 床及びライニング撤去部、無収縮モルタル ≧5.0 充填を示す
- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア：点検口・トイレブース：建具表参照
- ステンレス鋼：開て板：家具表参照
- 手摺仕様：滑り止めタイプφ34
- 小：小便器用600×480×550 カ：カウンター：580×150×2 扉1組
- L：L型700×700×90 P型：550×780(×650) ※壁掛洗面器用2個×1組
- 甲板：メラミンホストフォーム ≧2.0×D1

改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(f1)	床	カチオン下地調整材コテ塗り セルフレベルング床材 せつこう系 t=4.5	ビニル床シート ≧2.0 (防汚・抗菌)	
(f4)	床	ケレン清掃	ビニル床シート ≧2.0 (防汚・抗菌)	
(f5)	床	セルフレベルング床材 せつこう系 t=8	ビニル床シート ≧2.0 (防汚・抗菌)	
(f6)	床	セルフレベルング床材 せつこう系 t=8	ビニル床シート ≧2.0	
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(h2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(w)	壁	LGS鋼線(40×20)@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 ≧3 (目地シール)	
(w2)	壁	LGS壁下地6.5形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 ≧3 (目地シール)	
(w6)	壁	カチオン下地調整材コテ塗り	メラミン化粧板 ≧3 (目地シール)	
(w8)	壁	LGS壁下地6.5形@300 石膏ボード t=12.5	樹脂塗材E (ゆず割)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地6.5形@300 T-1 合板 ≧12	メラミン化粧板 ≧3 (目地シール)	
(c1)	天井	LGS野縁19型@303	化粧石膏吸音ボード t=9.5	廻り縁：塩ビ製
(c2)	天井	LGS野縁19型@225	化粧石膏ボード t=9.5	廻り縁：塩ビ製



現況



符号なき部分は下記とする
 巾木: (H)・壁: (W)

1階職員男子トイレ踏込

※1~2階共通
 ※女子踏込もこれに準ずる

凡例

撤去範囲を示す

※衛生器具の撤去は機械設備工事とする。

※撤去部材等の仕様は次の通り。

木製ア: 800×2,000(ガラス: F-4, 150×1,700)

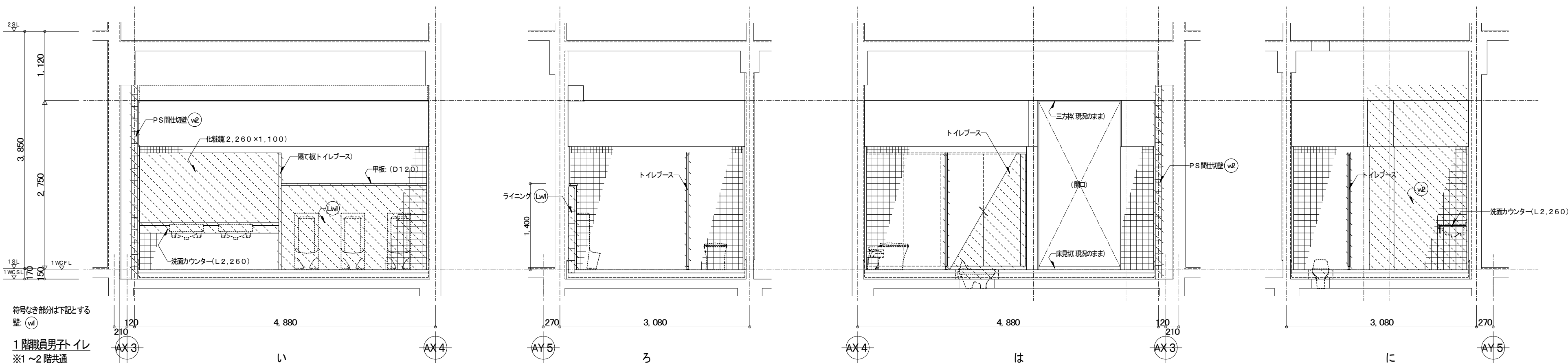
トイレベース: 木製, t=40×1,900

洗面カウンター: マラミンポストフォーム[L]×440×125×t30

※その他要示による。

現況仕上表 特記: (※3)はアスベスト含有建材レベル3を示す

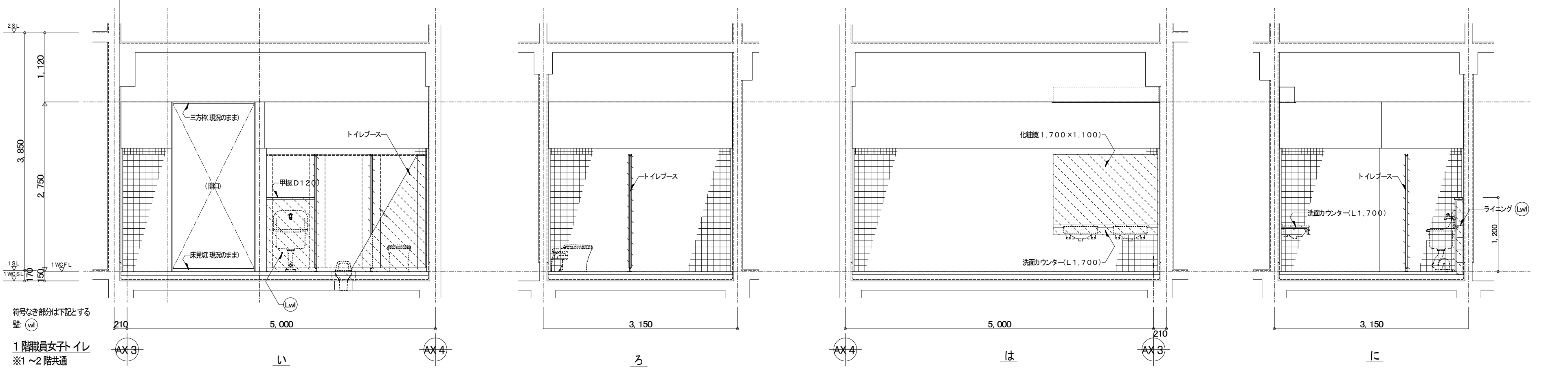
符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(H)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(W)	壁	上段: コンクリート打放し 下段: コンクリート、モルタル下地	上段: EP塗 下段: 陶器質タイル	陶器質仕上
(W2)	壁	上段: CBt=100種、モルタル金こて 下段: CBt=100種、モルタル下地	上段: EP塗 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(W3)	壁	コンクリート打放し	吹付タイル(※3)	重張り仕上
(LW)	ライニング	CBt=100種、モルタル下地	陶器質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	下地、仕上全て撤去



符号なき部分は下記とする
 壁: (W)

1階職員男子トイレ

※1~2階共通



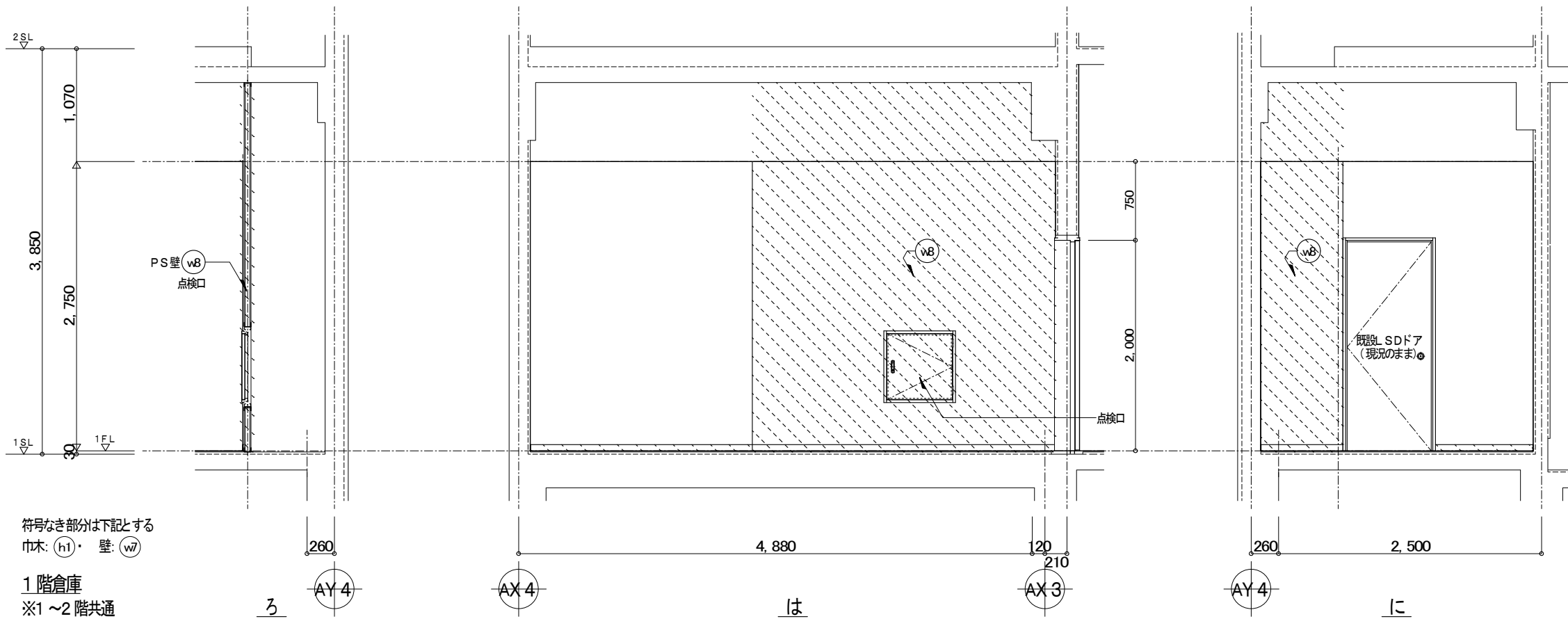
符号なき部分は下記とする
 壁: (W)

1階職員女子トイレ

※1~2階共通

(A棟)

現況



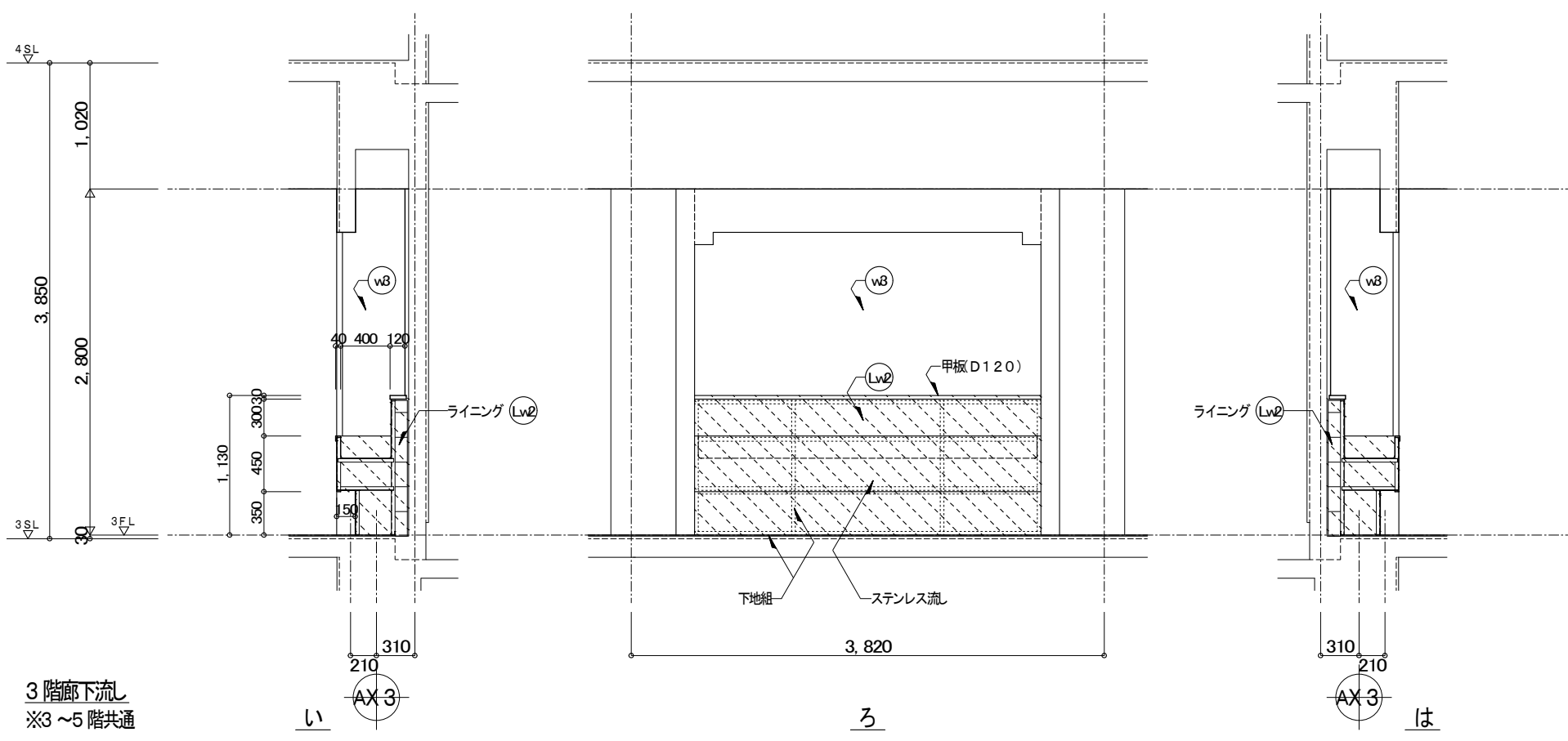
符号なき部分は下記とする
 巾木: (h1)・壁: (w1)
1階倉庫
 ※1~2階共通

凡例

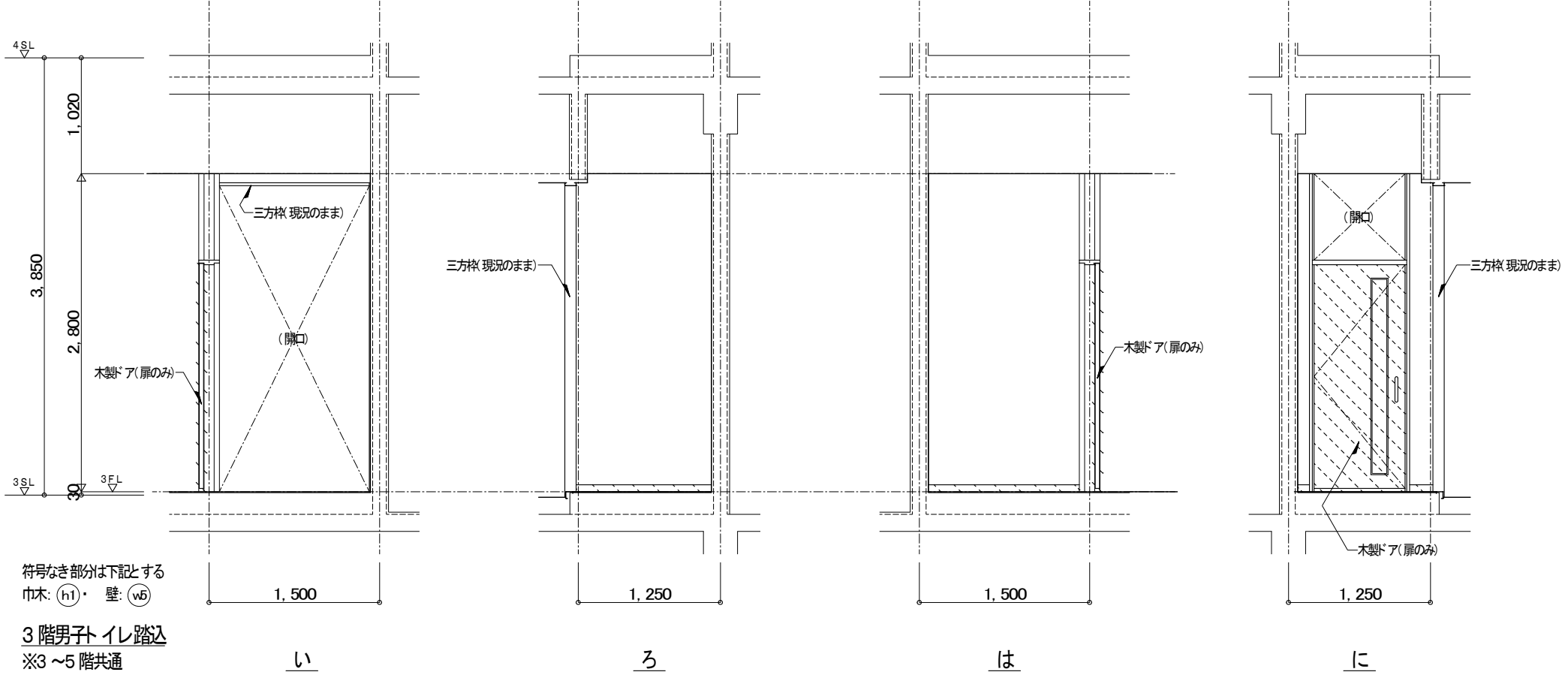
- 撤去範囲を示す
- ※衛生器具の撤去は機械設備工事とする。
- ※撤去部材等の仕様は次の通り。
- 点検口: スチール製 600×600
- ステンレス流し: ステンレス t=1.2 (L-30×30×3 @1.200 下地)
- ※アスベスト含有仕上塗材吹付タイルは脱じん飛散防止材吹付の上
吹付されている材料ボード、モルタルごと撤去する。
- ※その他は図示による。

現況仕上表 補記: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

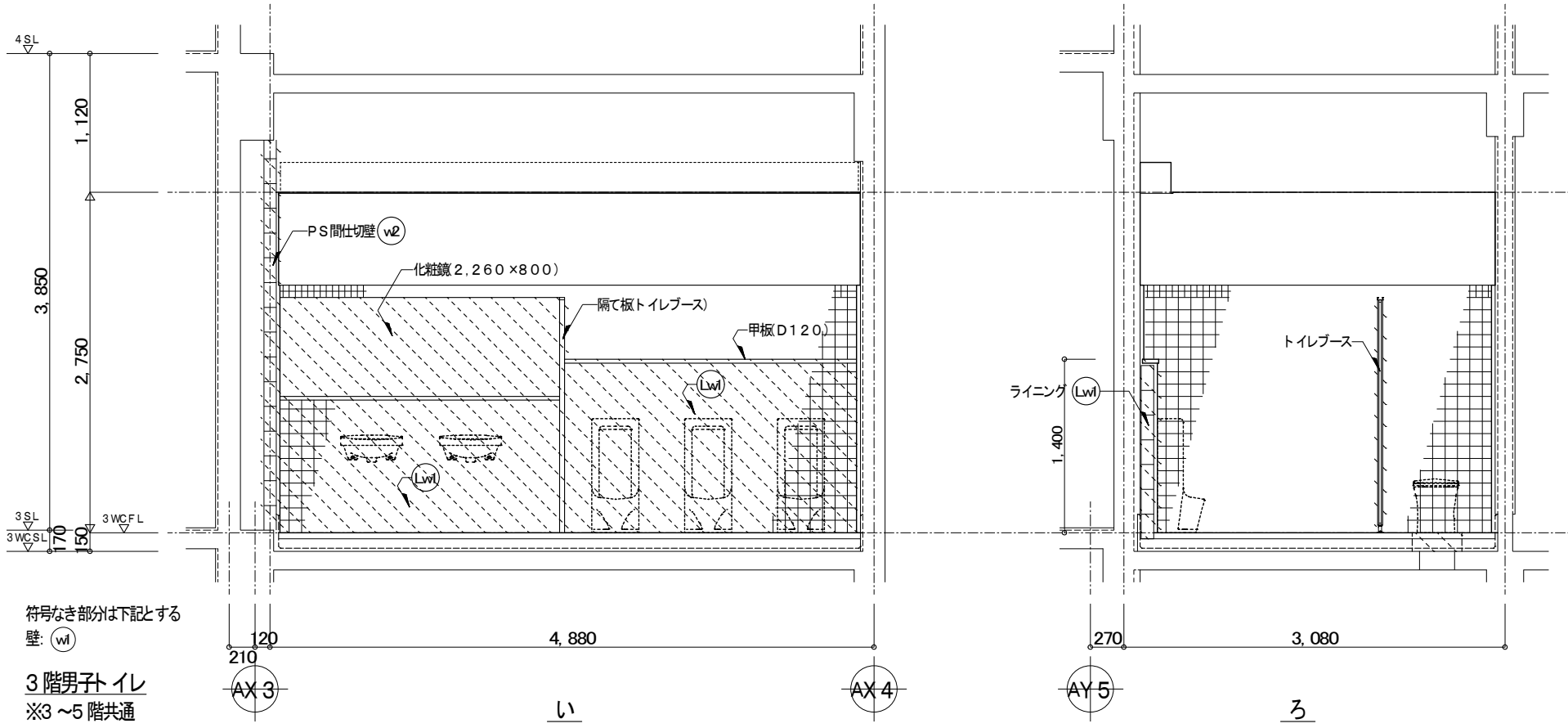
符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(w1)	壁	上段: コンクリート 打放し 下段: コンクリート、モルタルタイル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	陶器質仕上
(w2)	壁	上段: CBt=100 種、モルタル金ごて 下段: CBt=100 種、モルタルタイル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(w3)	壁	コンクリート、モルタルタイル下地	陶器質タイル	直張り仕上
(w4)	壁	コンクリート 打放し	吹付タイル(※3)	直張り仕上
(w5)	壁	コンクリート 打放し	吹付タイル(※3)	塗替え
(w6)	壁	LGS壁下地65形@300、石膏ボード t=12.5	吹付タイル(※3)	下地、仕上全て撤去
(Lw1)	ライニング	CBt=100種、モルタルタイル下地	陶器質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	下地、仕上全て撤去
(Lw2)	ライニング	CBt=100種、L-30×30×3 @1.200	ステンレス t=1.2 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去



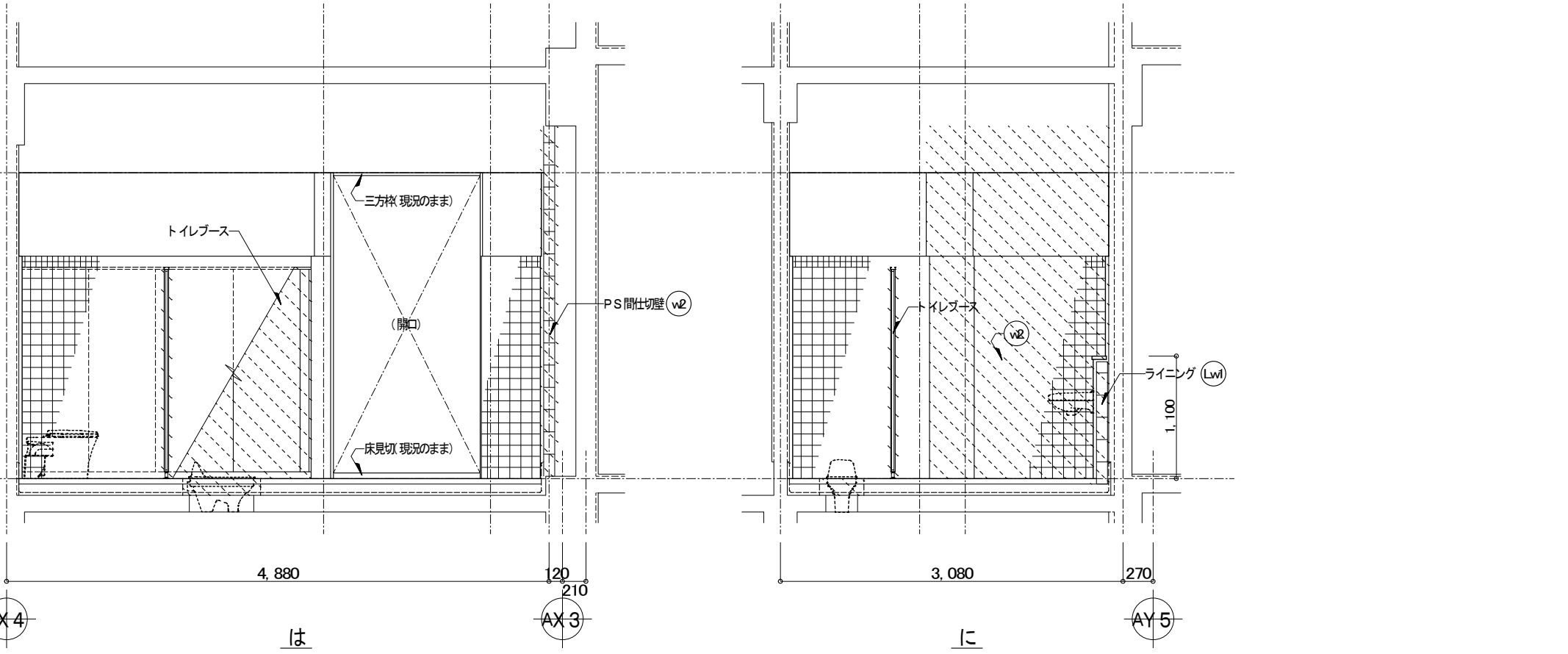
符号なき部分は下記とする
 巾木: (h1)・壁: (w6)
3階廊下流し
 ※3~5階共通



符号なき部分は下記とする
 巾木: (h1)・壁: (w6)
3階男子トイレ階段
 ※3~5階共通

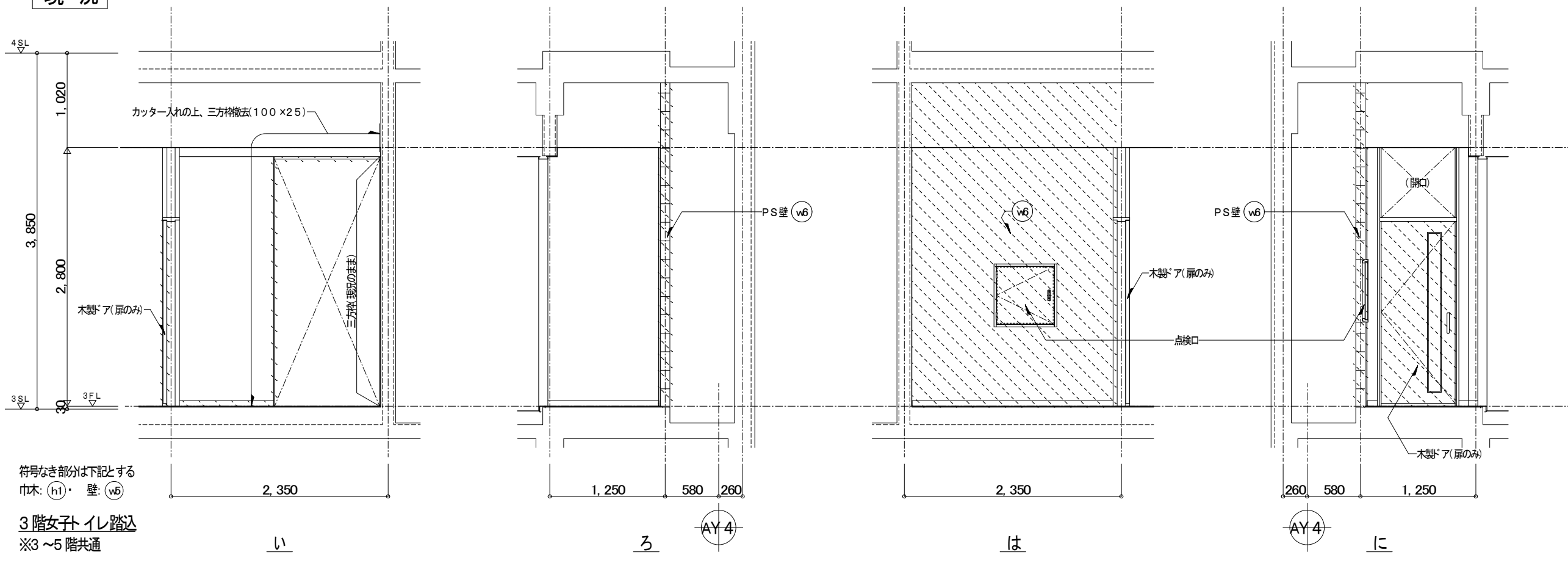


符号なき部分は下記とする
 壁: (w4)
3階男子トイレ
 ※3~5階共通



(A棟)

現況



符号なき部分は下記とする
 巾木: (h1)・壁: (v6)

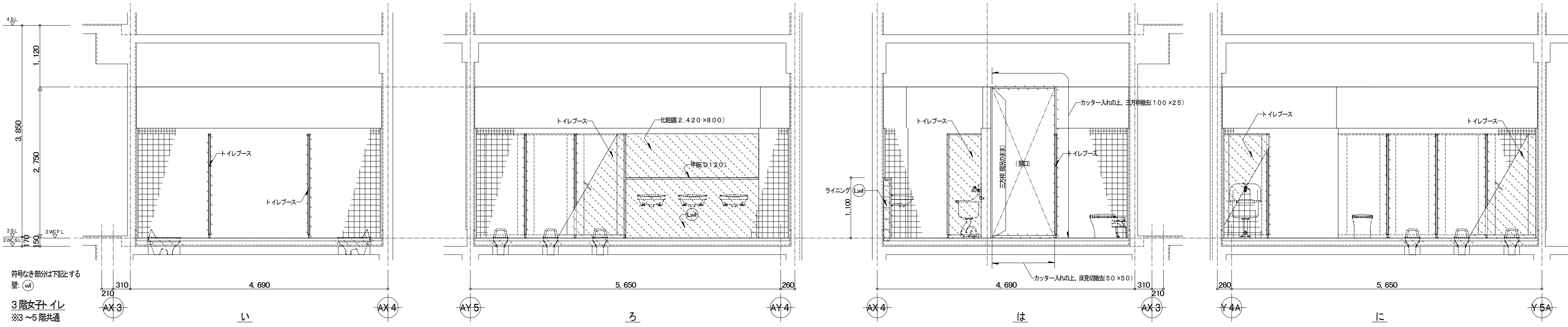
3階女子トイレ踏込
 ※3~5階共通

凡例

- 撤去範囲を示す
- ※衛生器具の撤去は機械設備工事とする。
- ※撤去部材等の仕様は次の通り。
- 木製ア: 800×2,000(ガラス: F-4、150×1,700)
- トイレベース: 木製 t=40×1,900
- 点検口: スチール製(600×600)
- ※アスベスト含有仕上塗材吹付タイルは粉じん飛散防止材吹付の上吹付されている材料ボード、モルタルごと撤去する。
- ※その他は図示による。
- ※その他は図示による。

現況仕上表 機材: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(w)	壁	上段: コンクリート打放し 下段: コンクリート、モルタルタイル下地	上段: EP塗リ 下段: 陶磁質タイル	陶磁質仕上
(v6)	壁	コンクリート打放し	吹付タイル(※3)	直張り仕上
(v6)	壁	CBt=100積、モルタル金ごて	吹付タイル(※3)	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(Lw)	ライニング	CBt=100積、モルタルタイル下地	陶磁質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去

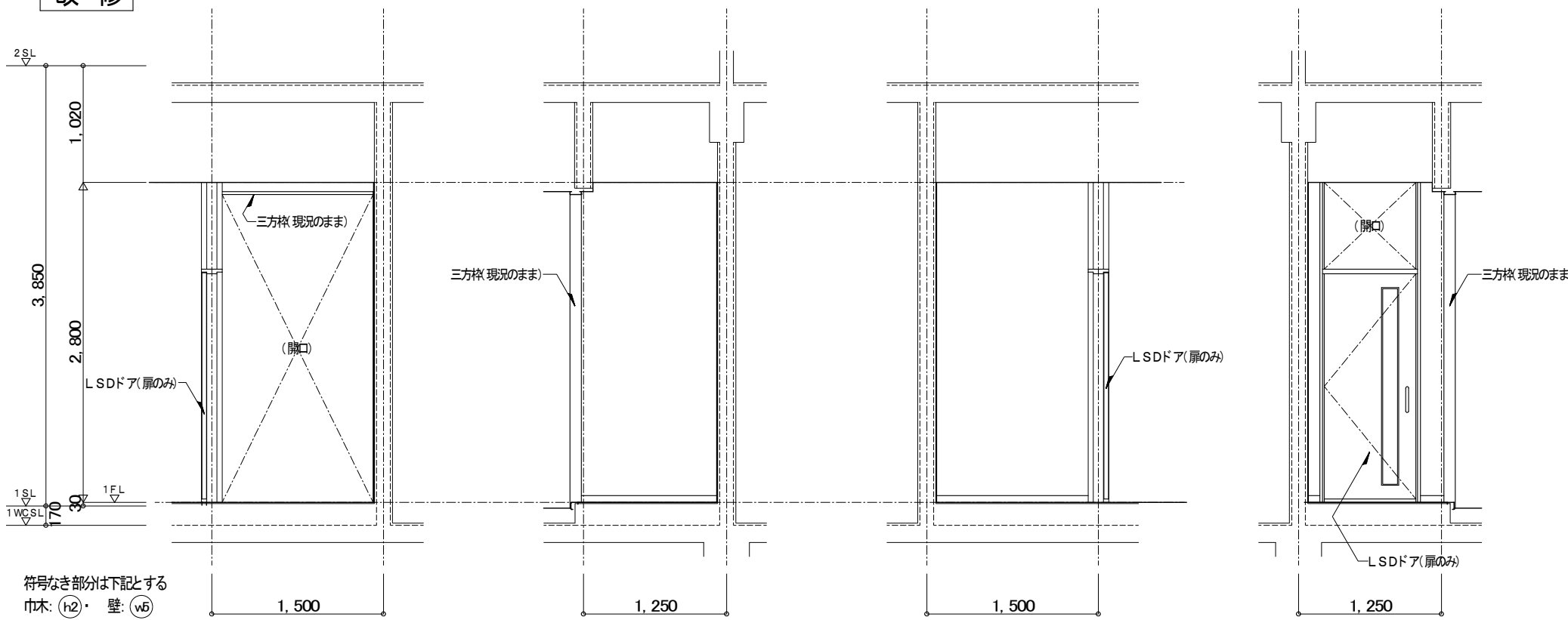


符号なき部分は下記とする
 壁: (w)

3階女子トイレ
 ※3~5階共通

(A棟)

改修



符号なき部分は下記とする
巾木: (H2)・壁: (W6)

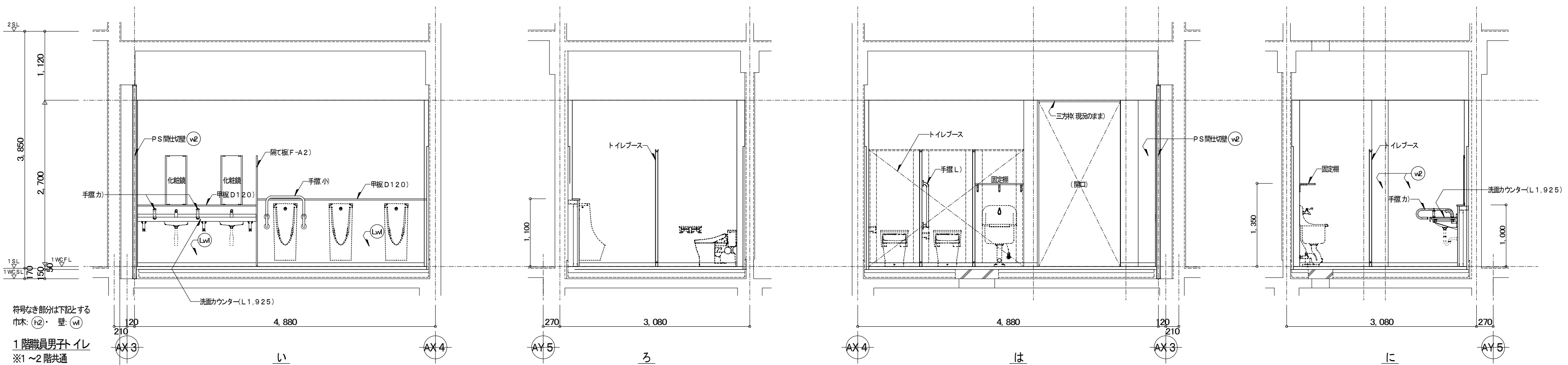
1階職員男子トイレ踏込
※1~2階共通
※女子踏込もこれに準ずる

凡例

- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア: 点検口・トイレブース: 建具表参照
 - ステンレス流し・隔て板: 家具図参照
 - 手摺仕様: 樹皮機械タイプφ34
 - 小: 小便器用600×480×550 カ: カウンター: 580×150×2個1組
 - L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※壁掛洗面器用2個×1組
 - 甲板: メラミンポストフォーム t=2.0×D
 - 洗面カウンター: 人工大理石 D=45.0×[L] ボウルニ株タイプ(水栓: 鏡片) ※機械設備工事参照
 - 固定棚仕様
 - 鏡板: メラミンポストフォーム t=2.0×250D
 - 支持金具: ステンレスアングル120×120(ビス止め) ×3
 - モップランガン: ステンレス製モップキャッチ金具φ100 ※特製品
 - ※手摺及び器具類の取付け下地掘削は意図で行うこと。(全て本工程を含む)

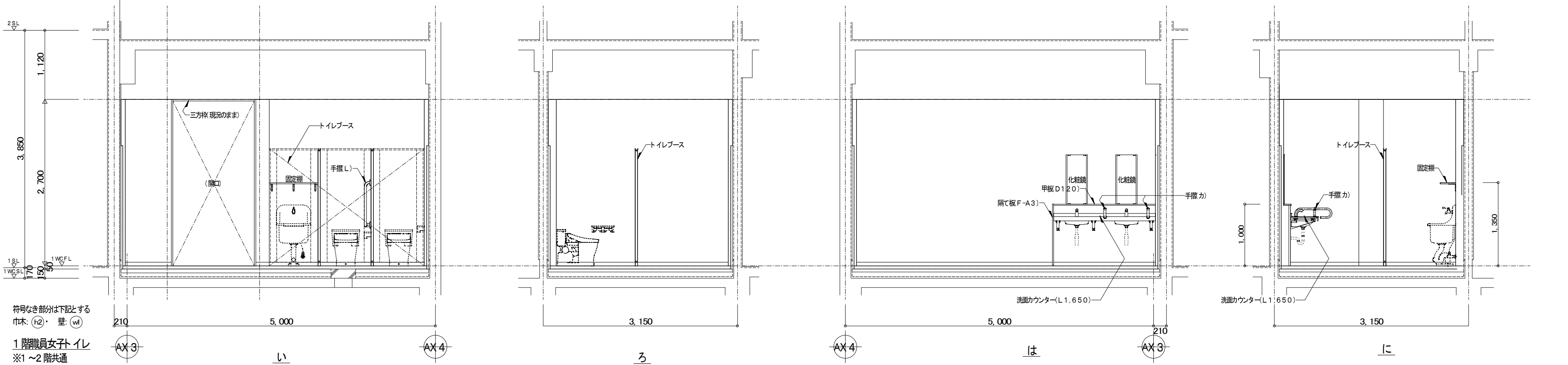
改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(H1)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(H2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(W1)	壁		LGS鋼線 40×20 @300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)
(W2)	壁		LGS壁下地φ5形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)
(W3)	壁		カチオン下地調整材コテ塗り	メラミン化粧板 =3(目地シール)
(LW)	ライニング		LGS壁下地φ5形@300 T-1合板 t=12	メラミン化粧板 =3(目地シール)



符号なき部分は下記とする
巾木: (H2)・壁: (W1)

1階職員男子トイレ
※1~2階共通

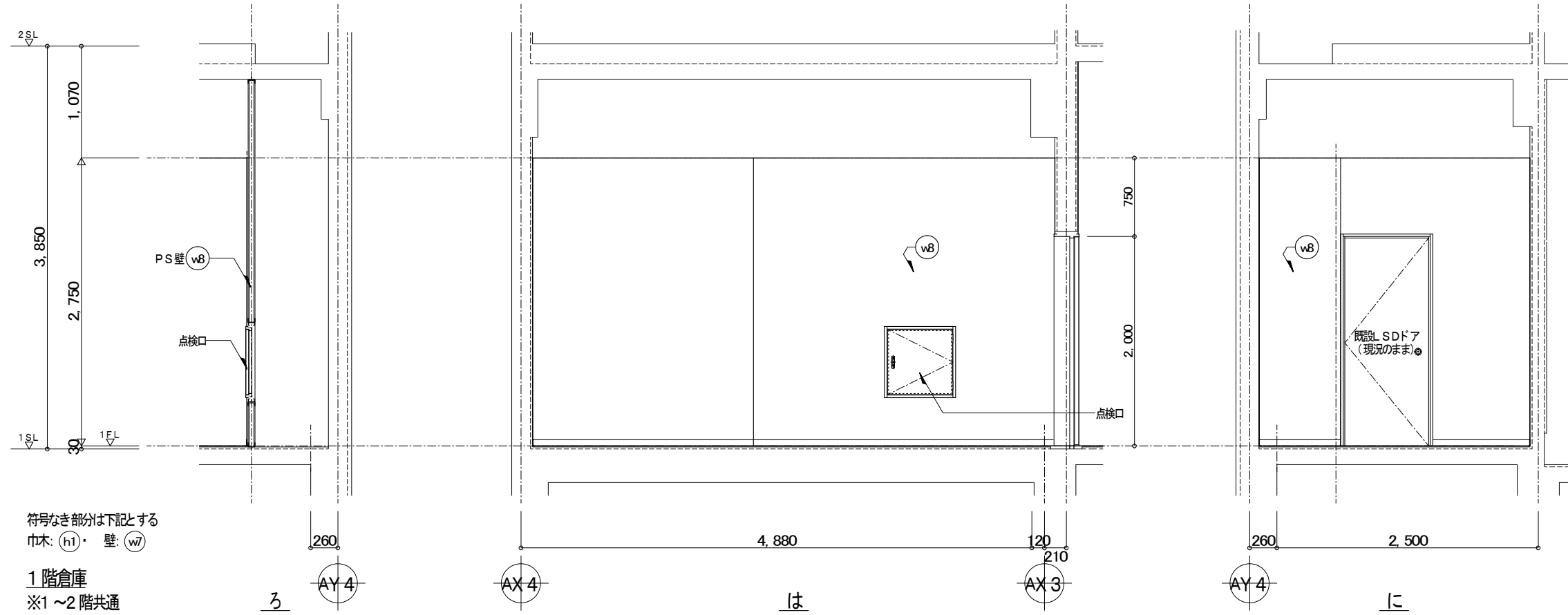


符号なき部分は下記とする
巾木: (H2)・壁: (W1)

1階職員女子トイレ
※1~2階共通

(A棟)

改修



符号なき部分は下記とする
巾木 (h1)・壁 (w)

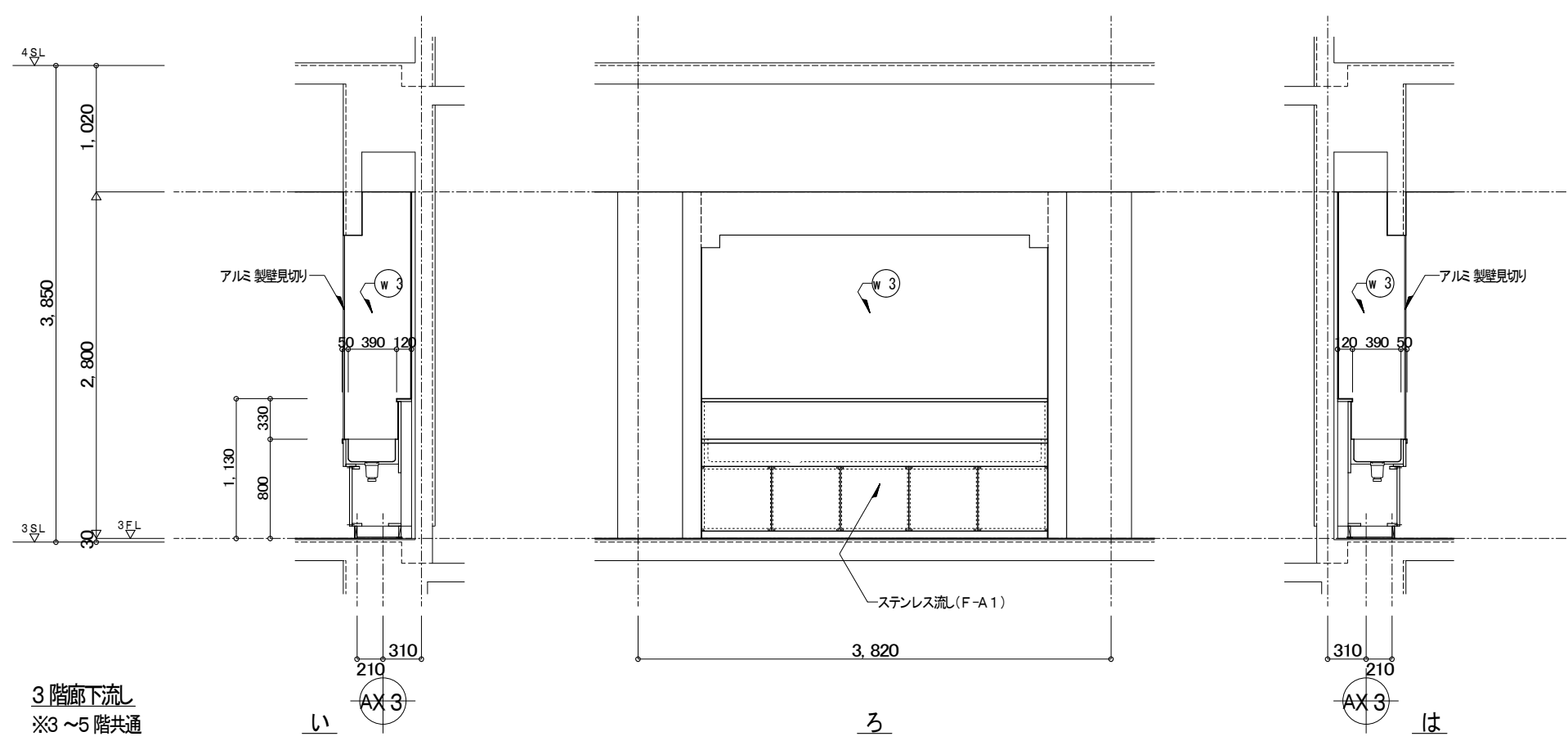
1階倉庫
※1~2階共通

凡例

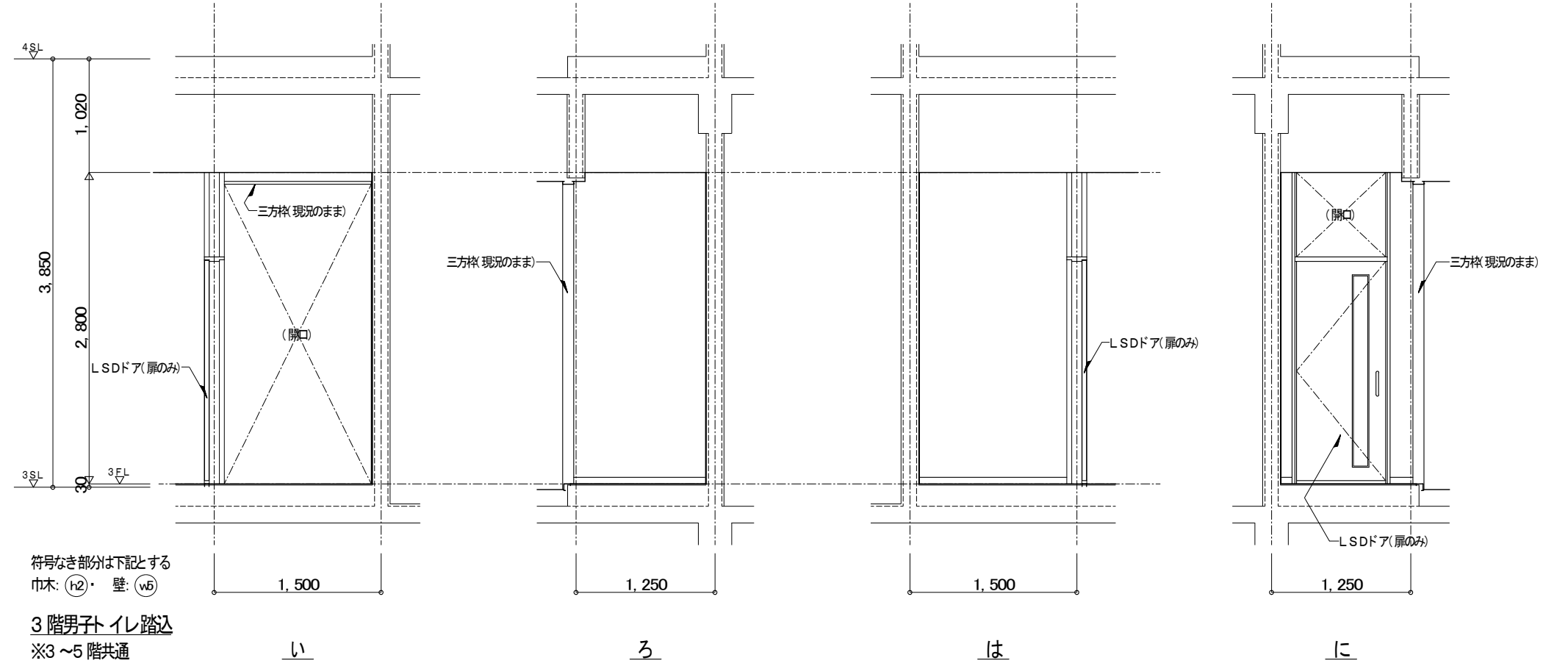
- 器具等の仕様は下記による。
- LSDDF: 点検口: トイレブース: 建具表参照
 - ステンレス流し: 隔て板: 家具図参照
 - 手置仕様: 樹脂機械タイプφ34
 - 小: 小便器用600×480×550 カ: カウンター: 580×150×2個1組
 - L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※壁掛洗面器用2個×1組
 - 甲板: メラミンポストフォームt=2.0×D
 - 洗面カウンター: 人工大理石 D=450×[L] ボウル: 一体タイプ(水栓: 鏡床) ※機械設備工事参照
 - 固定棚仕様
 - 棚板: メラミンポストフォームt=2.0×250D
 - 支持金具: ステンレスアングル120×120(ビス止め) ×3
 - モップランガン: ステンレス製モップキャッチ金具φ60 ※既製品
- ※手置及び器具類の取付け下地高割は適切に行うこと。(全て本工事に含む)
※その他は図示による。

改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(h2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(w)	壁	LGS鋼線 40×20@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(v2)	壁	LGS壁下地65形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(v8)	壁	カチオン下地調整材コテ塗り	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(v5)	壁	カチオン下地調整材コテ塗り	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(w)	壁	下地調整RB	複層塗料E(ゆず肌)	
(v8)	壁	LGS壁下地65形@300 石膏ボード t=12.5	複層塗料E(ゆず肌)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形@300 T-1合板 t=12	メラミン化粧板 =3(目地シール)	

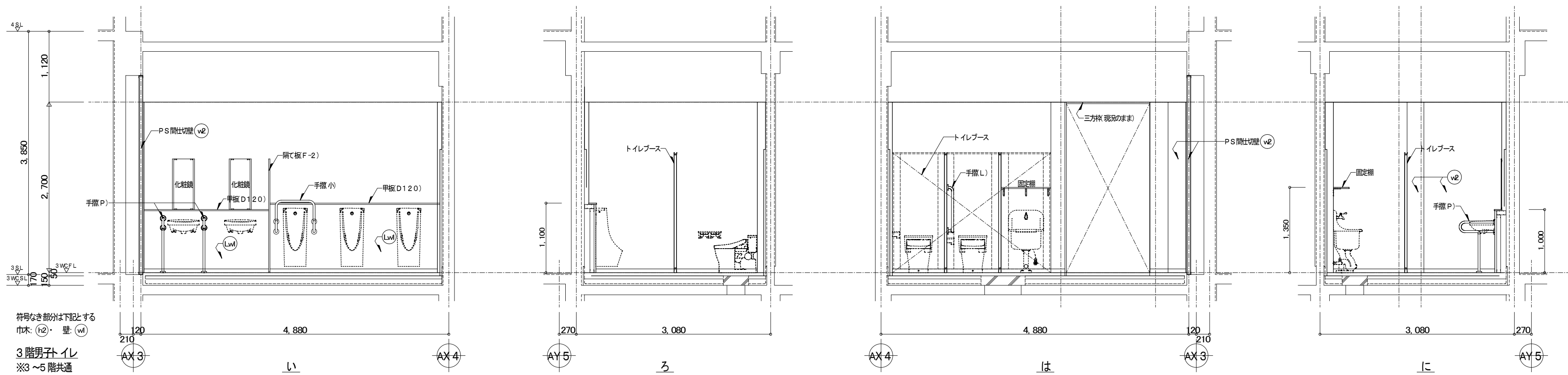


3階廊下流し
※3~5階共通



符号なき部分は下記とする
巾木 (h2)・壁 (v5)

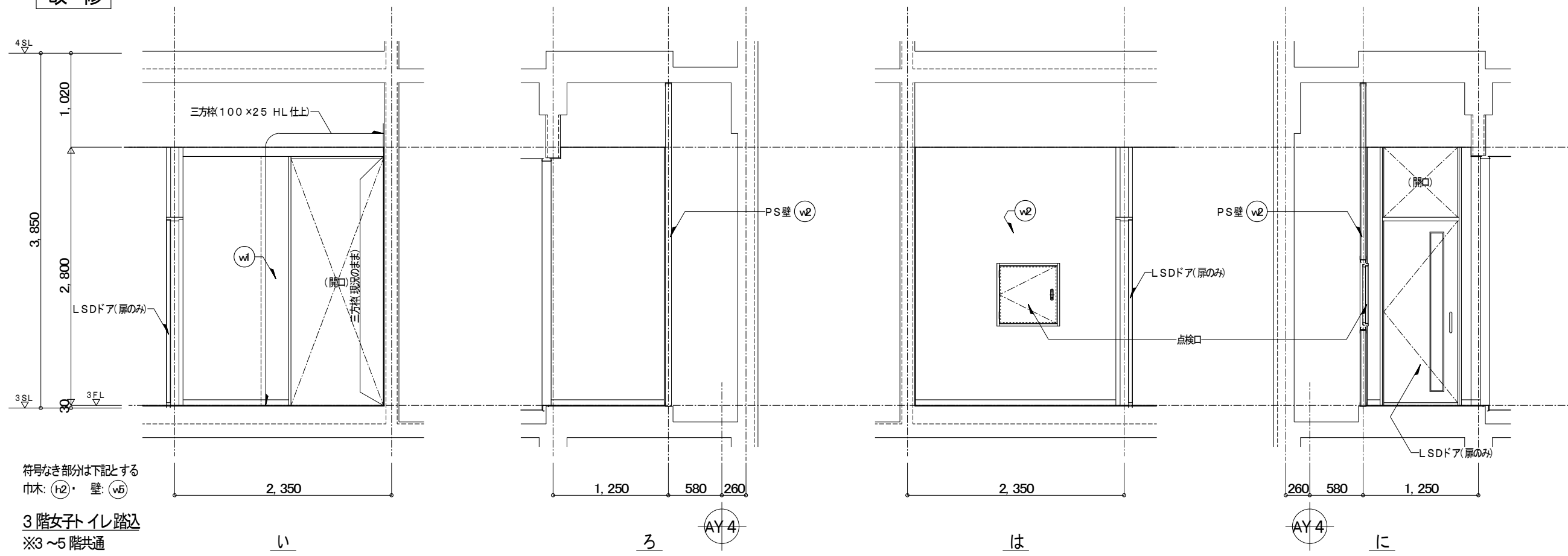
3階男子トイレ
※3~5階共通



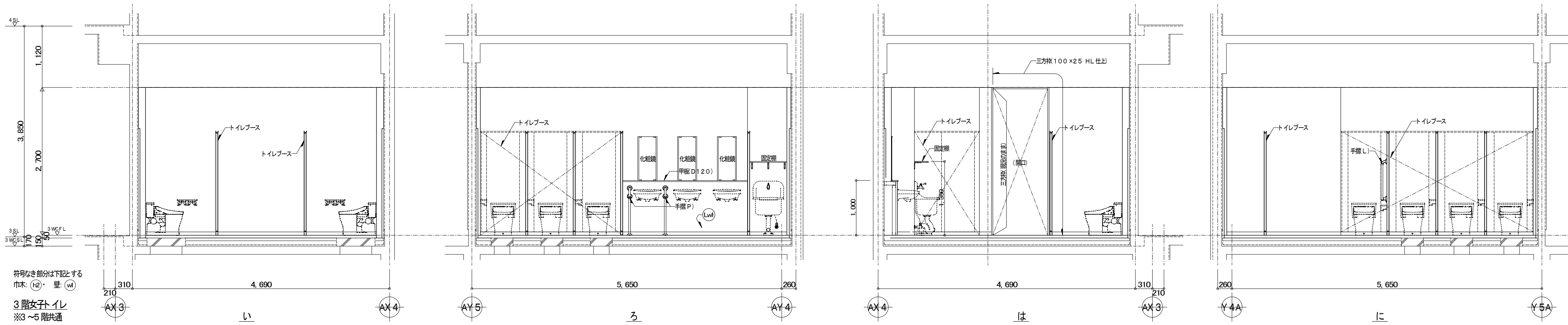
符号なき部分は下記とする
巾木 (h2)・壁 (w)

3階男子トイレ
※3~5階共通

(A棟)



符号なき部分は下記とする
巾木 (r2)・壁 (v6)
3階女子トイレ踏込
※3~5階共通



符号なき部分は下記とする
巾木 (r2)・壁 (v6)
3階女子トイレ
※3~5階共通

凡例

- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア・点検口・トイレブース：建具表参照
- ステンレス流し：隔て板、家具図参照
- 手摺仕様：樹脂被覆タイプφ34
- 小：小規模用800×480×550 カ：カウンター 580×150×2 個1組
- L：L型700×700×90 P型 550×780(×650) ※壁掛洗面器用 2個×1組
- 甲板：メラミンポストフォーム t=20×[D]
- 洗面カウンター：人工大理石 D=450×[L] ボウル一体タイプ(水栓：鏡表) ※機械設備工事参照
- 固定棚仕様
- 棚板：メラミンポストフォーム t=20×250D
- 支持金具：ステンレスアングル120×120(ビス止め) ×3
- モップハンガー：ステンレス製 モップキャッチ金具3 個 ※既製品
- ※手摺及び器具類の取付け下地補強は適切に行うこと。(全て本工事に含む)
- ※その他は図示による。

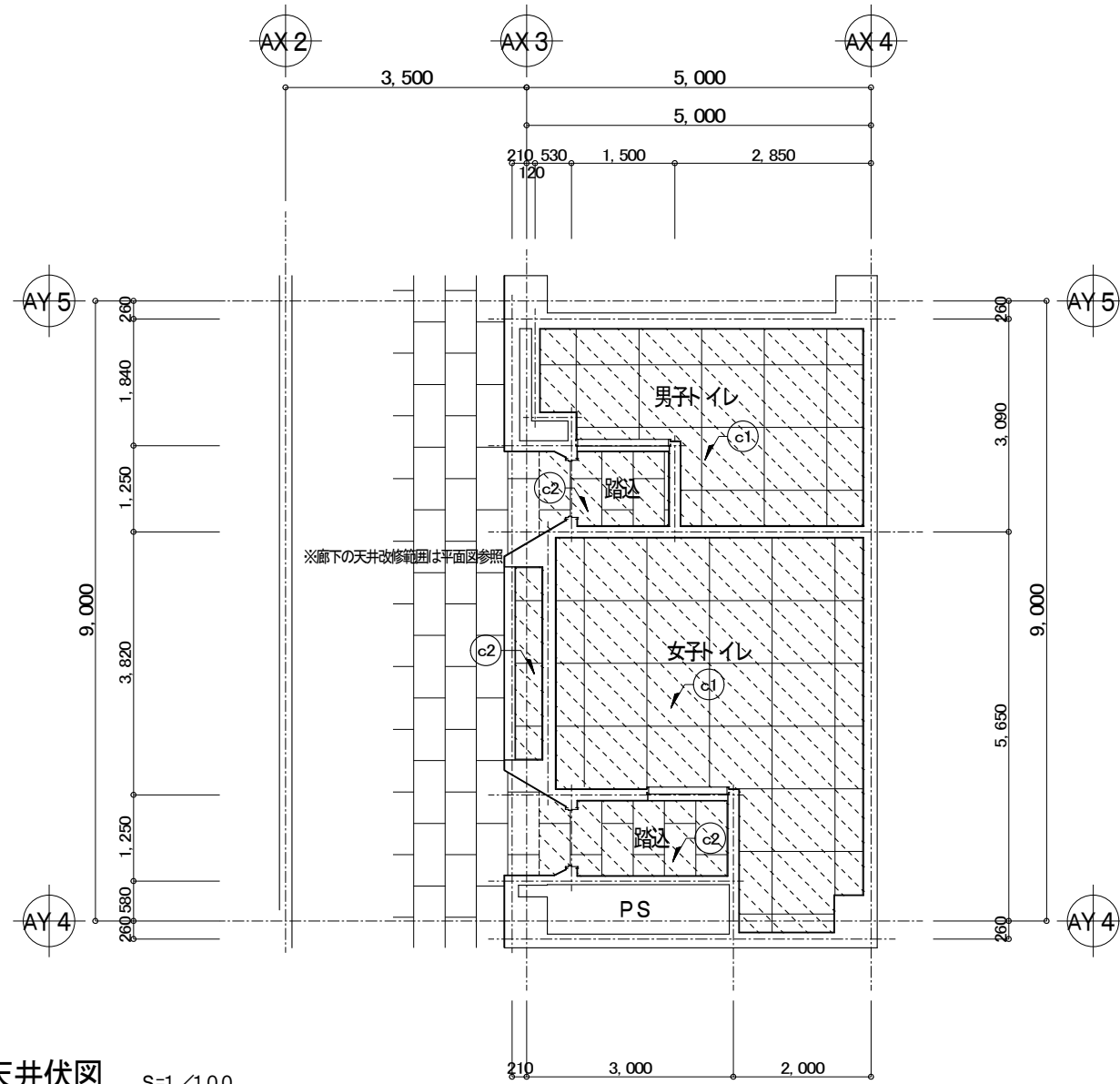
改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(r2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(v1)	壁	LGS鋼線 40×20 @300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 ≒3(目地シール)	
(v2)	壁	LGS壁下地65形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 ≒3(目地シール)	
(v5)	壁	カチオン下地調整材コテ塗り	メラミン化粧板 ≒3(目地シール)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形@300 T-1合板 t=12	メラミン化粧板 ≒3(目地シール)	

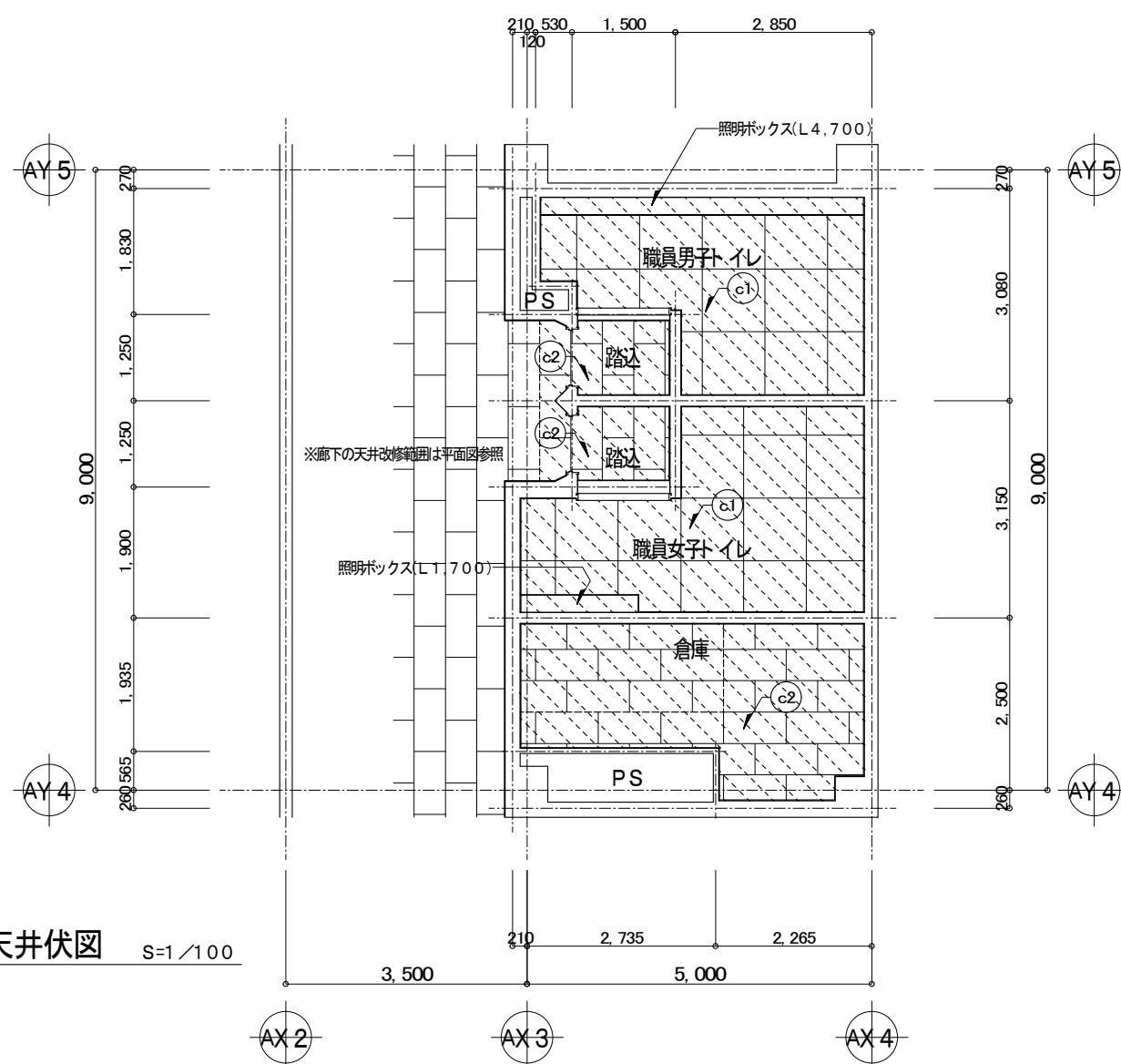
現況

凡例

- 撤去範囲を示す
- ※撤去部材等の仕様は次の通り。
- 照明ボックス: ステールφ=1.6加工(250×250×L1)
- ※その他は図示による。



3~5階天井伏図 S=1/100



1・2階天井伏図 S=1/100

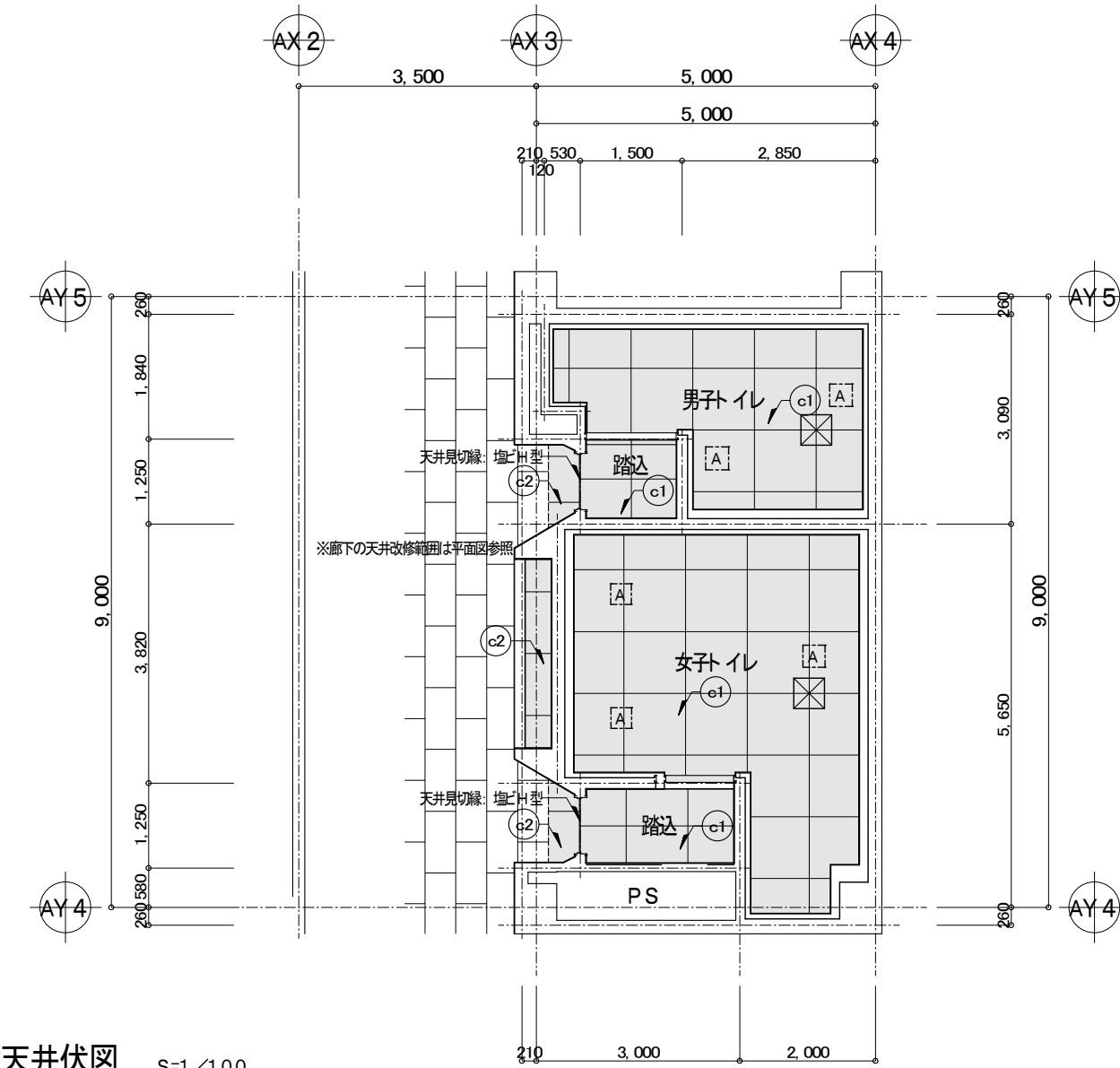
□ 現況仕上表 補記: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
c1	天井	LGS野縁	フレキブルボードt=5(※3) EP塗	現況下地、仕上全て撤去
c2	天井	LGS野縁	化粧石膏ボードt=9	現況下地、仕上全て撤去

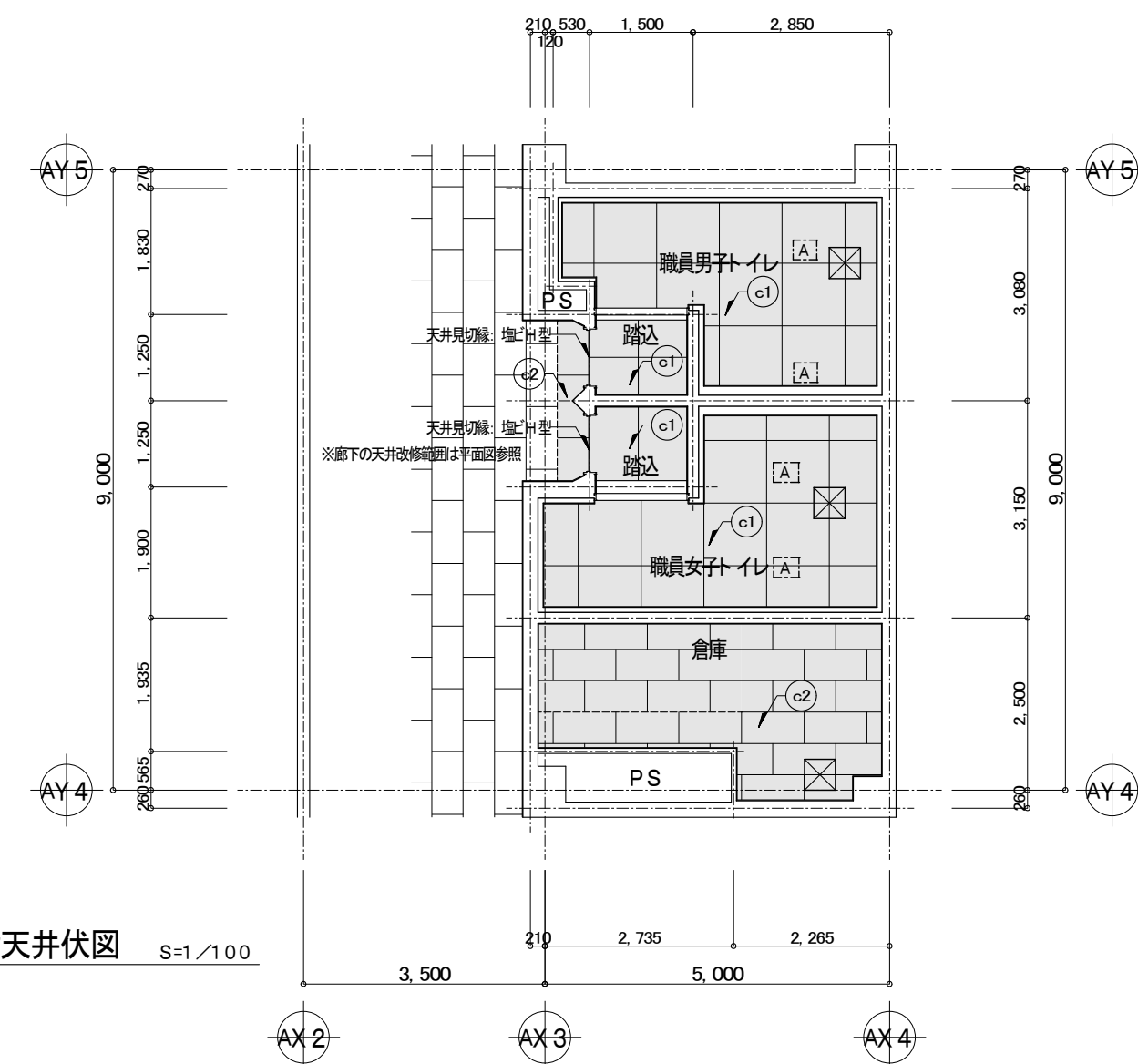
改修

凡例

- 改修範囲を示す
- LGS野縁19型開口補強 ボード切込み共
- A: 250×250
- 天井点検口450×450 開口補強 ボード切込み共
- ※開口及び点検口の位置は設備工事と協議の上、決定する事。
- ※その他は図示による。



3~5階天井伏図 S=1/100



1・2階天井伏図 S=1/100

□ 改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
c1	天井	LGS野縁19型φ303	化粧石膏ボードt=9.5	廻り縁: 塩工製
c2	天井	LGS野縁19型φ225	化粧石膏ボードt=9.5	廻り縁: 塩工製

(A棟)

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤 出



設計年月日
R 5. 1. 31

変更年月日

工事名称 川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)

図面名称 現況・改修 天井伏図

Scale S=1/100

No.

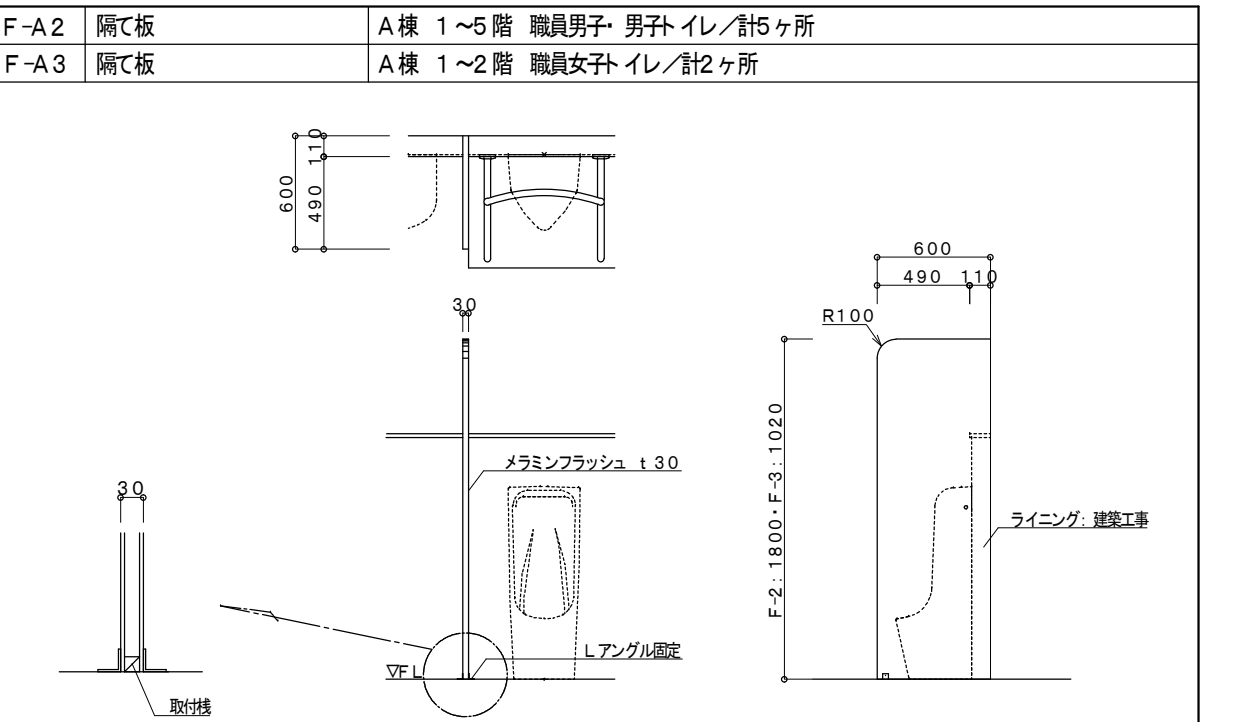
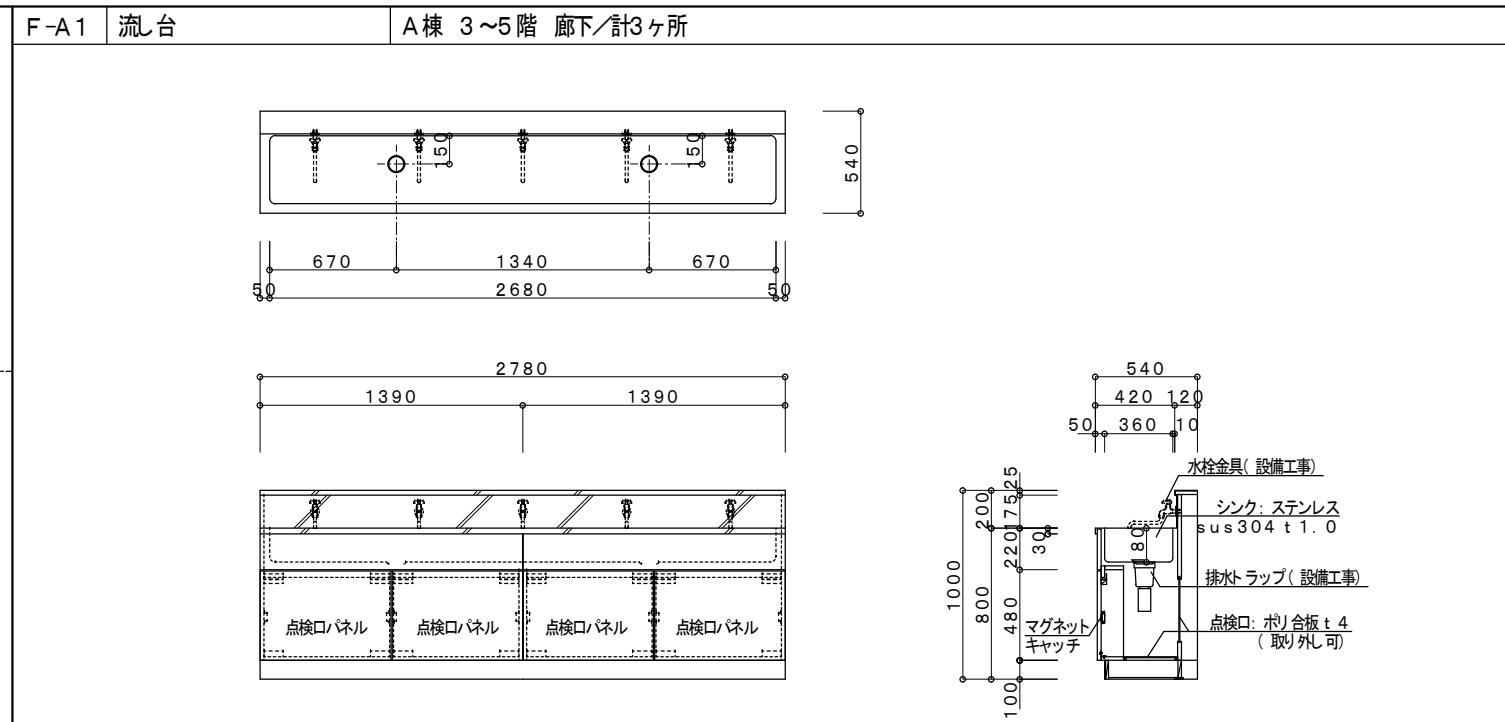
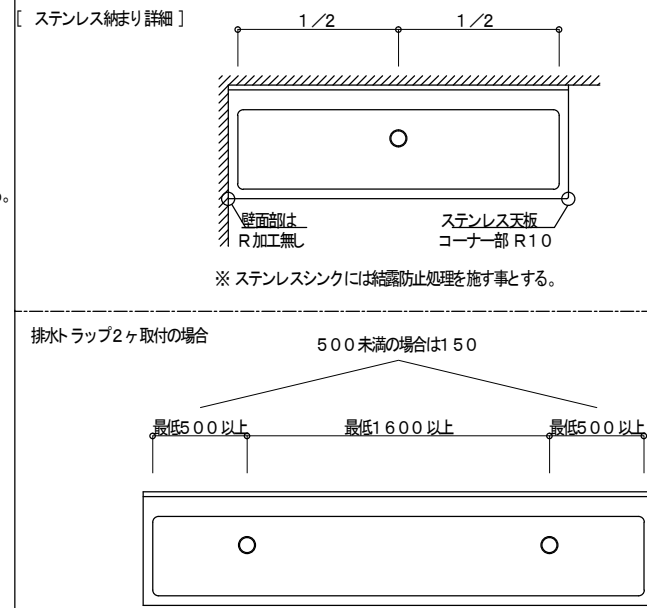
A-25

符号・数量	(LSD A1) × 10 ヶ所	(SD A1) × 5 ヶ所
型式	軽量スチール製入り片開きフラッシュドア	スチール製片開き点検戸
形状・寸法		
取付位置	1~2階職員男子トイレ、職員女子トイレ・3~5階男子トイレ、女子トイレ	1~2階倉庫・3~5階女子トイレ(該当)
仕様・見込	塩化耐性 =0.6 見込: 40	溶融亜鉛メッキ鋼板 =1.6 SOP塗リ
金物	T番、ドアクローザー、SUSハンドル、他付属金物一式	T番、ワンタッチ平面ハンドル(鍵付き)
ガラス	強化安全ガラス t=4	
備考	既設スチール枠内への取付	

符号・数量	(TB A1) × 3 ヶ所	(TB A2) × 3 ヶ所	(TB A3) × 7 ヶ所	(TB A4) × 3 ヶ所
型式	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース
形状・寸法				
取付位置	3~5階女子トイレ	3~5階女子トイレ	1~2階職員男子トイレ・1~2階職員女子トイレ・3~5階男子トイレ	3~5階女子トイレ
				<p>トイレブース仕様(中心吊タイプ)</p> <p>見込: 40mm</p> <p>笠木・エッジ類: アルミ押出形材</p> <p>柱脚: ステンレス(SUS304)ヘヤーライン仕上</p> <p>パネル・ドア: 表面材 高圧メラミン樹脂板・裏材(パーティクルボード t=9 芯材) ベーバーコア</p> <p>金物(内開き): 表示付スライドラッチ、帽子掛け戸当り、非常時外開き機能付き</p> <p>金物(外開き): 表示付スライドボルト、外開き戸当り、帽子掛け</p> <p>金物(片引き): SUSドアハンドル、表示付引戸錠</p> <p>金物(S・K): 取手</p> <p>※仕様は参考とし、類似の各メーカー仕様を優先する。</p> <p>※各設備等の取付等に伴う補強は本工事に含む。</p>

家具共通仕様 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。

- 本体・棚板**
室内VOC(ホルムアルデヒド等)の低減効果と抗菌機能を付した可視光増感型樹脂を工業的に配合した両面メラミン化樹脂パーティクルボード(厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用)。
上記材料は、JIS A5908 適合、18タイプ(曲内径は18mm/平方メートル以上)とし、JIS マーク 認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。
基材は、珪藻土系材料を含む樹脂材配合(配合率20%)とし、合法性材料認定事業者取扱い品を使用する。
- 木口処理**
躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ(ABS製樹脂をホットメルト接着)加工とする。
- 表面処理**
本体・棚板・建具等は使用時の傷の発生を抑制するために耐擦傷度 9H 以上の表面材を使用する。
本仕様については色見本帳(45色以上)を提出の上決定する。
- 裏板**
ポリエステル化粧合板 F☆☆☆☆ 厚さ4mmを使用し、片面フラッシュ(450mmピッチ以内)に格子状樹脂構造とする。
- 本体組立て**
組立ては、製作工場での木製ダボ組立てとし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。
- 巾木・台輪**
ポリエステル化粧合板仕上げ F☆☆☆☆(塗装不要)とする。
- 建具**
板戸は、くすりやノボ掛け防止のため、かまち組み等は不可とし1枚物とする。
- 特記事項**
環境配慮及び品質確保のため、取扱いにはISO 14001、製品にはISO 9001 取得企業とする。
製材に当たり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。
室内空気清浄確保のために、学校環境衛生基準に準じて参考となる類似製品のVOC測定データを提出する。
- 施工**
家具取付は、安全のため壁や柱に耐震固定を施す。



(A棟)

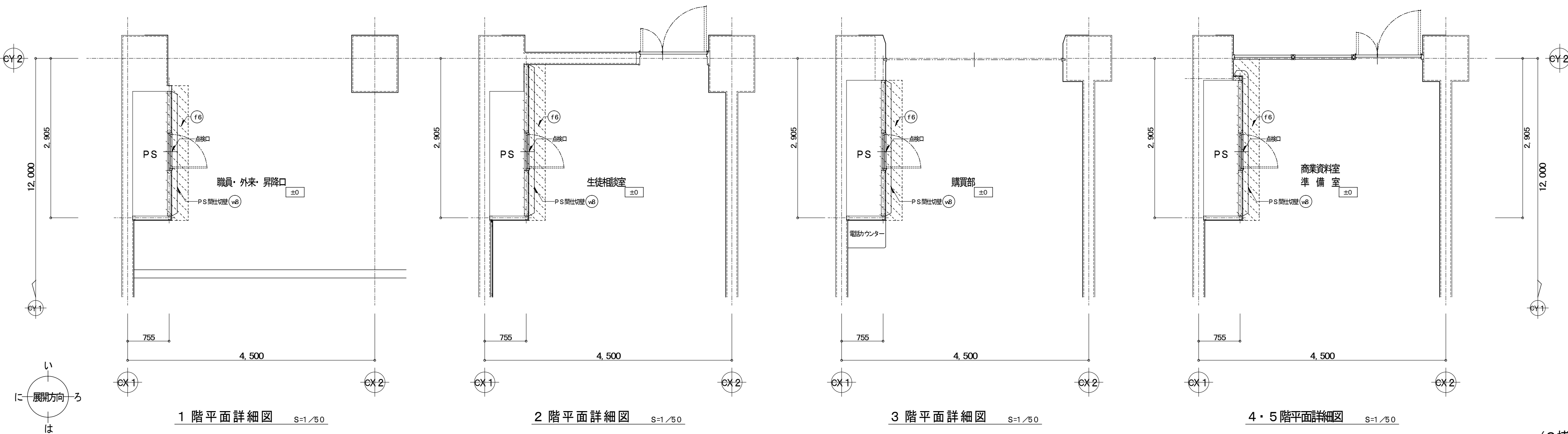
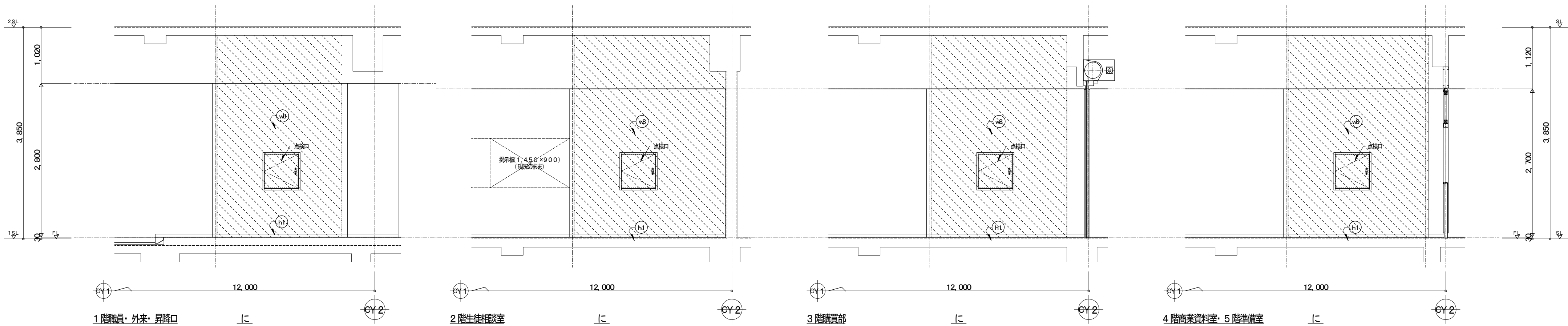
現況

凡例

- 撤去範囲を示す
- 廊下床を基準とした床高さを示す(単位: mm)
- ※凡例及び仕上表以外の事項は図示による。
- ※撤去部材等の仕様は図による。
- 点検口: スチール製 600×600)
- ※アスベスト含有仕上塗材 吹付タイルは防火人形遮断材吹付の上吹かされている材料ボード、モルタルごと撤去する。

現況仕上表 特記: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(f6)	床	モルタル塗コテ t=10(仕上含み)	ビニルシート t=2.3	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(v8)	壁	LGS壁下地65形@300、石膏ボード t=12.5	吹付タイル(※3)	下地、仕上全て撤去



1階平面詳細図 S=1/50

2階平面詳細図 S=1/50

3階平面詳細図 S=1/50

4・5階平面詳細図 S=1/50

(C棟)

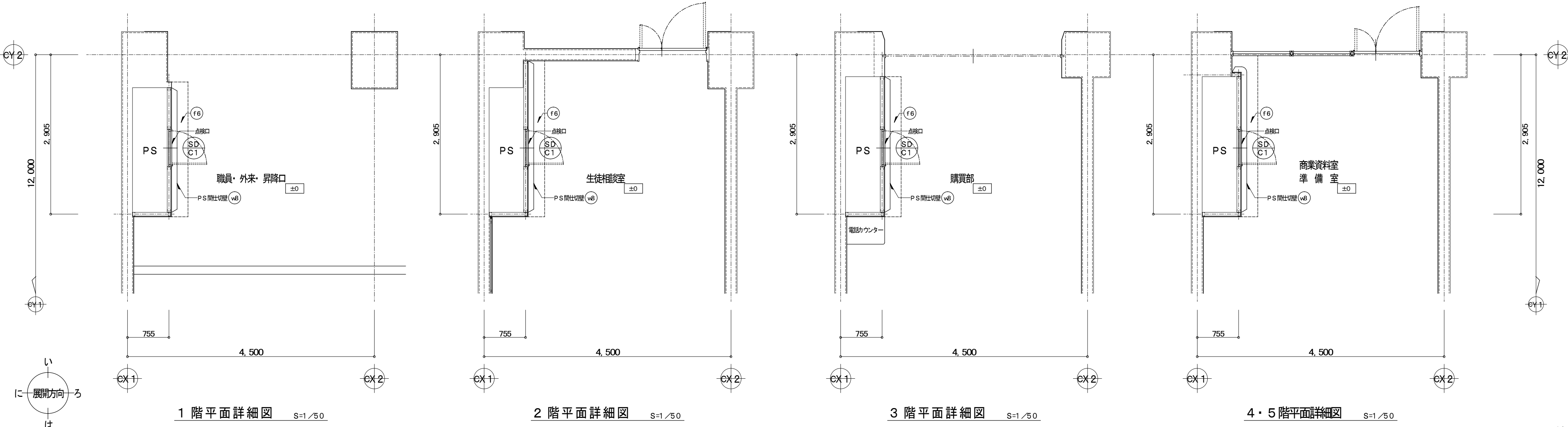
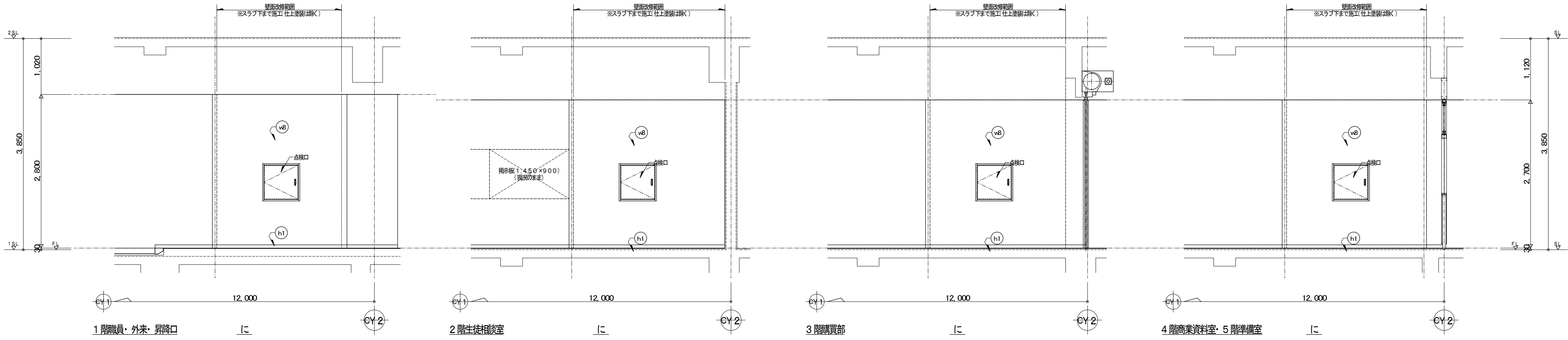
改修

凡例

±0 廊下床を基準とした床高さを示す単位: mm
 器具等の仕様は下記による。
 点検口: 建築表参照

改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(f6)	床	セルフレベリング床材 せつこう t=8	ビニル床シート t=2.0	
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(v8)	壁	LGS壁下地 65形@300 石膏ボード t=12.5	複層塗材E(ゆず肌)	



1階平面詳細図 S=1/50

2階平面詳細図 S=1/50

3階平面詳細図 S=1/50

4・5階平面詳細図 S=1/50

(C棟)

現況

凡例

- 撤去範囲を示す
- ±0 廊下床を基準とした床高さを示す(単位: mm)
- ※衛生器具の撤去は撤去設備工事とする。
- ※凡例及び仕上表以外の事項は図示による。
- ※アスベスト含有仕上塗料(吹付タイル)は撤去人員防護防止材付の上吹付されている材料(ボド、モルタル)ごと撤去する。
- ※撤去部材等の仕様は欠による。
- 木製ア: 800×2,000(ガラス: F-4、150×1,700)
- トイレベース: 木製 t=40×1,900
- 洗面カウンター: メラミンボストフォーム(L)×440×125×30
- ステンレス流し: ステンレス t=2(L-30×30×3@1,200下地板)
- 点検口: スチール製(600×600)

現況仕上表 特記: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(F1)	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル、押えコンクリート t=60、モルタルタイル下地	磁器質タイル	既存面直仕上
(F2)	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル、押えコンクリート t=60、モルタルタイル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(F3)	床	均しモルタル、アスファルト防水層(※3)、保護モルタル、押えコンクリート t=60、モルタルタイル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地モルタル、仕上撤去
(F4)	床	モルタル金ゴテ t=10(仕上のみ)	ビニル床シート t=2.3	仕上撤去
(v2)	壁	上段: CBt=100種、モルタル金ゴテ 下段: CBt=100種、モルタルタイル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(v6)	壁	CBt=100種、モルタル金ゴテ	吹付タイル(※3)	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(Lw)	ライニング	CBt=100種、モルタルタイル下地	陶器質タイル 甲板: テラゾーブロック t=30×[D]	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去

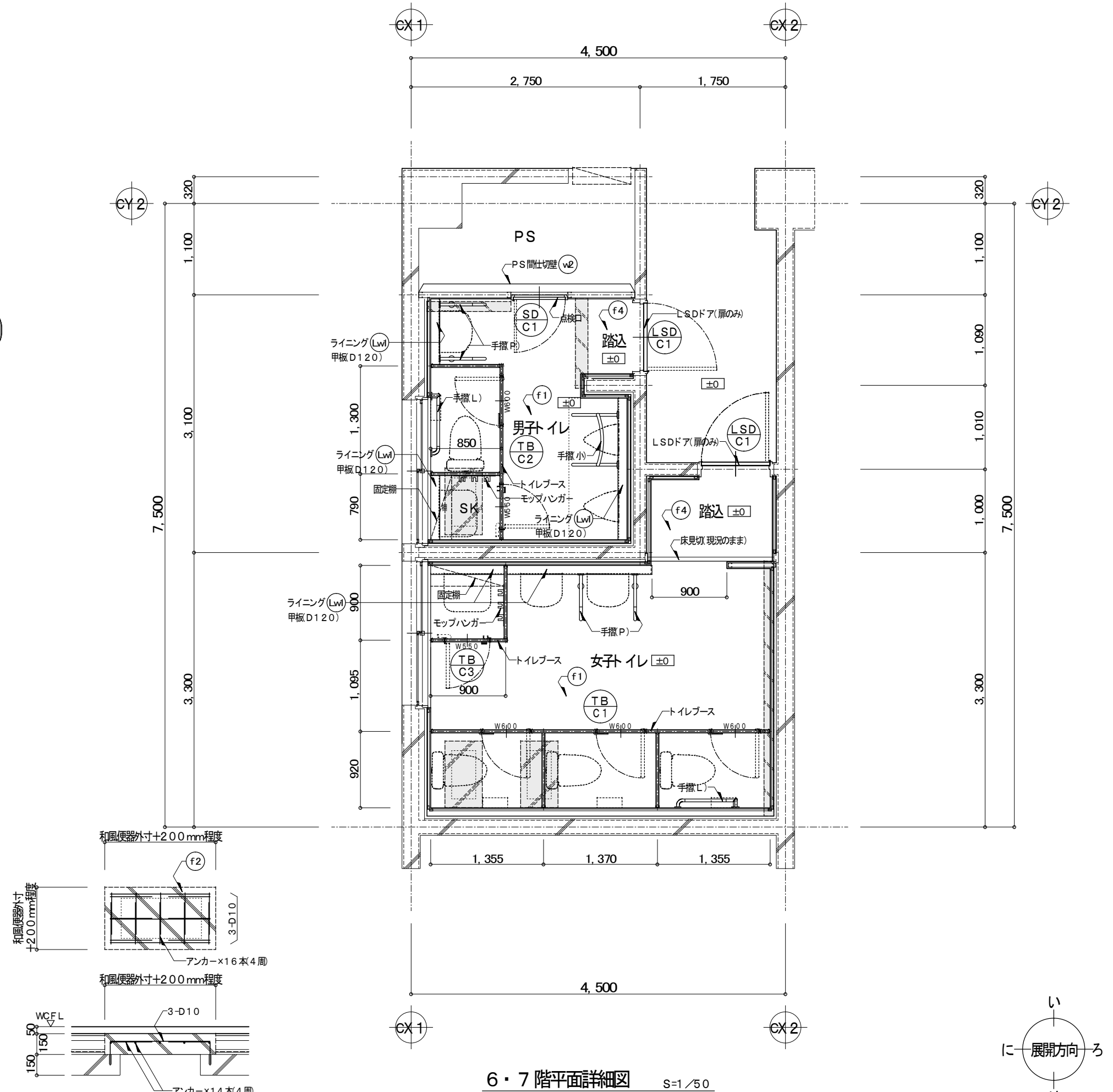
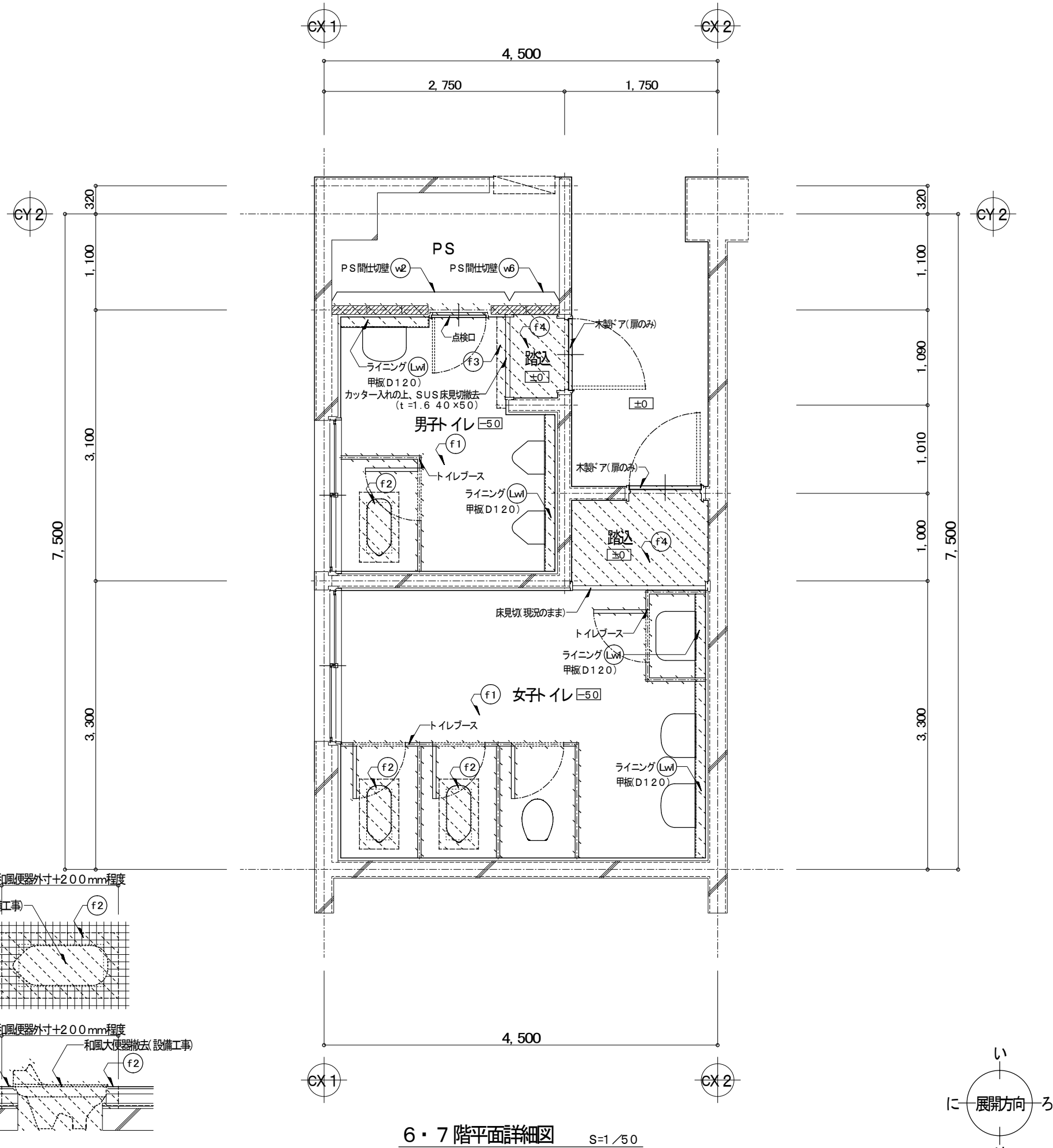
改修

凡例

- ±0 廊下床を基準とした床高さを示す(単位: mm)
- 和風便器撤去部コンクリート充填 t=15.0を示す
- 床及びライニング撤去部、無収縮モルタル t=5.0充填を示す
- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア: 点検口、トイレベース: 建具表参照
- ステンレス流し: 陶器、家具取参照
- 手洗い: 陶器製タイプφ34
- 小: 小便器用800×480×550 カ: カウンター: 580×150×2幅1線
- L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※選別排水器用2個×1組
- 甲板: メラミンボストフォーム t=20×[D]
- 固定棚仕様
- 棚板: メラミンボストフォーム t=20×250.0
- 支持金具: ステンレスアングル1.20×1.20(ビス止め) ×3
- モップハンガー: ステンレス製モップキャッチ金具3個 ※鋼製品
- ※手摺及び器具類の取付け下地撤去は図示に付すること。(全て本工事を含む)

改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(F1)	床	カチオン下地調整剤コロシ塗り	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(F4)	床	ケレン清掃	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(v2)	壁	LGS壁下地65形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 t=3(目地セール)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形@300 T-1合板 t=12	メラミン化粧板 t=3(目地セール)	



現況

凡例

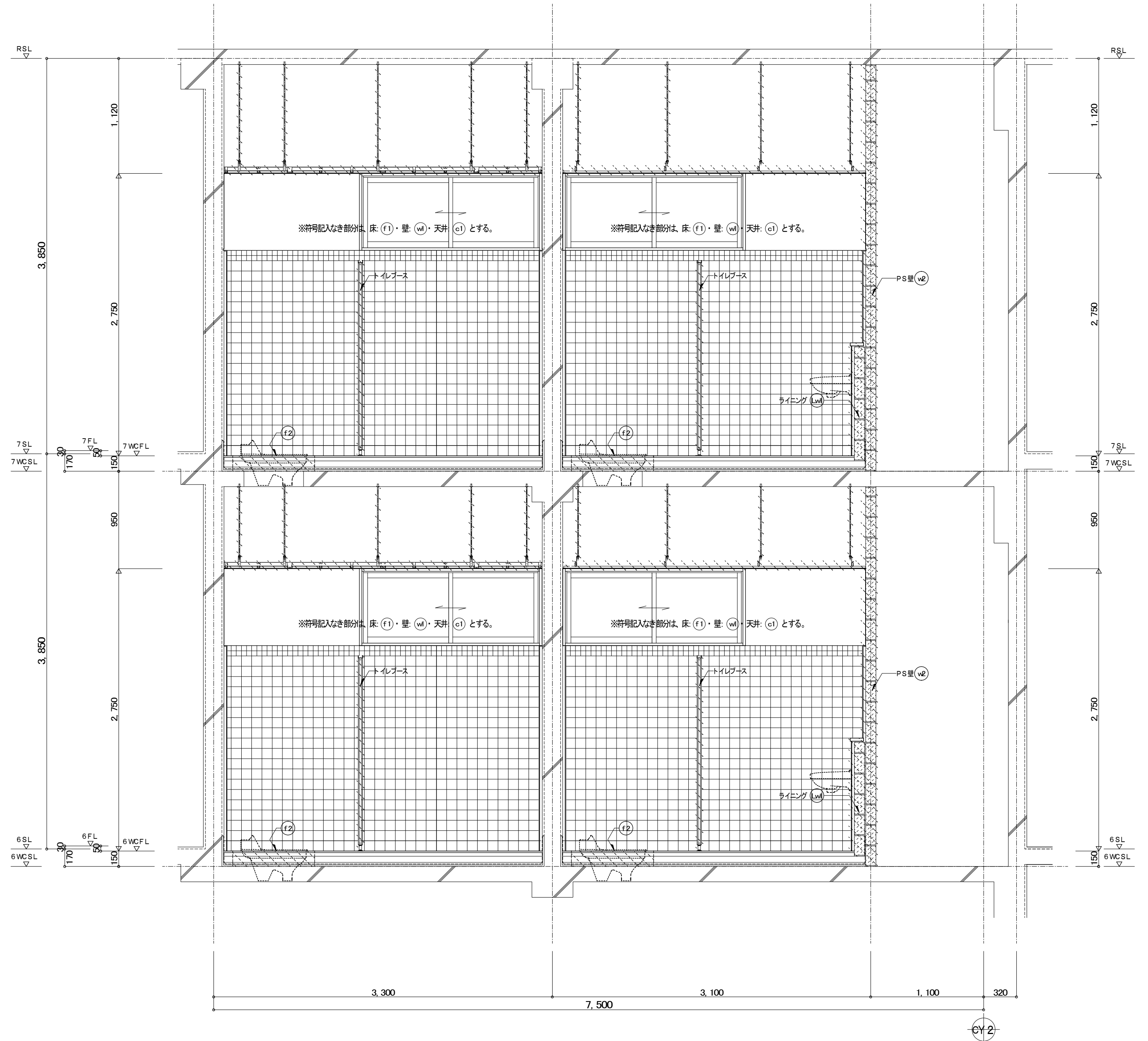
撤去範囲を示す

※衛生器具の撤去は撤去範囲工事参照

※その他は図示による。

現況仕上表 特記(※3)はアスベスト含有建材レベル3を示す

符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(f1)	床	均しモルタル、アスファルト防水層 ※3、保護モルタル 抑えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	既存面直仕上
(f2)	床	均しモルタル、アスファルト防水層 ※3、保護モルタル 抑えコンクリート t=60、モルタル下地	磁器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(w)	壁	上段: コンクリート打放し 下段: コンクリート、モルタル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	剥離撤去
(w2)	壁	上段: CBt=100種、モルタル金こて 下段: CBt=100種、モルタル下地	上段: EP塗り 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(Lw)	ライニング	CBt=100種、モルタル下地	陶器質タイル 甲版: テラゾーブロック t=30 x [D]	下地、仕上全て撤去
(c)	天井	LGS野縁	フレキシブルボード t=5(※3) EP塗り	現況下地、仕上全て撤去



(C棟)

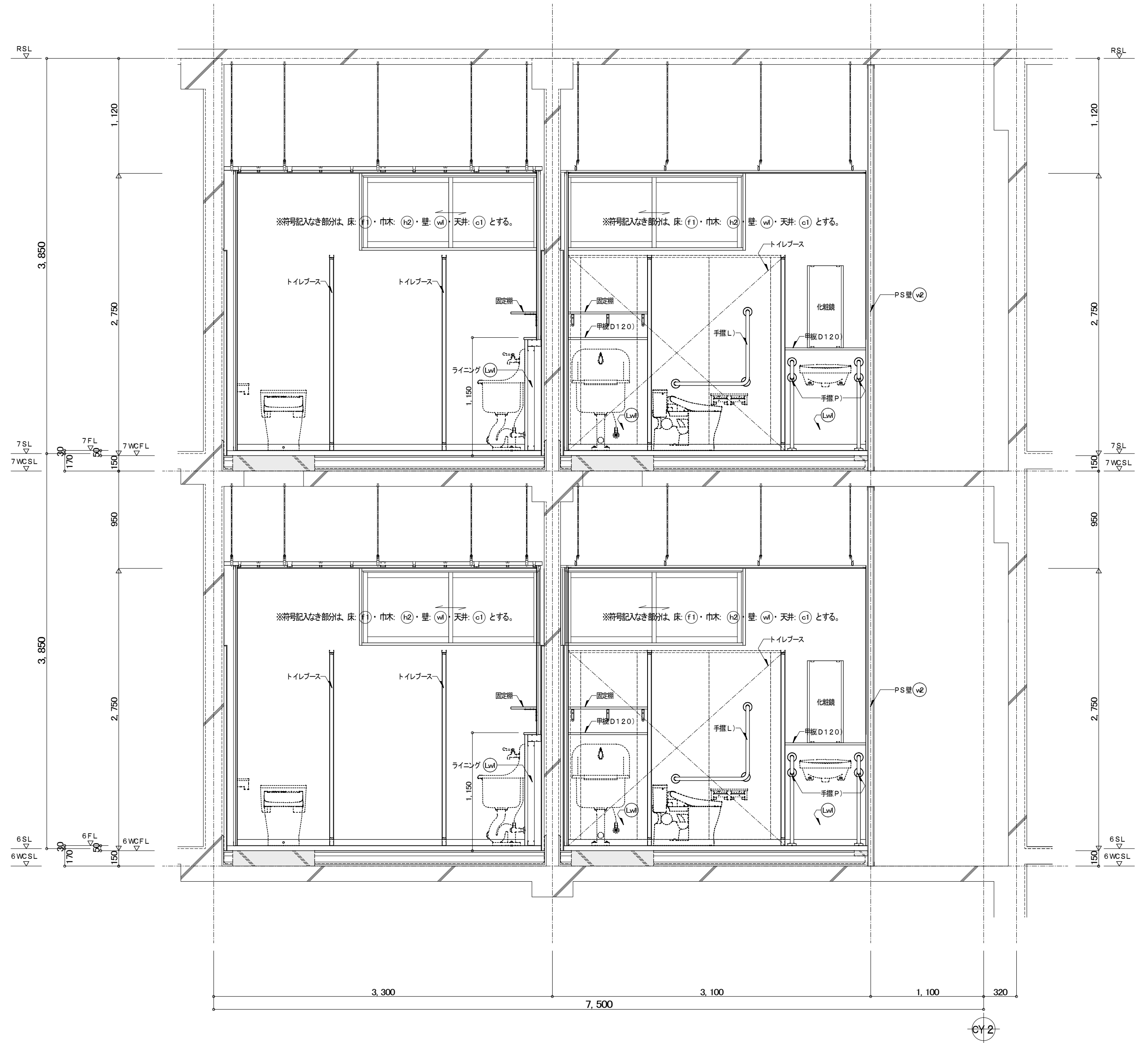
現況

凡例

- 和風便器撤去部コンクリート充填 t=15.0を示す
- 床及びライニング撤去部、無収縮モルタル t=5.0 充填を示す
- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア: 点検口・トイレブース: 建具表参照
- ステンレス鋼: 固定板: 家具表参照
- 手摺仕様: 滑車式タイプφ34
- 小: 小便器用600×480×550 カ: カウンター: 580×150×2 扉1組
- L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※壁掛洗面器用2個×1組
- 甲板: メラミンホストフォーム t=2.0×[D]

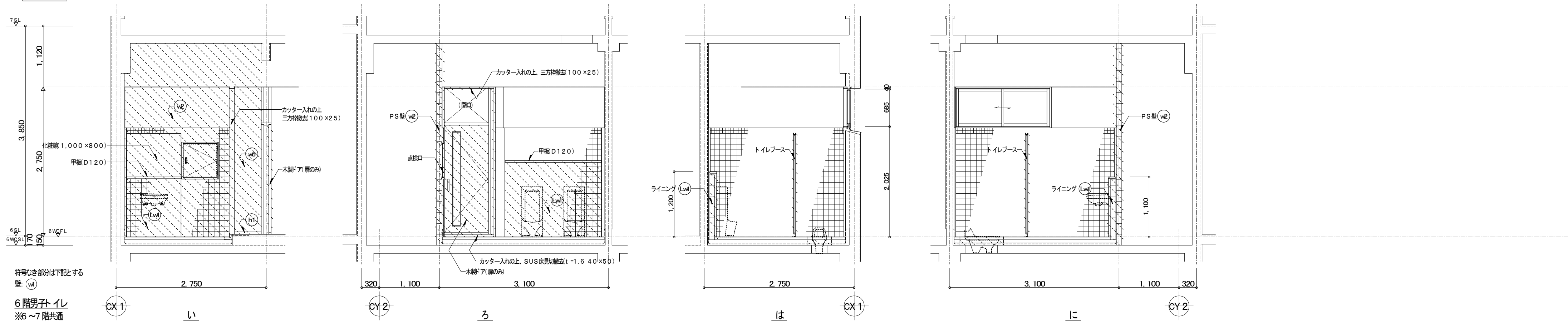
改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(f1)	床	カチオン下地調整材コテ塗り セルフレベルング床材 せつこう系 t=4.5	ビニル床シート t=2.0(防汚・抗菌)	
(h2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(w)	壁	LGS野縁40×20)@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 t=3(目地シール)	
(w2)	壁	LGS壁下地65形@300 シーリング石膏ボード t=12.5	メラミン化粧板 t=3(目地シール)	
(c1)	天井	LGS野縁19型@303	化粧石膏吸音ボード t=9.5	廻り縁 塩ビ製
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形@300、T-1 合板 t=12	メラミン化粧板 t=3(目地シール)	

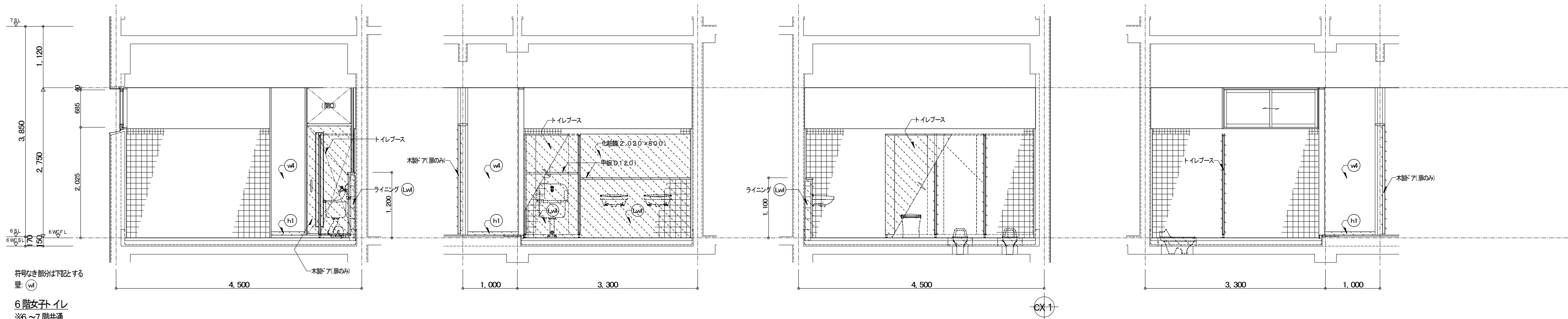


(C棟)

現況



6階男子トイレ
※6~7階共通



6階女子トイレ
※6~7階共通

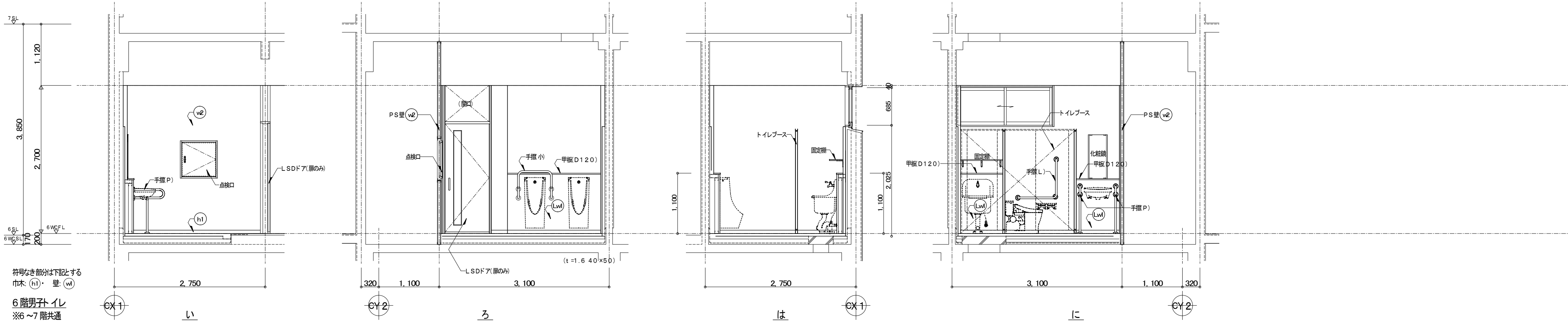
- 凡例**
- 撤去範囲を示す
 - ※衛生器具の撤去は撤去設備工事とする。
 - ※撤去部材等の仕様は次のとおり。
 - 点検口: スチール製(600×600)
 - 木製ドア: 800×2,000(ガラス: F-4, 150×1,700)
 - トイレブース: 木製, t=40×1,900
 - ※アスベスト含有仕上塗材(吹付タイル)は剥離し飛散防止材吹付の上吹付されている材料(ボード、モルタル)ごと撤去する。
 - ※その他は図示による。

現況仕上表 特記(※3)はアスベスト含有建材レベル3を示す

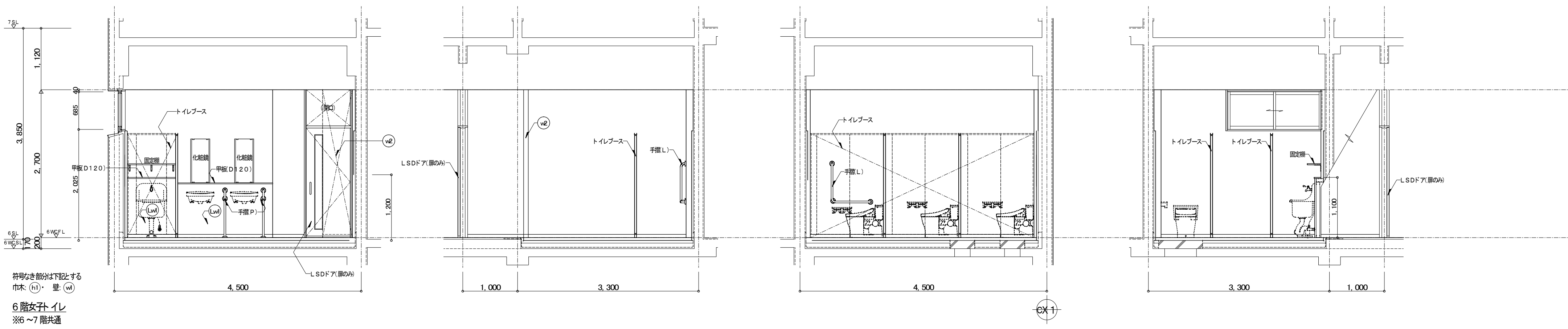
符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(h1)	巾木		ソフト巾木 H=60	仕上撤去
(w1)	壁	上段: コンクリート打放し 下段: コンクリート、モルタル下地	上段: EP塗 下段: 陶器質タイル	剥離撤去
(w2)	壁	上段: CBt=100種、モルタル金ごて 下段: CBt=100種、モルタル下地	上段: EP塗 下段: 陶器質タイル	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(w4)	壁	コンクリート打放し	EP塗	剥離撤去
(w6)	壁	CBt=100種、モルタル金ごて	吹付タイル(※3)	カッター入れの上、下地、仕上全て撤去
(Lw1)	ライニング	CBt=100種、モルタル下地	陶器質タイル	下地、仕上全て撤去

(C棟)

改修



符号なき部分は下記とする
巾木 (h1)・壁 (w)
6階男子トイレ
※6~7階共通



符号なき部分は下記とする
巾木 (h1)・壁 (w)
6階女子トイレ
※6~7階共通

凡例

- 器具等の仕様は下記による。
- LSDドア: 点検口・トイレブース: 建具表参照
 - ステンレス鏡: 隔て板: 家具図参照
 - 手擦仕様: 掛網電線タイプφ3.4
 - 小: 小径器用600×480×550 カ: カウンター: 580×150×2個1組
 - L: L型700×700×90 P型: 550×780(×650) ※壁掛洗面器用 2番×1組
 - 甲板: メラミンポストフォームH=20×D
 - 固定網仕様
 - 網板: メラミンポストフォームH=20×250D
 - 支持金具: ステンレスアングル120×120(ビス止め)×3
 - モップハンガー: ステンレス製モップキャッチ金具3個 ※既製品

改修仕上表

符号	部位	改修下地	改修仕上	備考
(h2)	巾木		ソフト巾木 H=60	
(w)	壁	LGS鋼線40×20@300 シーリング石膏ボードt=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(v2)	壁	LGS壁下地65形@300 シーリング石膏ボードt=12.5	メラミン化粧板 =3(目地シール)	
(Lw)	ライニング	LGS壁下地65形@300 T-1合板 =12	メラミン化粧板 =3(目地シール)	

(C棟)

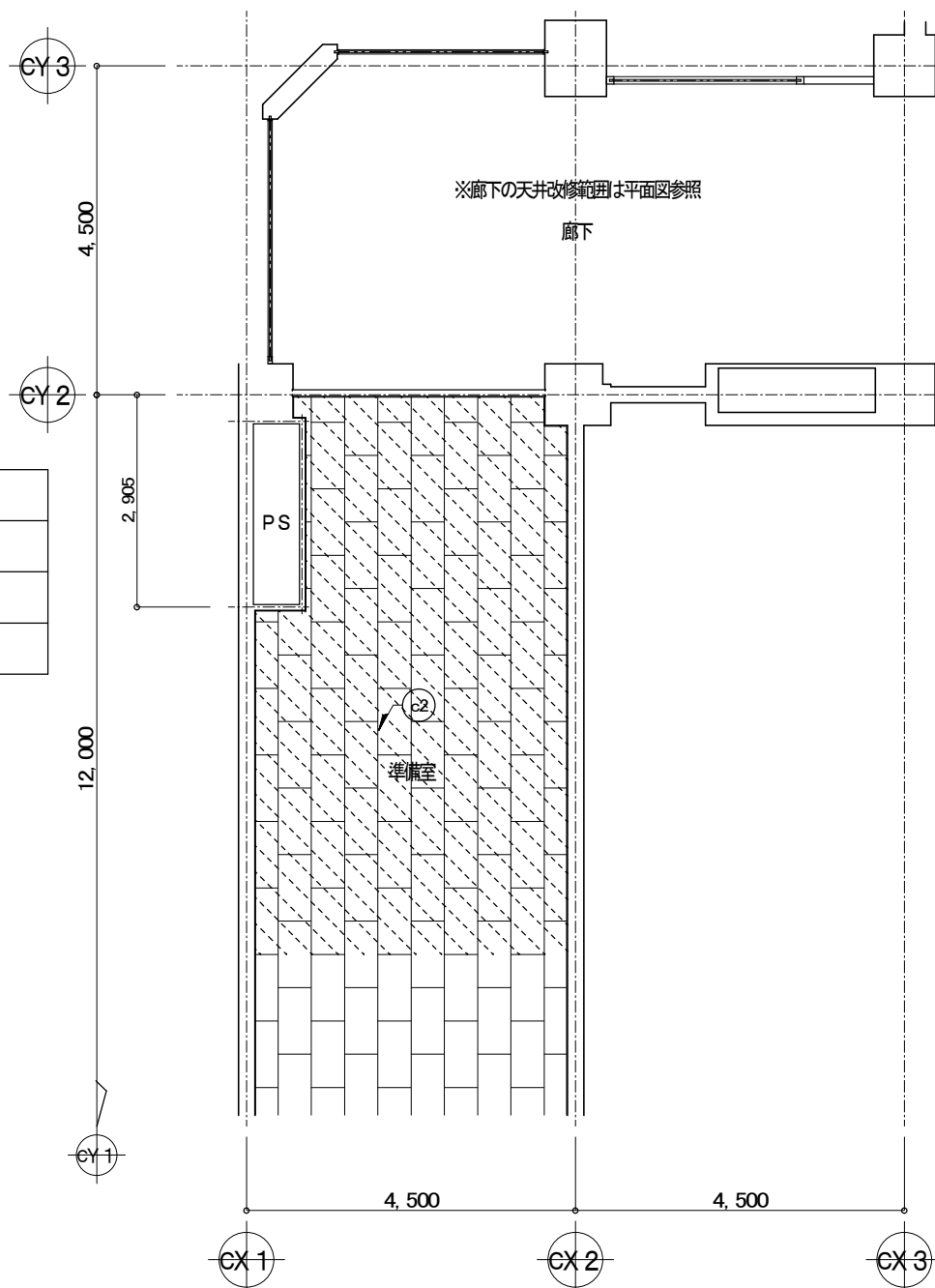
現況

凡例

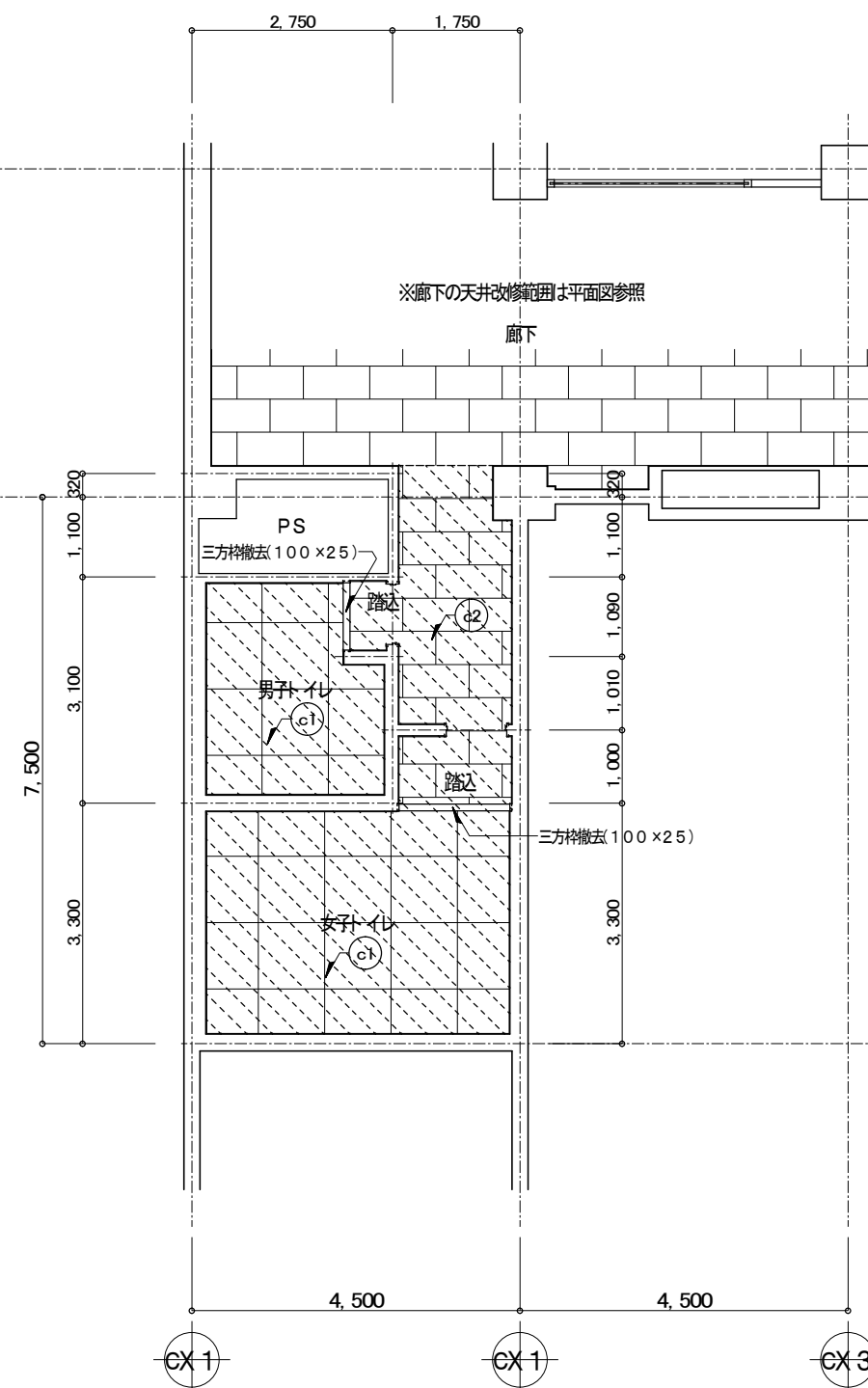
- 撤去範囲を示す
- ※撤去部材等の仕様は次の通り。
- 照明ボックス: スチール t=1.6加工(250×250×[L])
- ※その他は図示による。

□ 現況仕上表 特記: (※3)はアスベスト含有建材(レベル3)を示す

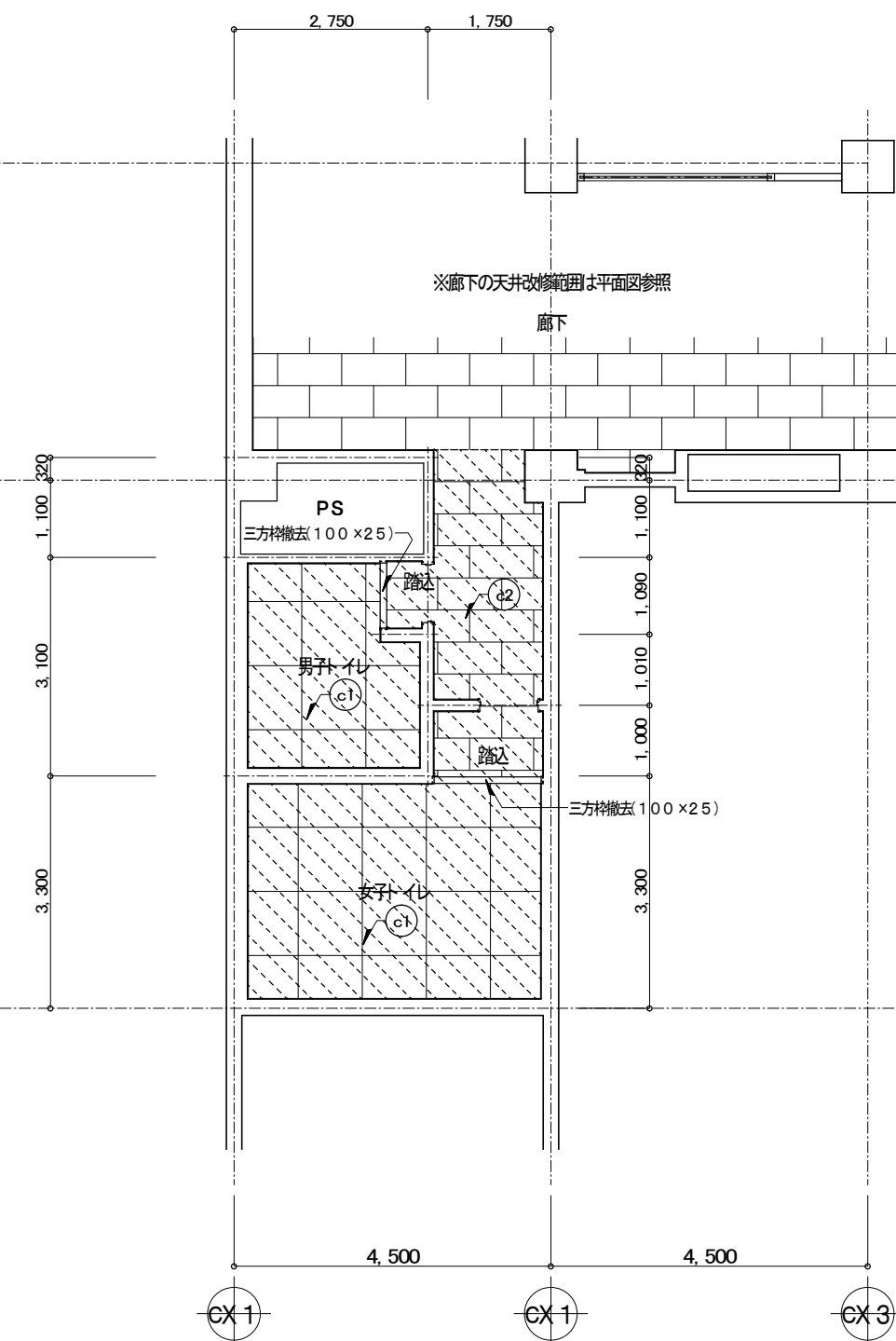
符号	部位	既存下地	既存仕上	改修処理
(c1)	天井	LGS野縁	フレキシブルボード t=5(※3) EP塗り	現況下地、仕上全て撤去
(c2)	天井	LGS野縁	化粧石膏ボード t=9	現況下地、仕上全て撤去
(c3)	天井	LGS野縁、石膏ボード t=9	ロックウール吸音板 t=9	現況下地、仕上全て撤去



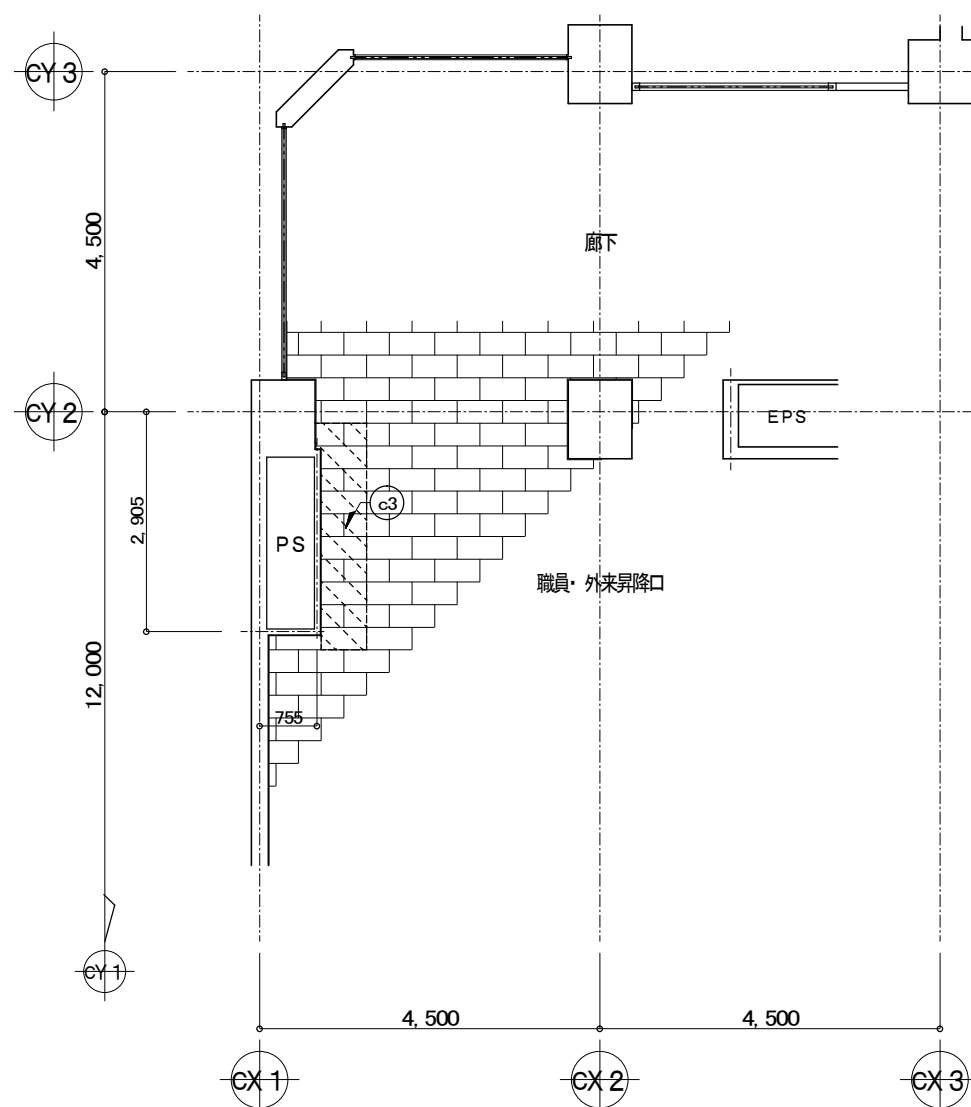
5階天井伏図 S=1/100



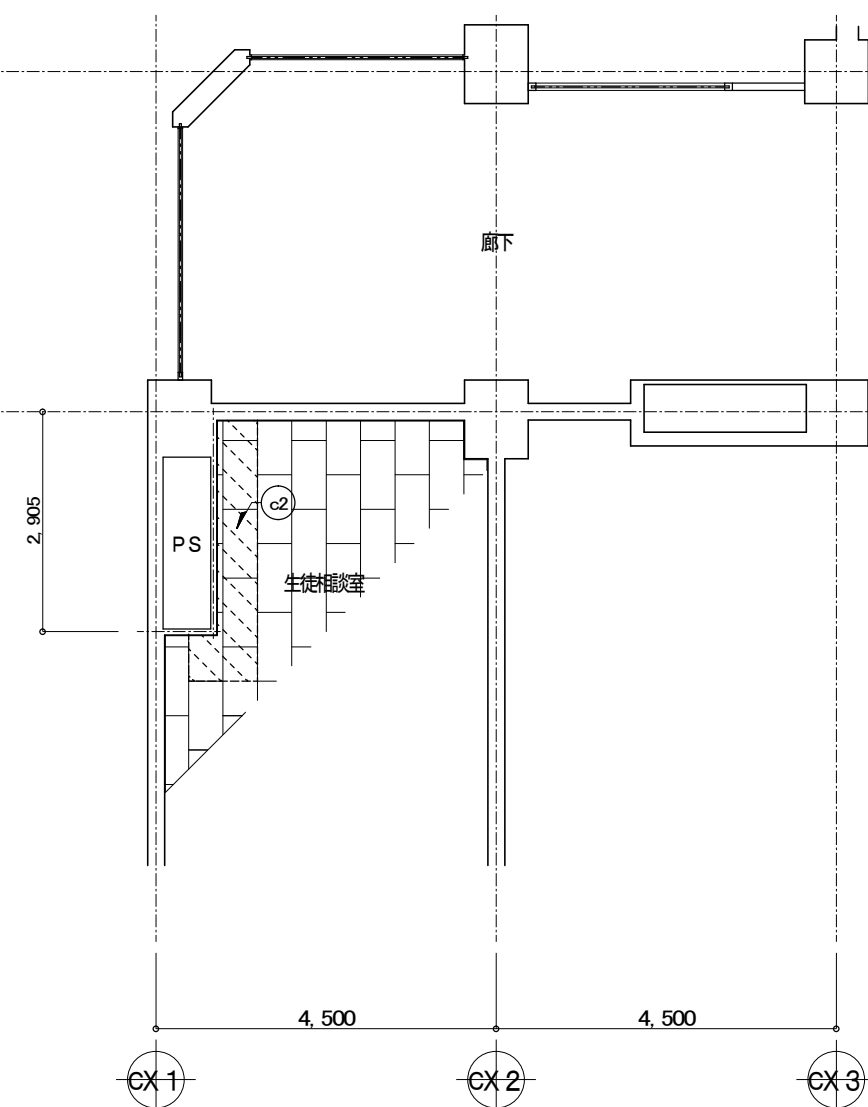
6階天井伏図 S=1/100



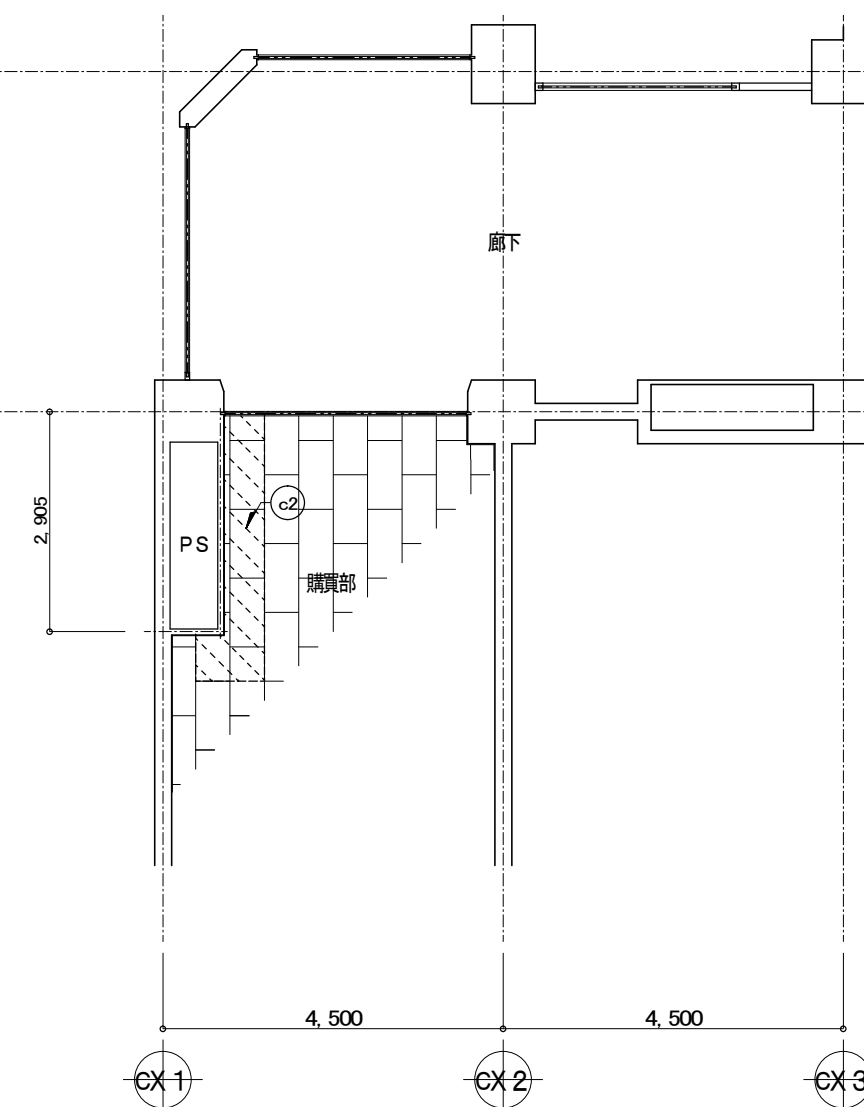
7階天井伏図 S=1/100



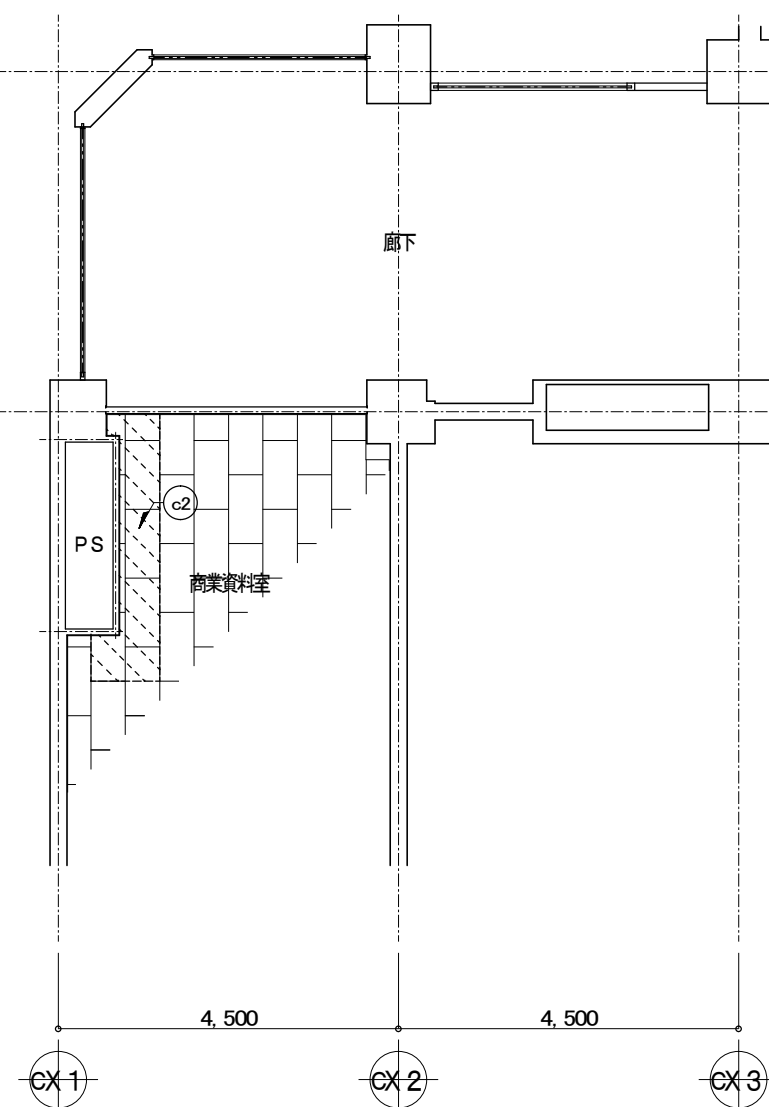
1階天井伏図 S=1/100



2階天井伏図 S=1/100



3階天井伏図 S=1/100



4階天井伏図 S=1/100

(C棟)

特記事項



斉藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



設計

設計年月日 R 5. 1. 31

変更年月日

工事名称

川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)

図面名称

現況 天井伏図

Scale S=1/100

No.

A-35

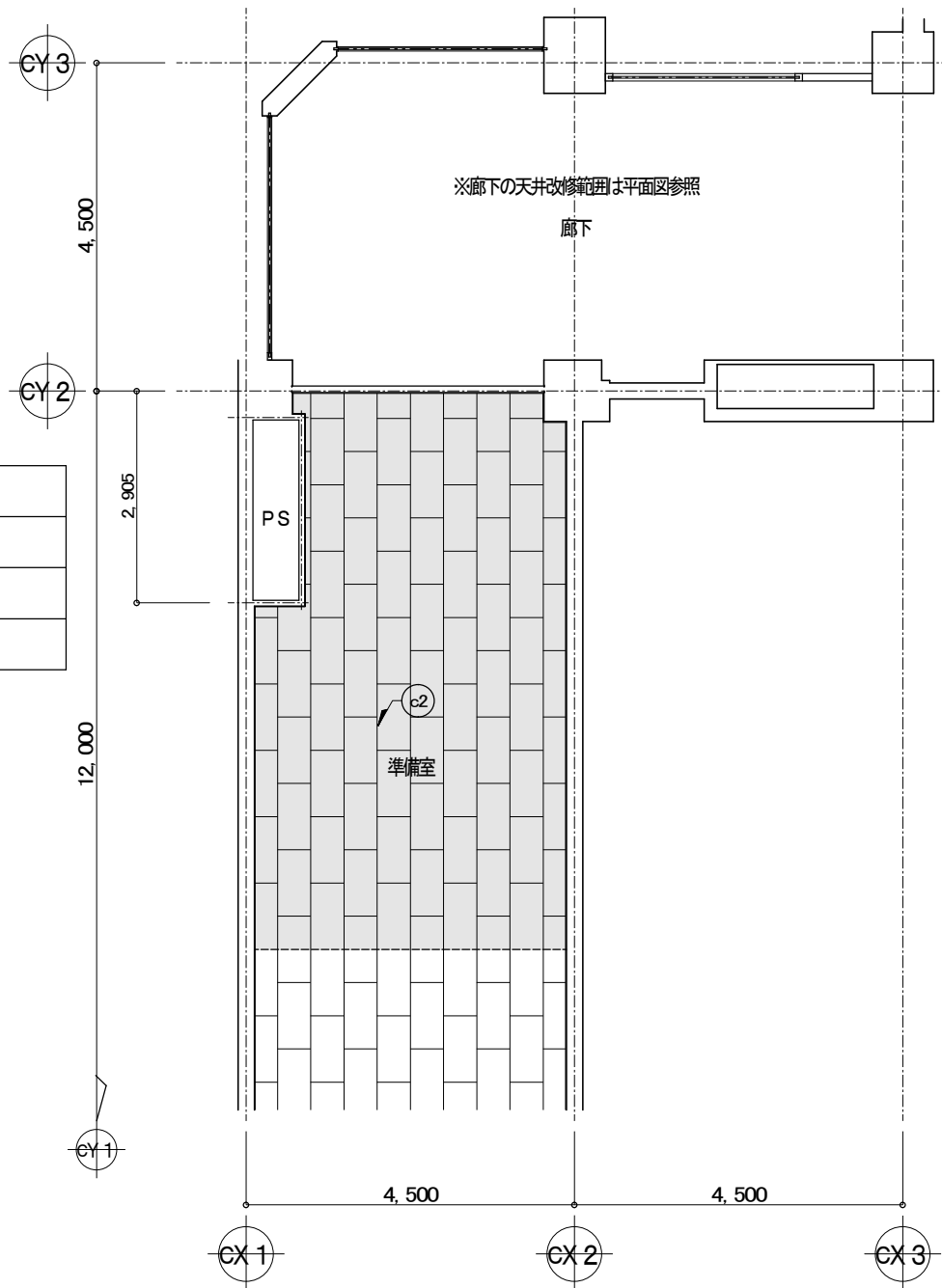
改修

凡例

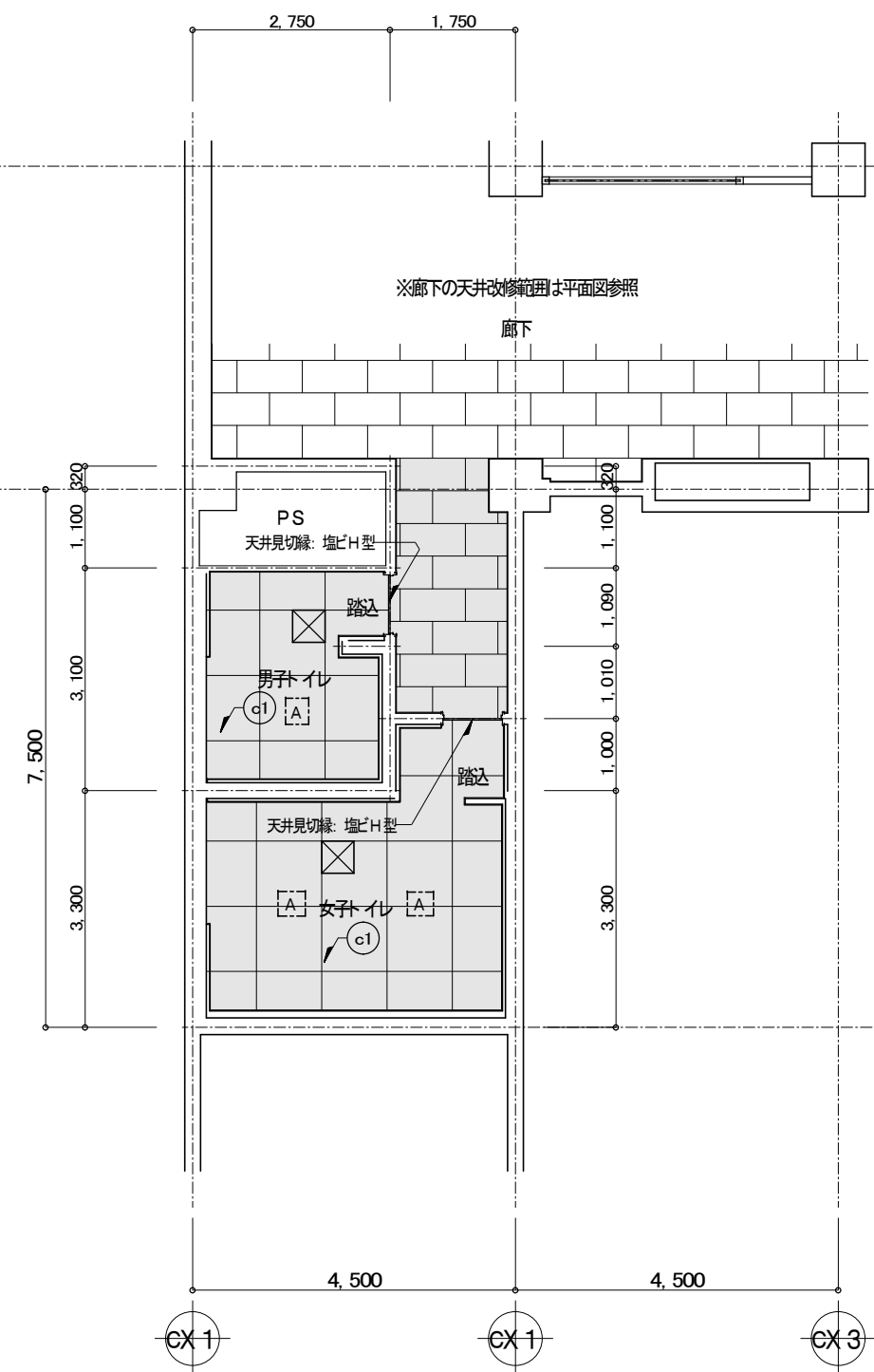
- 改修範囲を示す
- LGS野縁19型開口補強 ボード切込み共
- A: 250×250
- 天井点検口 450×450 開口補強 ボード切込み共
- ※開口及び点検口の位置は設備工事と協議の上、決定する事。
- ※その他は図示による。

□改修仕上表

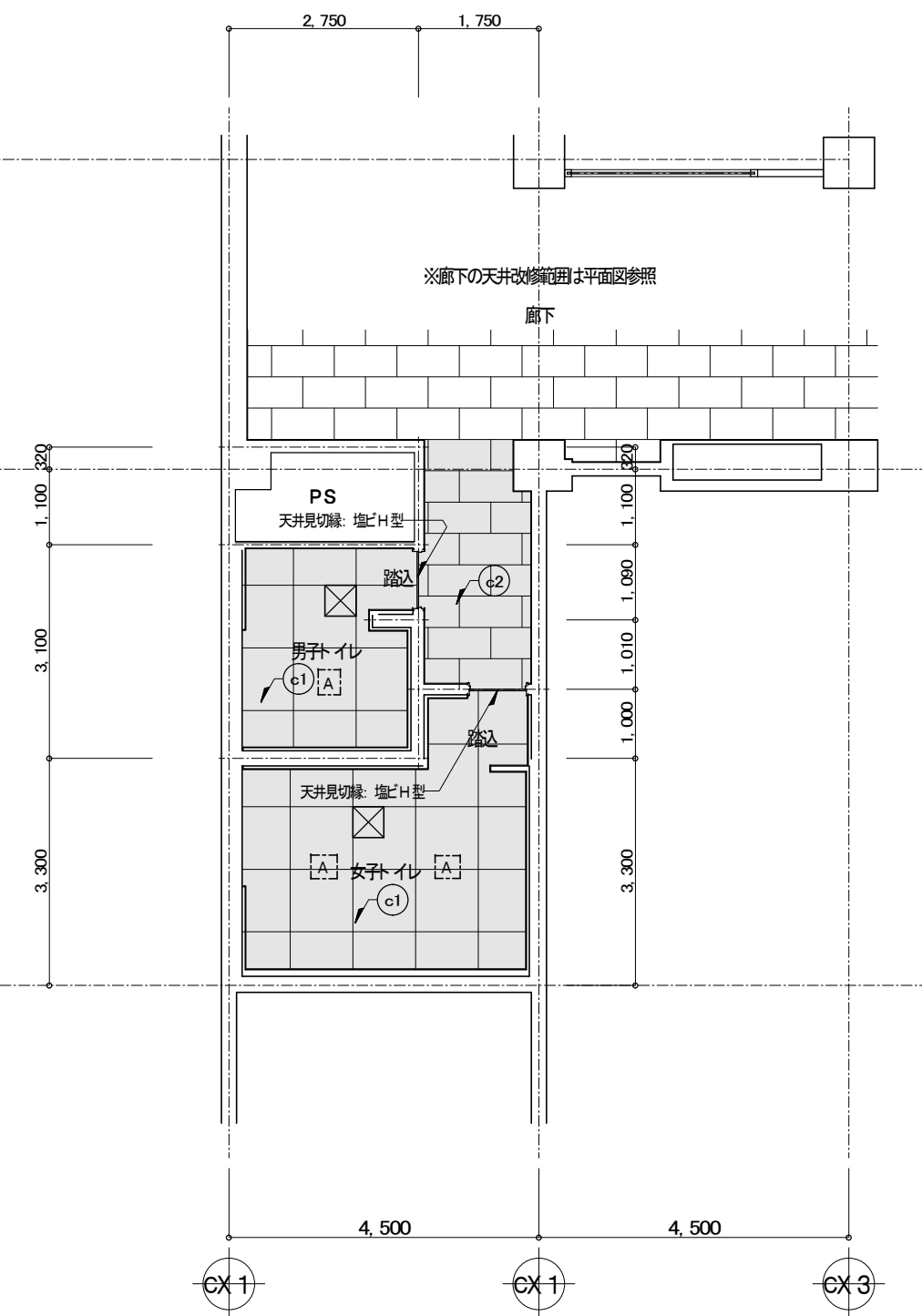
符号	部 位	改 修 下 地	改 修 仕 上	備 考
c1	天井	LGS野縁19型@303	化粧石膏吸音ボード t=9.5	廻り縁: 塩ビ製
c2	天井	LGS野縁19型@225	化粧石膏ボード t=9.5	廻り縁: 塩ビ製
c3	天井	LGS野縁19型@360、石膏ボード t=9.5	ロックウール吸音板 t=9	廻り縁: 塩ビ製



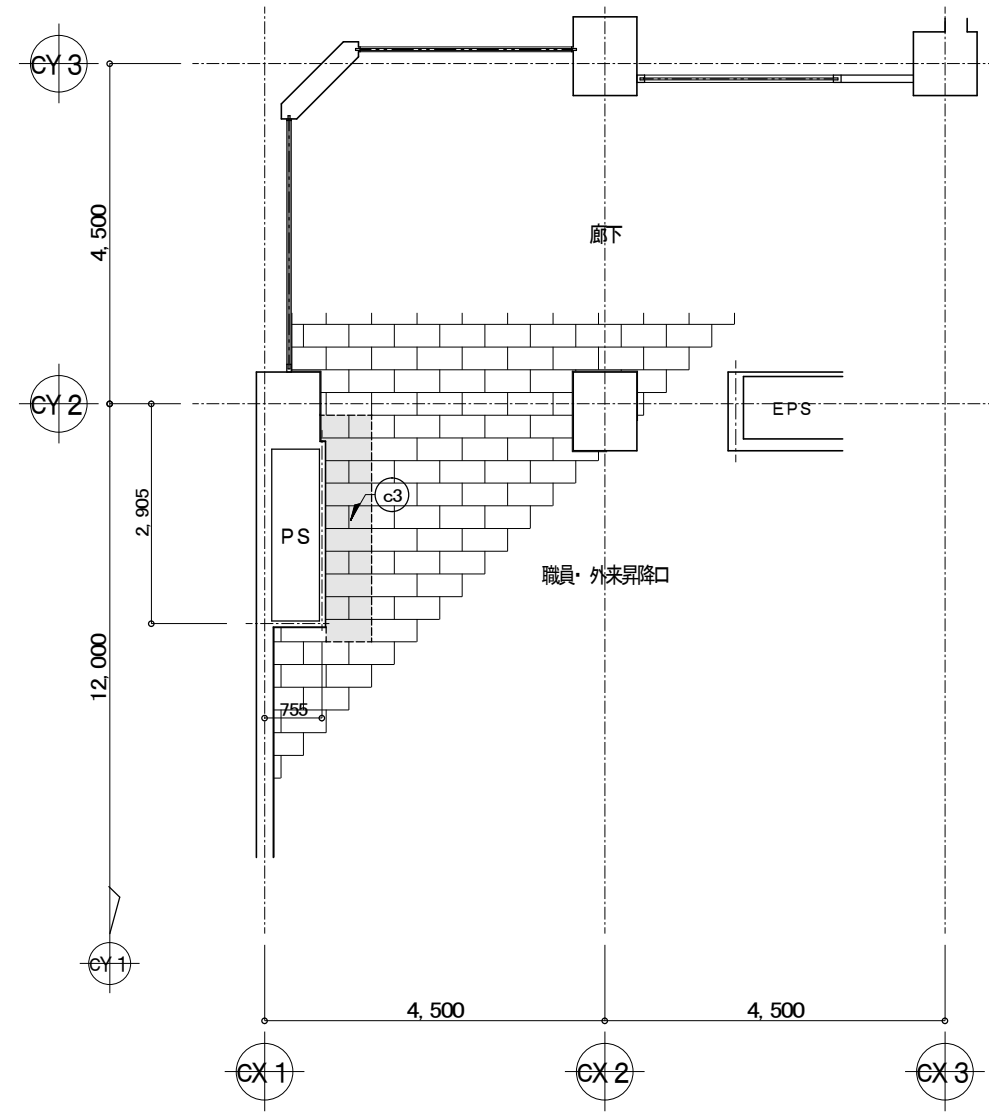
5階天井伏図 S=1/100



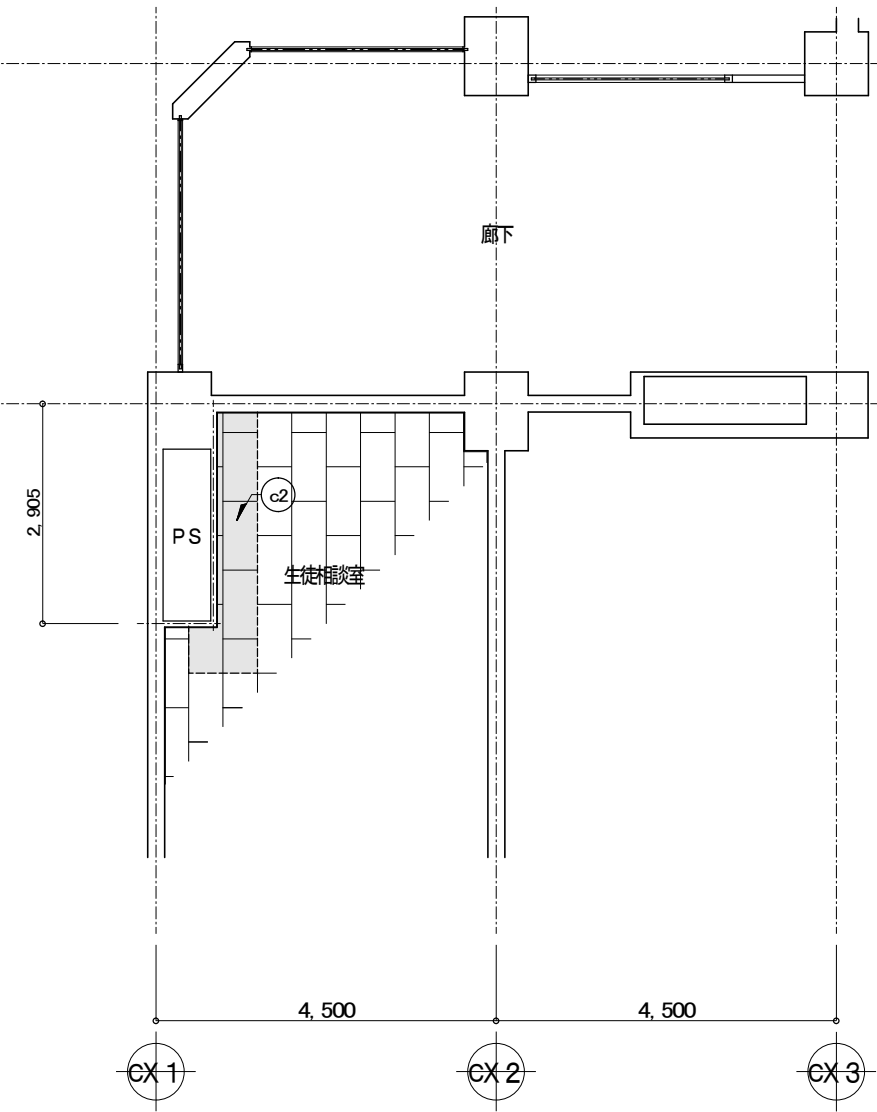
6階天井伏図 S=1/100



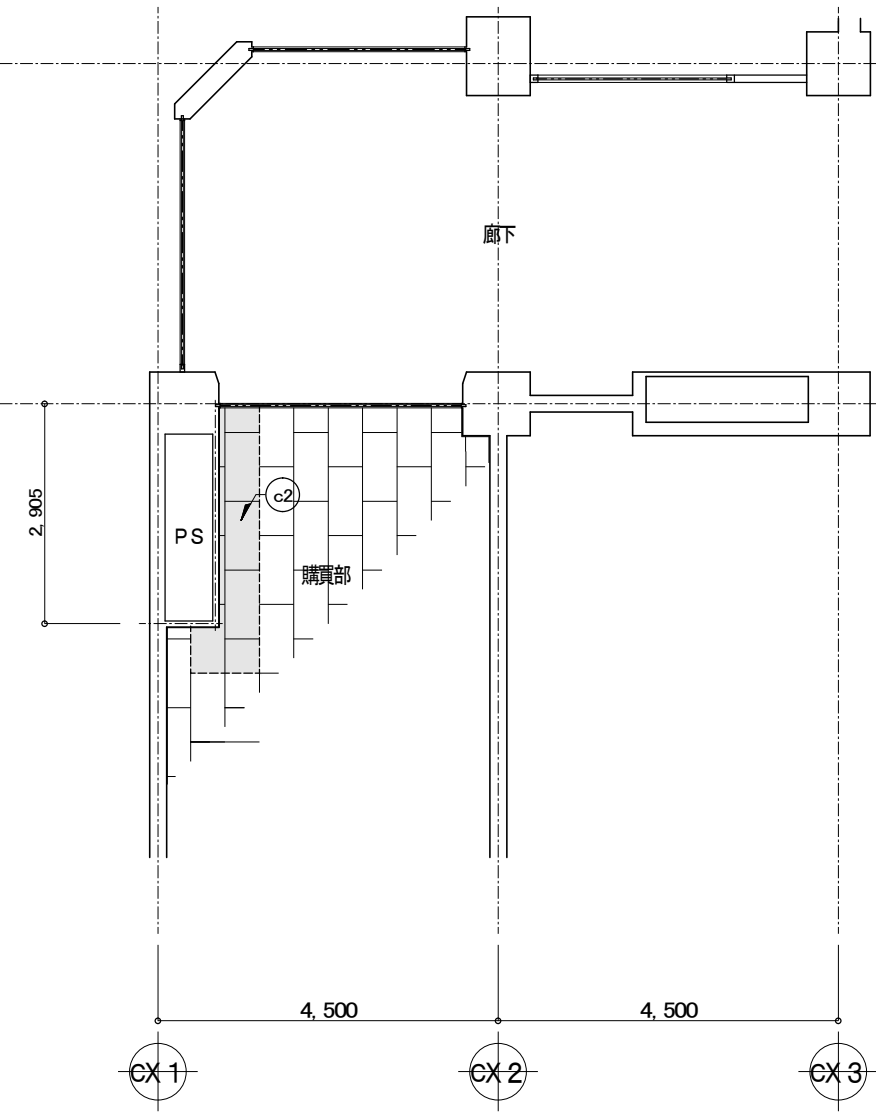
7階天井伏図 S=1/100



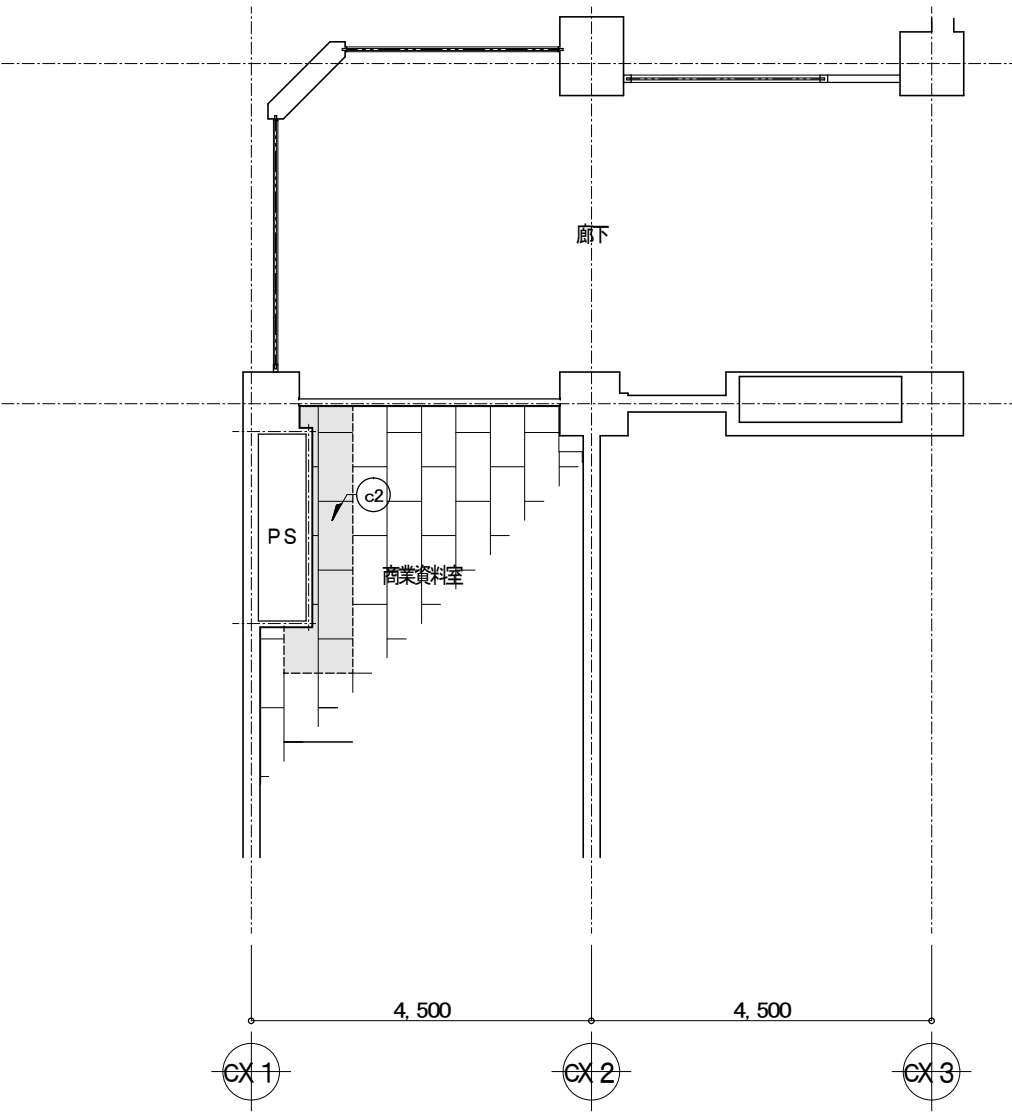
1階天井伏図 S=1/100



2階天井伏図 S=1/100



3階天井伏図 S=1/100



4階天井伏図 S=1/100

(C棟)

符号・数量	(LSD/C1) × 4 ヶ所	(SD/C1) × 9 ヶ所		
型式	軽量スチール製入り片開きフラッシュドア	スチール製片開き点検戸		
形状・寸法				
取付位置	6・7階男子トイレ	1階職員・外来昇降口、2階生徒相談室、3階職員部、4階商業科室、5階事務室、6階事務室		
仕様・見込	塩化樹脂 =0.6 見込: 40	溶融亜鉛メッキ鋼板 =1.6 SOP塗)		
金物	丁番、ドアクローザー、SUSハンドル、他付属金物一式	丁番、ワンタッチ平面ハンドル(鍵付き)		
ガラス	強化ガラス t=4			
備考	既設スチール枠内への取付			
符号・数量	(TB/C1) × 2 ヶ所	(TB/C2) × 2 ヶ所	(TB/C3) × 2 ヶ所	
型式	トイレブース	トイレブース	トイレブース	
形状・寸法				<p>トイレブース仕様(中心吊タイプ)</p> <p>見込: 40mm</p> <p>笠木・エッジ類: アルミ押出型材</p> <p>柱脚: ステンレス(SUS304)ヘヤーライン仕上</p> <p>パネル・ドア: 表面材) 高圧メラミン樹脂板・裏打材) パーティクルボード t=9 芯材) ベーバーコア</p> <p>金物(内開き): 表示付スライドラッチ、帽子掛け戸当り、非常時外開き機能付き</p> <p>金物(外開き): 表示付スライドボルト、外開き戸当り、帽子掛け</p> <p>金物(片開き): SUSドアハンドル、表示付引戸錠</p> <p>金物(S K): 取手</p> <p>※仕様は参考とし、類似の各メーカー仕様を優先する。</p> <p>※各設備等の取付等に伴う補強は本工事を含む。</p>
取付位置	6・7階女子トイレ	6・7階男子トイレ	6・7階女子トイレ	

(C棟)

<p>●改修一般事項(付加事項)続き</p> <p>(3) 特に騒音振動など周辺に大きな影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。</p> <p>(4) F F式温風暖房機の撤去・再取得、新規設置について F F式温風暖房機の一時的取外し、再取得、新規設置及び動作確認は、製造者又は製造者認定の代理店等に所属する「石油機器技術管理士」の登録を受けたもの(一財)日本石油燃焼機器保守協会)が行い、記録を整備すること。なお、動作確認は、一時的取外し、再取得後の双方で行うこと。新規設置の場合は設置後に行うこと。</p>	<p>18 空気熱源ヒートポンプ空調機</p> <p>標準仕様書によるほか下記による。 (1) 圧縮機原動機の制御方式 ※回転数制御 ・オンオフ制御 (2) 冷媒 HFC(R410A、R32又はR407C) (注1) R410Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。 (注2) R32を採用した場合、冷媒配管の断熱材被覆銅管は難燃性のものを使用すること。 (3) 埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p>	<p>⑫ 擬音装置</p> <p>○女子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・別途工事) ○男子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・別途工事) ○多目的トイレブースに設置する。(※本工事 ・別途工事) 衛生設備器具の適用等の必要などは別途衛生設備器具表による。</p> <p>⑬ その他</p>	<p>② 洗面器等の排水管 洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。</p> <p>③ 満水試験継手 3階以上にわたる排水立て管には、各階毎に次の継手を設ける。 ※掃除口付きソケット ・満水試験用掃除口ソケット</p> <p>4 樹の適用 別紙樹表による。</p>																																																																																														
<p>1 設計温湿度</p> <table border="1" data-bbox="252 262 756 367"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">外 気</th> <th colspan="6">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>36.9℃</td> <td>46.1%</td> <td>28℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.6℃</td> <td>50.7%</td> <td>20℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>※外気処理用エアコンの屋内設定値は、夏期温度50%とする。</p>		外 気		屋 内						温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	夏 期	36.9℃	46.1%	28℃	%	℃	%	℃	%	冬 期	0.6℃	50.7%	20℃	%	℃	%	℃	%	<p>1 長方形ダクト ※低圧ダクト(亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・スライドオンフランジ工法 ・アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・高圧1ダクト(亜鉛鉄板製) ・高圧2ダクト(亜鉛鉄板製) ・ステンレス製ダクト(・A区分 ※B区分) ・塩ビ製ダクト(・A区分 ※B区分)</p> <p>② 円形ダクト ※スパイラルダクト(※亜鉛鉄板製 ・ステンレス製) ・硬質塩化ビニル管(VU) ・耐火2層換気管又は耐火VP ※フレキシブルダクト(・保温付 ○保温無) (注1 使用区分は図示による。</p> <p>3 風量測定口 取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト</p> <p>④ チャンパー (1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記ののとおりとする。 ・300×300 ・300×500 ※400×600 ・550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付け付けるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>⑤ ダンパー (1) 防煙ダンパー 復帰方式(・遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式(・遠隔 ・)</p> <p>6 多湿箇所の排気ダクト (1) 排気ダクトのうち下記箇所は硬質塩化ビニル管(VU)(防火区画貫通箇所は換気用耐火2層管又は耐火VP)を使用できる。 ※浴室(シャワー室、脱衣室を含む) ・ (2) 水抜き管は(※厨房、浴室 ※結露水が滞留する部分 ・)の排気ダクトには設ける</p> <p>7 保 温 下記のダクトの保温を行う。 ※全熱交換器用の隠へい部ダクト 仕様はN・(口)・XIとする。 保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。 ※(※厨房 ・湯沸室 ・)用の隠蔽へい部ダクト(仕様はh・(イ)・IXとし範囲は図示による)</p> <p>⑧ 試運転調整 風量調整 ※する ・しない 風量測定 ※する ・しない 騒音の測定 ※する ・しない (機器毎に改修前1回・改修後1回)</p>	<p>① 配管材料</p> <table border="1" data-bbox="1662 262 2181 766"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">管 種 別</th> </tr> <tr> <th>管 種</th> <th>別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(水道直結部分)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(一般部分)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> </tr> <tr> <td>県営住宅 住戸内</td> <td>※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内(注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管(32A以上)</td> <td>※ポリブテン管(10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(一般部分)</td> <td>※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内(注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管(32A以上)</td> <td>※ポリブテン管(10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> </table> <p>(注1. SUSとは、JIS G 3448 またはJWWA G 115に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部(・圧縮 ・ガブ7)は ※拡管) 便所 ・廊下流し廻り露出配管(※拡管)とする。 2. ステンレス管に取付ける弁は、JV8-Iによる。 3. 飲料水以外の給水は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、誤接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。 4. 建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用樹を設ける。 5. 口径25A以上に大便器等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。 6. 高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂(PE100)を採用し、管と継手を電気融着にて接合するものをいう。</p>	施工箇所	管 種 別		管 種	別	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管	ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管	地中埋設部(水道直結部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)	地中埋設部(一般部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)	県営住宅 住戸内	※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)		便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)	便所天井内	※ポリブテン管		便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管		その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管	湿潤シンダー内配管	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP		地中埋設部(一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)		便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)	便所天井内	※ポリブテン管		便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管		その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	<p>1 配管材料 ・露出部 M鋼管 その他 保温付被覆銅管(M鋼管) ・一般配管用ステンレス鋼管 ・ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)</p> <p>2 絶縁フランジ 取付部は下記による。 ※鋼管と銅管及びこれに類する部分 ※鋼管とステンレス管及びこれに類する部分</p> <p>3 弁 類 (1) 規格はJIS又はJVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示による。 (2) ステンレス管に取付ける弁は、JV8-IIによる。</p> <p>4 ガス瞬間湯沸器 ※屋外設置の潜熱回収型 ・PS扉内設置の潜熱回収型</p> <p>5 電気給湯器 飲用の場合は、80℃以上で使用可能なものとし、「熱湯注意」の表示をする。</p>
		外 気		屋 内																																																																																													
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)																																																																																									
夏 期	36.9℃	46.1%	28℃	%	℃	%	℃	%																																																																																									
冬 期	0.6℃	50.7%	20℃	%	℃	%	℃	%																																																																																									
施工箇所	管 種 別																																																																																																
	管 種	別																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管																																																																																															
ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管																																																																																															
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管																																																																																															
地中埋設部(水道直結部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																															
地中埋設部(一般部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																															
県営住宅 住戸内	※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)																																																																																																
便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)																																																																																															
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																																
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																																
その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管																																																																																															
湿潤シンダー内配管	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP																																																																																																
地中埋設部(一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																																
便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)																																																																																															
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																																
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																																
その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
<p>2 総合試運転調整</p> <p>※本工事 ・別途</p> <p>風量調整 ※する ・しない 水量調整 ※する ・しない 騒音の測定 ※する ・しない 室内外空気中の温湿度の測定 ※する ・しない 室内気流及びじんあいの測定 する ※しない 初期運転状態の記録 ※する ・しない 工事対象範囲の既設機器運転状態の記録 ※する ・しない</p>	<p>② 換気設備</p> <p>3 風量測定口</p> <p>④ チャンパー</p> <p>⑤ ダンパー</p> <p>6 多湿箇所の排気ダクト</p> <p>7 保 温</p> <p>⑧ 試運転調整</p>	<p>●給水設備</p> <p>① 配管材料</p> <table border="1" data-bbox="1662 472 2181 766"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">管 種 別</th> </tr> <tr> <th>管 種</th> <th>別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(水道直結部分)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(一般部分)</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td>・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> </tr> <tr> <td>県営住宅 住戸内</td> <td>※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内(注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管(32A以上)</td> <td>※ポリブテン管(10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>○ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP-PP</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地中埋設部(一般部分)</td> <td>※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内(注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管(32A以上)</td> <td>※ポリブテン管(10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP-PP ・HIVP</td> <td>・ポリブテン管</td> </tr> </table> <p>(注1. SUSとは、JIS G 3448 またはJWWA G 115に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部(・圧縮 ・ガブ7)は ※拡管) 便所 ・廊下流し廻り露出配管(※拡管)とする。 2. ステンレス管に取付ける弁は、JV8-Iによる。 3. 飲料水以外の給水は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、誤接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。 4. 建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用樹を設ける。 5. 口径25A以上に大便器等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。 6. 高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂(PE100)を採用し、管と継手を電気融着にて接合するものをいう。</p>	施工箇所	管 種 別		管 種	別	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管	ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管	地中埋設部(水道直結部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)	地中埋設部(一般部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)	県営住宅 住戸内	※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)		便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)	便所天井内	※ポリブテン管		便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管		その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管	湿潤シンダー内配管	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP		地中埋設部(一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)		便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)	便所天井内	※ポリブテン管		便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管		その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管	<p>○給湯設備</p> <p>1 配管材料 屋内消火栓用 一般配管※SGP(白) ・STPG370(白) Sch40 消火用 地中埋設※SGP-VS ・HIVP 不活性ガス消火用 ※STPG370(白) Sch40 ・STPG370(白) Sch80</p> <p>2 建物導入部配管 図示部分について下記のとおりに施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4(・(a) ・(b) ・(c))</p>																																			
施工箇所	管 種 別																																																																																																
	管 種	別																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管																																																																																															
ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管																																																																																															
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP	○ポリブテン管																																																																																															
地中埋設部(水道直結部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																															
地中埋設部(一般部分)	※SUS ・SGP-PP	・HIVP ※水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																															
県営住宅 住戸内	※ポリブテン管(さや管ヘッダー工法)																																																																																																
便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)																																																																																															
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																																
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																																
その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	○ポリブテン管																																																																																															
湿潤シンダー内配管	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP-PP																																																																																																
地中埋設部(一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管(PE)																																																																																																
便所天井内、PS内(注5)	※高密度ポリエチレン管(32A以上)	※ポリブテン管(10mm保温付)																																																																																															
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																																
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																																
その他の部分	※SUS ・SGP-PP ・HIVP	・ポリブテン管																																																																																															
<p>3 煙 道 (1) 鉄板厚 (※3.2mm ・4.5mm) (2) はい煙濃度計 ※設ける ・設けない (3) はいじん量測定口 ※設ける(測定口は80φとする) ・設けない</p> <p>4 煙 突 ※別途 ・本工事</p> <p>5 長方形ダクト ※低圧ダクト(亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・スライドオンフランジ工法 ・アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・高圧1ダクト(亜鉛鉄板製) ・高圧2ダクト(亜鉛鉄板製) ・ステンレス製ダクト(・A区分 ※B区分) ・塩ビ製ダクト(・A区分 ※B区分)</p> <p>6 円形ダクト ※スパイラルダクト(※亜鉛鉄板製 ・ステンレス製) ・硬質塩化ビニル管(VU) ・換気用耐火2層管(大臣認定品) ※フレキシブルダクト(・保温付 ・保温無) (注1 使用区分は図示による。</p> <p>7 風量測定口 取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト、外気取入ダクト、空調機出口チャンパーの分岐ダクト</p> <p>8 チャンパー (1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) ダクト接続形の空気調和機等に取り付けるサブライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし点検口の大きさは下記ののとおりとする。 ・300×300 ・300×500 ※400×600 ・550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付け付けるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>9 吹出口及び吸込口ボックス ※亜鉛鉄板製 ・グラスウール製</p> <p>10 ダンパー (1) 防煙ダンパー 復帰方式(※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式(※遠隔 ・)</p> <p>11 配管材料 (1) 冷温水管 ※配管用炭素鋼管(白) ・ (2) 冷却水管 ※配管用炭素鋼管(白) ・ (3) プライン管 ※配管用炭素鋼管(黒) ・ (4) 冷媒管 ※断熱材被覆銅管 (保温厚mm ガス管 ※20以上 液管 ・20以上 ※10以上) ただし、液管の呼び径が9.52mm以下の断熱厚さは、8mmとしてもよい。 (5) ドレン管(屋外) ※配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管VP ドレン管(屋内) ※保温機能付空調用ドレン管(EMAC'レバI7相当品) ・耐火2層管VP(FDPS-1) ・配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管VP (消防協議事項： ただし、保温機能付空調用ドレン管は、水圧1mを超える配管には使用しない。 (6) 油管 ※配管用炭素鋼管(黒) ・ (7) 蒸気管 給気管 ※配管用炭素鋼管(黒) ・ 還 管 ※圧力配管用炭素鋼管(黒) Sch40 ・ステンレス鋼管 (8) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ※配管用炭素鋼管(白) ・</p>	<p>○排煙設備</p> <p>1 ダクト ※亜鉛鉄板 ・</p> <p>2 排煙口の形式 ※天井取付(・スリット形 ※スイング形) ・壁取付(・スリット形 ・スイング形)</p> <p>3 排煙口手動開放装置 開放及び復帰方式 ※ワイヤー式 ・電気式(遠隔操作 ・不要 ・要)</p> <p>4 排煙風量測定 建築設備定期検査業務基準書(一財)日本建築設備・昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。</p> <p>○自動制御</p> <p>1 中央監視制御装置 ・有り ※無し</p> <p>2 構成・機能 図示による</p> <p>3 電気計装用機材 使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線またはEMケーブルとする。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠へい電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。</p>	<p>2 一体形タンク 一体形タンクについての標準図は一般的な形状及び数値を示すものであって、図面及び特記仕様書に記載された耐震強度、容量、寸法を満たすものであればよい。</p> <p>④ 水 栓 ※給湯用水栓を除き大きさの呼び13の水栓は、節水コマとする。 ・水抜き栓を使用する場合は、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。ただし屋内は固定コマ式とする。</p> <p>4 量 水 器 ※親メーター(※賞品 ・) ・子メーター(※買取り ・)</p> <p>5 量水器併 ※水道事業者指定品 ・標準図MC形</p> <p>⑥ 弁 類 規格はJIS又はJVとし、水道直結部分は10Kとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び標準仕様書による。原則として65A以上の弁はパタフライ弁とする。 ・防寒コンクリート水栓柱(1200L) ※不凍給水栓</p> <p>7 水 栓 柱</p> <p>8 建物導入部配管 図示部分について下記のとおりに施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4(・(a) ・(b) ・(c))</p> <p>9 検針方法 水道事業者の集合住宅に関する戸別検針規程に適合するように関連工事業者と調整のうえ施工すること。</p> <p>10 水道利用加入金 水道利用加入金は、別途とする。ただし、水道事業者との調整は本工事を含む。</p> <p>11 本管取出し 水道本管からの給水取出し工事は、本工事範囲とする。また、取出し部における舗装の復旧も含む。</p>	<p>○ガス設備</p> <p>1 配管材料 ・都市ガス ガス事業者の供給規定による。埋設配管はPE管を原則とする。 ・液化石油ガス 一般配管 ※合成樹脂被覆銅管 ・SGP(白) 地中埋設 ※PE管 ・</p> <p>2 ガス漏れ警報遮断装置 漏洩検知装置は、流量検知式圧力監視型(※拡管)とする。</p> <p>3 液化石油ガスの供給権 ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。</p>																																																																																														
<p>12 弁 類 規格はJIS又はJVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び共通仕様書による。また、鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。</p> <p>13 温 度 計 取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管(出入口共)、冷却水管(出入口共) ※空気調和機の冷温水管(出入口共) ※ダクト接続形空気調和機のサブライチャンパー、レタンダクト、 外気取入ダクト及びレタンチャンパー ※冷温水ヘッダー(往)及び各選り管 ※熱交換器の温水管(出入口) ・</p> <p>14 圧 力 計 取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管(出入口共)、冷却水管(出入口共) ※空気調和機の冷温水管(出入口共) ※冷温水ヘッダー(往)及び各選り管 ※熱交換器の温水管(出入口) ・</p> <p>15 瞬間流量計 瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、型式及び取付部は下記による。なお、着脱部の指示部は(※1個 ・個)付属とする。 ・熱源機器の冷温水管、冷却水管の出入口どちらかに(※固定形 ・着脱形)を設ける。 ・空気調和機の冷温水管の出入口どちらかに(※固定形 ・着脱形)を設ける。</p> <p>16 油面制御装置 ※往又は還どちらかの冷温水ヘッダーの各接続管へ(※固定形 ・着脱形)を設ける。 制御盤には(※給油ポンプ制御 ※満減油警報 ・遠隔警報 ・電磁弁制御 ・返油ポンプ制御)の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御装置の配管・配線は製造者標準仕様とする。</p> <p>17 冷却塔 ※直交流式 ・向流型 ※レジオネラ菌殺菌剤等の自動薬剤注入装置 ※自動フロア装置 ・ 補給水は、水道水とし、補給水接続管部分に清掃用の水栓を分岐して設ける。</p>	<p>○衛生設備</p> <p>③ 衛生器具付属水栓 (1) 器具付属止水栓は ※ドライバー式 ・ハンドル式 (2) 水抜き栓を使用する場合は、水栓は固定コマ式とする。</p> <p>④ 自動水栓類の電源 ※AC100V ・乾電池等 ・自己発電</p> <p>⑤ 暖房便座 (1) JIS A 4422(温水洗浄便座)とする。 (2) 機能種別 ※温水洗浄 ※脱臭 ・温風乾燥 ・トイレ室内暖房 (3) 温水洗浄加熱方式 ※瞬間式 ・貯湯式 (4) 使用流体は、飲料用水道水とする。 (5) リモコン ・AC100V ・乾電池等 ※自己発電</p> <p>⑥ 大便器洗浄弁・洗浄用タンク 器具表又は下記の場合を除き、※節水I型 ・節水II型とする。 ・洗浄弁操作方式は、※手動式 ・電気開閉式(・センサー式 ※タッチスイッチ式) ・上層階で使用する大便器洗浄弁は、現地給水管の流動圧を確認し、必要に応じ低圧形とする。</p> <p>7 大便器耐火カバー ※設ける(ピット内は除く) ・設けない</p> <p>⑧ 掃除流し ※共栓なしとする。 ・共栓付とする。</p> <p>⑨ 排水器具用ゴム継手 ※使用できる ・使用できない</p> <p>10 標 記 板 大便器、小便器の洗浄用水に雨水等の利用をしている場合は、その旨をわかりやすく各トイレ毎に表示する。</p> <p>11 水せつけん入れ せつけん供給栓等がない場合は、監督員と協議のうえ洗面器、手洗いに設ける。</p>	<p>2 一体形タンク</p> <p>④ 水 栓</p> <p>4 量 水 器</p> <p>5 量水器併</p> <p>⑥ 弁 類</p> <p>7 水 栓 柱</p> <p>8 建物導入部配管</p> <p>9 検針方法</p> <p>10 水道利用加入金</p> <p>11 本管取出し</p> <p>① 配管材料</p> <table border="1" data-bbox="1662 892 2181 1396"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">管 種 別</th> </tr> <tr> <th>管 種</th> <th>別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>・RF-VVP又はリサイクルVVP</td> <td>※VP</td> </tr> <tr> <td>厨房等の温排水</td> <td>※SGP(白) ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>・RF-VVP又はリサイクルVVP</td> <td>※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>・RF-VVP又はリサイクルVVP</td> <td>※VP</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される場所</td> <td>※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・排水用/ホース付 砂濾装銅管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>・RF-VVP又はリサイクルVVP</td> <td>※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部</td> <td>・RS-VU又はリサイクルVU</td> <td>※VU ・卵形管(ゴム輪接合) ・REP-VU(軽荷重の場合) ・RF-VVP又はリサイクルVVP</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>・リサイクルVVP又はRF-VVP</td> <td>※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> </table> <p>(注) 1. リサイクルVVP、リサイクルVUはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管、RF-VVP、RS-VU又は、REP-VUは標準仕様書第2編2. 1. 2. 6による。 2. 雨水排水を含む場合は、雨水排水管は雑排水配管の材料種別による。 3. 原則として雑排水配管、汚水配管の管接合部はY45度で行う。</p>	施工箇所	管 種 別		管 種	別	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP	厨房等の温排水	※SGP(白) ・		耐火性能を要求される箇所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)		その他の部分	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP	耐火性能を要求される場所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・排水用/ホース付 砂濾装銅管		その他の部分	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	地中埋設部	・RS-VU又はリサイクルVU	※VU ・卵形管(ゴム輪接合) ・REP-VU(軽荷重の場合) ・RF-VVP又はリサイクルVVP	耐火性能を要求される箇所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)		その他の部分	・リサイクルVVP又はRF-VVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	<p>○厨房設備</p> <p>1 厨房機器の固定 原則として、移動を前提とする厨房機器を除き地震時に転倒及び位置ずれを起こさないよう、床又は壁面に堅固に取り付ける。</p> <p>2 シンク用水栓 ※レバー式泡沫水栓 ・自動水栓</p> <p>3 安全装置の機能の適用 標準仕様書第5編1・6・1の表5.1.7安全装置の表中の△の項目はすべて適用とする。</p> <p>舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書</p> <p>第1条 この特記仕様書は、埼玉県機械設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水(以下「濁水」という。)の処理に関し必要な事項を定めるものである。</p> <p>第2条 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 ・種類及び処理量 汚泥(油分を含む汚泥) ・ m3 ・中間処理施設 市 地内(株) ・処理方法 ・中間処理後、最終処分場に搬入(処理に焼却又は溶融含まず) ・中間処理後、最終処分場又は再資源化(処理に焼却又は溶融を含む)</p> <p>2 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>第3条 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥(油分を含む汚泥)として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。</p> <p>2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票(以下「マニフェスト」という。)により管理するものとする。</p> <p>第4条 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。</p> <p>2 受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。</p> <p>第5条 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。</p> <p>2 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>3 この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p>																																																											
施工箇所	管 種 別																																																																																																
	管 種	別																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP																																																																																															
厨房等の温排水	※SGP(白) ・																																																																																																
耐火性能を要求される箇所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)																																																																																																
その他の部分	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																															
床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む。)	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP																																																																																															
耐火性能を要求される場所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・排水用/ホース付 砂濾装銅管																																																																																																
その他の部分	・RF-VVP又はリサイクルVVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																															
地中埋設部	・RS-VU又はリサイクルVU	※VU ・卵形管(ゴム輪接合) ・REP-VU(軽荷重の場合) ・RF-VVP又はリサイクルVVP																																																																																															
耐火性能を要求される箇所	※耐火2層管VP(FDPS-I)又は耐火VP ・SGP(白)																																																																																																
その他の部分	・リサイクルVVP又はRF-VVP	※VP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																															

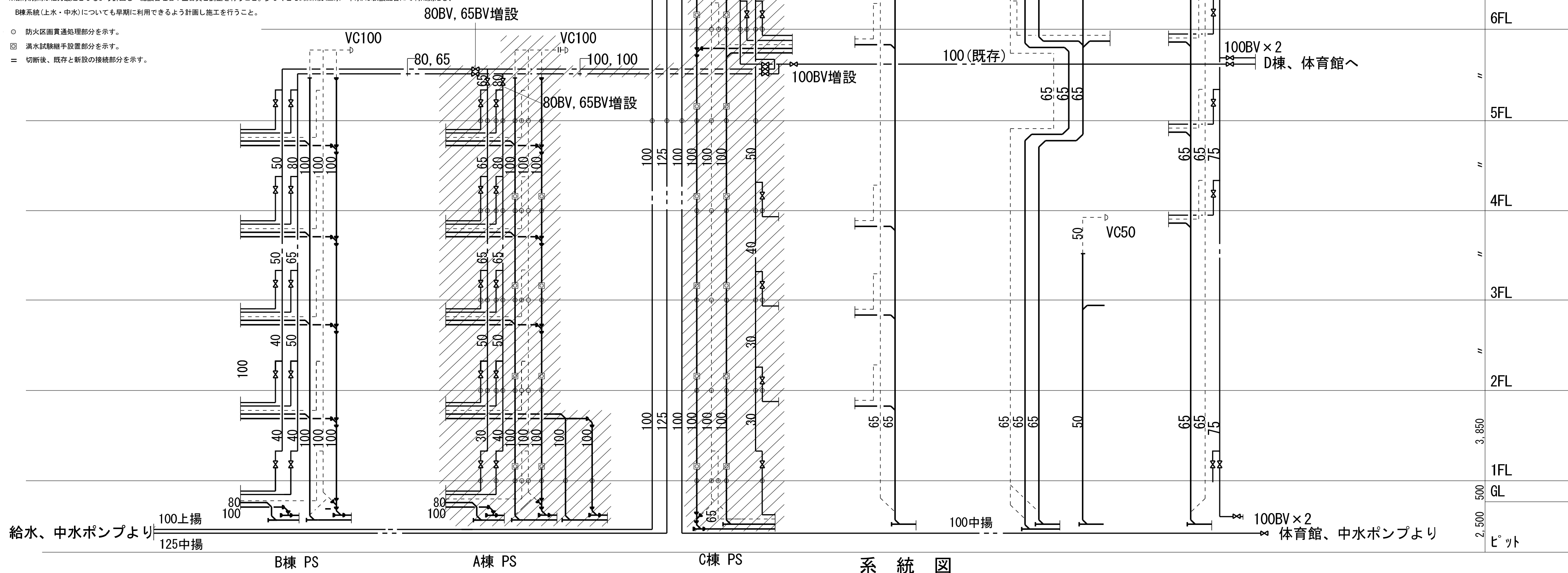
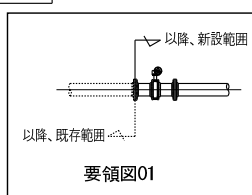
<p>齊藤出建築設計室 一級建築士 第326081号 齋藤出</p>	<p>検印 設計 R 6. 4. 変更年月日</p>	<p>No. M-02</p>
--	--------------------------------	-----------------

記号	名称	現況
—	給水管(上水)	ステンレス管(SUS)
---	給水管(中水)	ライニング鋼管(SGP-V A)
—	排水管	コーティング鋼管, 鉛管(LP)
---	通気管	白ガス管

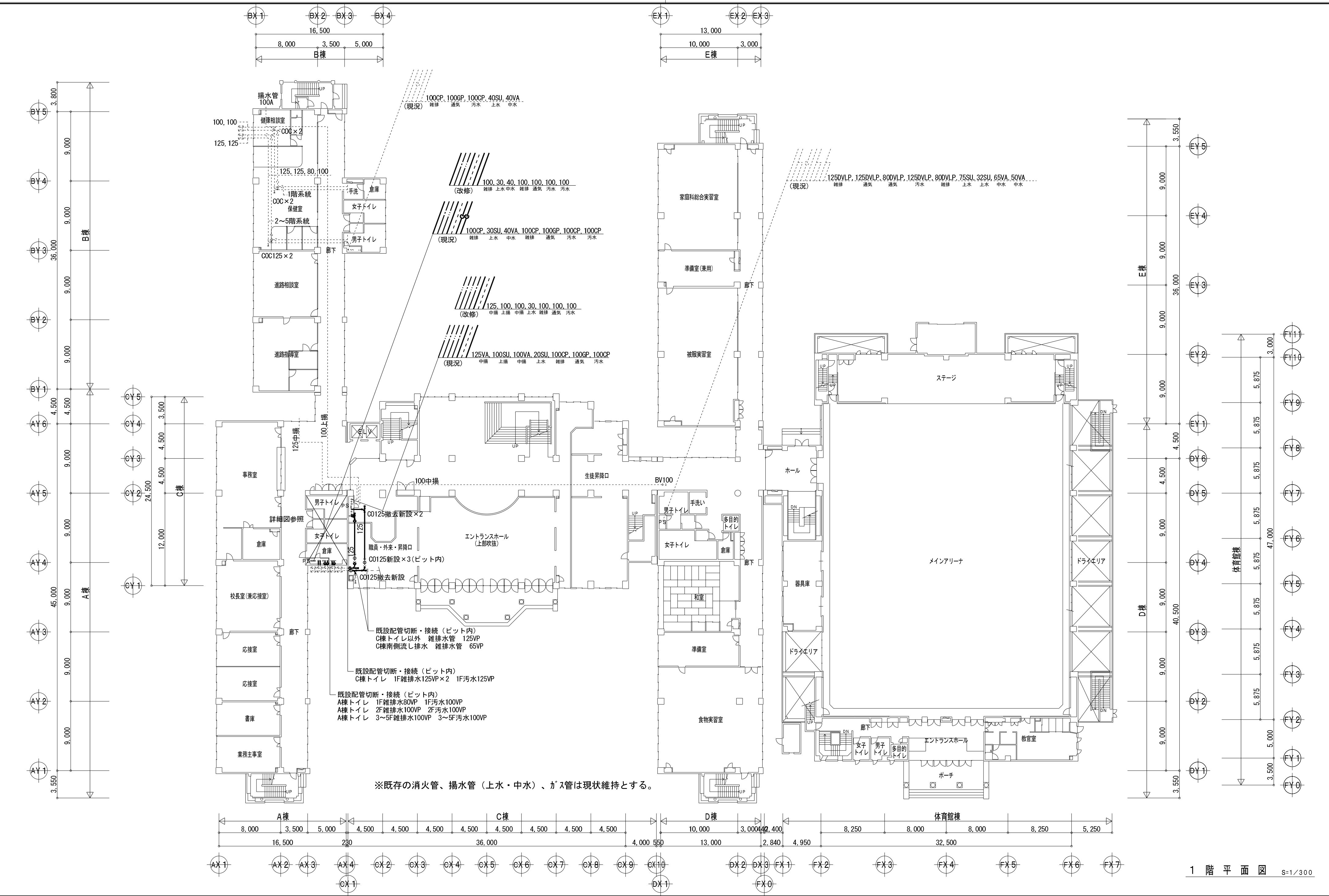
改修範囲を示す

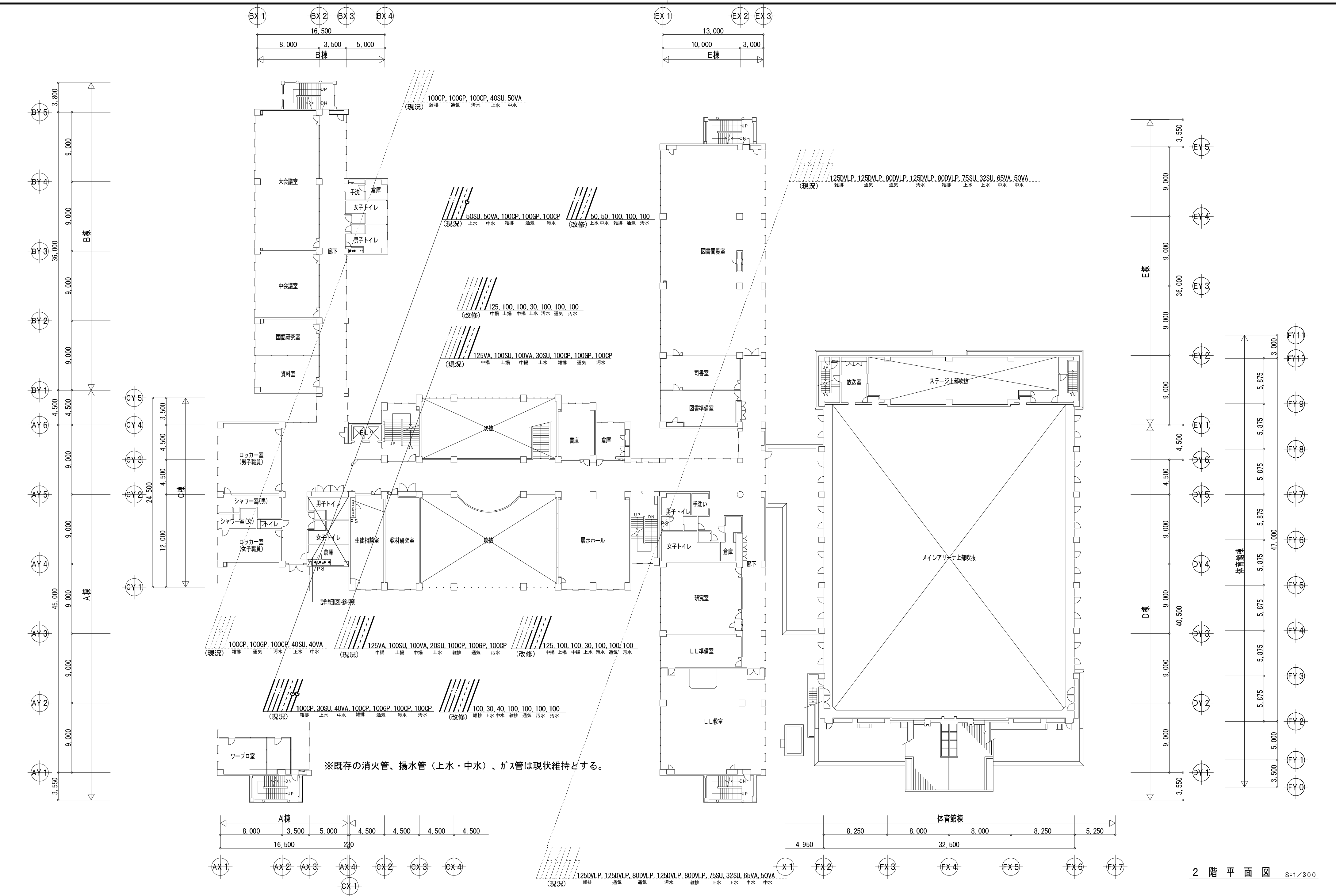
記号	名称	施工箇所	管種
—	給水管 (上水)	地中埋設	水道配水用ポリエチレン管
		屋外架空、トイレ以外の天井内、ピット内配管	ステンレス管(保温有)
		PS内すべて、トイレ天井内、ピット内、空隙壁内で25A以上の配管	水道用高密度ポリエチレン管(保温なし)
		トイレ天井内、ピット内、空隙壁内で25A以下の配管及び器具接続配管	ポリブデン管(保温10mm付)
---	給水管 (中水)	地中埋設	水道配水用ポリエチレン管
		屋外架空、トイレ以外の天井内、ピット内配管	塩ビライニング鋼管 SGP-VB (保温有)
		PS内すべて、トイレ天井内、ピット内、空隙壁内で25A以上の配管	水道用高密度ポリエチレン管(保温なし)
		トイレ天井内、ピット内、空隙壁内で25A以下の配管及び器具接続配管	ポリブデン管(保温10mm付)
—	排水管 (汚水・雑排水)	すべてのピット内、地中埋設	V P (保温なし)
		すべてのPS内・天井内及び区画貫通部	耐火V P (保温なし)
---	通気管	すべてのピット内	V P (保温なし)
		すべてのPS内・天井内及び区画貫通部	耐火V P (保温なし)
---	給水管(仮設) (上水・中水)	すべてのPS内・天井内及び区画貫通部	水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 HI-V P (保温なし)

- ※系統図に記載なきバルブや継手のサイズは平面図による。
 ※既存の消火管、揚水管(上水・中水)、ガス管は現状維持とする。
 ※給水管(上水・中水)の既存と新設の取合い部分その他については、水道用高密度ポリエチレン管(保温有)を使用する場合は協議による。
 ※既存管に新設管を接続する又は将来用バルブを取り付ける際は、原則として既存の接手部から改修するものとする。
 ※将来用バルブ(※バタフライ弁)を新設する際は前後に短管を取り付け、今後の改修時に閉止操作が可能となるよう取り付けること。(要領図01)を参考
 ※断水期間は極力最短となるよう計画し・施設管理者や監督員と調整を行うこと。少なくともD棟系統(上水・中水)は仮設配管にて利用開始し、
 B棟系統(上水・中水)についても早期に利用できるよう計画し施工を行うこと。
- 防火区画貫通処理部分を示す。
 - ⊗ 満水試験継手設置部分を示す。
 - ≡ 切断後、既存と新設の接続部分を示す。



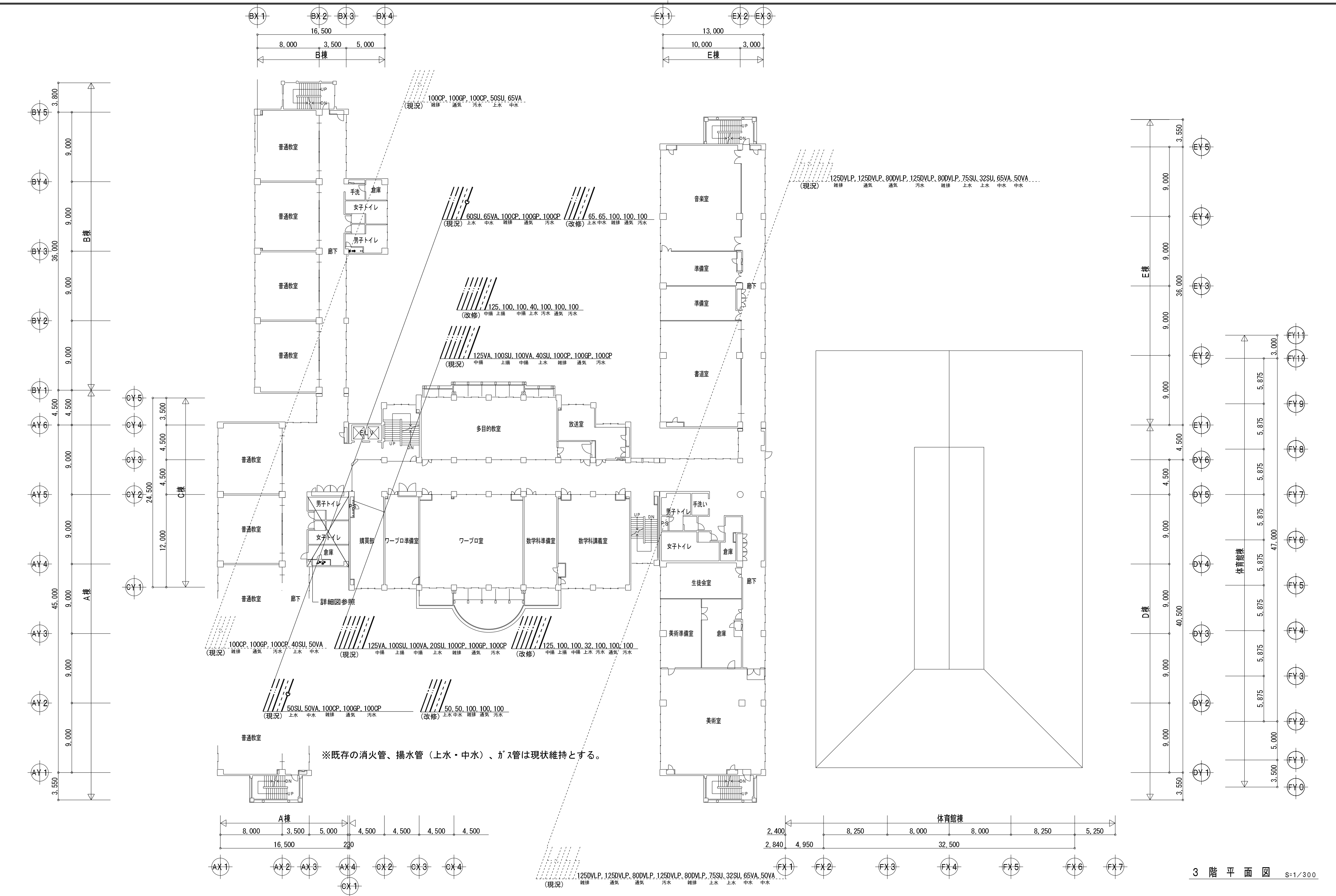
系統図





2階平面図 S=1/300

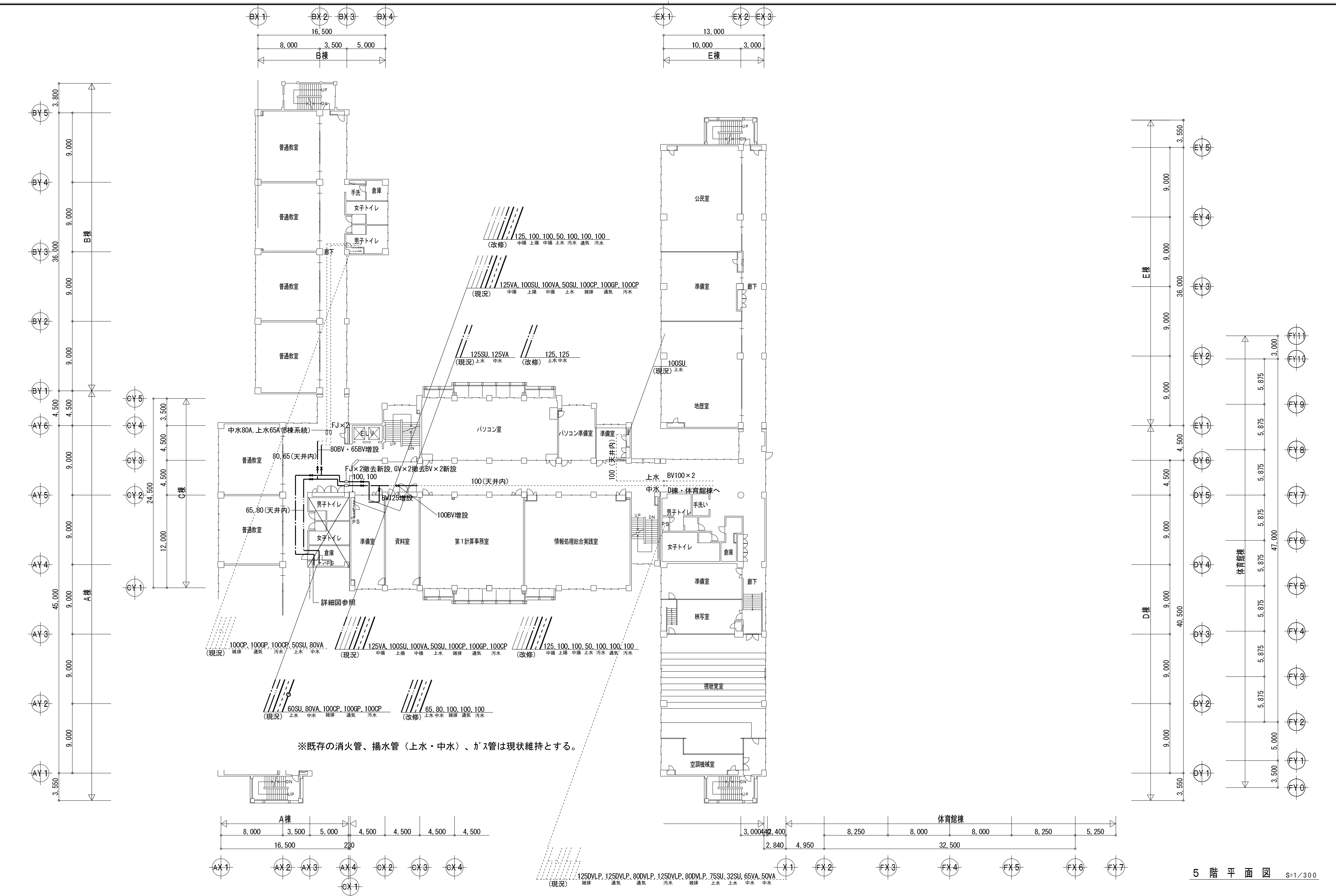
特記事項	齋藤出建築設計室 一級建築士 第326081号 齋藤出	検印 	設計 	設計年月日 R 6. 4. 変更年月日	工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)	No. M-09
		図面名称 現況・改修 2階平面図	Scale S=1/300			



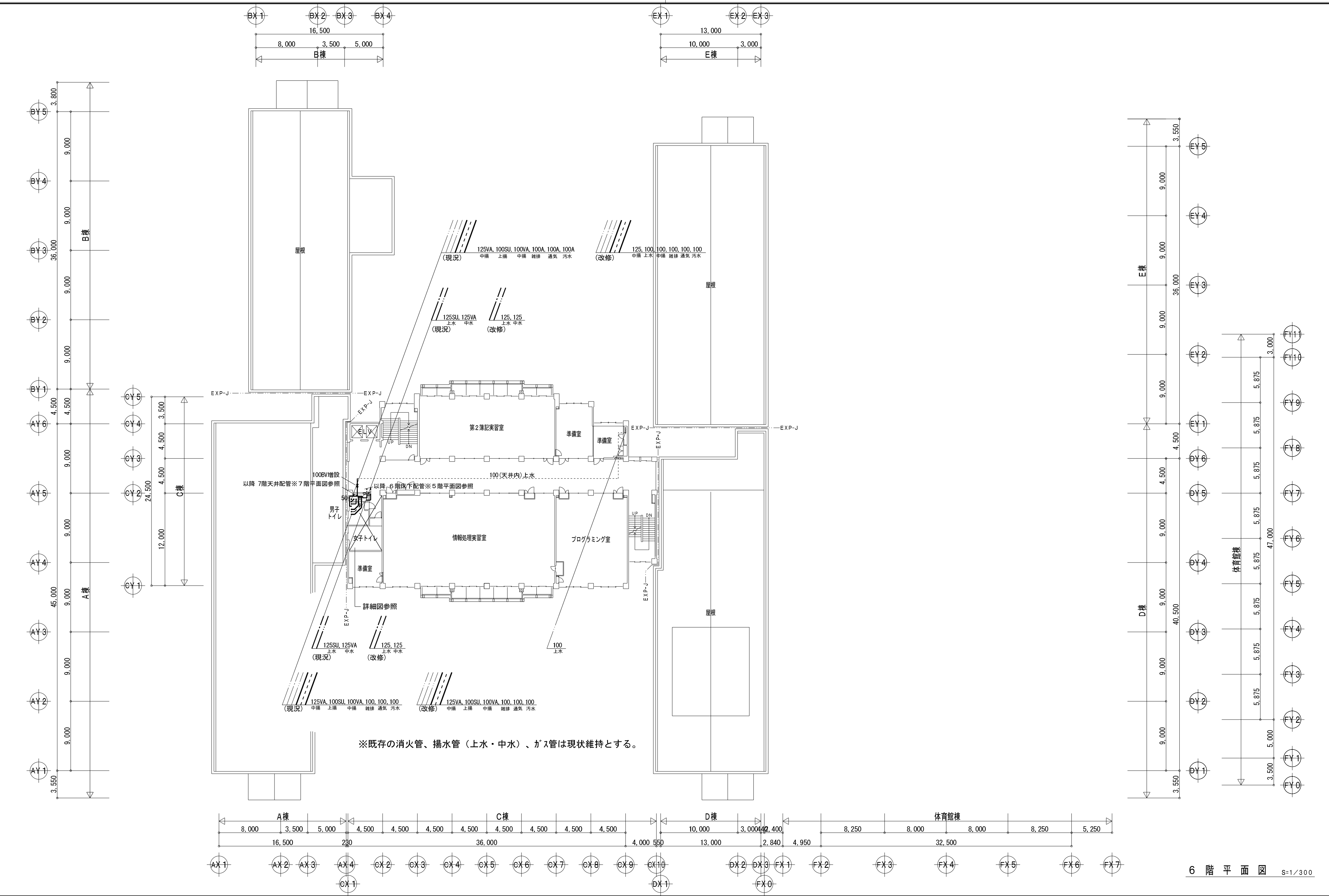
※既存の消火管、揚水管（上水・中水）、ガス管は現状維持とする。

3階平面図 S=1/300

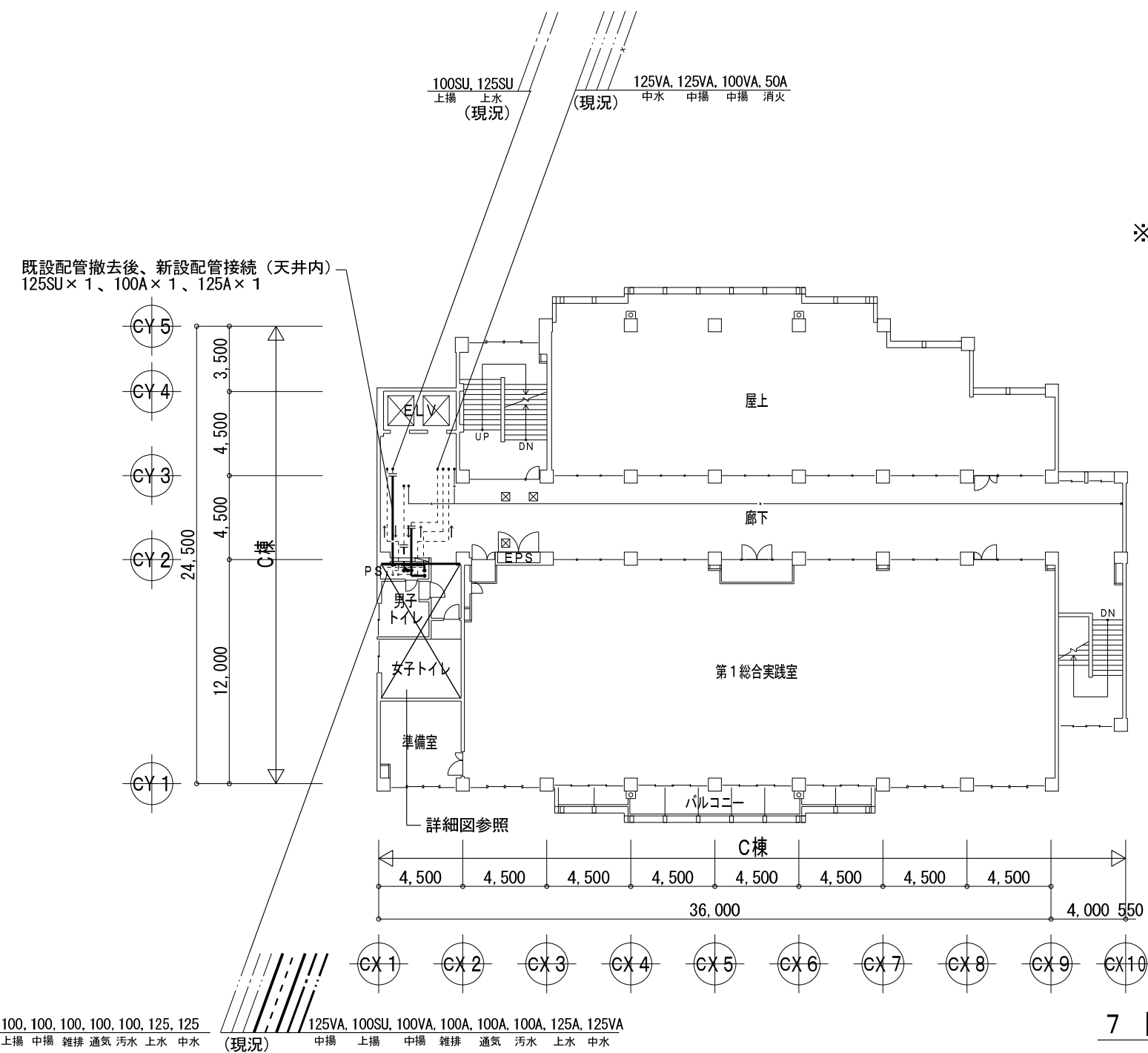
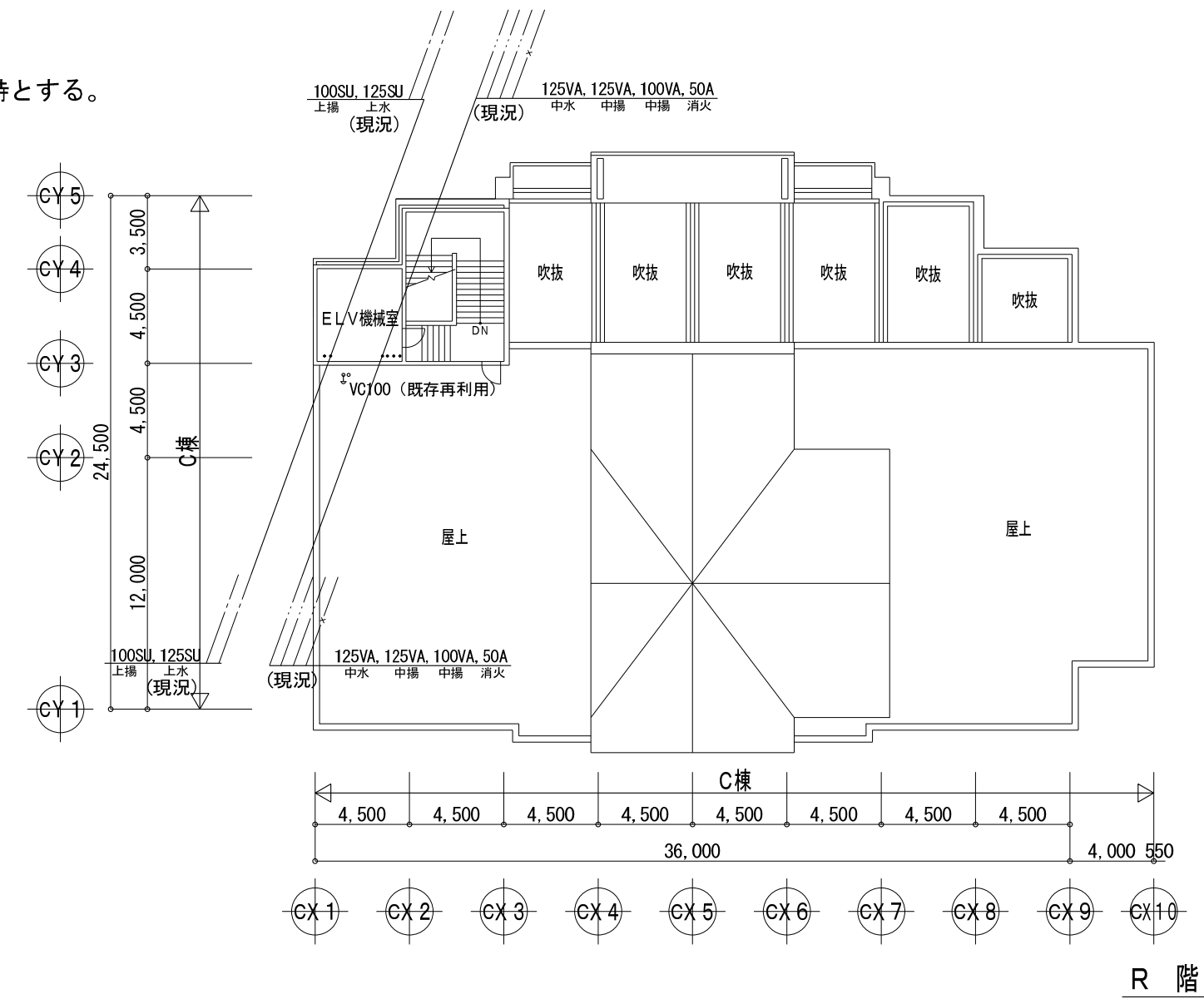
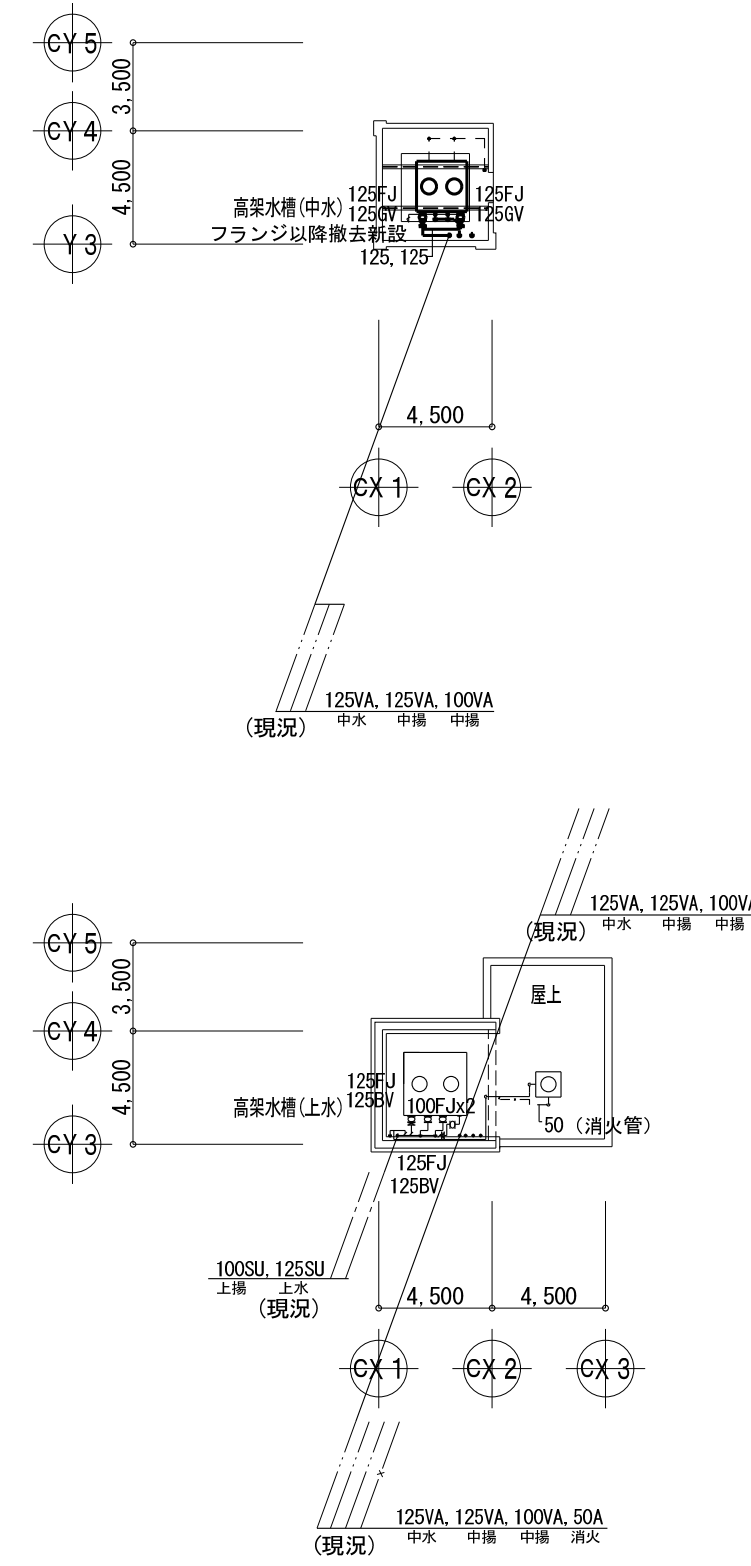
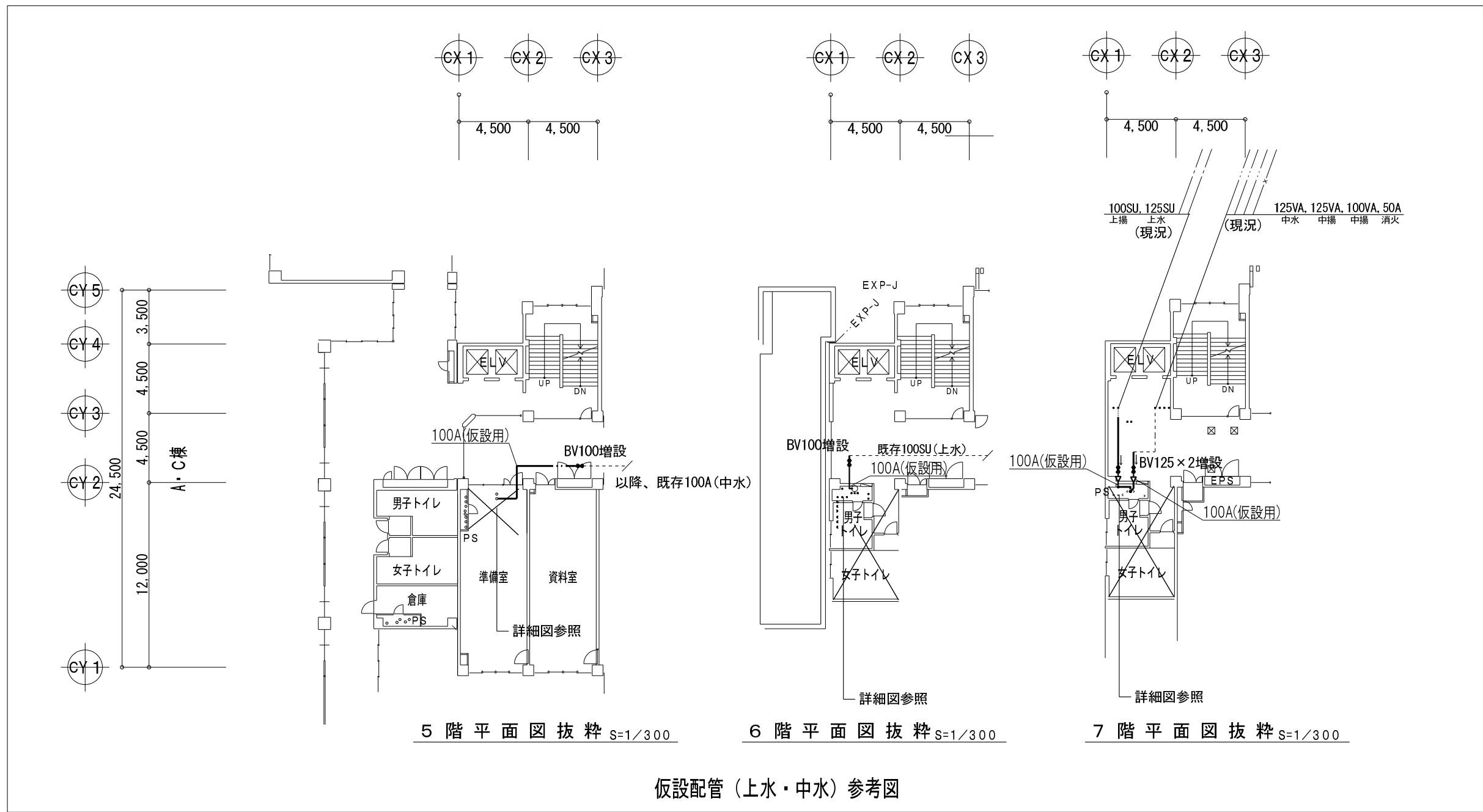
特記事項	斉藤出建築設計室 一級建築士 第326081号 齋藤出	検印 	設計 	設計年月日 R 6. 4. 変更年月日	工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)	No. M-10
		図面名称 現況・改修 3階平面図			Scale S=1/300	



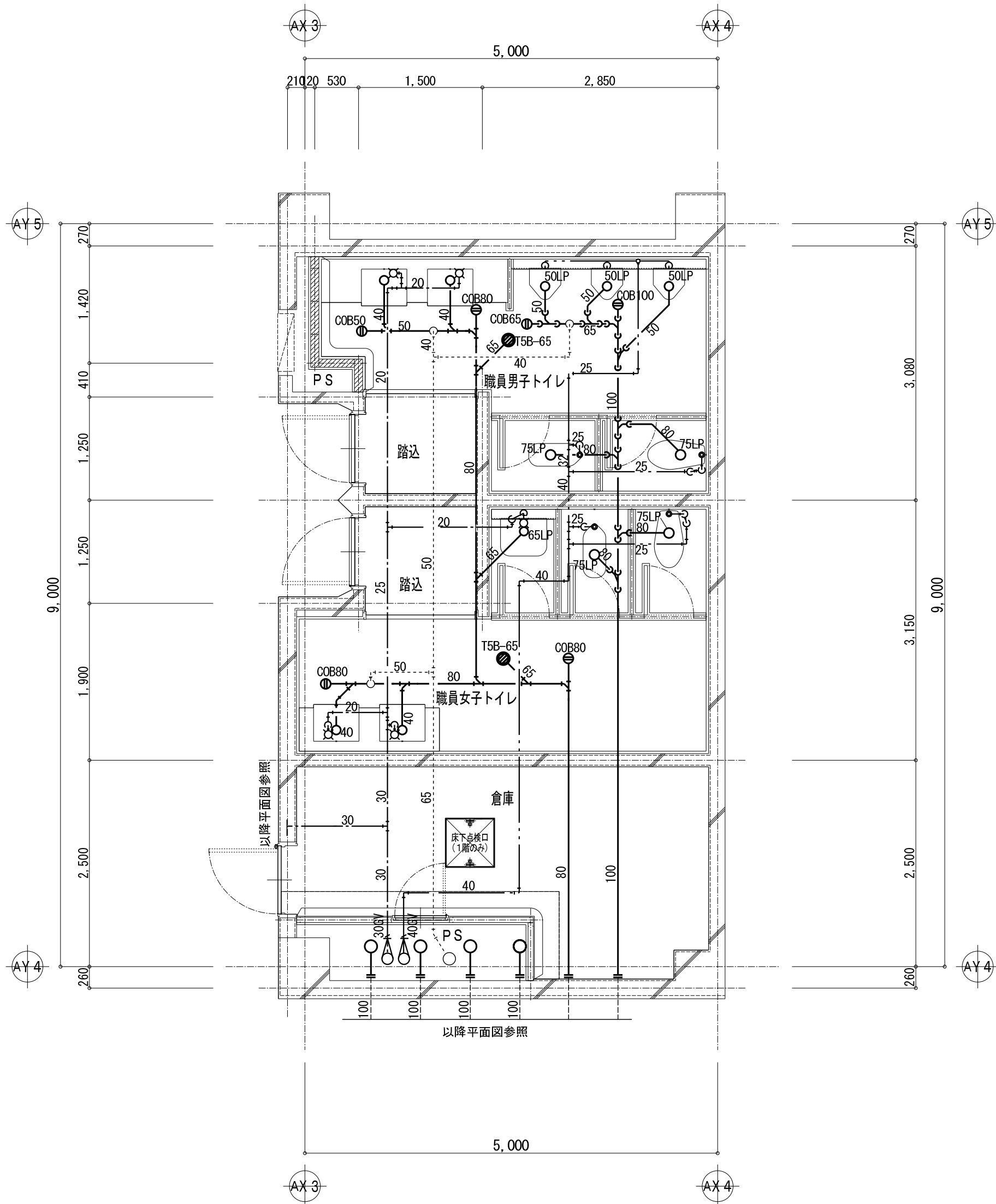
5階平面図 S=1/300



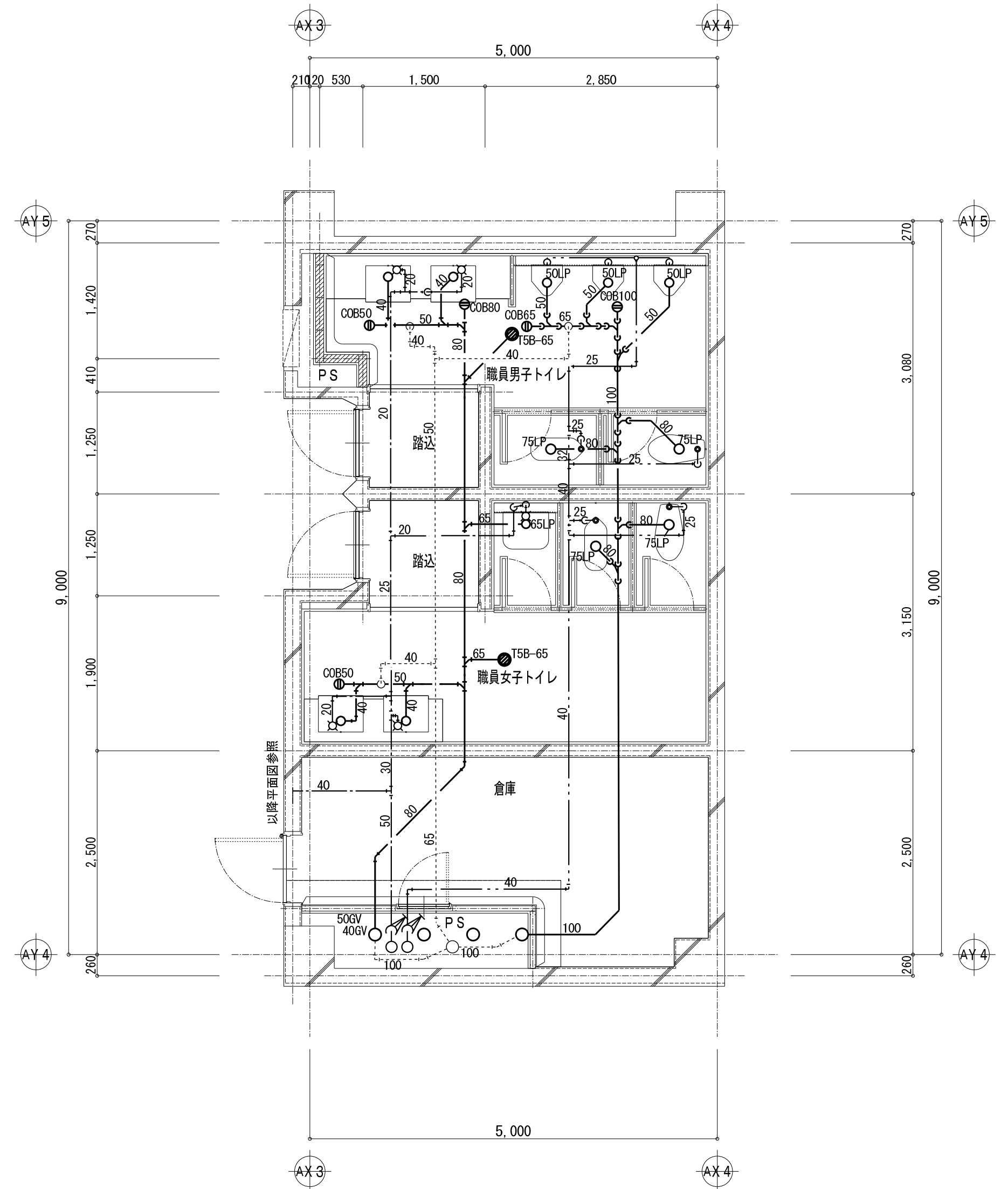
6階平面図 S=1/300



※既存の消火管、揚水管(上水・中水)、ガス管は現状維持とする。






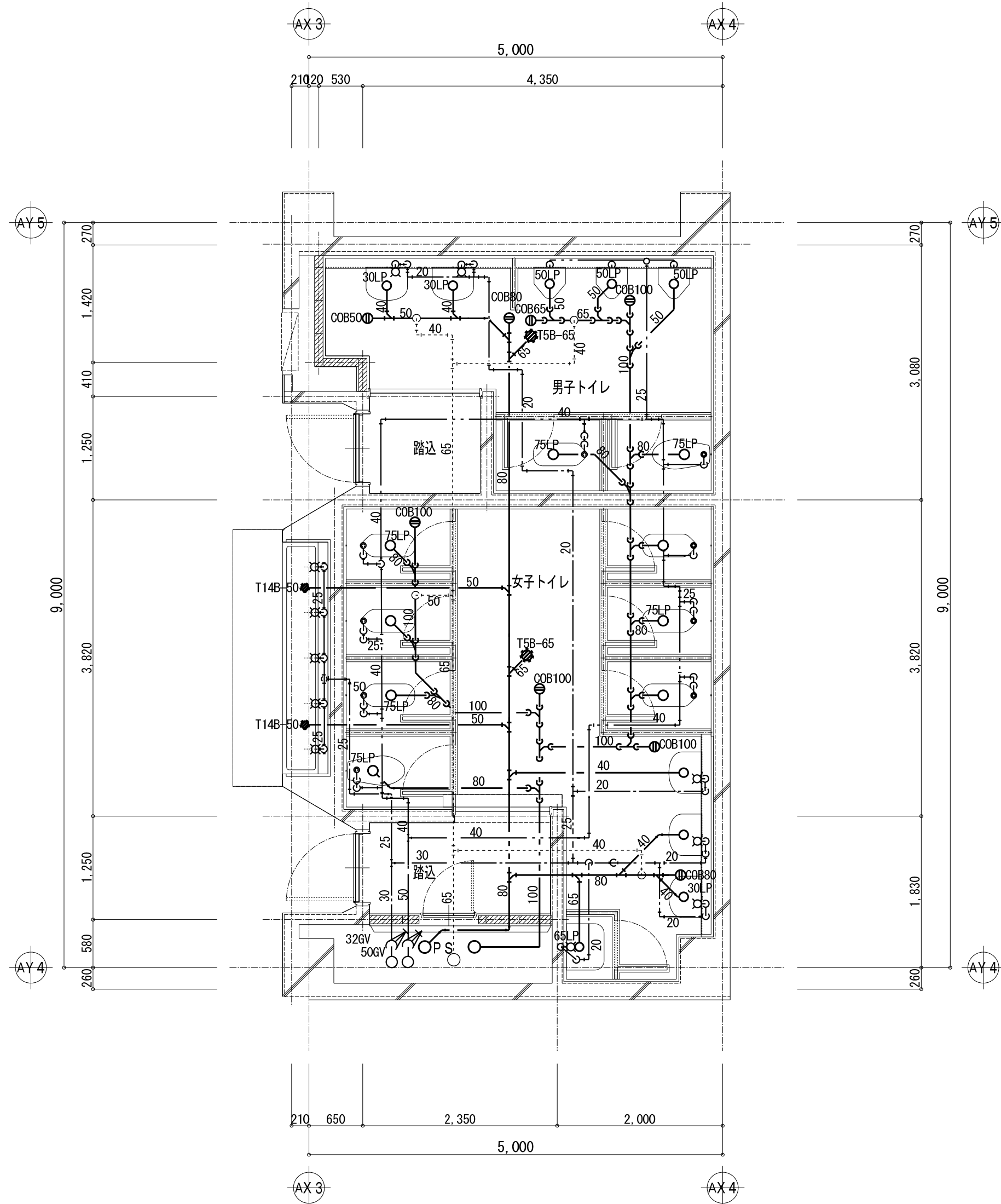
1階平面詳細図 S=1/50



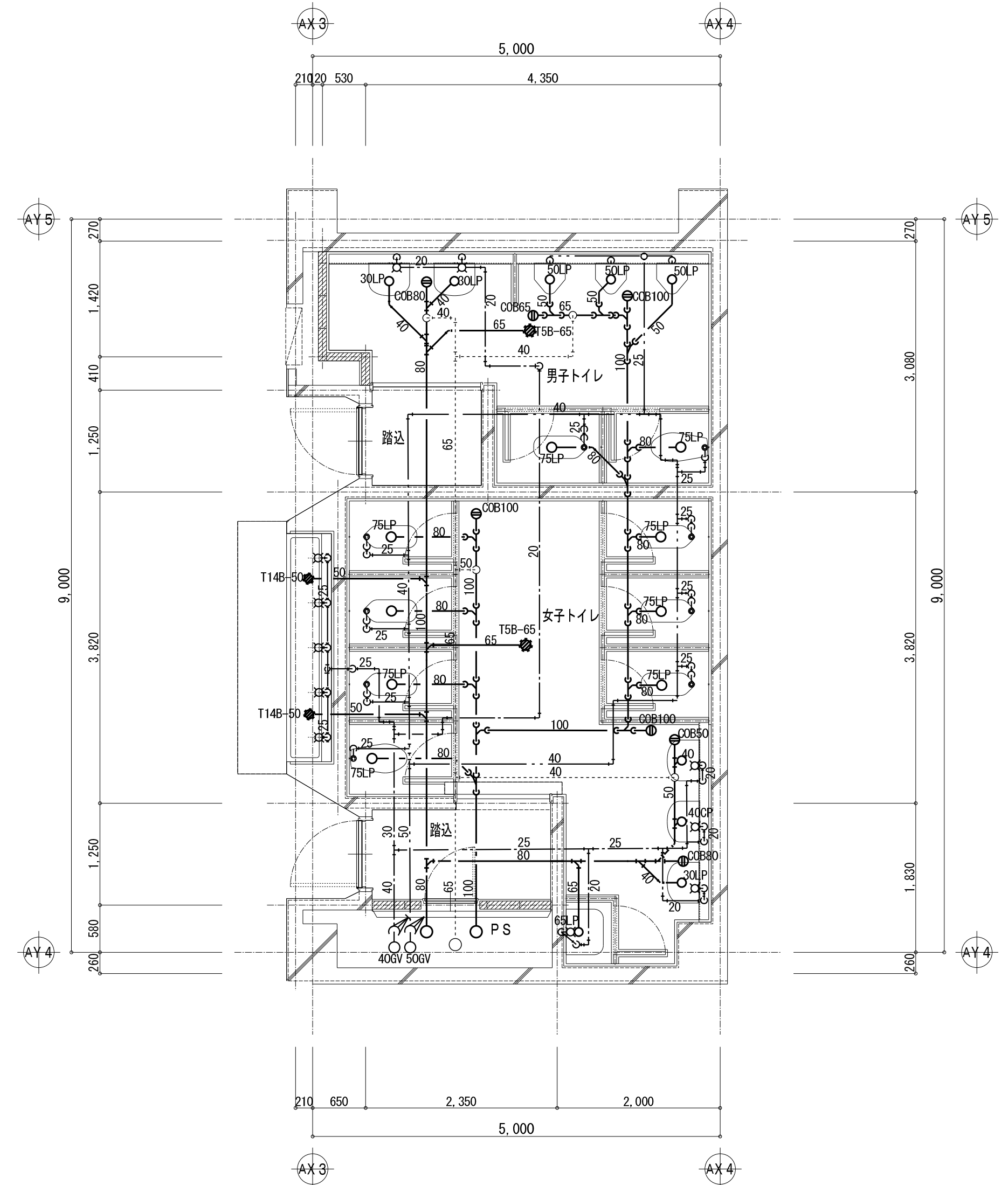
2階平面詳細図 S=1/50

(A棟)

特記事項	 齋藤出建築設計室 一級建築士 第326081号 齋藤出	検印 	設計 	設計年月日 R 6. 4. 変更年月日	工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)	No. M-15
		図面名称 現況 A棟 給排水衛生設備 1・2階平面詳細図	Scale S=1/50			



3階平面詳細図 S=1/50



4, 5階平面詳細図 S=1/50

(A棟)

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出

検印



設計



設計年月日

R 6. 4.

変更年月日

工事名称

川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)

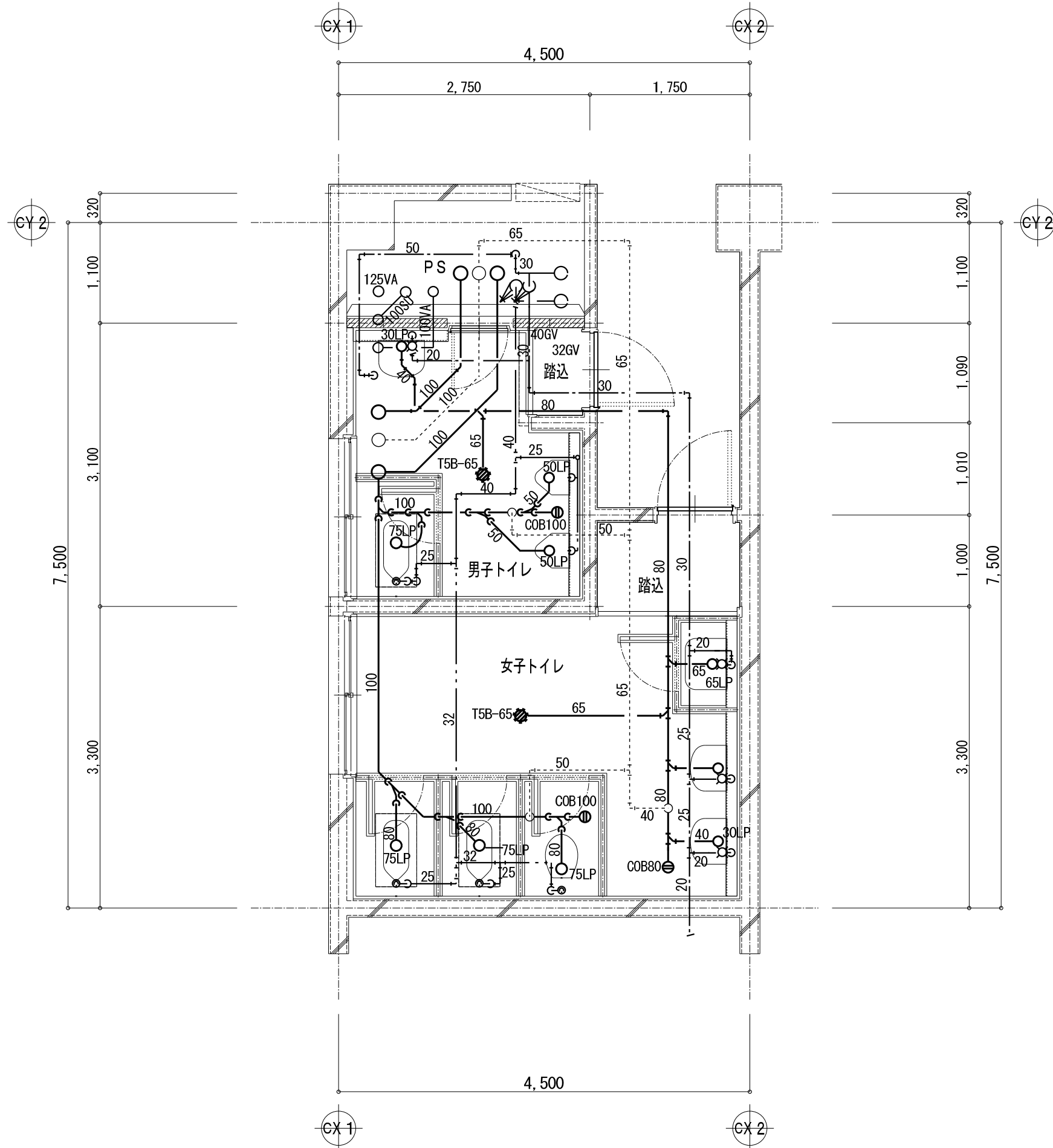
図面名称

現況 A棟 給排水衛生設備 3~5階平面詳細図

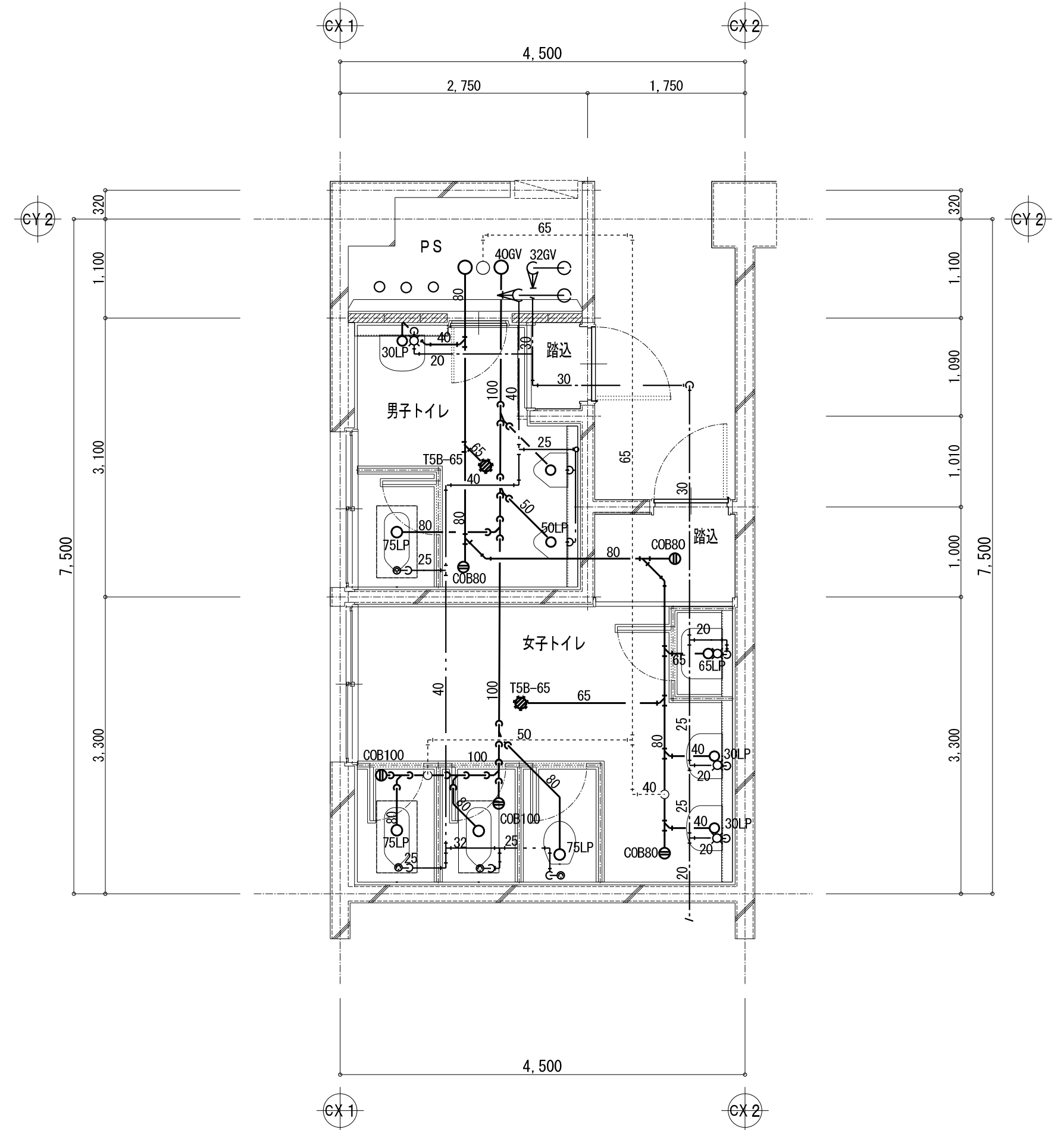
Scale
S=1/50

No.

M-16

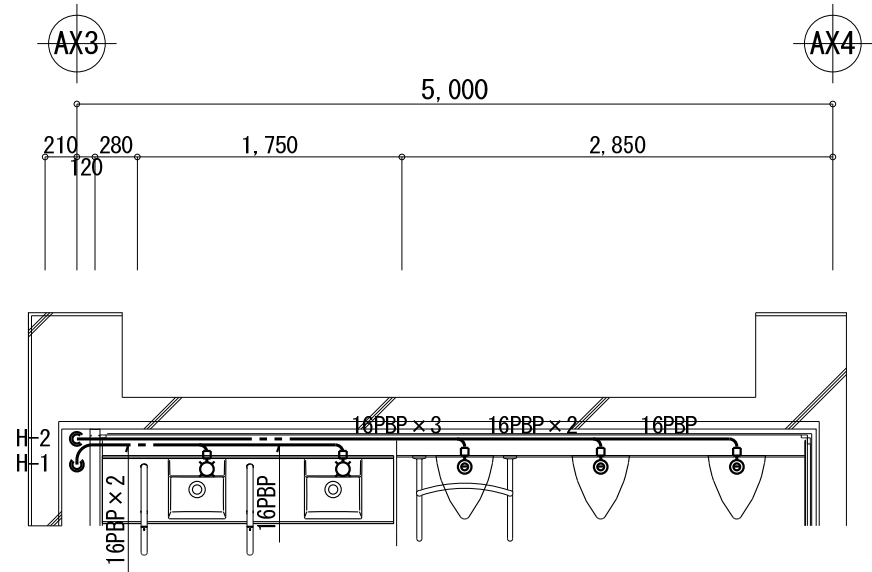


6階平面詳細図 S=1/50

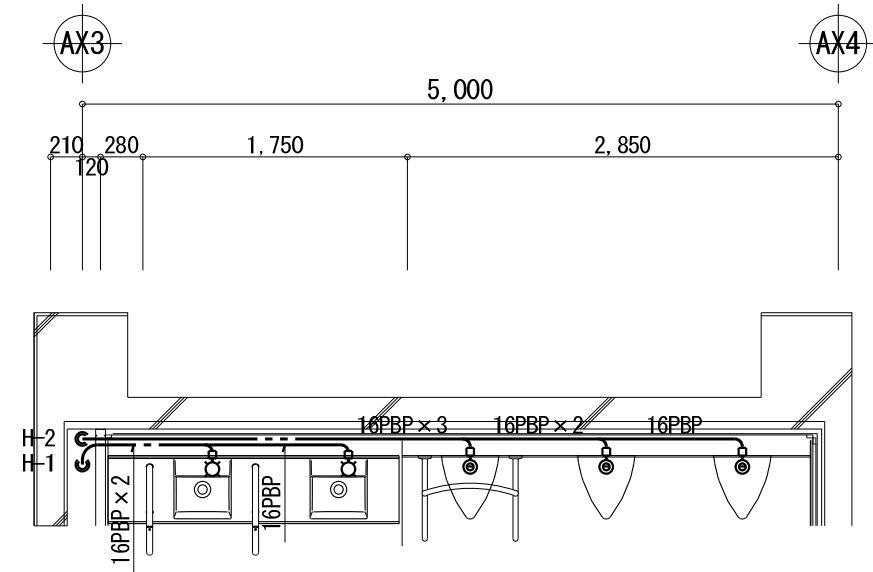


7階平面詳細図 S=1/50

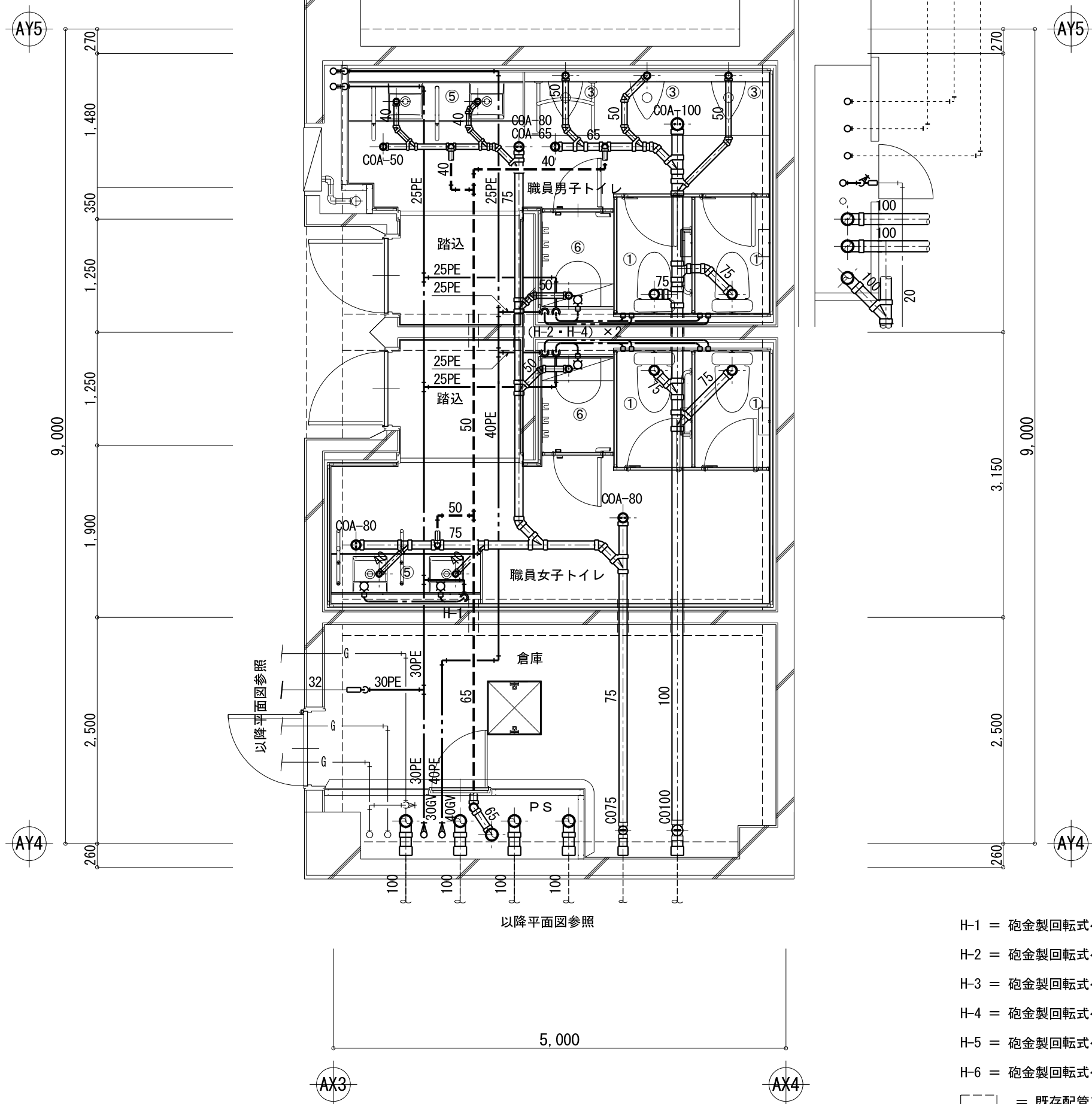
(C棟)



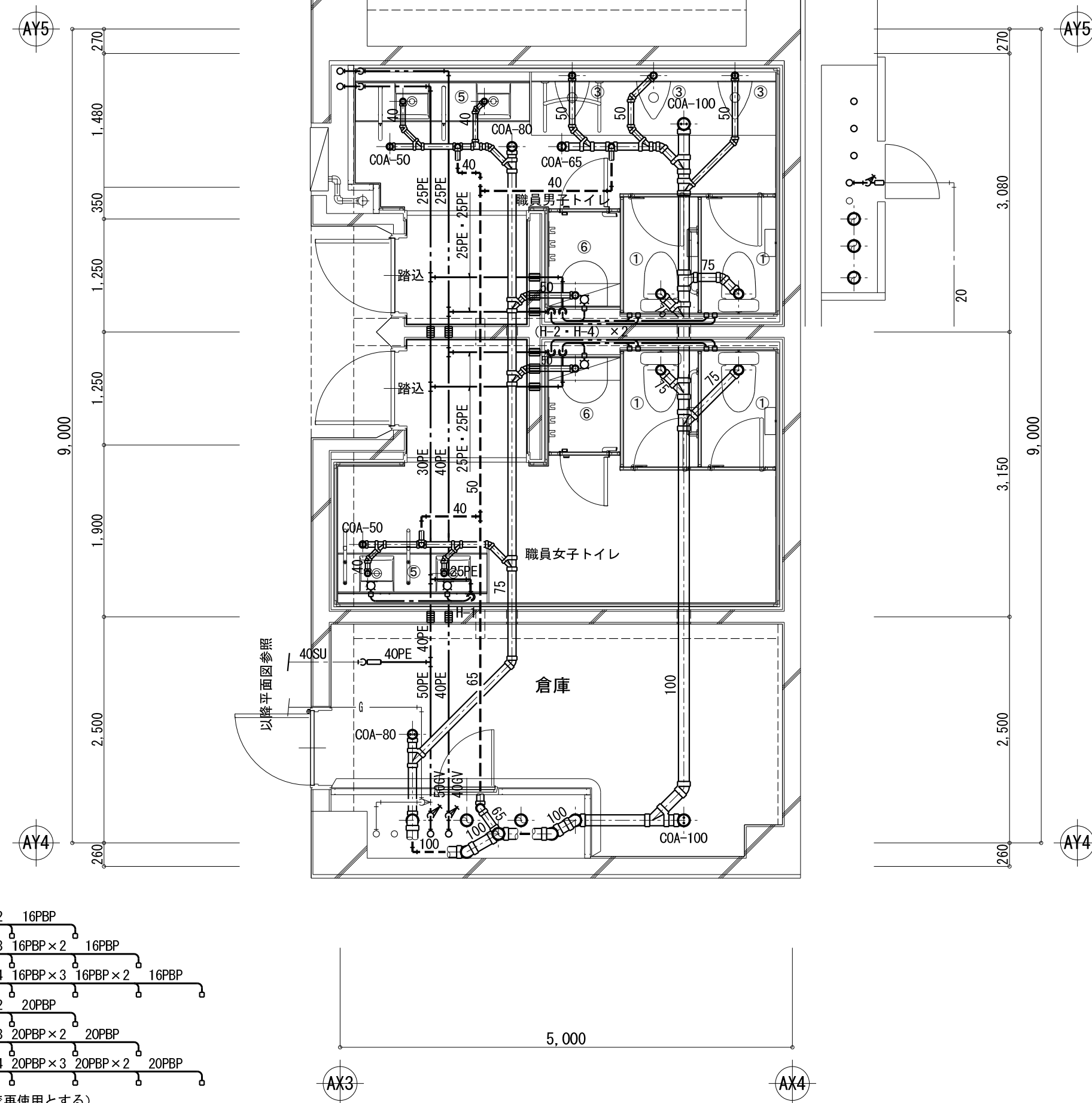
AY5通り給水詳細図 S=1:50



AY5通り給水詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1/50



2階平面詳細図 S=1/50

- H-1 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A) × 2 16PBP × 2 16PBP
- H-2 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A) × 3 16PBP × 3 16PBP × 2 16PBP
- H-3 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A) × 4 16PBP × 4 16PBP × 3 16PBP × 2 16PBP
- H-4 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A) × 2 20PBP × 2 20PBP
- H-5 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A) × 3 20PBP × 3 20PBP × 2 20PBP
- H-6 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A) × 4 20PBP × 4 20PBP × 3 20PBP × 2 20PBP
- (dashed) = 既存配管スリーブ位置を示す。(改修工事で再使用とする)
- = 新規壁穴明、補修位置を示す。
- ⊗ = 異種管継手を示す。
- (solid) = 再接続位置を示す。

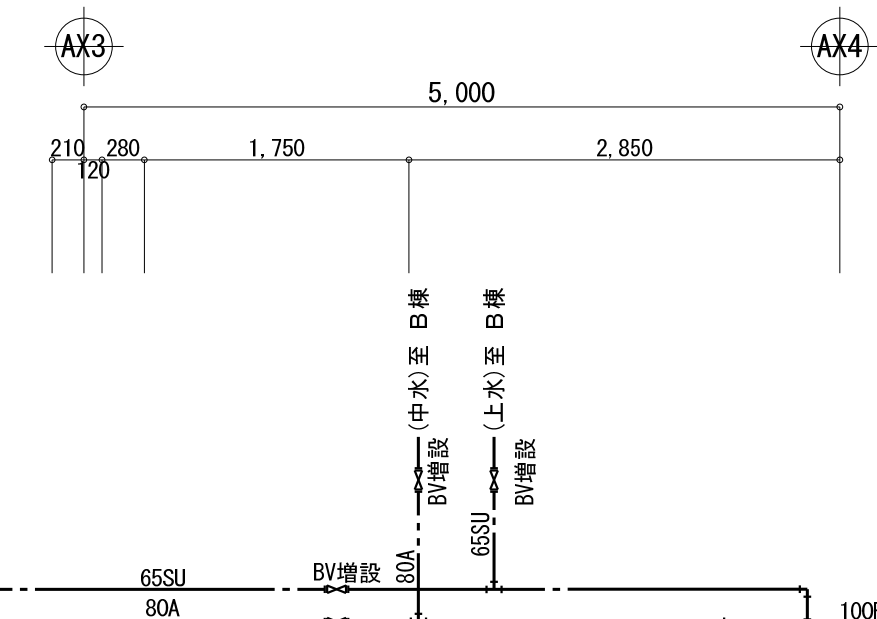
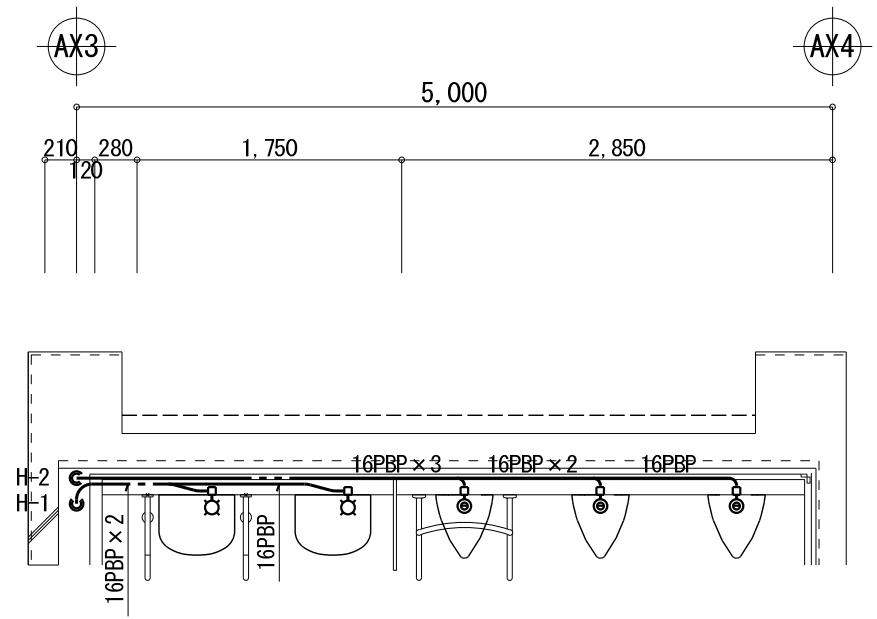
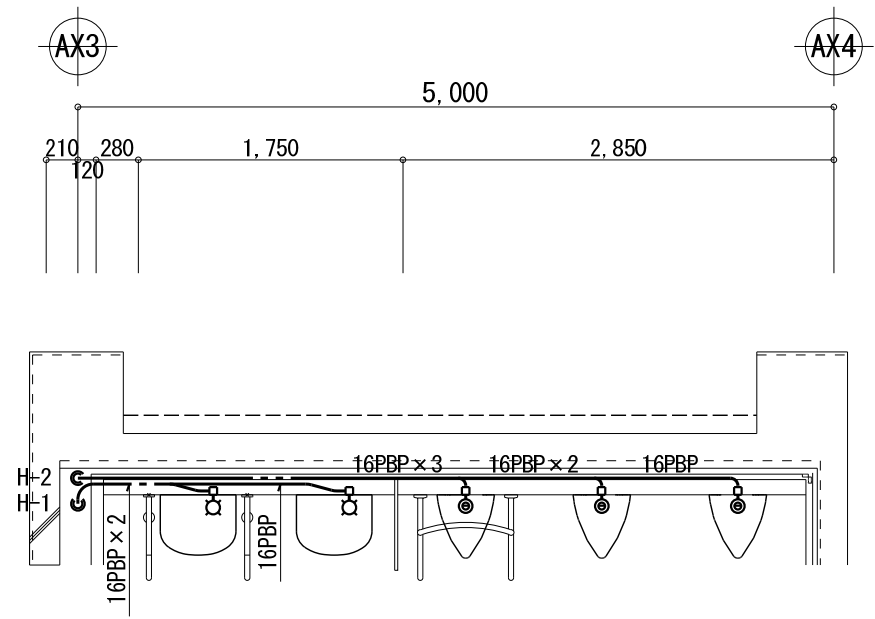
特記事項	

<p>齊藤出建築設計室</p> <p>一級建築士 第326081号 齋藤出</p>	<p>検印</p> <p>設計</p> <p>設計年月日 R 6. 4.</p> <p>変更年月日</p>	<p>工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)</p> <p>図面名称 改修 A棟 給排水衛生設備 1・2階平面詳細図</p> <p>Scale S=1/50</p>	<p>No. M-18</p>
	(A棟)		

改修

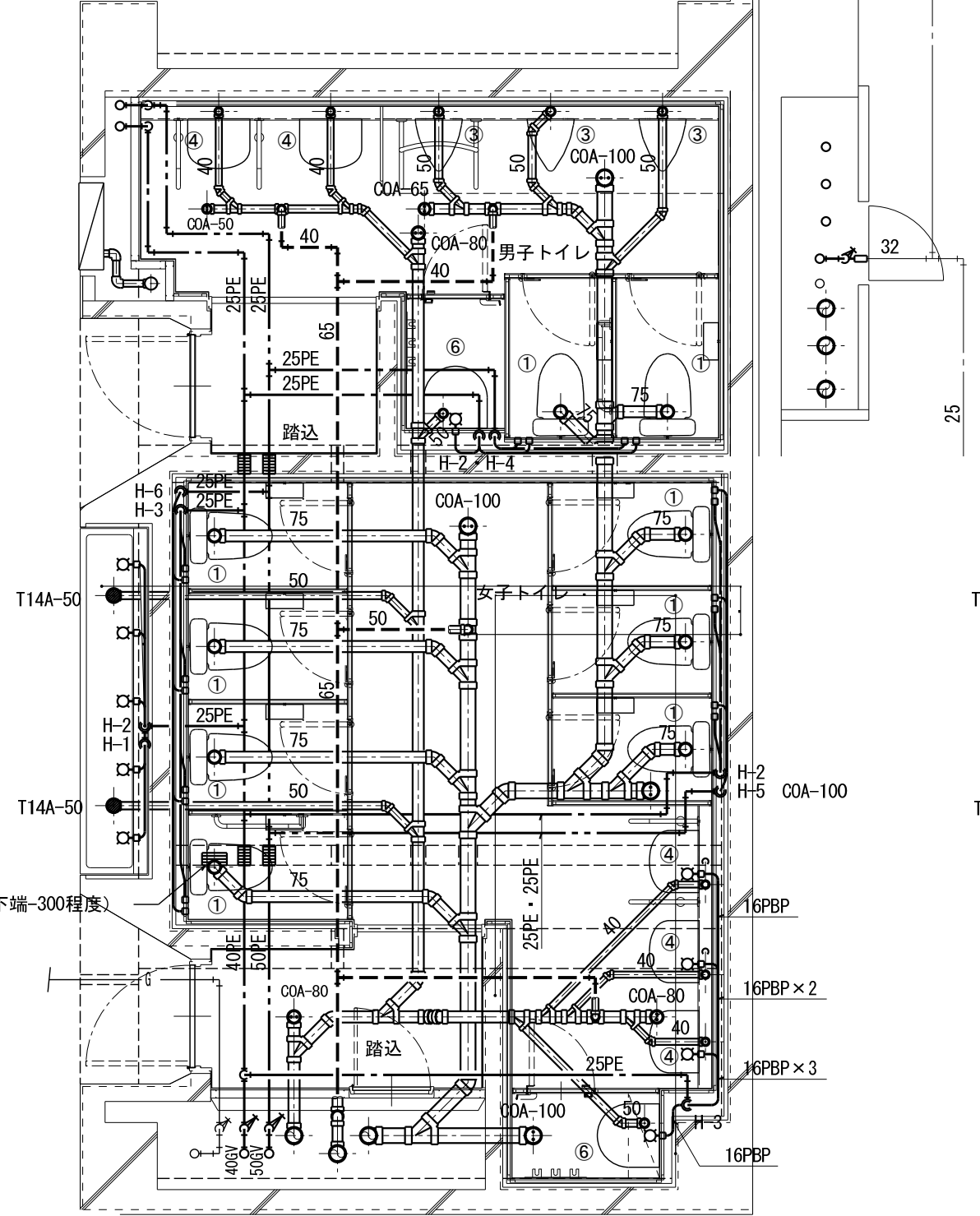
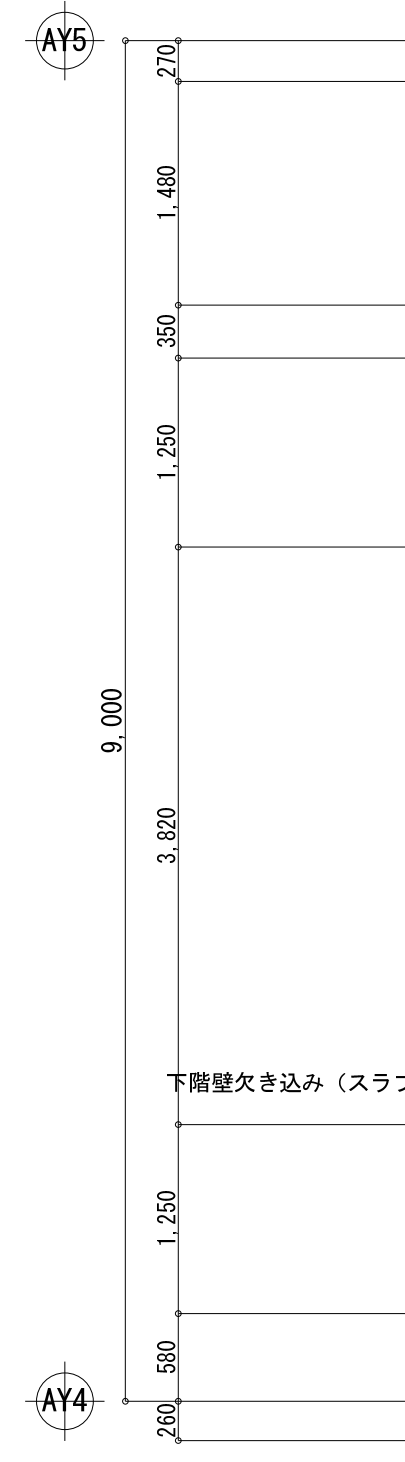
- H-1 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×2) 16PBP×2 16PBP
- H-2 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×3) 16PBP×3 16PBP×2 16PBP
- H-3 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×4) 16PBP×4 16PBP×3 16PBP×2 16PBP
- H-4 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×2) 20PBP×2 20PBP
- H-5 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×3) 20PBP×3 20PBP×2 20PBP
- H-6 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×4) 20PBP×4 20PBP×3 20PBP×2 20PBP

- = 既存配管スリーブ位置を示す。(改修工事で再使用とする)
- = 新規壁穴明、補修位置を示す。
- ⊠ = 異種管継手を示す。
- = 再接続位置を示す。

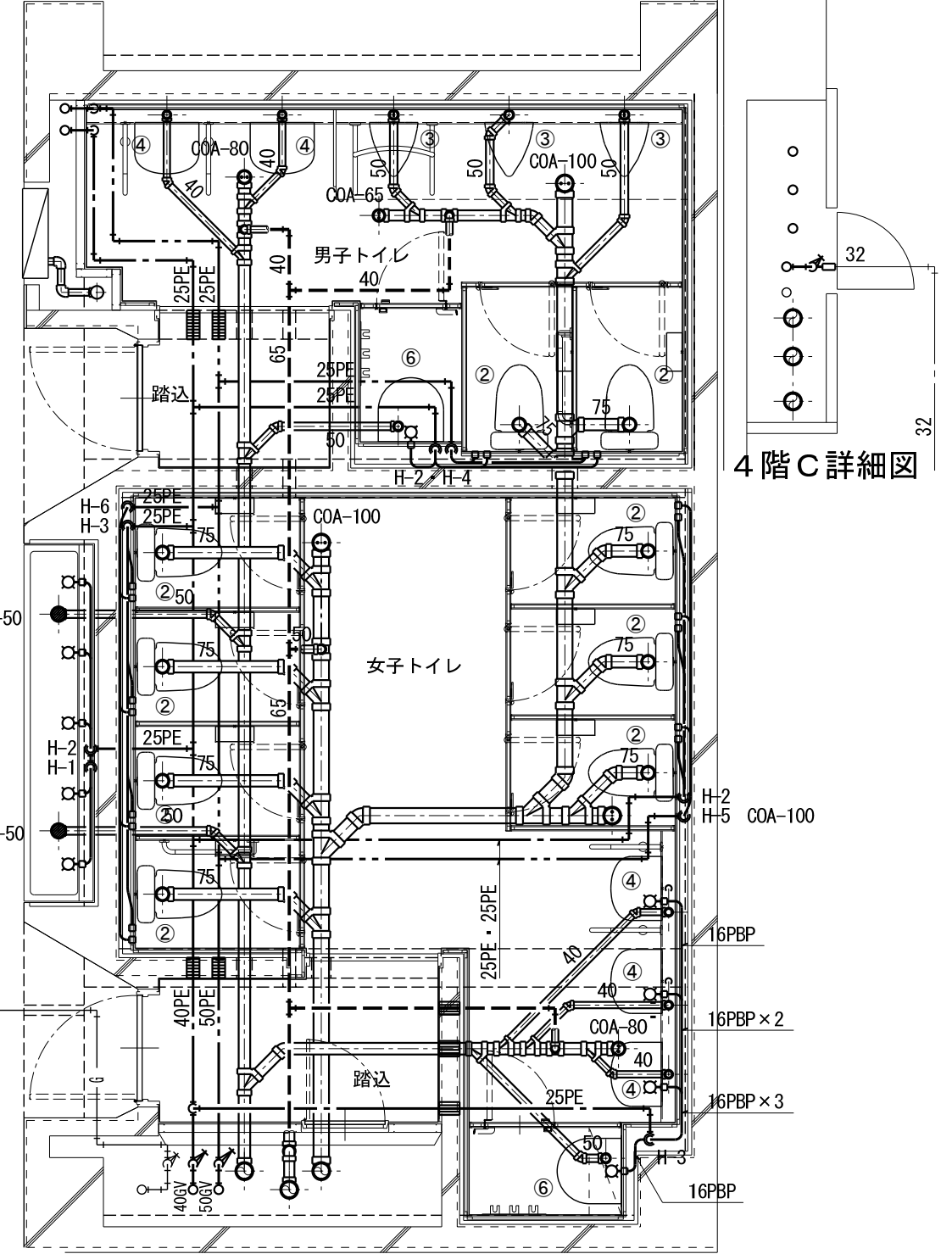


AY5通り給水詳細図 S=1:50

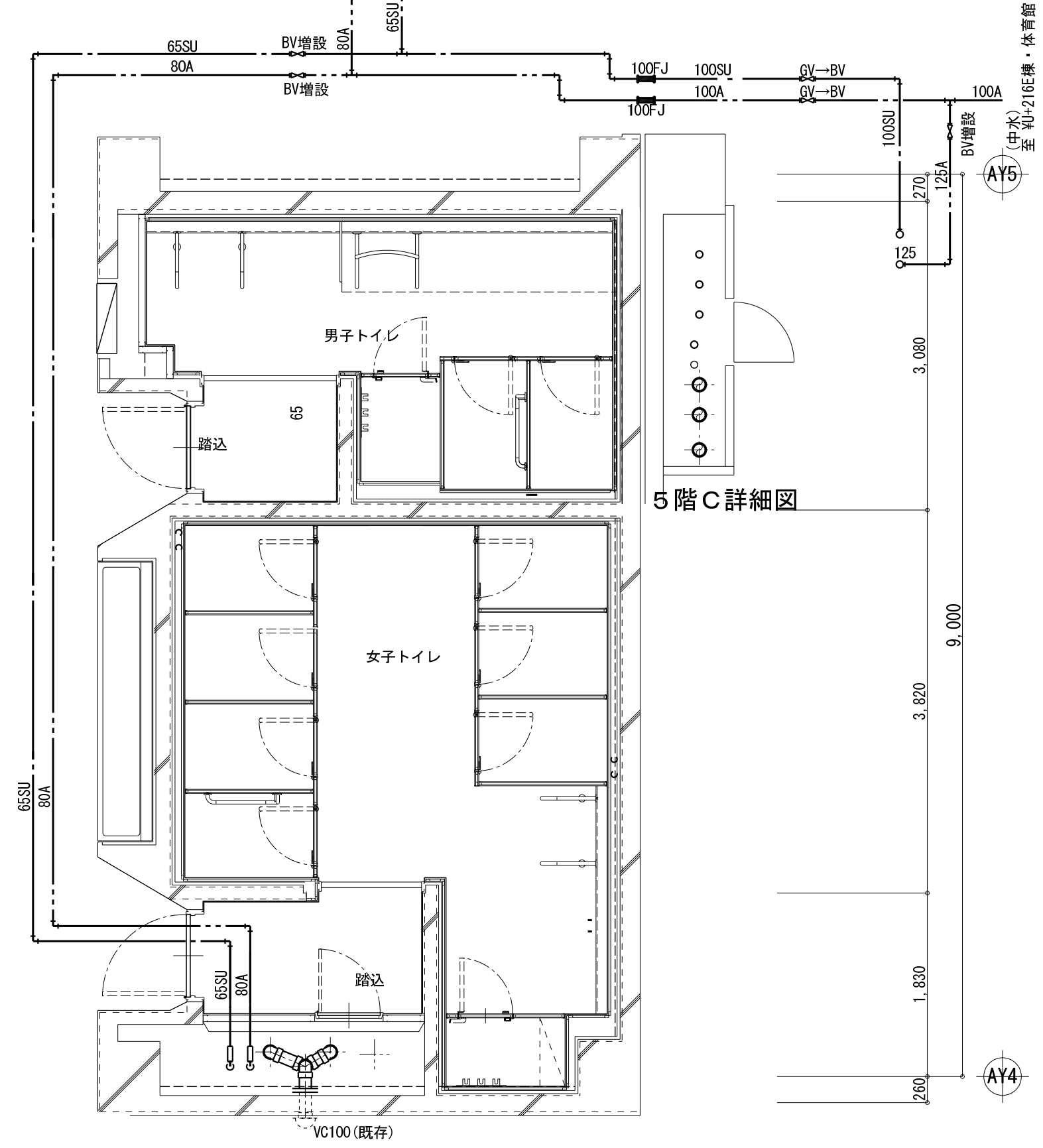
AY5通り給水詳細図 S=1:50



3階平面詳細図 S=1/50

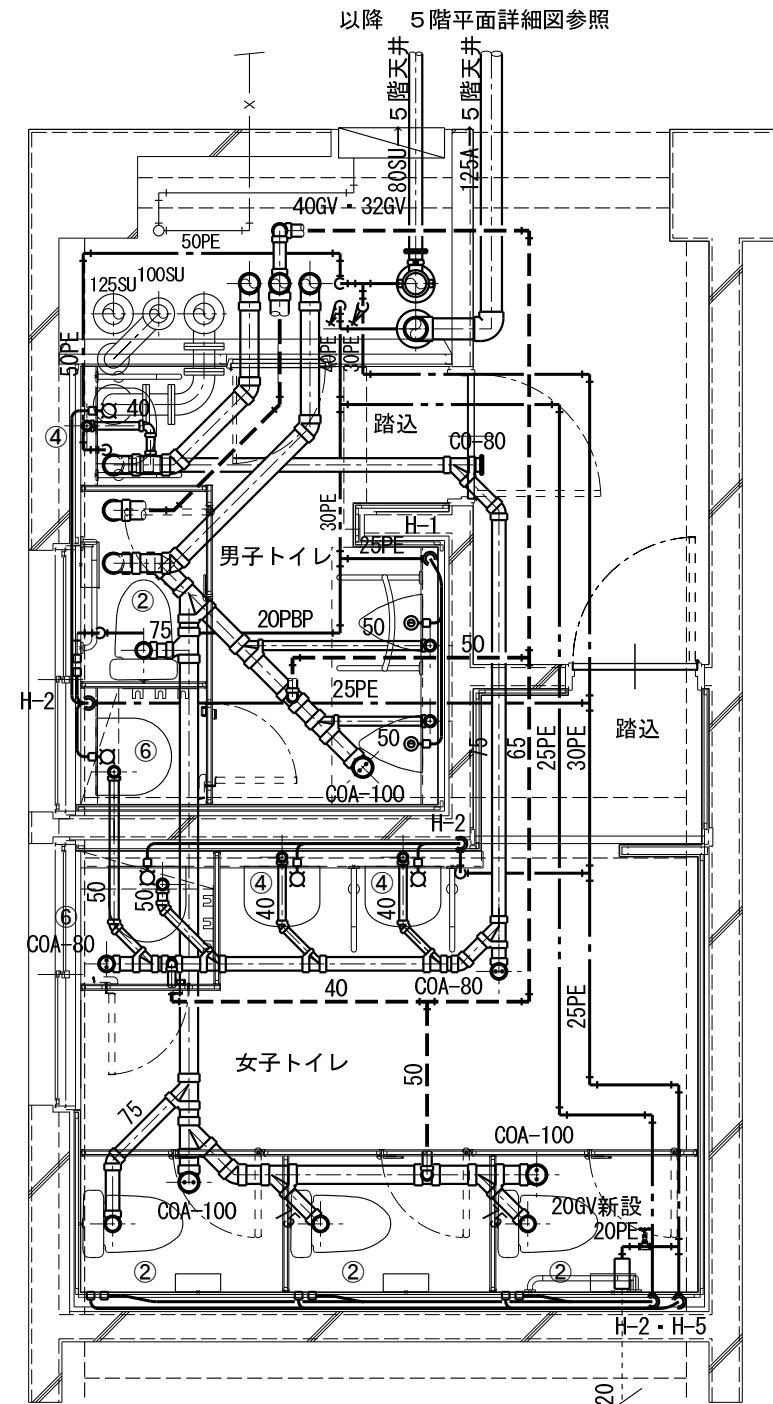
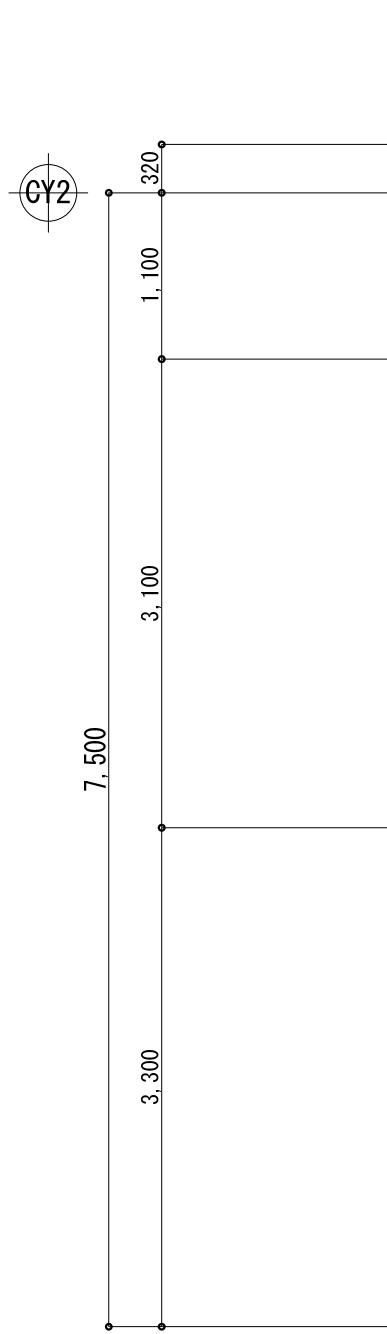
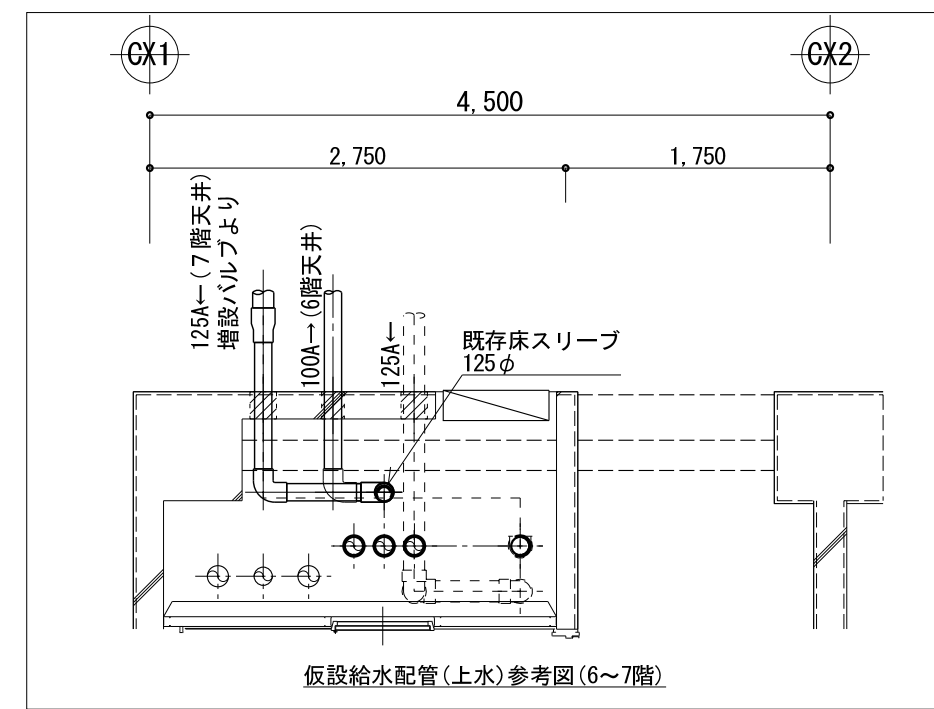
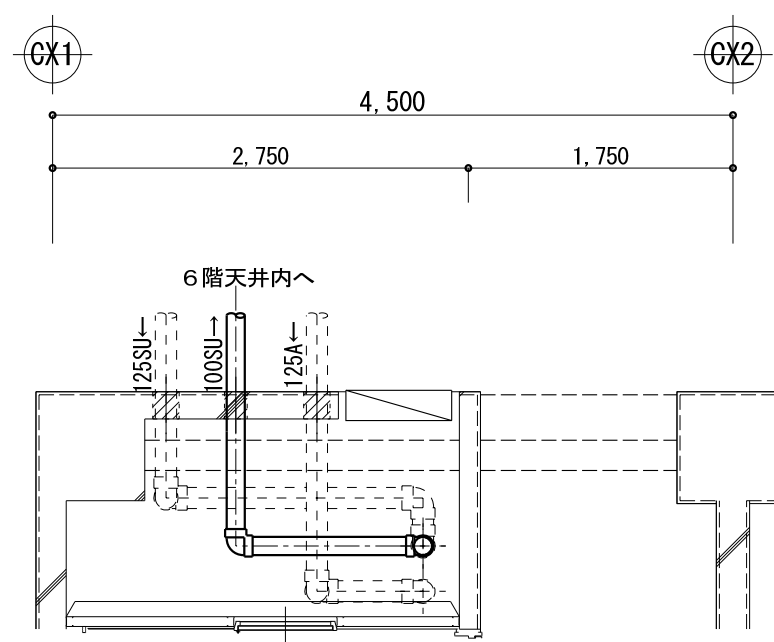
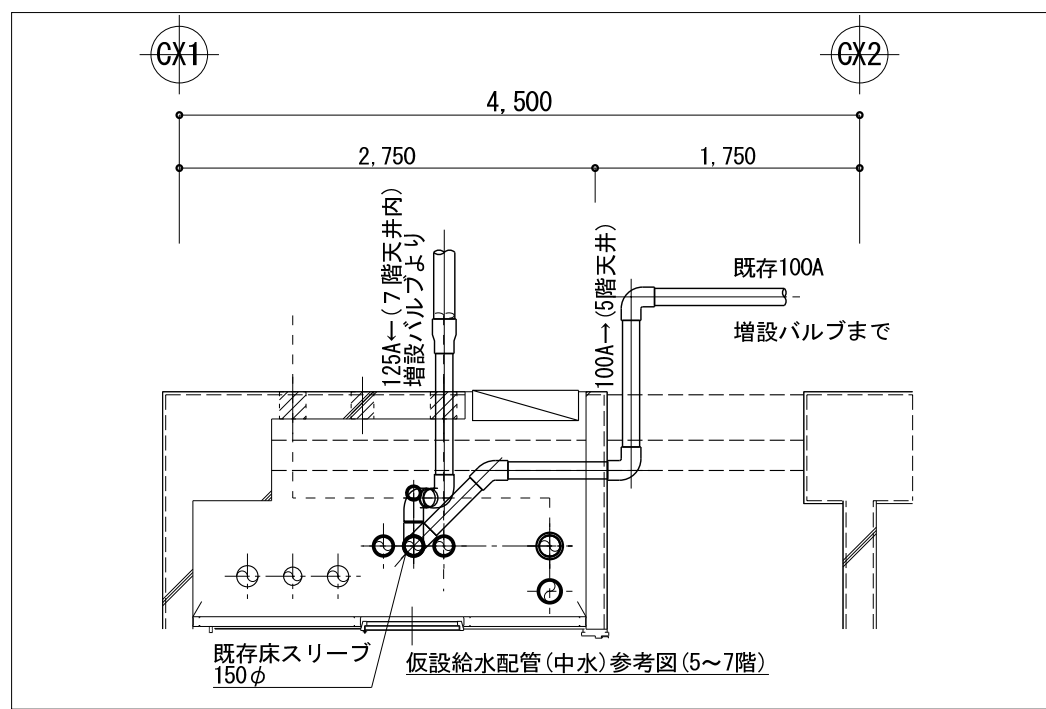


4階, 5階平面詳細図 S=1/50

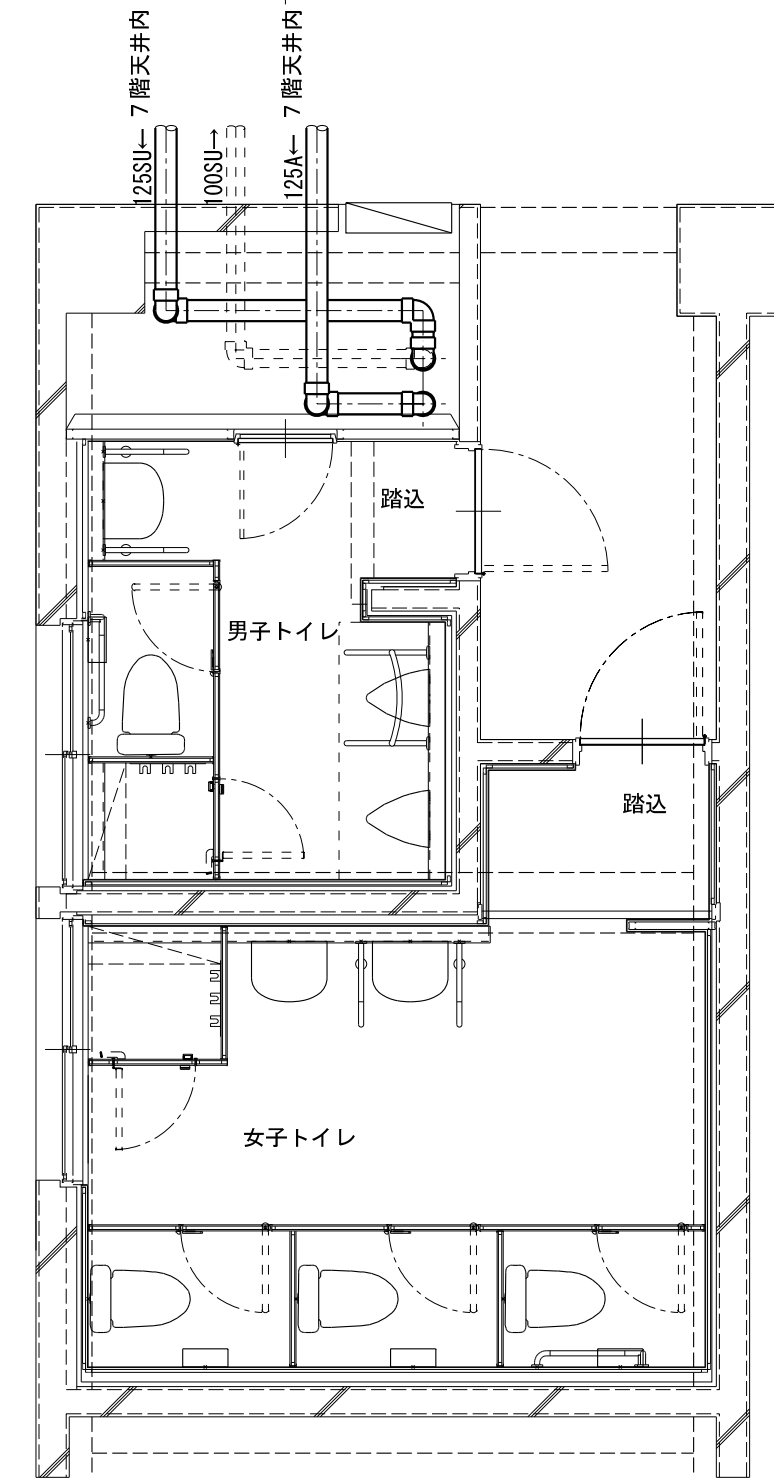


5階天井内平面詳細図 S=1/50

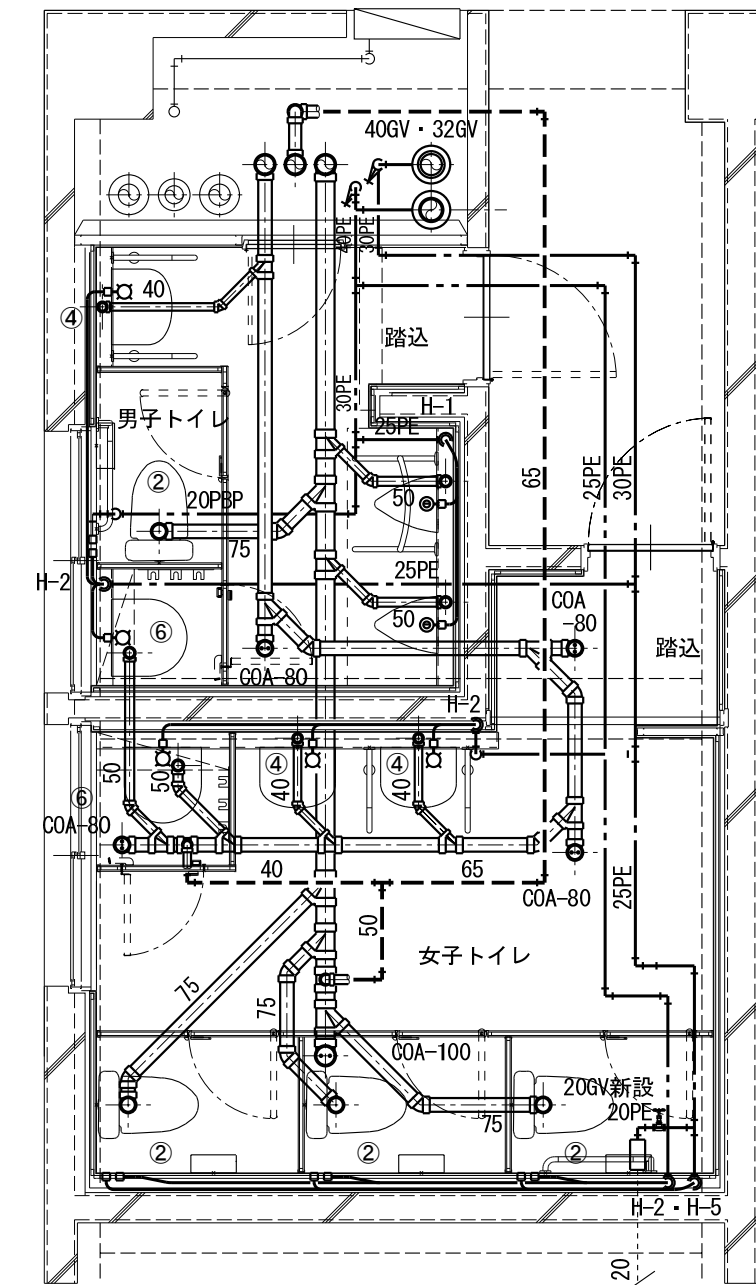
(A棟)



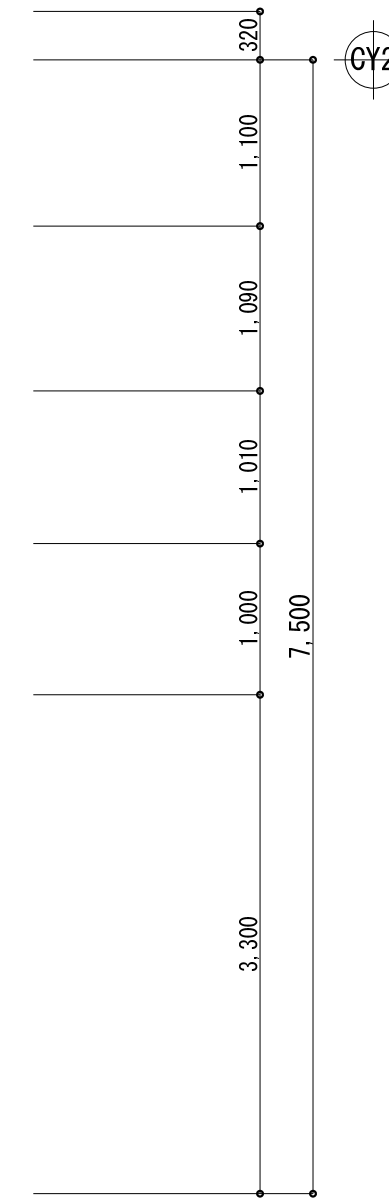
6階平面詳細図 S=1/50



6階・7階天井内平面詳細図(抜粋) S=1/50



7階平面詳細図 S=1/50



- H-1 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×2) ← 16PBP×2 16PBP
- H-2 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×3) ← 16PBP×3 16PBP×2 16PBP
- H-3 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-16A×4) ← 16PBP×4 16PBP×3 16PBP×2 16PBP
- H-4 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×2) ← 20PBP×2 20PBP
- H-5 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×3) ← 20PBP×3 20PBP×2 20PBP
- H-6 = 砲金製回転式ヘッダー (25A-20A×4) ← 20PBP×4 20PBP×3 20PBP×2 20PBP

- = 既存配管スリーブ位置を示す。(改修工事で再使用とする)
- = 新規壁穴明、補修位置を示す。
- ⊗ = 異種管継手を示す。
- = 再接続位置を示す。

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



森出



森出

設計年月日
R 6. 4.

変更年月日

工事名称 川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)

図面名称 改修 C棟 給排水衛生設備 6・7階平面詳細図

Scale S=1/50

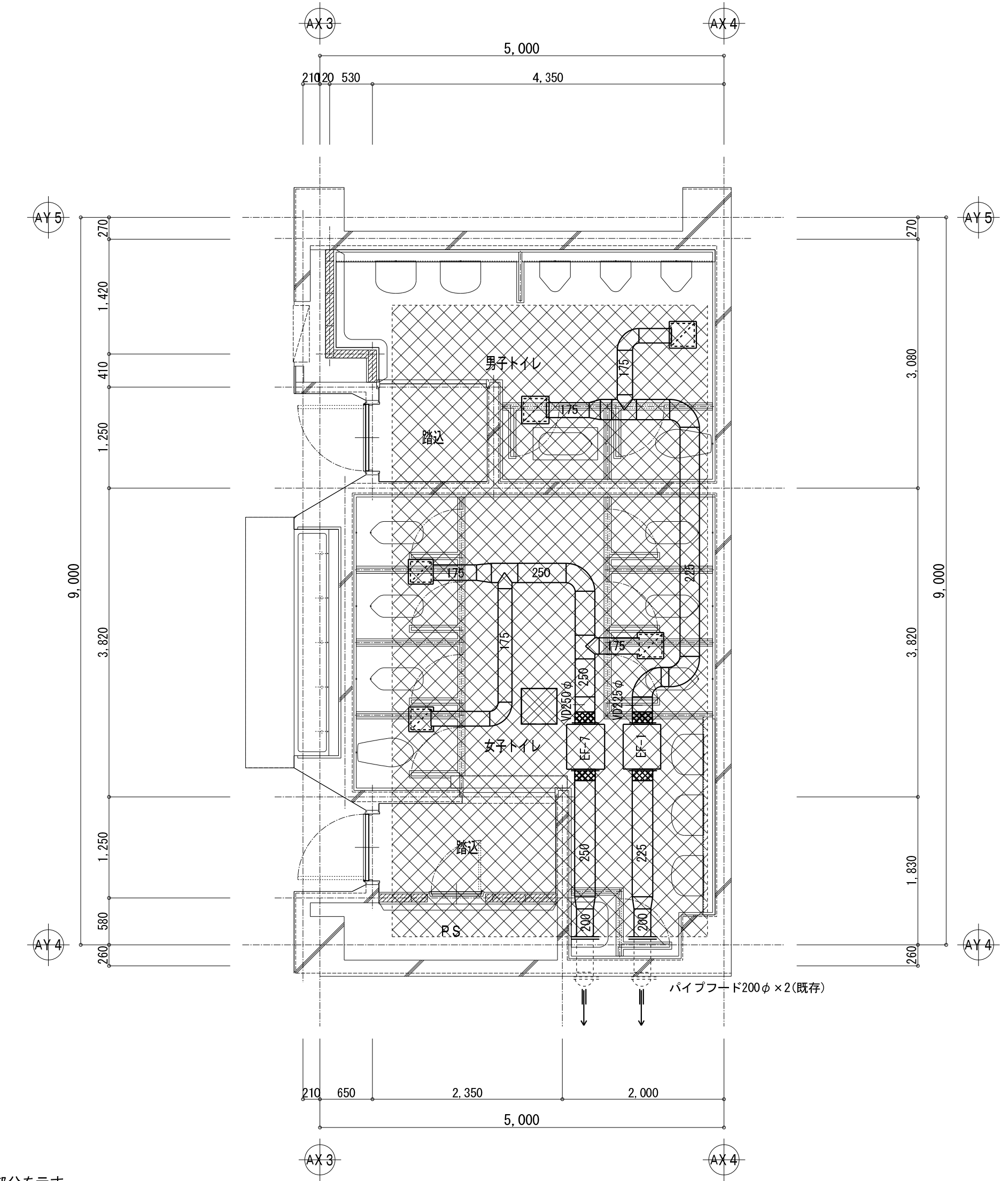
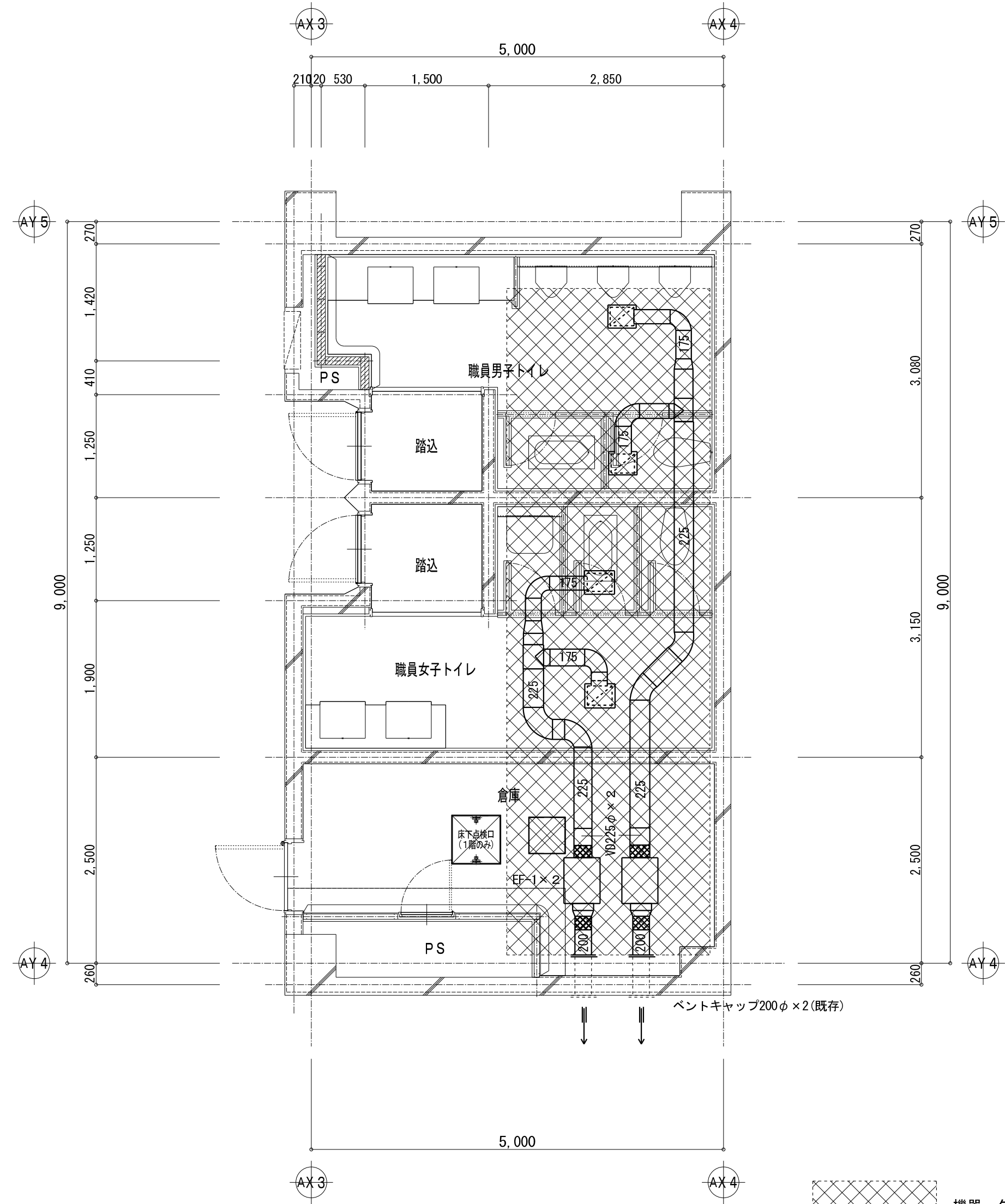
(C棟)

No.

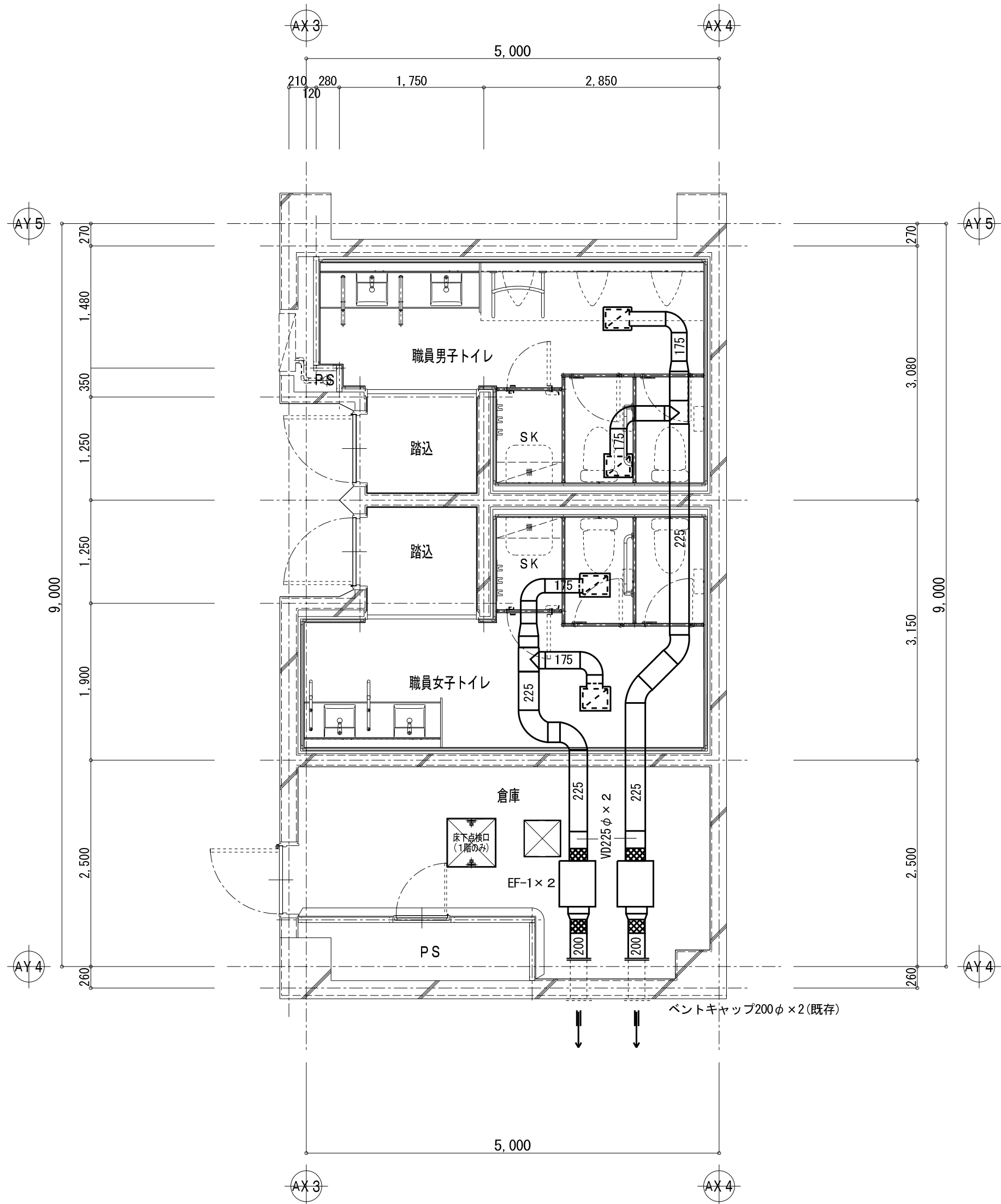
M-20

A棟男子トイレ	A棟女子トイレ
吸込口(HS)	吸込口(HS)
250×200	250×200
Q=250CMH × 2	Q=250CMH × 2

A棟男子トイレ	A棟女子トイレ
吸込口(HS)	吸込口(HS)
250×200	250×200
Q=250CMH × 2	Q=227CMH × 3

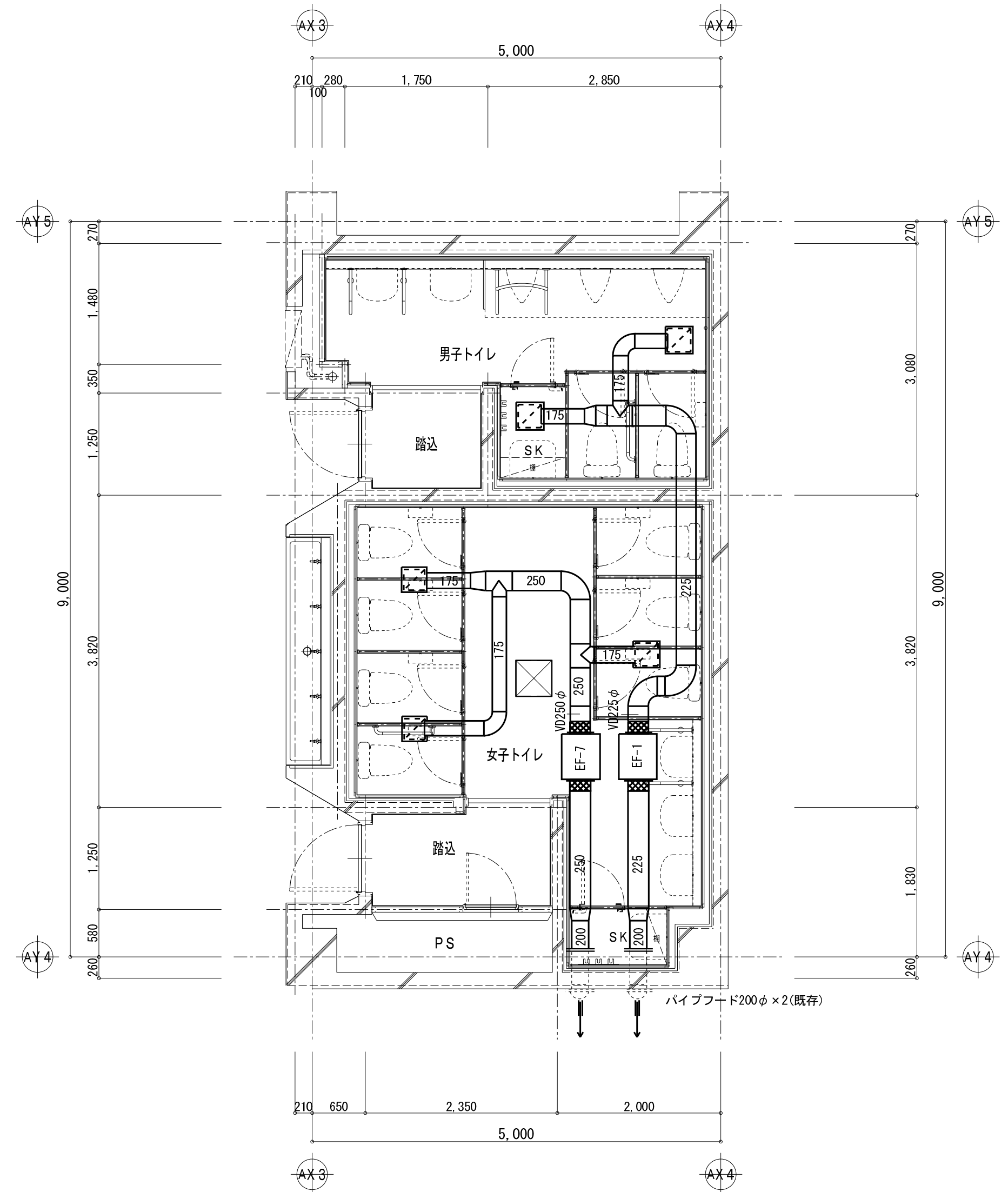


A棟男子トイレ 吸込口(HS) 250×200 Q=250CMH × 2	A棟女子トイレ 吸込口(HS) 250×200 Q=250CMH × 2
---	---



1・2階平面詳細図 S=1/50

A棟男子トイレ 吸込口(HS) 250×200 Q=250CMH × 2	A棟女子トイレ 吸込口(HS) 250×200 Q=227CMH × 3
---	---



3～5階平面詳細図 S=1/50

※撤去した機器、ダクト、ダクト付属品をすべて新設する。

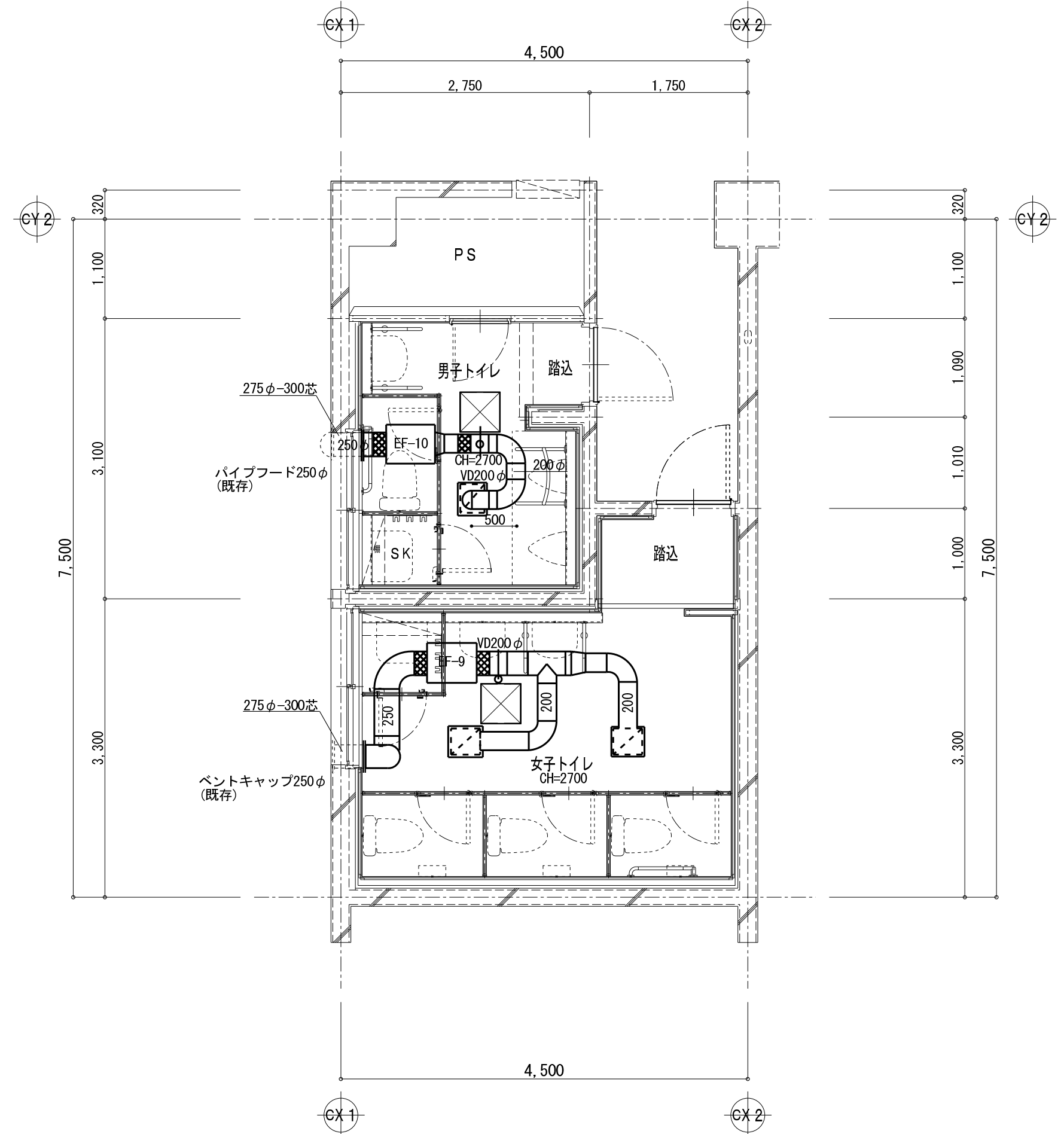
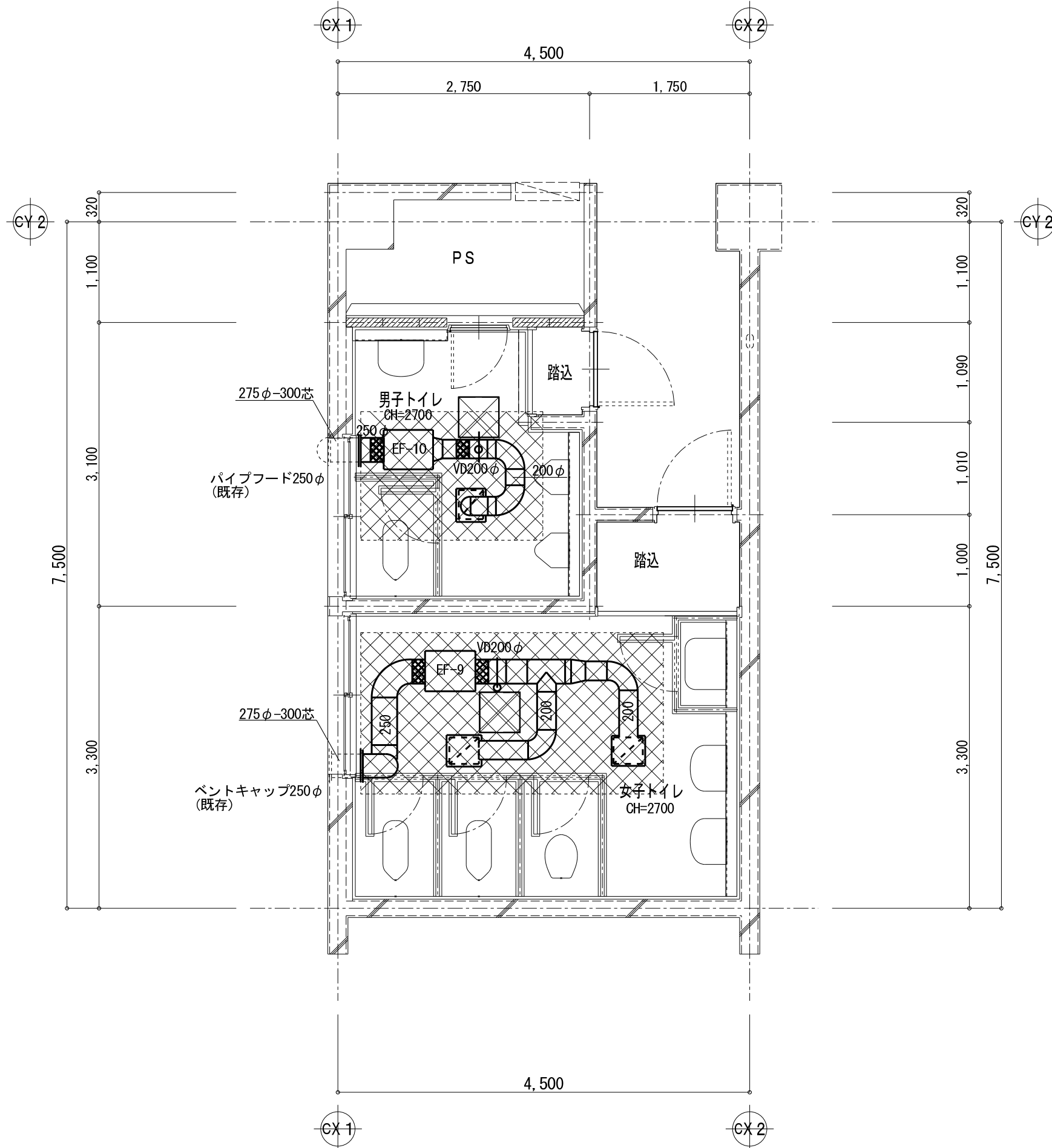
(A棟)

現況

改修

C棟6階7階トイレ
吸込口(H/S)
300×250 ×各3

C棟6階7階トイレ
吸込口(H/S)
300×250 ×各3



機器、ダクト、ダクト付属品撤去部分を示す。

6・7階平面詳細図 S=1/50

6・7階平面詳細図 S=1/50

※撤去した機器、ダクト、ダクト付属品をすべて新設する。

(C棟)

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



設計

設計年月日

R. 6. 4.

変更年月日

工事名称

川越市立川越高等学校トイレ改修工事(A・C棟)

図面名称

現況・改修 C棟 換気設備 6・7階平面詳細図

Scale
S=1/50・30

No.

M-23

電気設備工事特記仕様書

1 工事概要

1.1 工事概要

A棟：普通教室棟、C棟：商業科棟 トイレ改修に伴う電灯設備、受変電設備

1.2 工事科目（○印の付いたものを適用する）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 電灯設備 ・ 動力設備 ・ 電熱設備 ・ 雷保護設備 ○ 受変電設備 ・ 電力貯蔵設備 ・ 発電設備 ・ 構内情報通信網設備 ・ 構内交換設備 ・ 情報表示設備 ・ 映像、音響設備 ○ 拡声設備（非常放送設備） ・ 誘導支援、呼出し設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ共同受信設備 ・ テレビ電波障害防除設備 ・ 監視カメラ設備 ・ 駐車場管制設備 ・ 防犯、入退室管理設備 ○ 自動火災報知設備 ○ 自動閉鎖設備 ・ ガス漏れ火災警報設備 ・ 電話配管設備 ・ 中央監視制御設備 ・ 医療関係設備 ・ 昇降機設備
--	---

2 工事仕様

2.1 共通仕様

(1) この工事は特記仕様書、図面によるほか、埼玉県電気設備工事特別共通仕様書（以下「特別共通仕様書」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（以下「標準仕様書等」という。）及び監督員の指示に従い施工する。

(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
(3) 法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。

2.2 特記仕様（特記事項の選択項目は、○印の付いたものがなければ※印を適用し、・印のものは適用しない、・印と※印の付いた場合は、共に適用する。）

項目	特記事項				
1 再使用機材	取外し再使用機材は、清掃及び絶縁抵抗測定等を行い、機能が良好なことを確認した上で取付ける。なお、その測定結果表を監督員に提出する。				
2 発生材処理	引込を要するもの以外は構外に搬出し、適切に処理する。 (構外搬出処理費は、※本工事・別途) 蛍光管等は再資源化施設等に搬入し、全てリサイクルするものとする。				
3 金属電線管の塗装	露出配管は原則として塗装を行う。ただし、機械室、倉庫等の露出配管は塗装を行わない。 また、屋外で溶融垂鉛メッキ電線管を使用する場合は、塗装を行わない。 ただし、見えかきり部の塗装については監督員の指示による。 盤等の鍵は、既存盤及び別途工事の鍵との整合を極力図るものとする。				
4 鍵					
5 地中電線路	(1) 管路等の敷設に伴う敷き均し土は、標準仕様書のほか下記及び図面特記による。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>敷き均し土</th> <th>管種別</th> </tr> <tr> <td>良質土</td> <td>硬質ビニル電線管(VE) 耐衝撃性塩化ビニル管(HVE) 波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆鋼管(PLP)</td> </tr> </table> <p>(2) 地中電線路には、ケーブル埋設機及び埋設シートを設ける。ただし、低圧・弱電回路の埋設シートは図面特記による。 (3) 地中電線路の敷設は管路式とし、埋設深さは地表面（舗装する部分では路盤材下面）から配管の上端まで原則、600mmとする。ただし、公道への引込み管路等の埋設深さについては、供給事業者と協議のうえ決定する。</p>	敷き均し土	管種別	良質土	硬質ビニル電線管(VE) 耐衝撃性塩化ビニル管(HVE) 波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆鋼管(PLP)
敷き均し土	管種別				
良質土	硬質ビニル電線管(VE) 耐衝撃性塩化ビニル管(HVE) 波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆鋼管(PLP)				
6 回路の種別 行先の表示	ハンドホール、プルボックス及び主要なアウトレットボックス内の電線・ケーブルには、回路の種別、行先の表示を行う。				
7 電線の接続	湿気の多い場所、水を使用する場所及び屋外は、圧着接続し自己融着テープを巻き付けたうえで絶縁テープ巻きとする。 上記以外の場所においては、屋内配線用電線コネクタによる接続をしてもよい。ただし、接続はボックス内とする。				
8 電線管の接続	屋外におけるケーブルの保護管に用いる厚鋼電線管の接続は、防水処置を施したねじなし工法としてもよい。				
9 残土処分	埋戻し後の建設残土は、監督員が指示する構内の場所に敷き均しとする。				
10 再生砂・再生アスコン	契約図書中の山砂の種類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、・使用できる。 ※使用できない。 再生砂使用に先立ち、1購入あたり1検体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。				

11 耐震施工

設備機器の固定は、「建築設備耐震設計 施工指針 2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。
なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。
(1) 設計用水平地震力
機器の重量〔kgf〕に、設計用水平地震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合、設計用水平地震度は、次による。

設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
中間階	水 槽 類 ※1	2.0	1.5	1.5	1.0
	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・1階	水 槽 類 ※1	1.5	1.0	1.0	0.6
	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類 ※1	1.5	1.0	1.0	0.6

【備 考】（※1）：水槽類には、オイルタンク等を含む。
重要機器
・ 配電盤 ・ 発電装置（防災用） ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置
・ 交換機 ・ 火災報知器受信機 ・ 中央監視装置 ・ 太陽光発電装置
上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
(2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

12 あと施工アンカー

・ 施工者（（一社）日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者）
※金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。
※接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。
(原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。)
・ あと施工アンカーの引張試験（アンカーの種類、部位毎に1か所）

13 その他

(1) 施工に先立って建築及び関連設備の業者と打合せのうえで施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。
(2) 本工事に使用する製作品は、事前に製作を監督員に提出し、承諾後製作する。
(3) 本工事に使用する機器は、事前に性能等を記した機器仕様書を監督員に提出し、承諾後施工する。
(4) 本工事にかかる官公庁への諸手続はすべて受注者が代行し、その費用は受注者の負担とする。
(5) 特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。
(6) 改修工事等を施工する場合、施工する前後に工事対象箇所の写真撮影を行う。また、既設ケーブル等は施工前後に絶縁抵抗、伝送品質等の測定を行い、試験記録を提出する。
(7) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように締密に打合せを行うこと。
(8) 本工事における停電措置が必要な場合、事前に計画書を電気主任技術者に提出する。また、停電操作・安全処置は受注者が行い、その費用は受注者の負担とする。
(9) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。

2.3 工事別一般事項（特記事項選択項目は、○印の付いたものを適用する）

項目	特記事項
1 電灯設備	(1) 配線器具 スイッチ・壁付コンセント(2PI5A)は連用形とする。なお、2ロコンセントは複式を使用してもよい。 フラッシュプレートは原則としてステンレス又は新金属を使用する。ただし、県営住宅における住戸内のフラッシュプレートについては、樹脂プレートを使用することができる。 コンセント 器具に具備されている送り配線端子は使用してはならない。 (2) 照明器具 防災用照明器具は、建築基準法による非常用照明器具及び消防法による誘導灯とし、関係法令に適合したものとす。 (3) 位置測定 電灯設備工事に際し、新営工事の場合は新設後の、改修工事の場合は改修前と改修後の照度測定を実施すること。 (4) 分電盤 分電盤の塗装色は、監督員の指定した色とする。 (5) 継柱 天井又は壁埋込みの場合のボックスは、塗りしろカバーと仕上り面とが10mm程度以上離れる場合は継柱を使用する。ただし、ボード張り、ボード裏面に塗りしろカバーの間が離れないように施工した場合は、継柱を必要としない。 (6) 位置ボックスの省略 ケーブルころかし配線で、位置ボックスの図面特記がなく、かつ、照明器具に送り配線端子が具備されている場合は、位置ボックスを省略しても良い。
2 動力設備	(1) 動力制御盤及び閉閉器箱の塗装色は、監督員の指定した色とする。負荷用送り端子台は1負荷につきU・V・W・Eの4Pを原則とする。 (2) 電動機等各負荷までの接続は、本工事とする。ただし、制御盤以降が別途工事の場合は、当該制御盤の電源側接続までとする。
3 雷保護設備	受雷部突出しはR1とする。
4 受変電設備	高 圧 引 込 引込み口は、設計図に示された位置を電力会社に再確認する。また、ケーブル等の埋設及び、その端末処理は監督員の立会いのうえで施工する。 (端末処理 ・ 耐塩用 ・ 一般用) 受 電 電 圧 柱上用上高圧気中 負荷閉閉器(PAS) 主 遮 断 装 置 変圧器設備容量 交流3相3線式 6.6kV 50Hz 定格電圧 7.2kV 定格電流 A kV 定格遮断電流 kA kVA× 台 電灯用 kVA× 台 高圧進相コンデンサ kVar × 台 直列リアクトル ・ 6% ・ 13% kVar × 台
5 構内情報通信網設備	ネットワーク機器を盤内等に収納する場合は、放熱、耐塵等を考慮する。
6 電力貯蔵設備	・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ (概要)
7 発電設備	・ ディーゼル発電装置 ・ ガスエンジン発電装置 ・ ガスタービン発電装置 ・ マイクロガスタービン発電装置 ・ 燃料電池発電装置 ・ 熱供給コージェネレーション発電装置 ・ 太陽光発電装置 ・ 風力発電装置 ・ (概要)
8 構内交換設備	局線電話の引込位置は、第一種電気通信事業者と打合せのうえで施工する。
9 自動火災報知設備、 ガス漏れ火災警報 設備、拡声設備 (非常放送設備)	(1) 所轄する消防署と打合せのうえ、各関係条例等に準じて施工する。 (2) 総合盤内の接続は端子を使用し、回路名を記入しておくものとする。 (3) ガス漏れ警報設備の動作試験は、原則としてガス納入業者立会いのうえで行うものとする。
10 昇降機設備	特記なき場合の施工は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。 なお、県営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書による。

2.4 取付高さ

壁付、壁掛型の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として次のとおりとする。
なお、盤、箱等で廊下、通路その他の利用者の通行する部分に設置するものについては、施工図により承諾を受けること。

名 称	測 点	取付高さ (mm)	
		一 般	市営住宅
スイッチ (一般)	床上～中心	1,300	1,200
〃 (身体障害者用)	〃	2,000	1,000
〃 (人感センサー切換用)	〃		2,000
エゼタ、電話用アクト、直列エゼット (一般)	〃	300	400
〃 (和室)	〃	150	200
〃 (台上)	台上～中心	150	500
〃 (台上)	床上～中心	500	500
防水型コンセント	〃	(上端1,900以下)1,500	(上端1,900以下)1,500
分電盤、制御盤、閉閉器箱	〃	900	900
呼出ボタン (身体障害者用)	〃	1,800	1,800
復帰ボタン (〃)	〃	2,000	2,000
廊下表示灯 (〃)	〃	2,000	2,000
端子盤	〃	(上端1,900以下)1,500	2,000

3 その他

3.1 他工事との取合区分
発注図又は工事区分表による。
3.2 図面上の縮尺
図面上の縮尺は、JIS A2版とした縮尺とする。
3.3 疑義
本特記仕様書、特別共通仕様書及び標準仕様書等において疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。

官公庁等打ち合わせ相手
打ち合わせ担当者 建築: _____
昇降機: _____
施設管理者: _____
電力会社: _____
電話会社: _____
ケーブルテレビ会社: _____
消防本部: _____

特記事項	



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



設計年月日
R 5 . 1 . 31
変更年月日

工事名称 川越市立川越高等学校・トイレ改修工事 (A・C棟)
図面名称 電気設備工事特記仕様書
Scale N・S

No. E-01



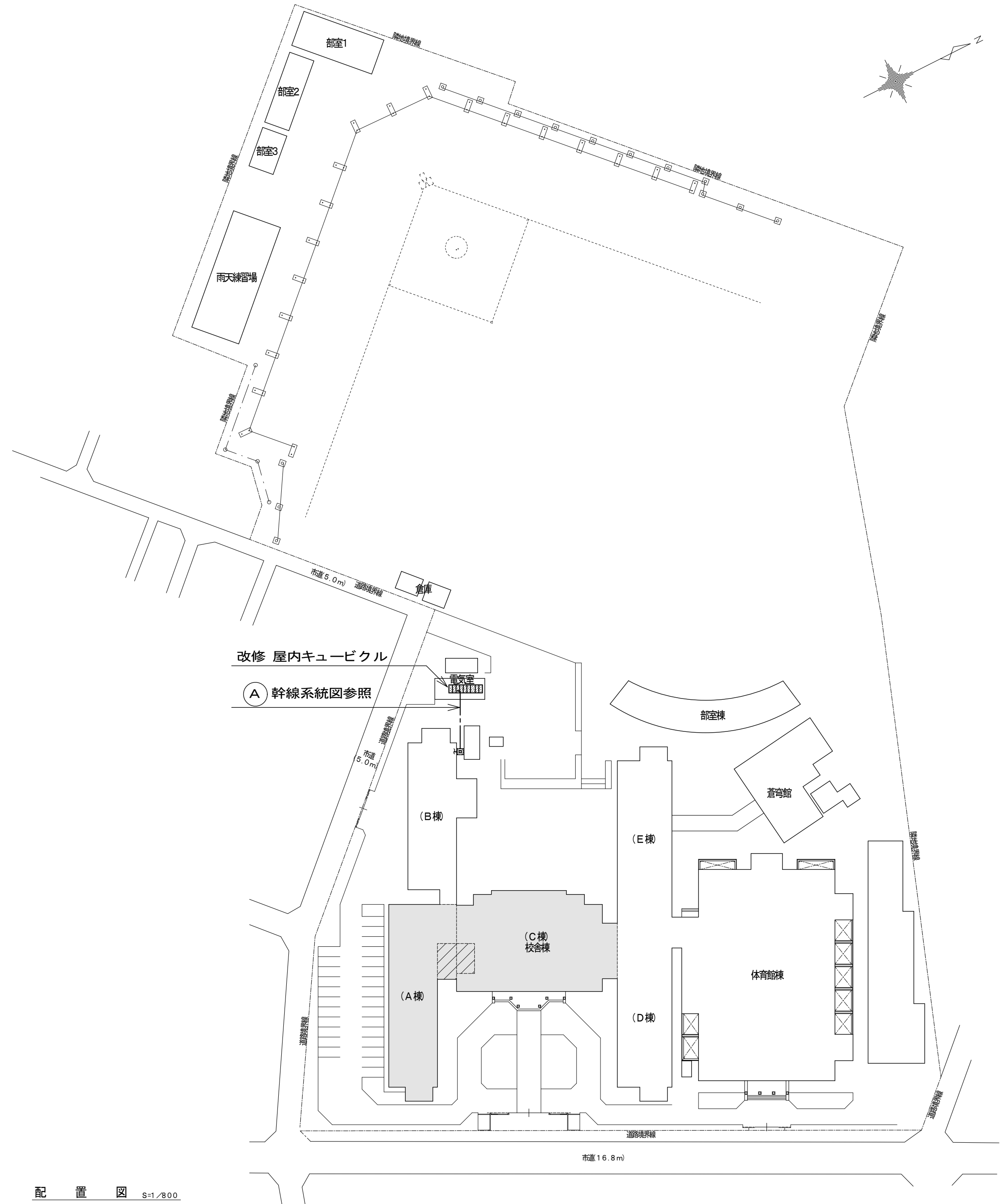
工事場所: 川越市立川越高等学校(川越市旭町2丁目3番地7)

案内図

Ⓐ

L13	CVT 100 [□]	既設	
L14	CVT 100 [□]	既設	
L21	CVT 100 [□]	既設	FER(150) 既設管路
L22	CVT 150 [□]	既設	
L18	CET 150 [□] , E22×2	新設	

既設ケーブルを引抜き新設ケーブルと一緒に引入れる。



配置図 S=1/800

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出

検印



設計



設計年月日

R 5 . 1 . 31

変更年月日

工事名称

川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)

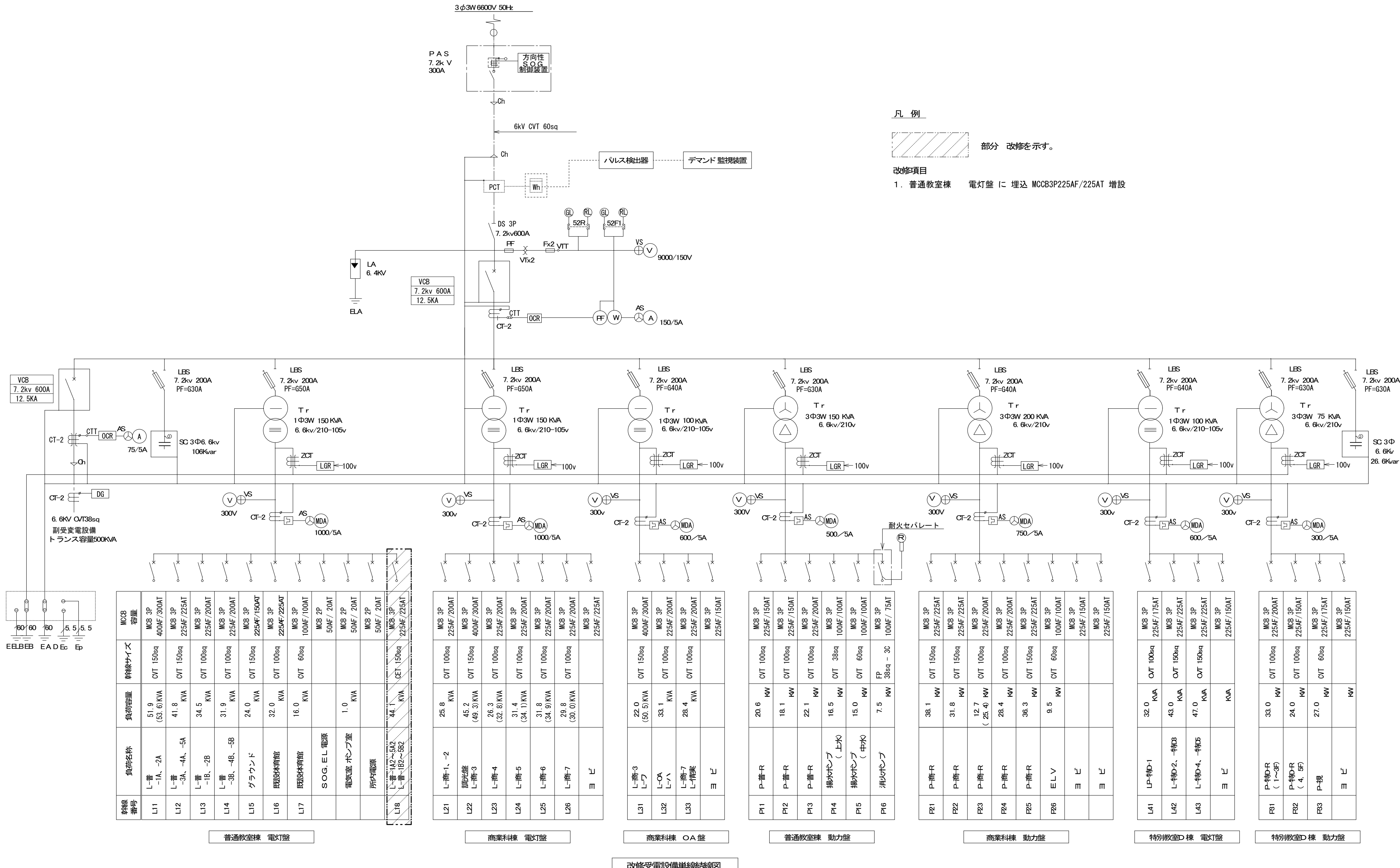
図面名称

案内図・配置図

Scale
S=1/800

No.

E-02



凡例

部分 改修を示す。

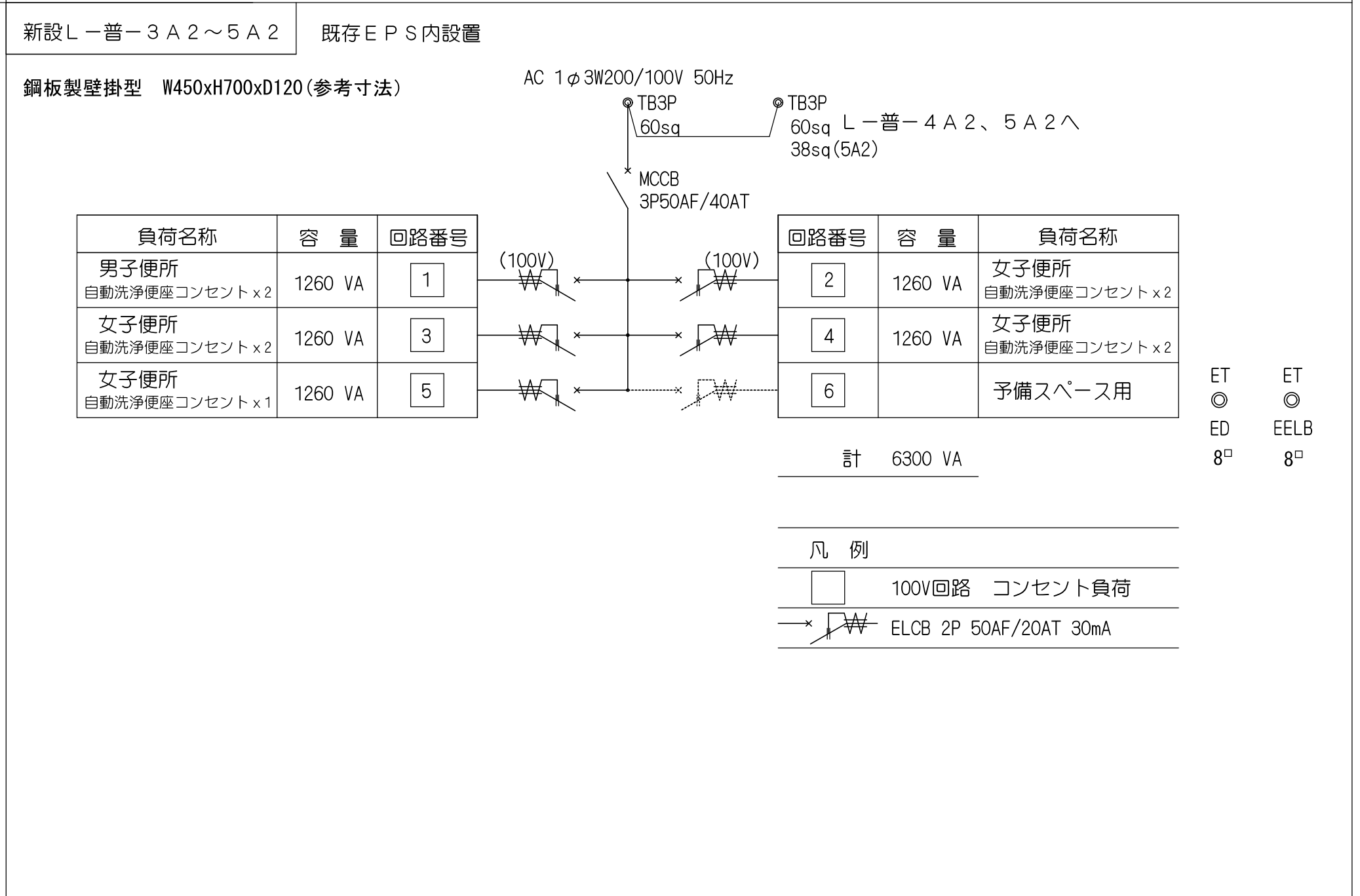
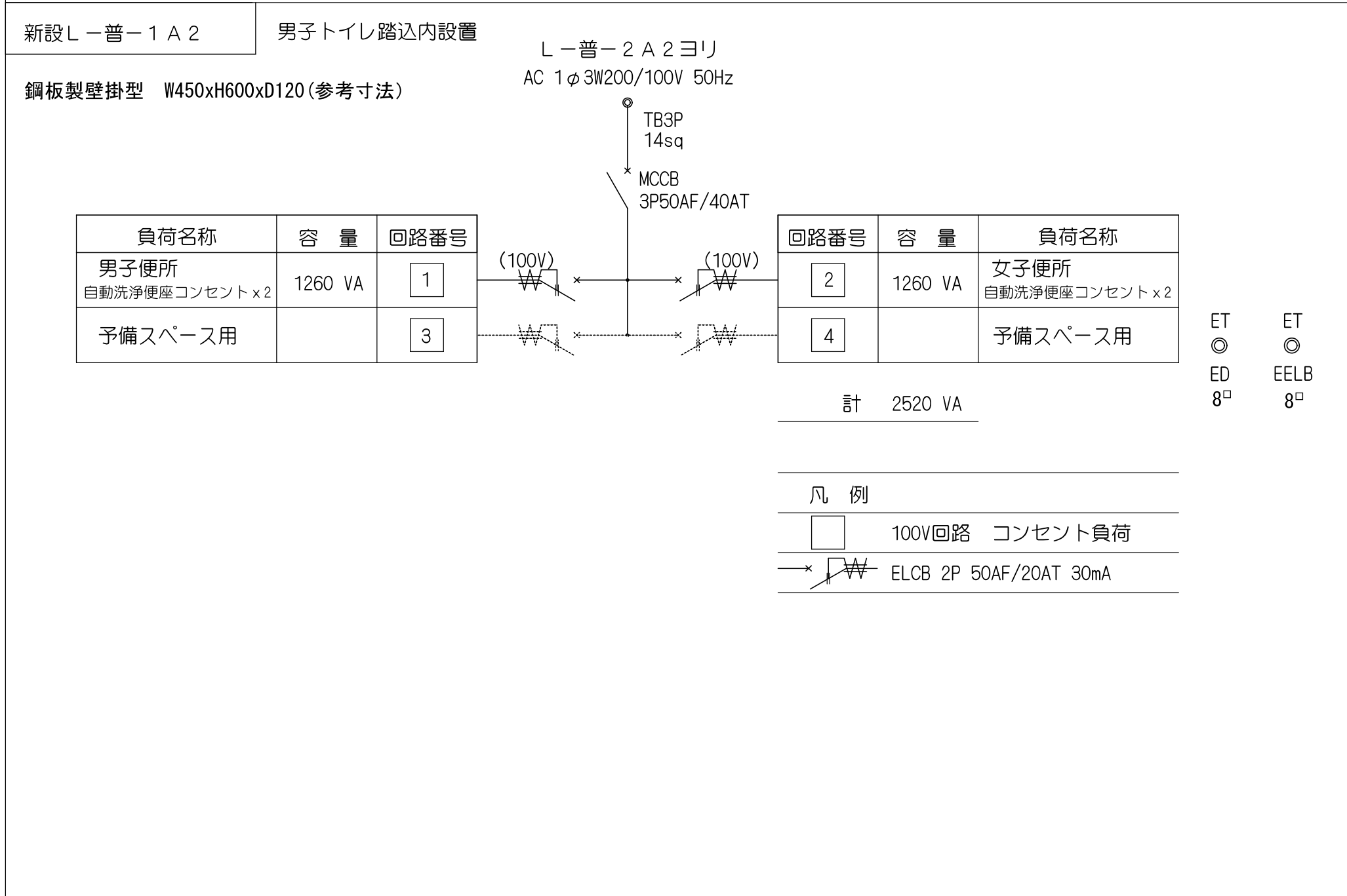
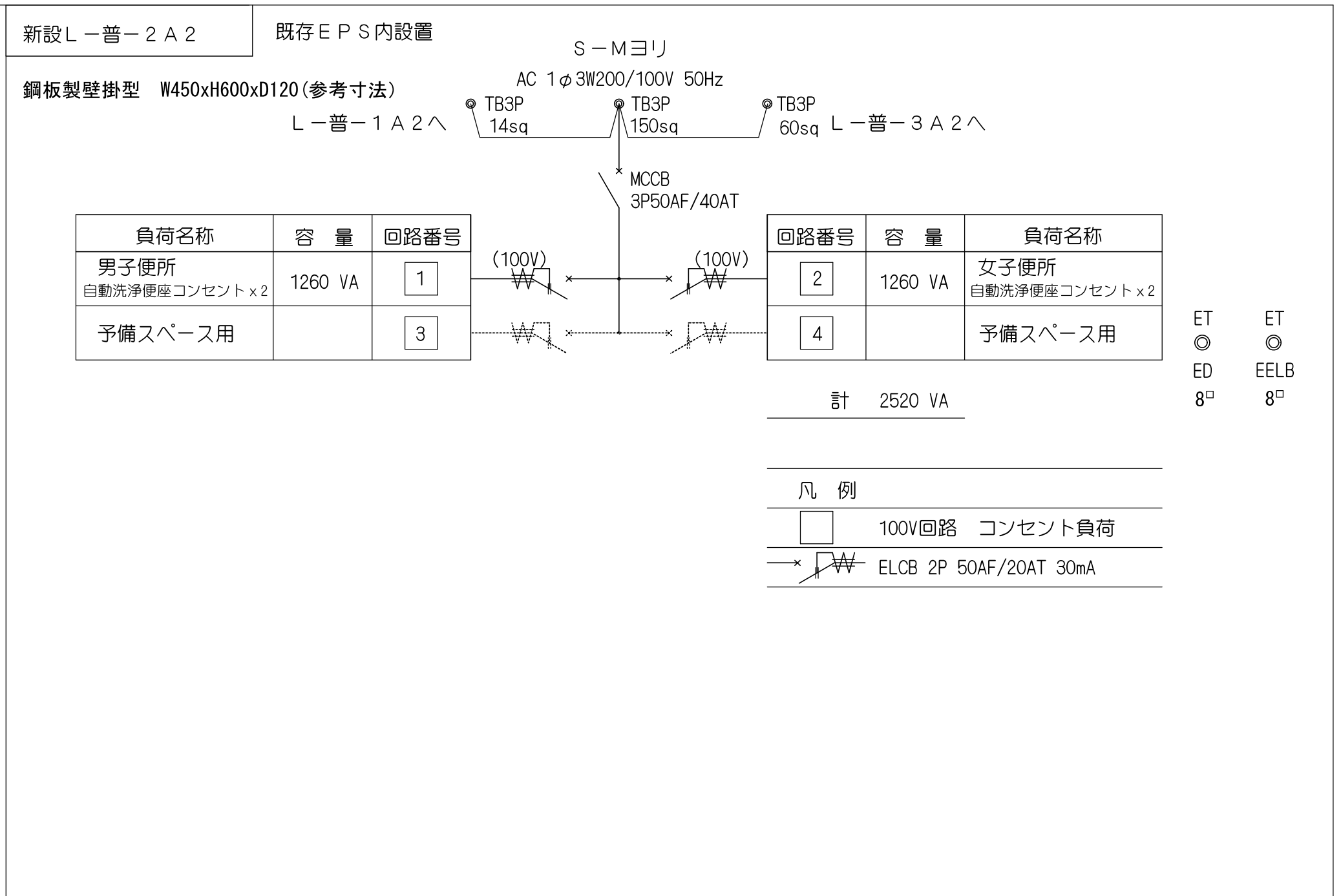
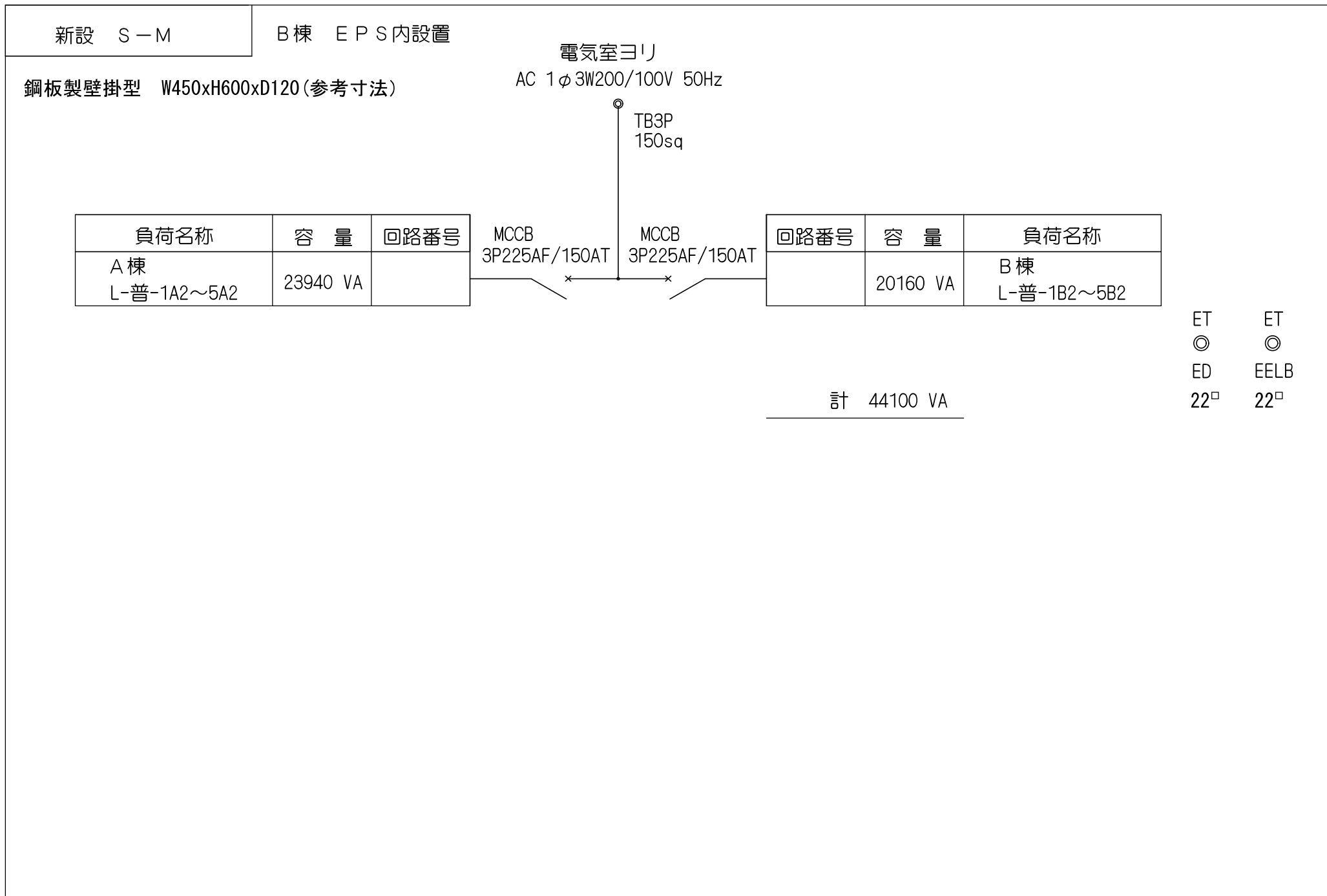
改修項目

- 1. 普通教室棟 電灯盤に埋込 MCCB3P225AF/225AT 増設

幹線番号	負荷名称	負荷容量	幹線サイズ	MCCB 容量
L11	L-普 -1A, -2A	51.9 (53.6)KVA	CVT 150sq	MCB 3P 400AF/300AT
L12	L-普 -3A, -4A, -5A	41.8 KVA	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
L13	L-普 -1B, -2B	34.5 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L14	L-普 -3B, -4B, -5B	31.9 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L15	グラウンド	24.0 KVA	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
L16	既設体育館	32.0 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/225AT
L17	既設体育館	16.0 KVA	CVT 60sq	MCB 3P 100AF/100AT
	S.O.G. E.L 電源			MCB 2P 50AF / 20AT
	電気室 ポンプ室	1.0 KVA		MCB 2P 50AF / 20AT
	所内電源			MCB 2P 50AF / 20AT
L18	L-普 -1A2~5A2 L-普 -1B2~5B2	44.1 KVA	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
L21	L-商-1, -2	25.8 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L22	調光盤 L-商-3	45.2 (49.3)KVA	CVT 150sq	MCB 3P 400AF/300AT
L23	L-商-4	26.3 (32.8)KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L24	L-商-5	31.4 (34.1)KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L25	L-商-6	31.8 (34.9)KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L26	L-商-7	29.8 (30.0)KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/225AT
L31	L-商-3 L-ア	22.0 (50.5)KVA	CVT 150sq	MCB 3P 400AF/300AT
L32	L-ア L-ハ	33.1 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
L33	L-商-7 L-情実	28.4 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/150AT
P11	P-普-R	20.6 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/150AT
P12	P-普-R	18.1 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/150AT
P13	P-普-R	22.1 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
P14	揚水ポンプ (上水)	16.5 kW	CVT 38sq	MCB 3P 100AF/100AT
P15	揚水ポンプ (中水)	15.0 kW	CVT 60sq	MCB 3P 100AF/100AT
P16	消火ポンプ	7.5 kW	FP 38sq - 3C	MCB 3P 100AF / 75AT
P21	P-商-R	38.1 kW	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
P22	P-商-R	31.8 kW	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
P23	P-商-R	12.7 (25.4) kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
P24	P-商-R	28.4 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
P25	P-商-R	36.3 kW	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
P26	E.L.V	9.5 kW	CVT 60sq	MCB 3P 100AF/100AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/150AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/150AT
L41	LP-特D-1	32.0 KVA	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/175AT
L42	L-特D-2, -特D3	43.0 KVA	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
L43	L-特D-4, -特D5	47.0 KVA	CVT 150sq	MCB 3P 225AF/225AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/150AT
F01	P-特D-R (1~3F)	33.0 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/200AT
F02	P-特D-R (4, 5F)	24.0 kW	CVT 100sq	MCB 3P 225AF/150AT
F03	P-視	27.0 kW	CVT 60sq	MCB 3P 225AF/175AT
	ヨロ			MCB 3P 225AF/150AT

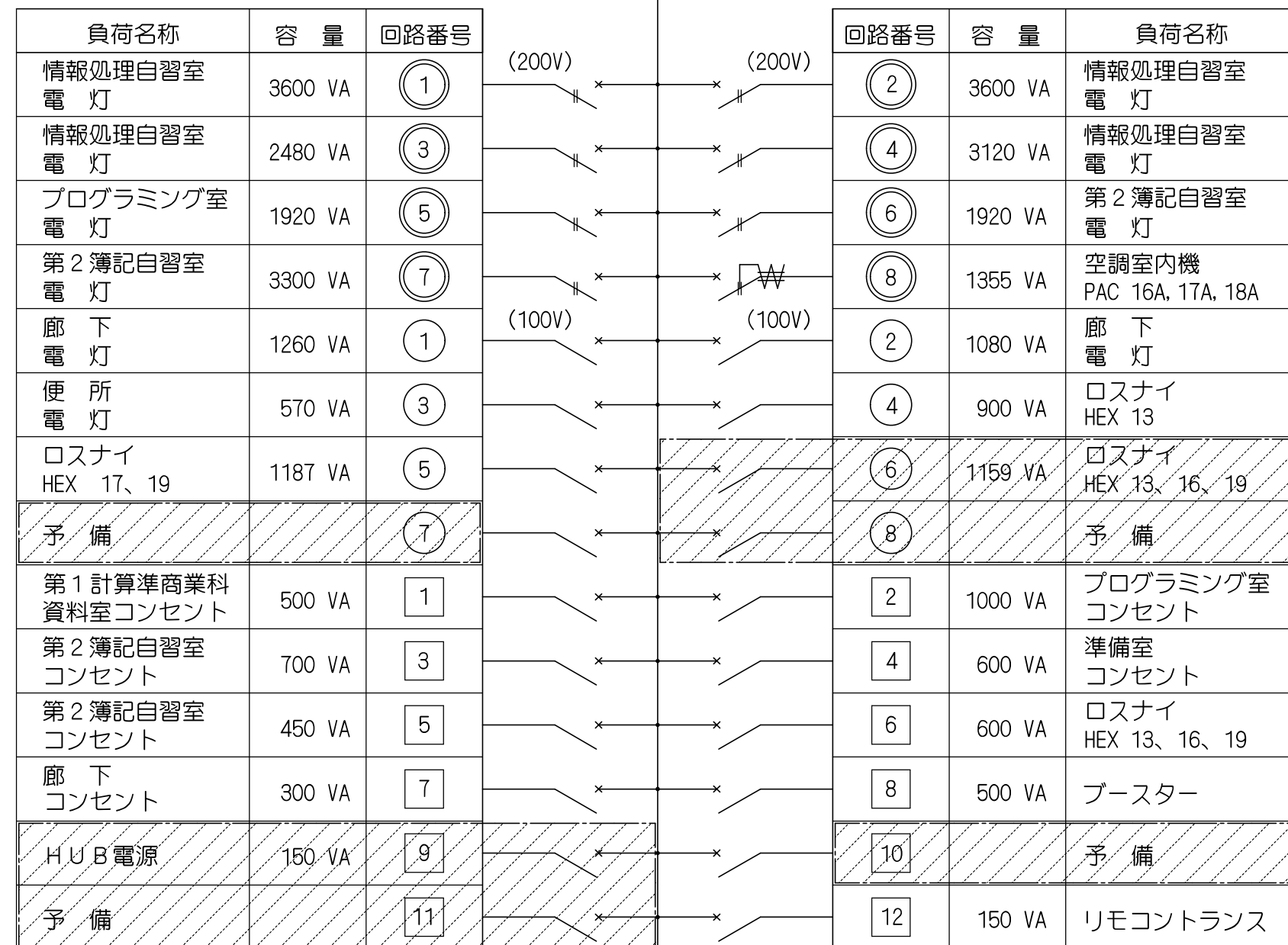
普通教室棟 電灯盤 商業科棟 電灯盤 商業科棟 O.A 盤 普通教室棟 動力盤 商業科棟 動力盤 特別教室D棟 電灯盤 特別教室D棟 動力盤

改修受変電設備単線接続図



鋼板製自立露出型 W600xH1850xD250

AC 1φ3W200/100V 50Hz
CVT 100□
MCCB
3P225AF/200AT



計 32401 VA

NSx20

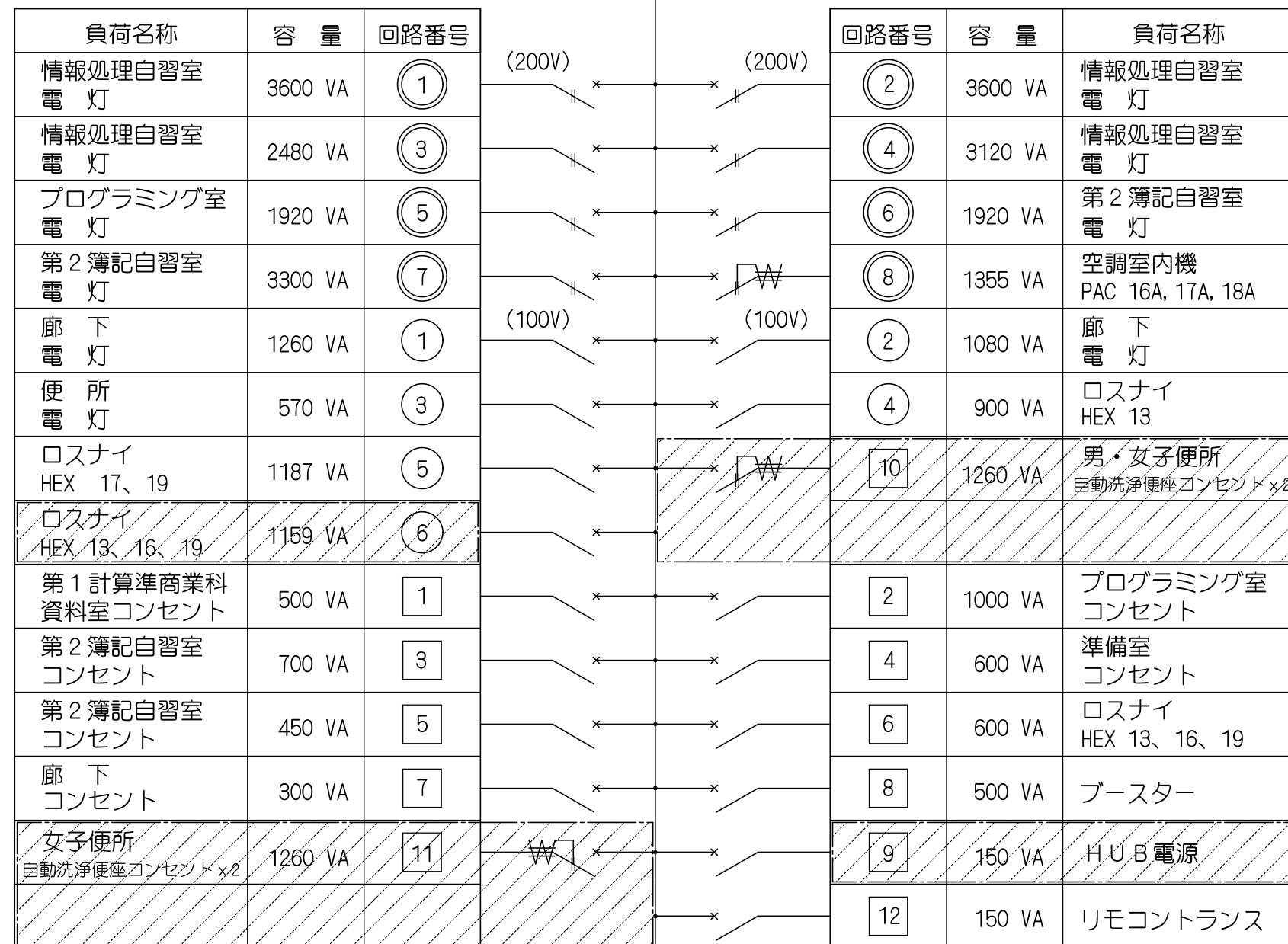
凡例

- 200V回路
- 100V回路 電灯負荷
- 100V回路 コンセント負荷
- ✕ MCCB 2P 50AF/20AT
- ✕ ELCB 2P 50AF/20AT 30mA
- ✕ MCCB 1P 50AF/20AT
- ▨ 撤去、改修部分を示す。

ET
◎
ED
5.5□

鋼板製自立露出型 W600xH1850xD250

AC 1φ3W200/100V 50Hz
CVT 100□
MCCB
3P225AF/200AT



計 32401 VA

NSx16

凡例

- 200V回路
- 100V回路 電灯負荷
- 100V回路 コンセント負荷
- ✕ MCCB 2P 50AF/20AT
- ✕ ELCB 2P 50AF/20AT 30mA
- ✕ MCCB 1P 50AF/20AT
- ▨ 改修部分を示す。

ET
◎
EELB
5.5□

現況 L-商-7

鋼板製自立露出型 W600xH1850xD250

AC 1φ3W200/100V 50Hz

AC 1φ3W200/100V 50Hz

CVT 100[□]

CVT 60[□]

電灯負荷

MCCB
3P225AF/175AT

負荷名称	容量	回路番号
第1総合自習室 電灯		①
...		...
予備		7

(200V)

(200V)

回路番号	容量	負荷名称
②		第1総合自習室 電灯
...		...
8		リモコンランス

NSx18

計 29741 VA

コンセント負荷

MCCB
3P225AF/150AT

負荷名称	容量	回路番号
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	500 VA	1
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	900 VA	3
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	5
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	7
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	1050 VA	9
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	11
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	13
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	15
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	17
予備		19
予備		21

x

x

回路番号	容量	負荷名称
2	600 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
4	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
6	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
8	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
10	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
12	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
14	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
16	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
18	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
20		予備
22		予備

NSx22

計 14000 VA

ET
◎
ED
5.5[□]

凡例

□ 100V回路 コンセント負荷

→ x ELCB 2P 50AF/20AT 30mA

→ x MCCB 1P 50AF/20AT

▨ 撤去、改修部分を示す。

改修 L-商-7

鋼板製自立露出型 W600xH1850xD250

AC 1φ3W200/100V 50Hz

AC 1φ3W200/100V 50Hz

CVT 100[□]

CVT 60[□]

電灯負荷

MCCB
3P225AF/175AT

負荷名称	容量	回路番号
第1総合自習室 電灯		①
...		...
予備		7

(200V)

(200V)

回路番号	容量	負荷名称
②		第1総合自習室 電灯
...		...
8		リモコンランス

NSx18

計 29741 VA

コンセント負荷

MCCB
3P225AF/150AT

負荷名称	容量	回路番号
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	500 VA	1
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	900 VA	3
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	5
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	7
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	1050 VA	9
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	11
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	13
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	15
第1総合自習室 OAフロア-コンセント	750 VA	17
男・女子便所 自動洗浄便座コンセント×2	1260 VA	19
予備		21

x

x

回路番号	容量	負荷名称
2	600 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
4	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
6	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
8	900 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
10	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
12	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
14	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
16	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
18	750 VA	第1総合自習室 OAフロア-コンセント
20	1260 VA	女子便所 自動洗浄便座コンセント×2
22		予備

NSx20

計 16520 VA

ET
◎
ED
5.5[□]

凡例

□ 100V回路 コンセント負荷

→ x ELCB 2P 50AF/20AT 30mA

→ x MCCB 1P 50AF/20AT

▨ 撤去、改修部分を示す。

特記事項



齊藤出建築設計室

一級建築士 第326081号 齋藤出



設計

設計年月日
R 5. 1. 31

変更年月日

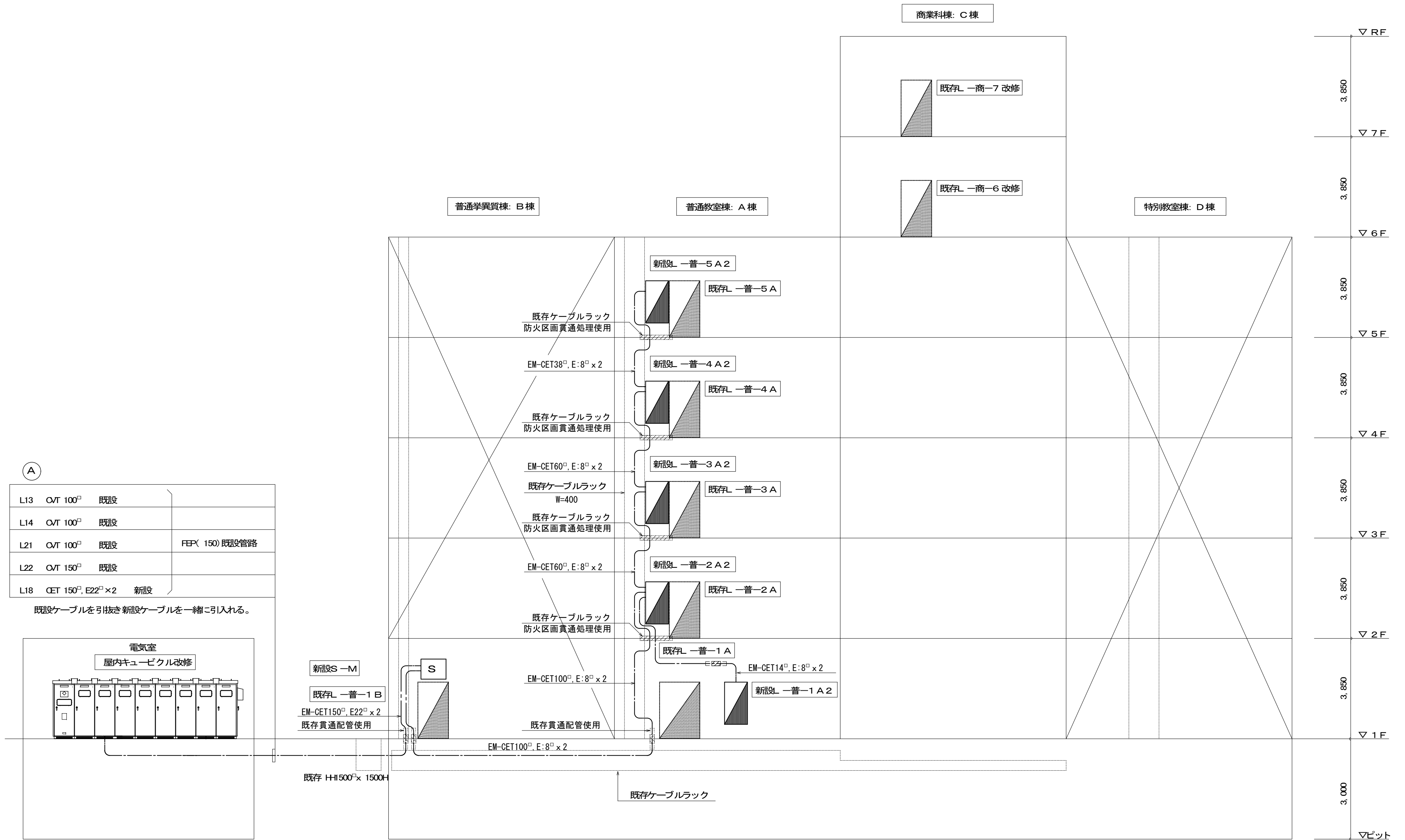
工事名称 川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)

図面名称 現況・改修 C棟 盤絡図(2)

Scale
N・S

No.

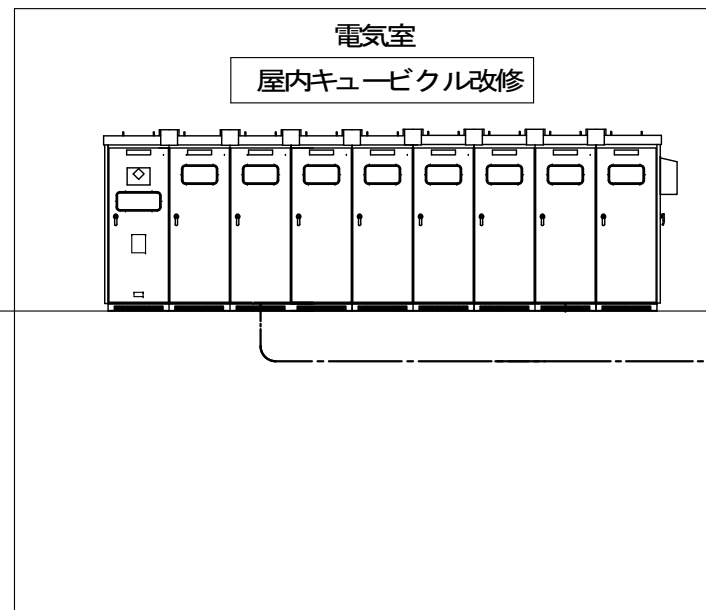
E-06



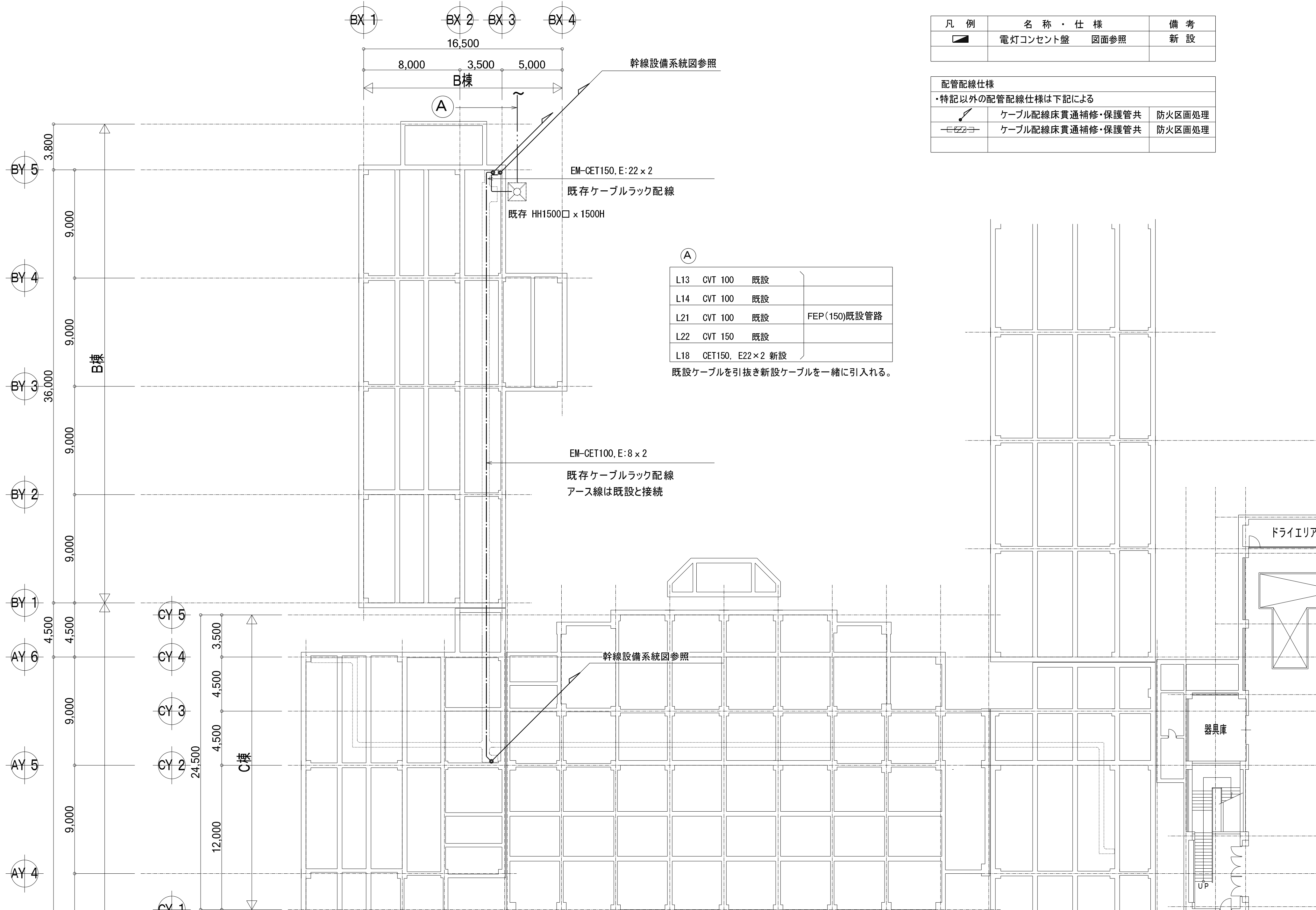
(A)

L13	CVT 100 [□]	既設	
L14	CVT 100 [□]	既設	
L21	CVT 100 [□]	既設	FEP(150)既設管路
L22	CVT 150 [□]	既設	
L18	CET 150 [□] , E22 [□] × 2	新設	

既設ケーブルを引抜き新設ケーブルと一緒に引入れる。



幹線設備系統図 : 工事範囲外を示す

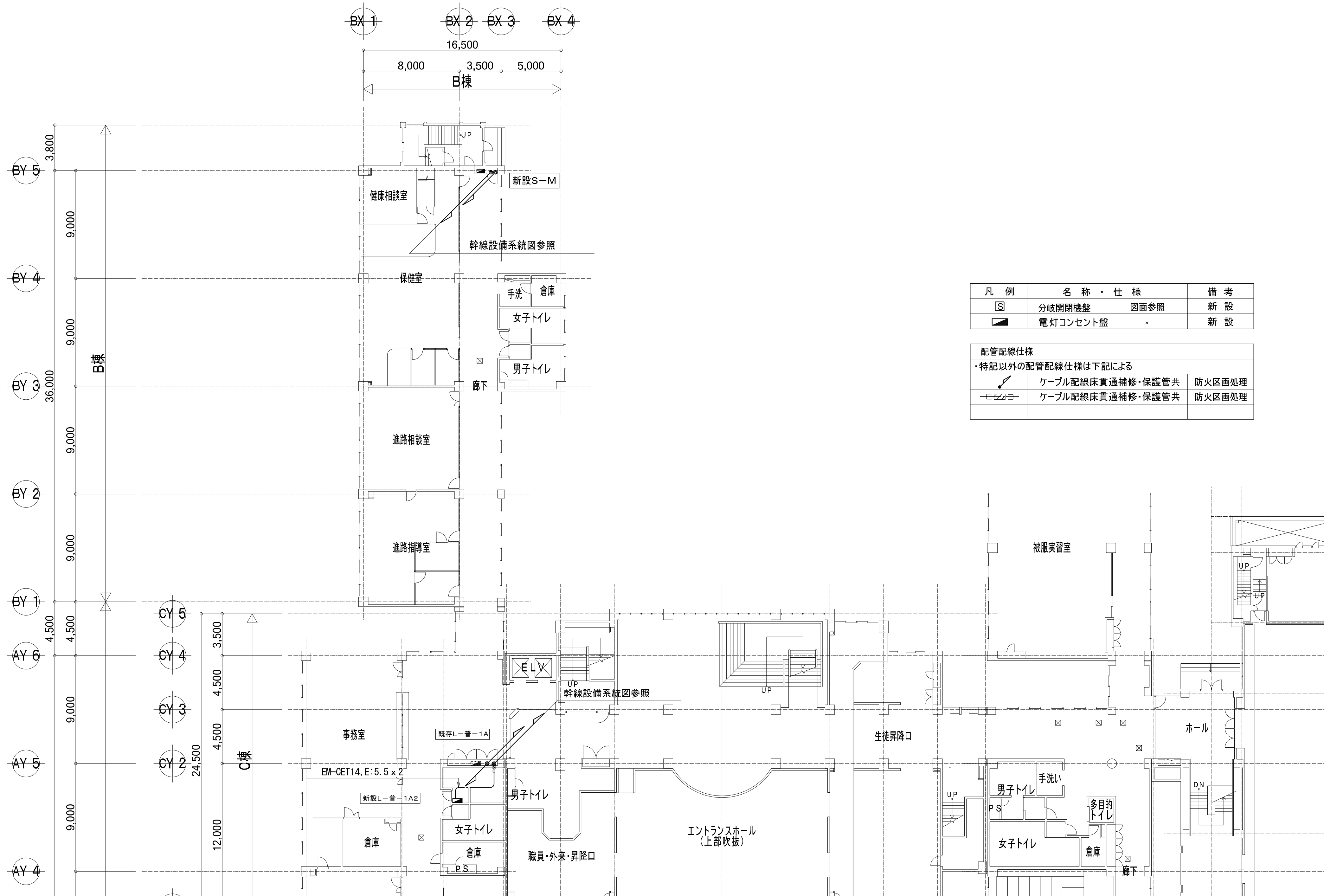


凡例	名称・仕様	備考
■	電灯コンセント盤 図面参照	新設

配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
↗	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
↖	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理

A				
L13	CVT 100	既設		
L14	CVT 100	既設		
L21	CVT 100	既設	FEP(150)既設管路	
L22	CVT 150	既設		
L18	CET150, E22x2	新設		

既存ケーブルを引抜き新設ケーブルと一緒に引入れる。



凡例	名称・仕様	備考
□	分岐開閉機盤 図面参照	新設
■	電灯コンセント盤 "	新設

配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
—	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
—	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理

BX 1 BX 2 BX 3 BX 4

16,500

8,000 3,500 5,000

B棟

BY 5 3,800
9,000
BY 4 9,000
BY 3 36,000
9,000
BY 2 9,000
BY 1 4,500
AY 6 4,500
9,000
AY 5 9,000
AY 4 9,000
CY 5 4,500
CY 4 3,500
CY 3 4,500
CY 2 4,500
CY 1 24,500
12,000
C棟

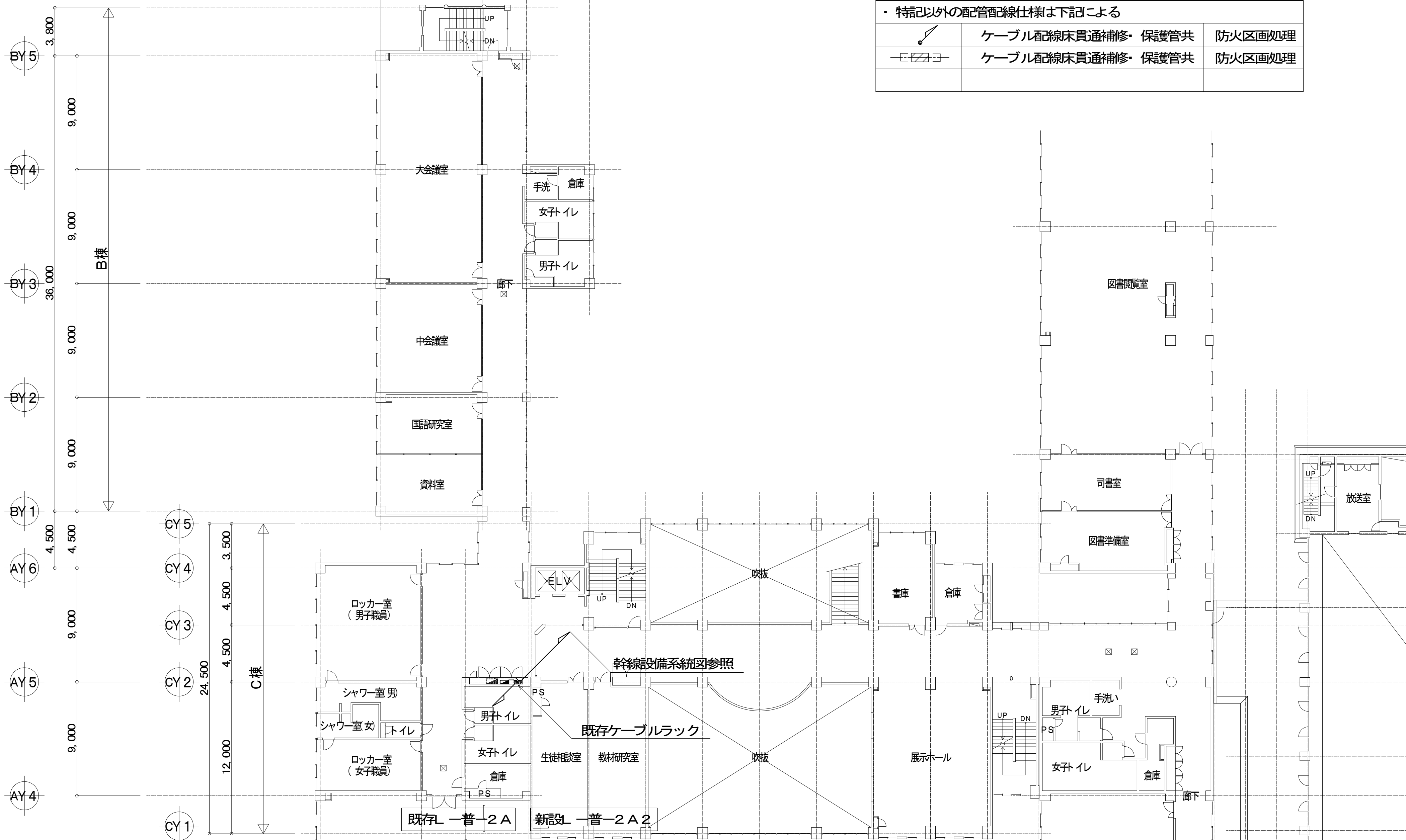
B棟

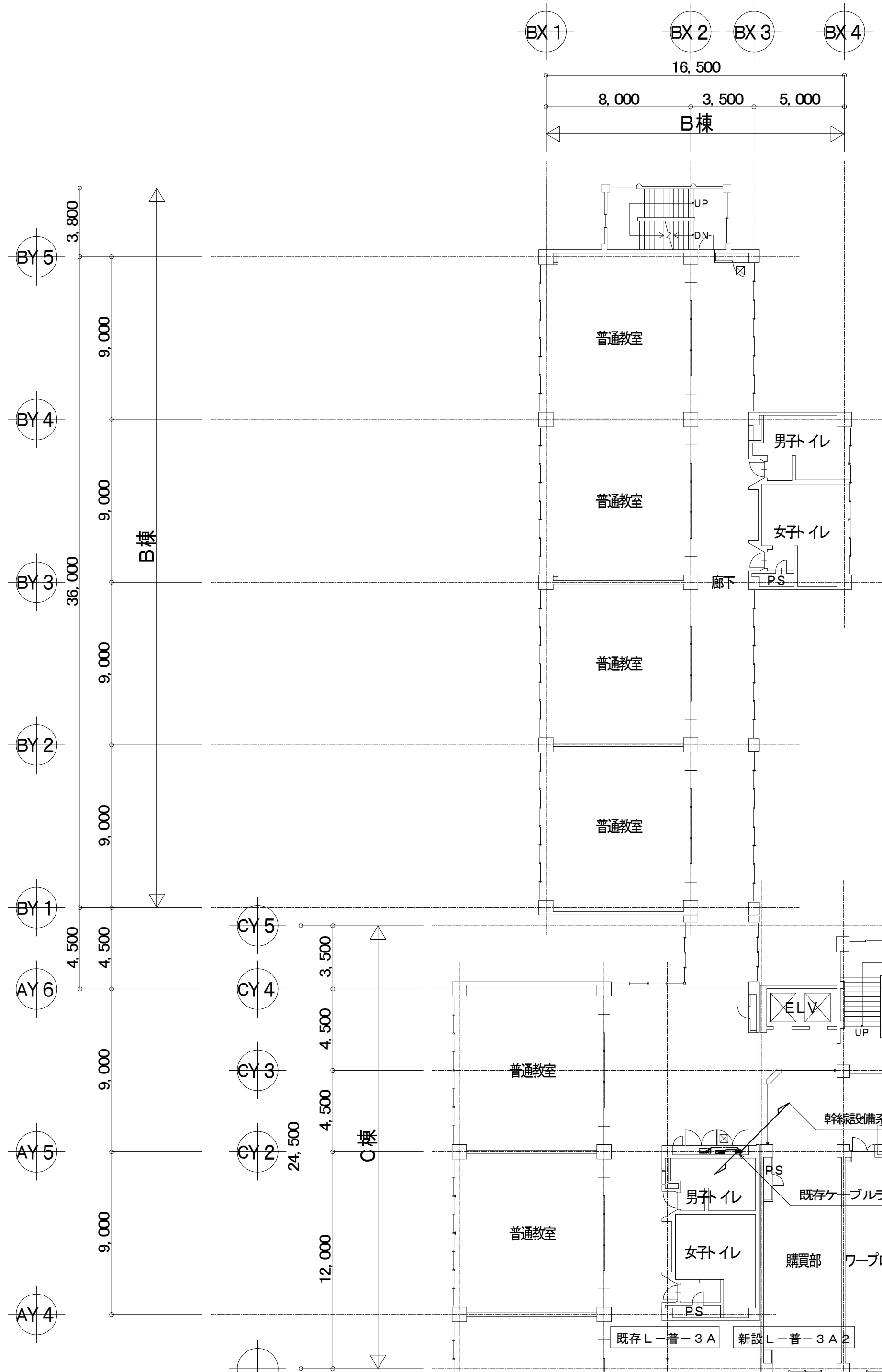
C棟

既存L-普-2A 新設L-普-2A2

凡例	名称・仕様	備考
■	電灯コンセント盤 図面参照	新設

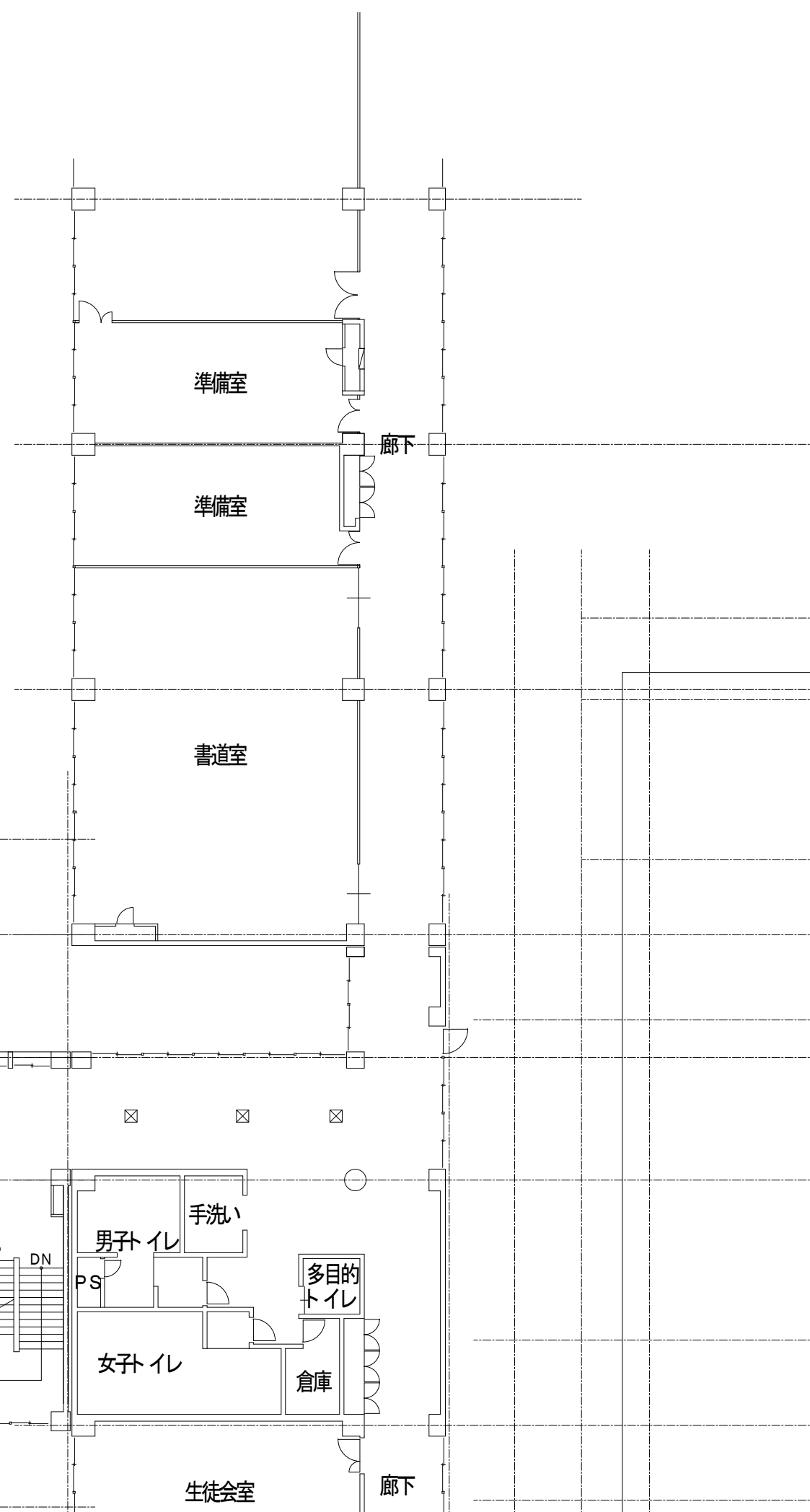
配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
↗	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
—[]—	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理





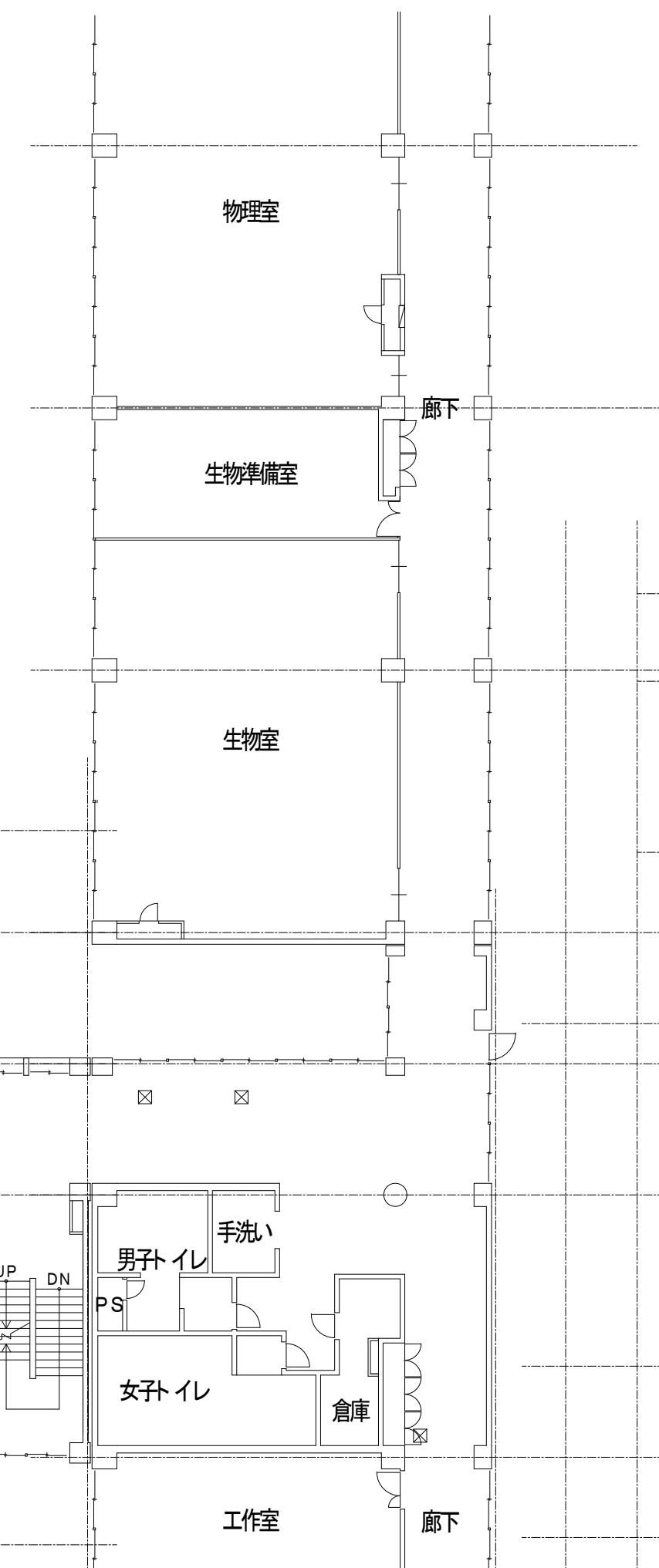
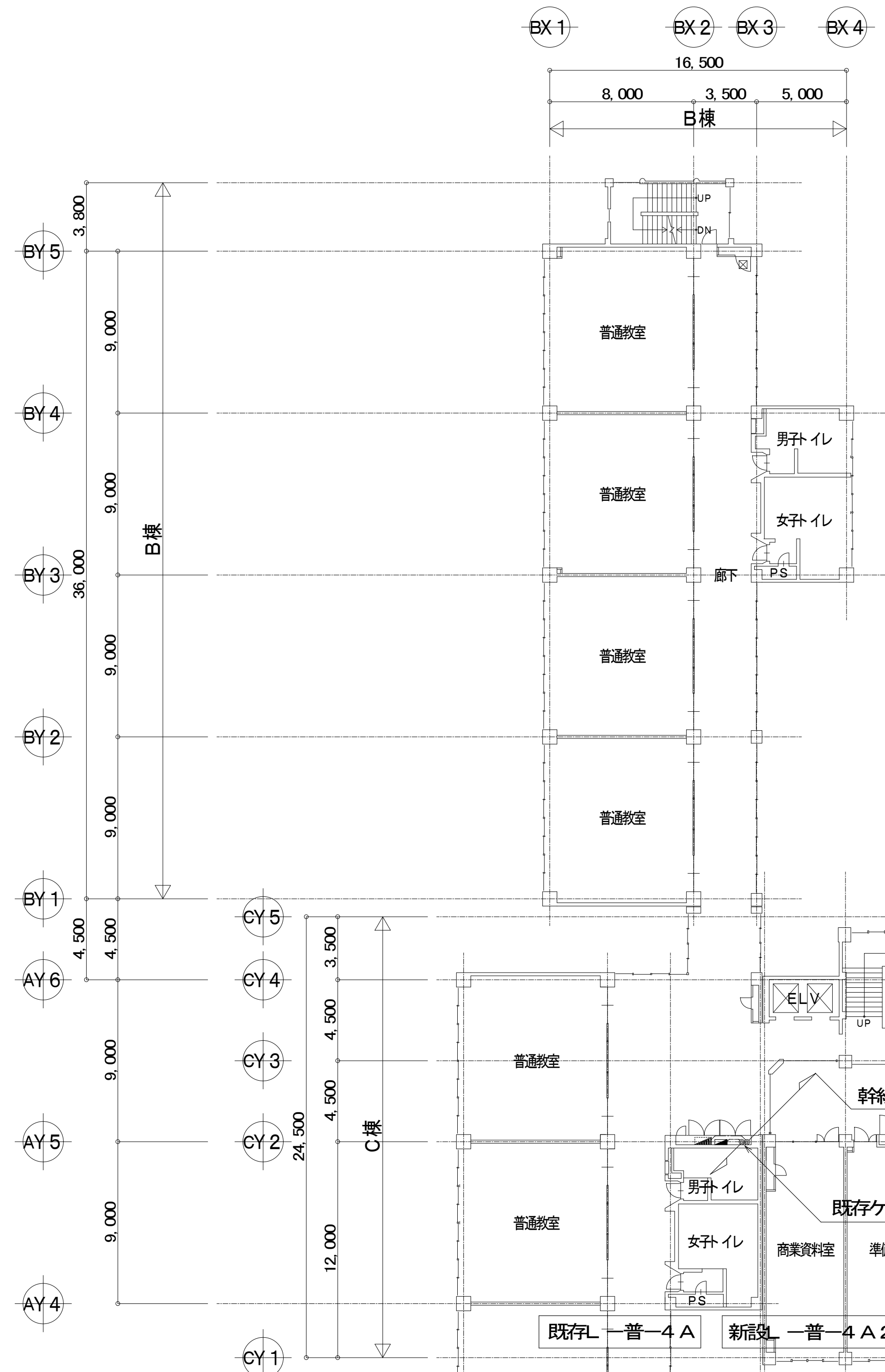
凡例	名称・仕様	備考
■	電灯コンセント盤 図面参照	新設

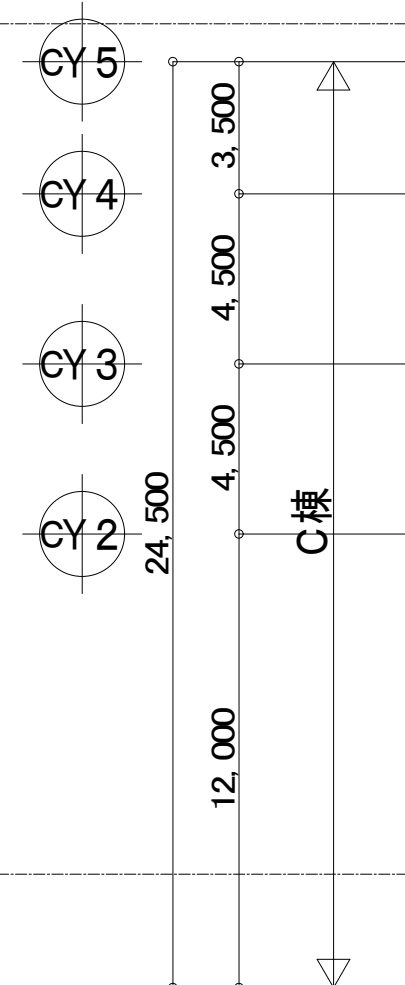
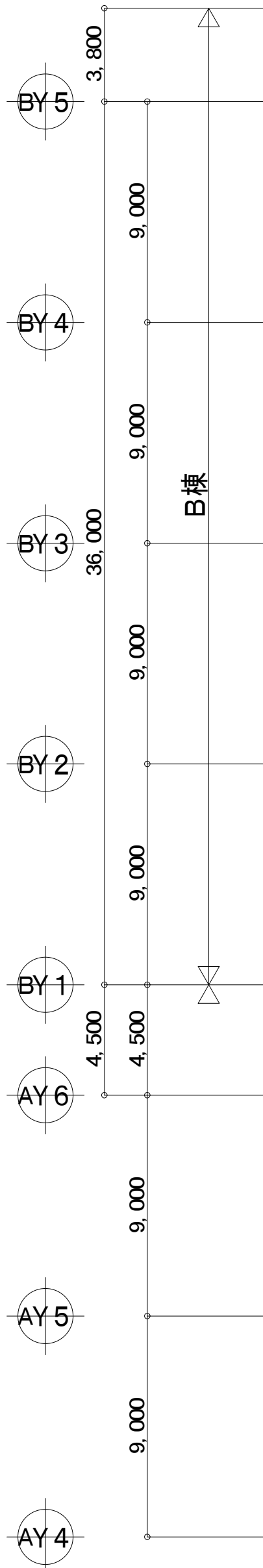
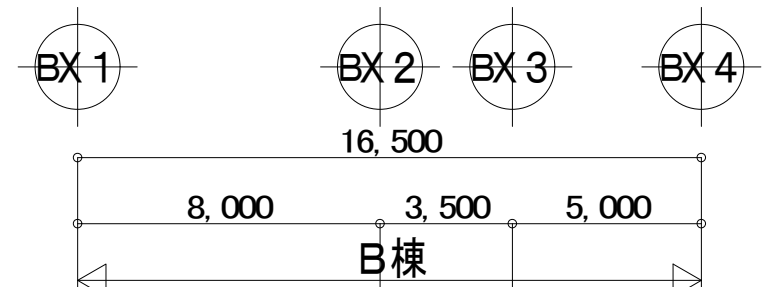
配管改修仕様		
・特記以外の配管改修仕様は下記による		
↗	ケーブル改修床貫通補修・保護管共	防火区画処理
—E2230	ケーブル改修床貫通補修・保護管共	防火区画処理



凡例	名称・仕様	備考
	電灯コンセント盤 図面参照	新設

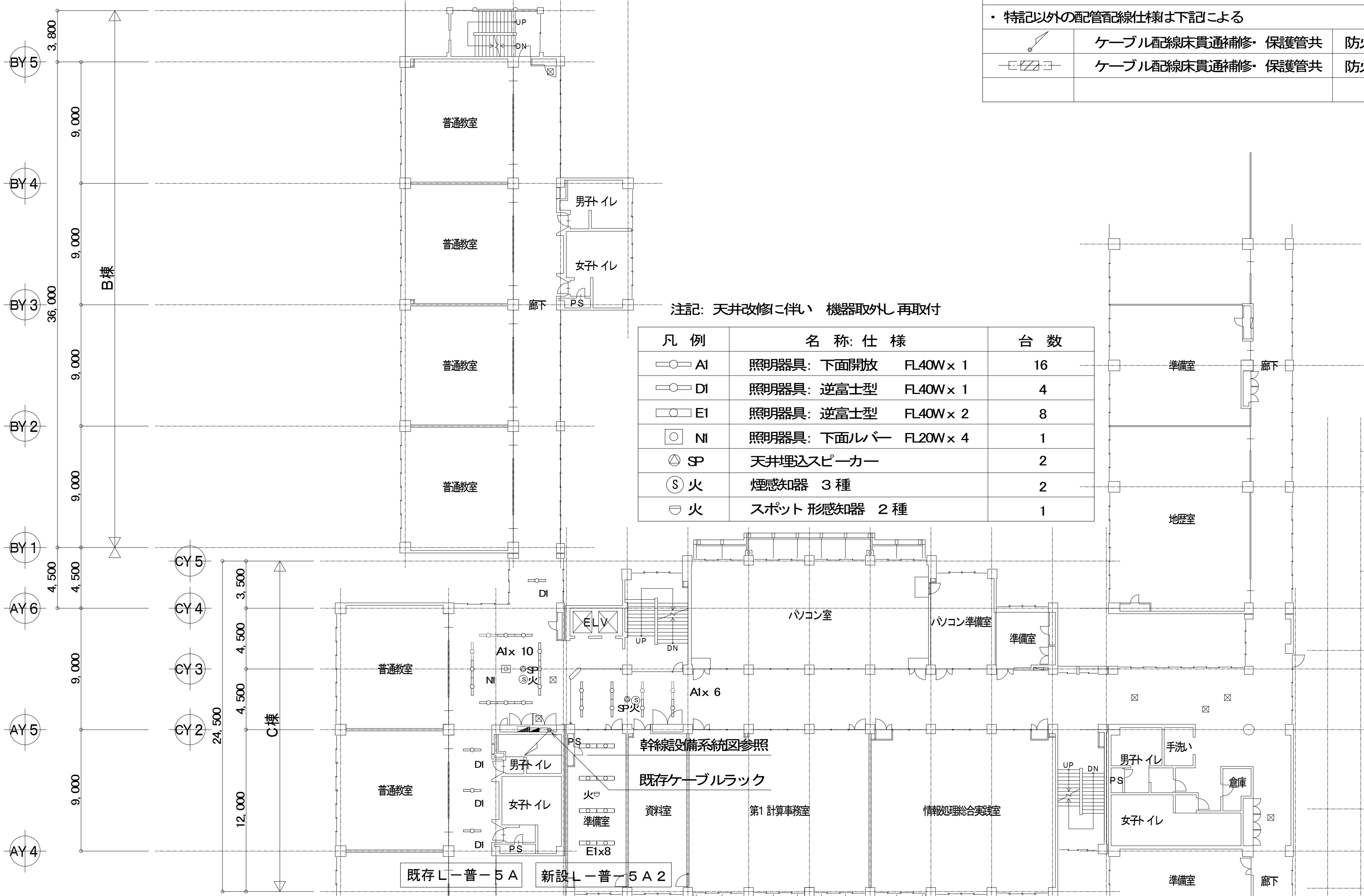
配管配線仕様		
・ 特記以外の配管配線仕様は下記による		
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理





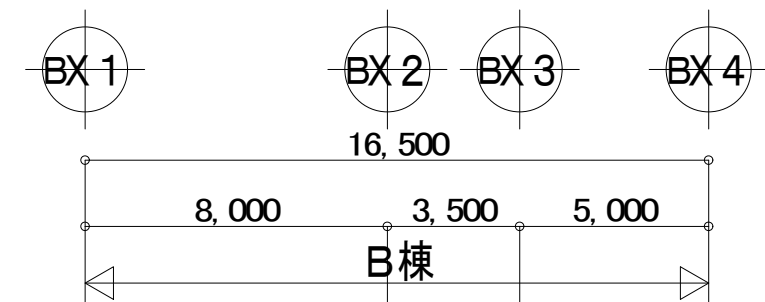
凡例	名称・仕様	備考
	電灯コンセント盤 図面参照	新設

配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理



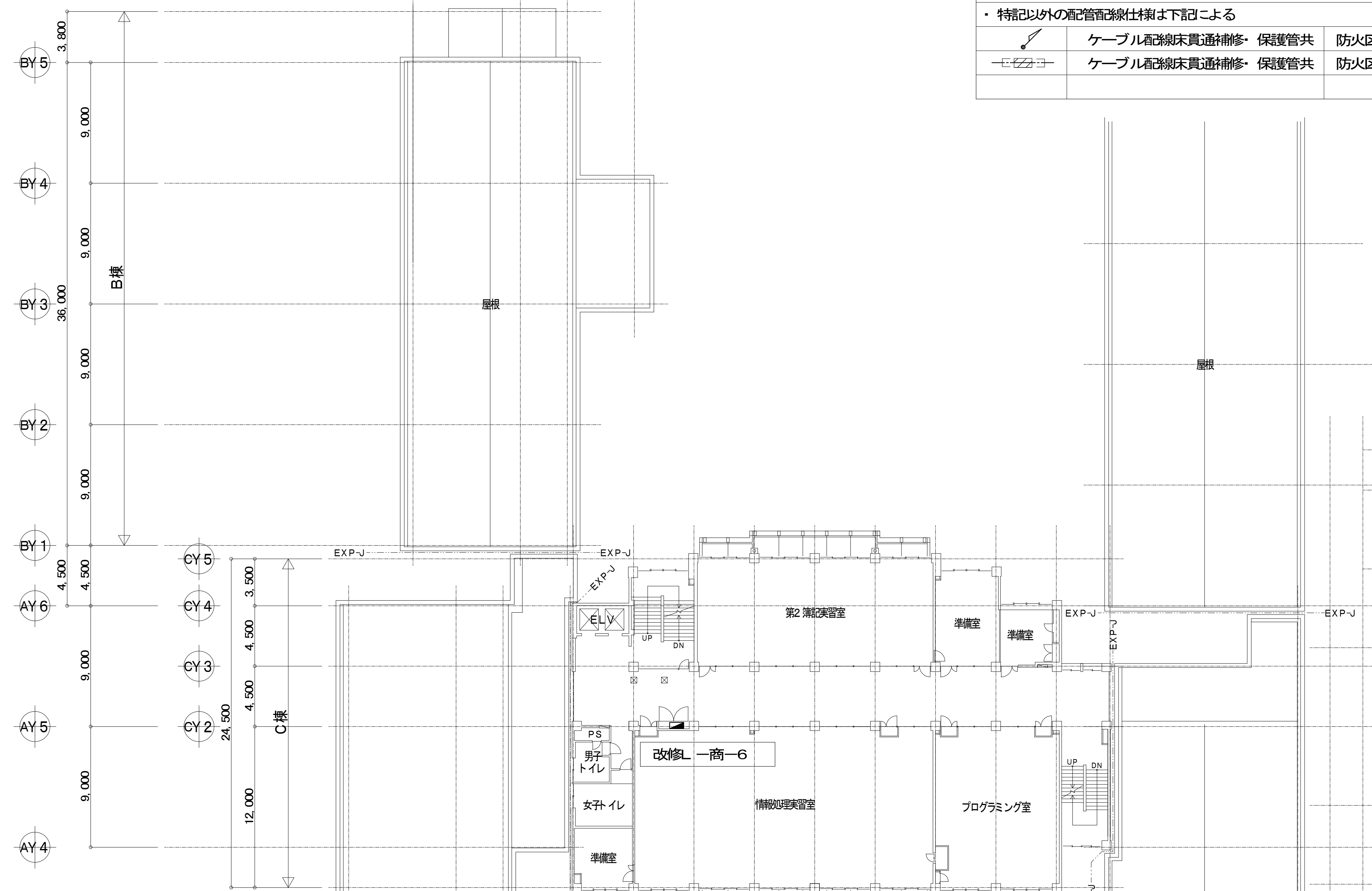
注記: 天井改修に伴い、機器取外し再取付

凡例	名称・仕様	台数
	照明器具: 下面開放 FL40W x 1	16
	照明器具: 逆富士型 FL40W x 1	4
	照明器具: 逆富士型 FL40W x 2	8
	照明器具: 下面レバー FL20W x 4	1
	天井埋込スピーカー	2
	煙感知器 3種	2
	スポット形感知器 2種	1



凡例	名称・仕様	備考
	改修電灯コンセント盤 図面参照	改修

配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理

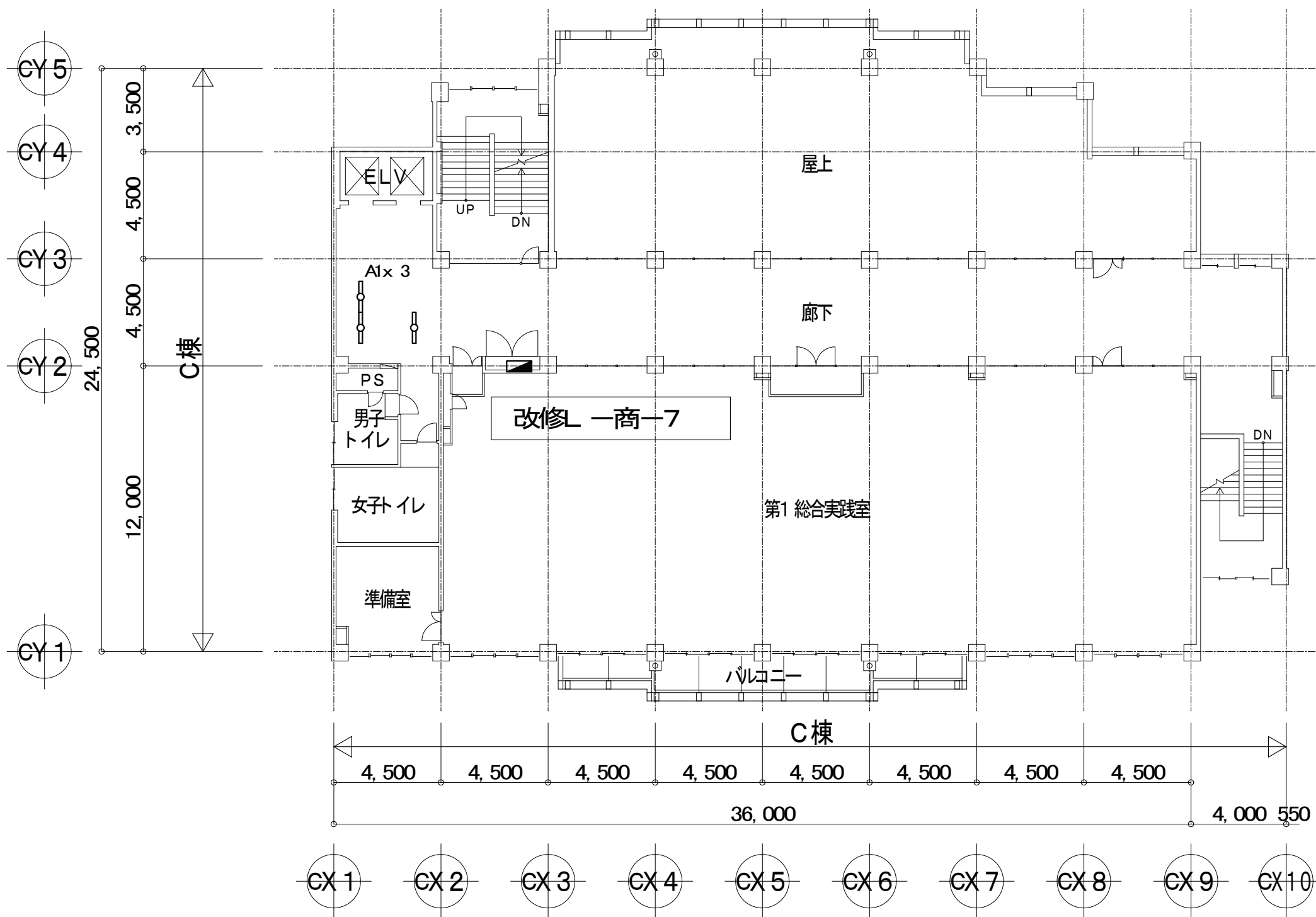
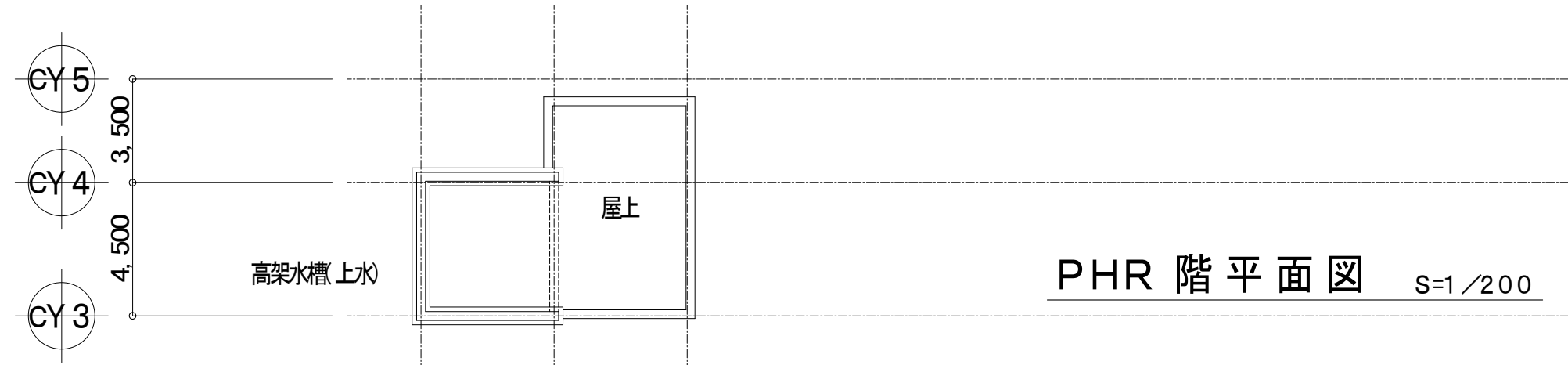


凡例	名称・仕様	備考
	改修電灯コンセント盤 図面参照	改修

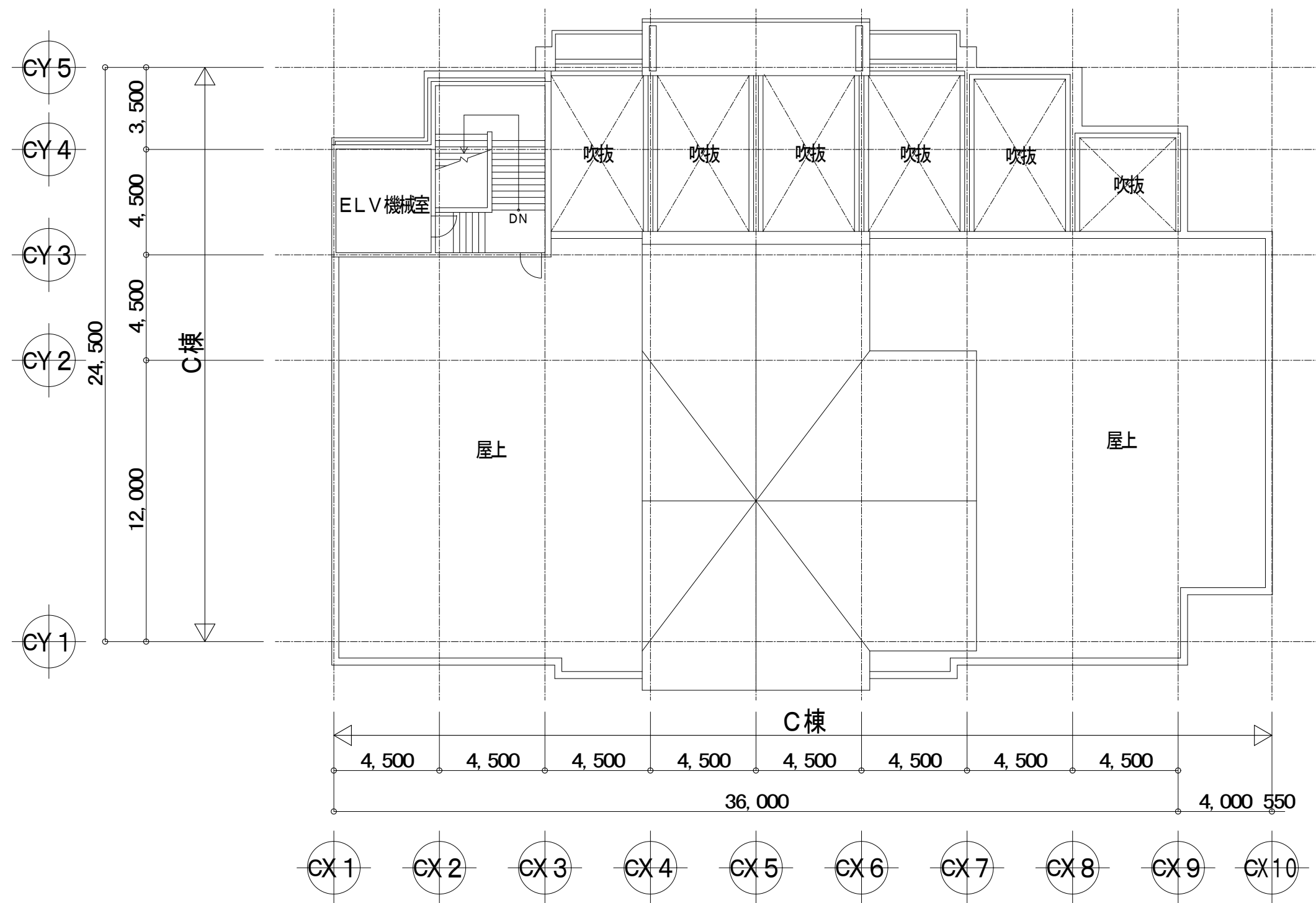
配管配線仕様		
・特記以外の配管配線仕様は下記による		
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理
	ケーブル配線床貫通補修・保護管共	防火区画処理

注記: 天井改修に伴い、機器取外し再取付

凡例	名称:仕様	台数
	照明器具:下面開放 FL40W x 1	3



7階平面図 S=1/200



R階平面図 S=1/200

改修前・後 電灯コンセント 設備 凡例・照明姿図

改修前 (全て撤去)

A1	FL40Wx1 (下面開放)	D1	FL40Wx1 (逆富士型)	E1	FL40Wx2 (逆富士型)	G1	FL40Wx1 (トラフ型)	Q1	FL40Wx1 (ブラケット)
		D2	FL20Wx1 (逆富士型)	E2	FL20Wx2 (逆富士型)			Q2	FL20Wx1 (ブラケット)
b	FDL18Wx1 (ダウンライト)	e	IL40Wx1 (ブラケット)	f	IL40Wx1 (ブラケット)	V1	FL10Wx1 (使用中灯)		

凡例	名称・仕様	備考
	電灯分電盤	図面参照
	蛍光灯 天井付形	撤去
	蛍光灯 壁付形	撤去
	蛍光灯 壁付形	撤去
	蛍光灯 ダウンライト	撤去
	ジャンクションボックス	図面参照
	タンブラスイッチ 1P15A 金属プレート	撤去
	タンブラスイッチ 3W5A ”	撤去
	タンブラスイッチ 1P15A 確認表示灯付	撤去

<撤去工事特記事項>

- ・照明器具、配線器具及び配管配線は撤去とする。(×表示: 撤去を示す) 但し、駆体内配管、改修後再使用する配管、位置ボックスについては現状維持とする。
- ・特記なき配線は、下記とする。保護管は立下げ部を示す。

	IV2.0x3	保護管(FF16)
	IV2.0x3	” ”
	IV2.0x4	” ”
	IV2.0x5	” (FF22)
	WF2.0-2C	二重天井内直線 保護管(FF16)
	WF2.0-3C (10-E)	” ” ”
	WF2.0-2Cx2(10-E)	保護管(FF28)
	××	配管、配線撤去
	(☆)	(☆): 既存配管配線再利用(現状維持)を示す
	(テ)	(テ): 既存配線のみ撤去、配管再利用を示す

改修後 (全て新設)

h	LEDダウンライト 60形 LRS1-05	j	ひとセンサ付LEDダウンライト 60形 LDS1-LRS1-05
---	--------------------------	---	-------------------------------------

凡例	名称・仕様	備考
	電灯分電盤	図面参照
	LED灯 ダウンライト	新設
	LED灯 ダウンライト (センサー付)	新設
	タンブラスイッチ 1P15A 金属プレート	新設
	埋込コンセント 2P15A x1 接地端子付	新設
	埋込コンセント 2P15A x2 接地端子付	新設
	人感センサー 親機 (広角検知)	新設
	人感センサー 子機 (換気扇連動)	新設
	人感センサー 子機	新設
	人感センサー用スイッチ(2回路)	新設
	プルボックス 200x200x100 (樹脂製)	新設
	ジャンクションボックス (既存利用)	
	ケーブル直線配管保護	新設
	防火区画貫通処理(国土交通大臣認定工法)	新設

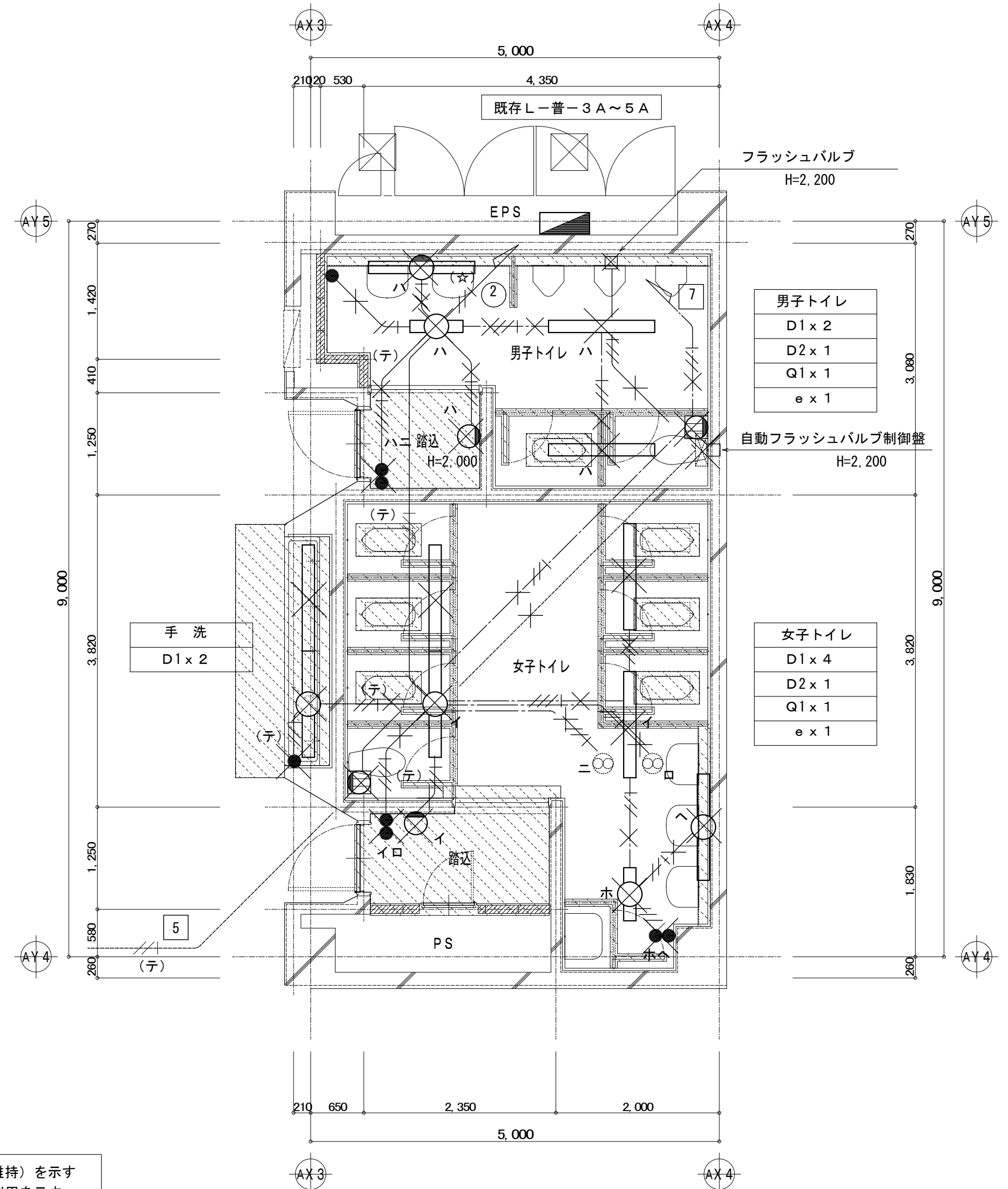
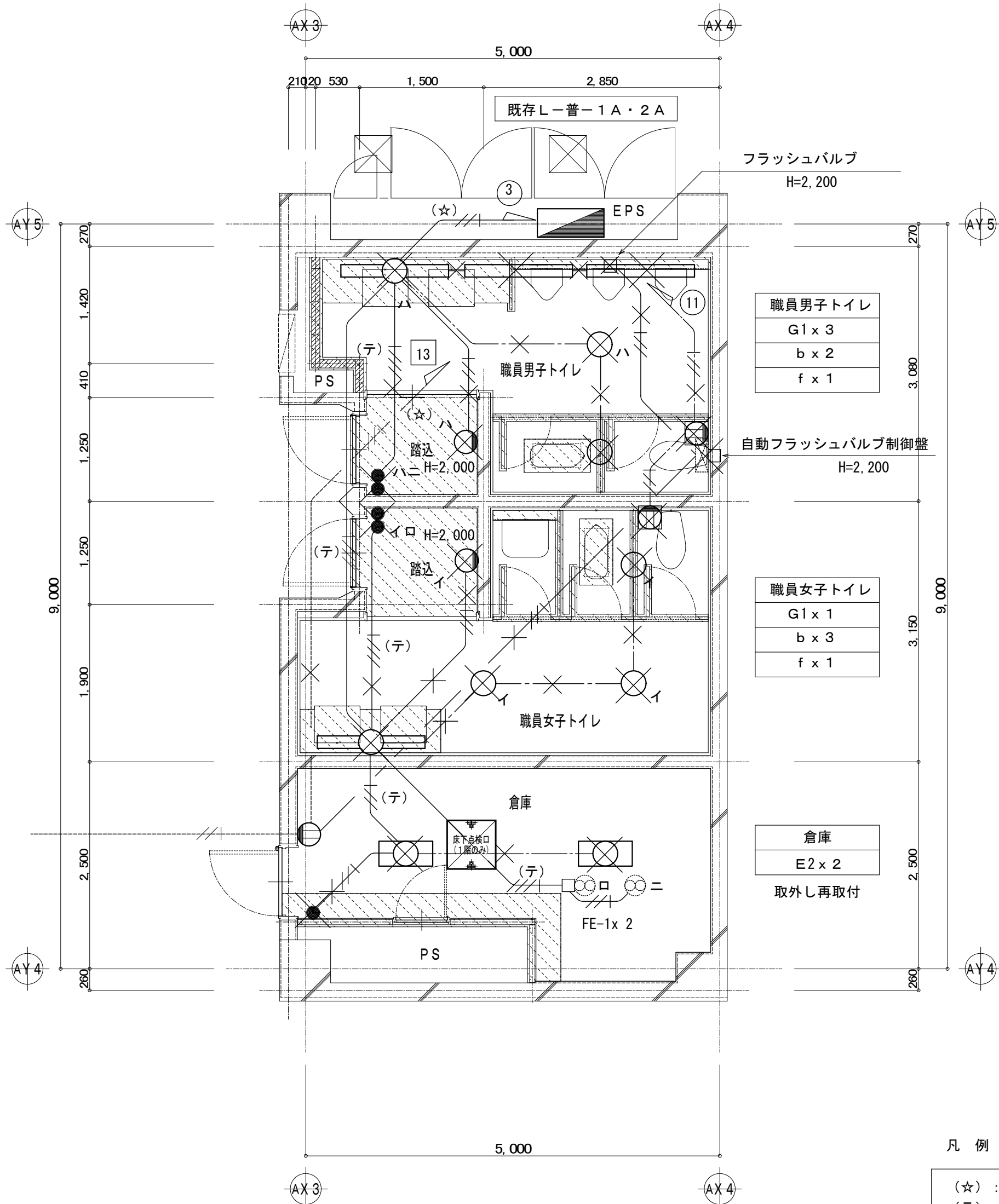
<改修工事特記事項>

- ・新設する照明器具は全てED接地を施すこと。
- ・本図の通り照明器具、配線器具、配管配線を新設とする。
- ・既存配管配線を再使用する部分については再調査の上、絶縁抵抗等の確認を行い再使用とする。
- ・特記なき配線は、下記とする。保護管は立下げ部を示す。

	EM-EFF 1.6-2C	二重天井内直線 保護管(FF16)
	EM-EFF 1.6-3C (10-E)	” ” ”
	EM-EFF 1.6-2C x 2	” 保護管(FF22)
	EM-EFF 1.6-3C x 2	” 保護管(FF22)
	EM-EFF 2.0-3C (10-E)	” 保護管(FF16)
	EM-EFF 2.0-20+3C (10-E)	” 保護管(FF28)
	EM-EFF 2.0-3C (10-E) x 2	” 保護管(FF28)
	(キ)	(キ): 既存配管再利用 新設配線を示す

現況

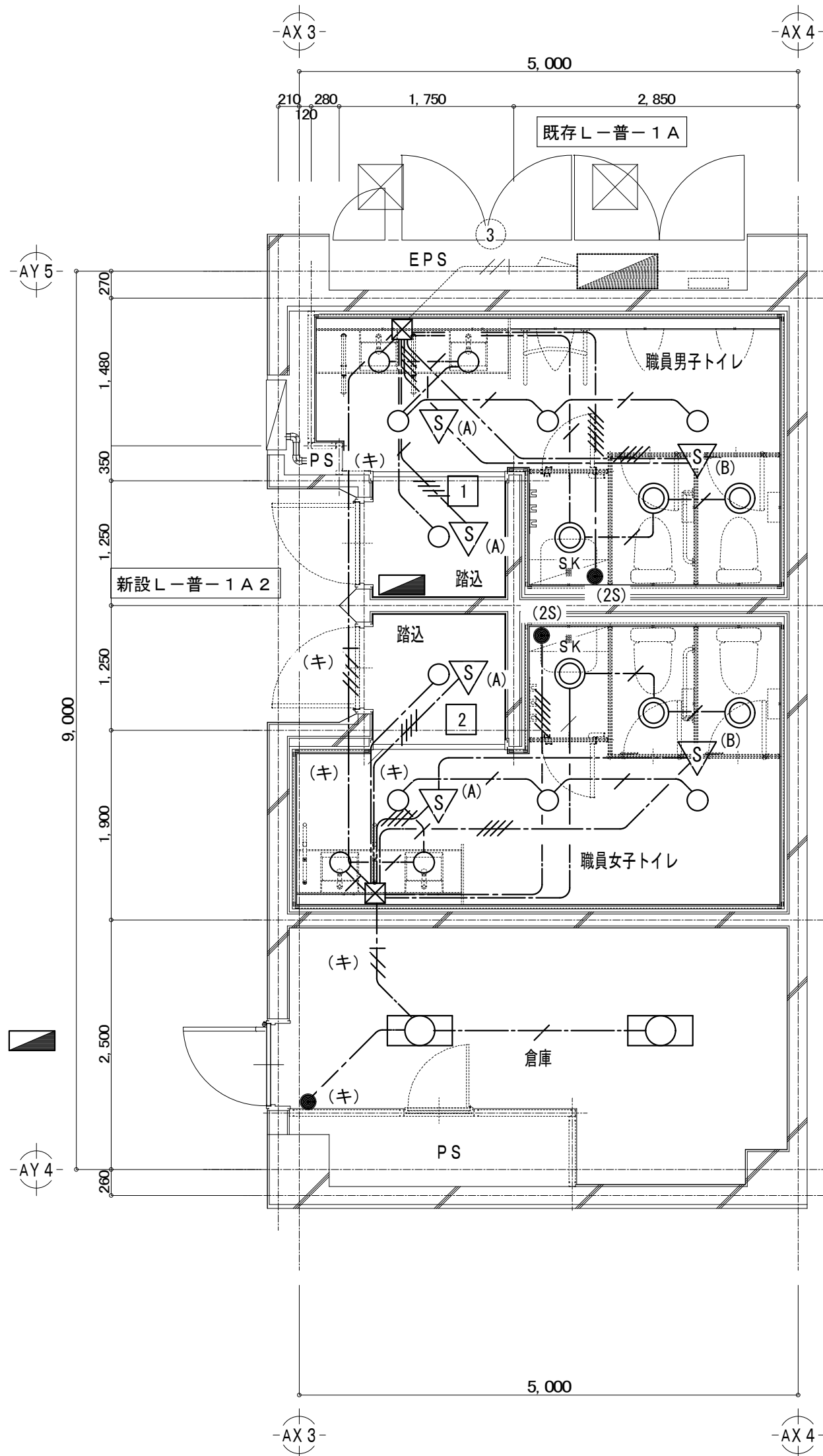
凡例
撤去範囲を示す



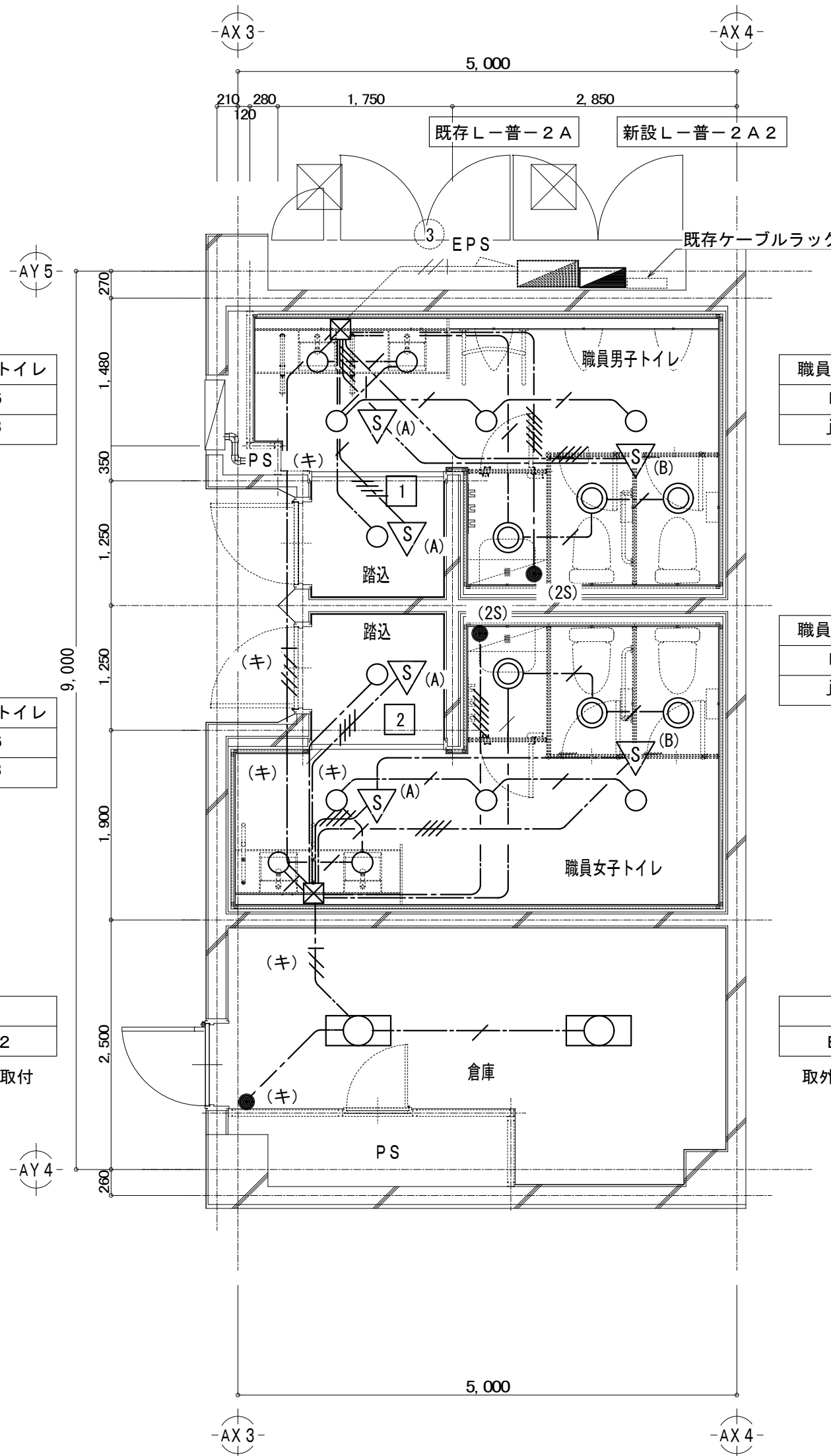
凡例
 (☆) : 既存配管配線再利用 (現状維持) を示す
 (テ) : 既存配線のみ撤去、配管再利用を示す

<配管配線撤去工事特記仕様書>
 ・既存配管配線撤去について躯体内埋込配管は現状維持とするが
 躯体より露出する部分については撤去とする。

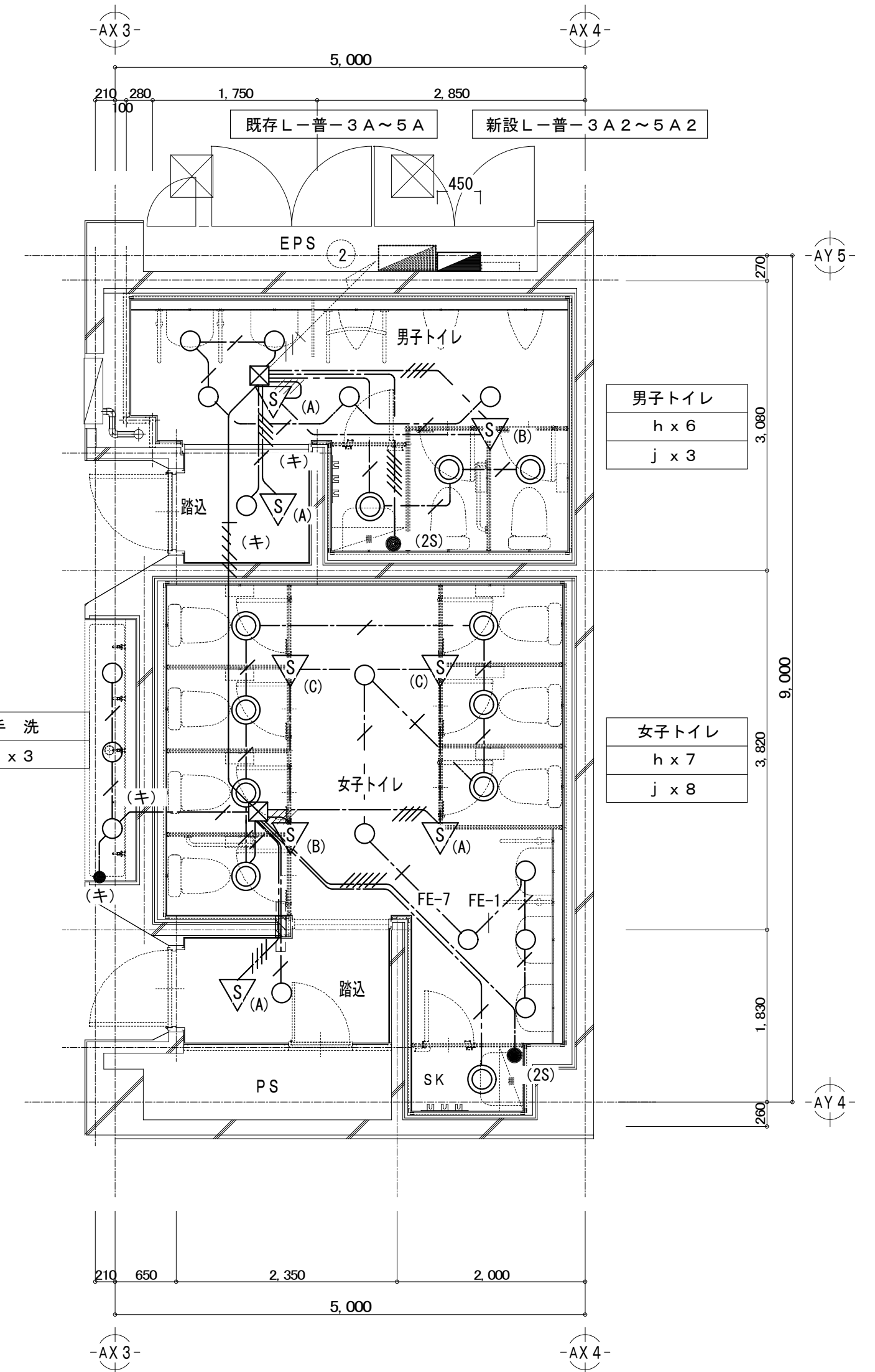
(A棟)



1階平面詳細図 S=1/50



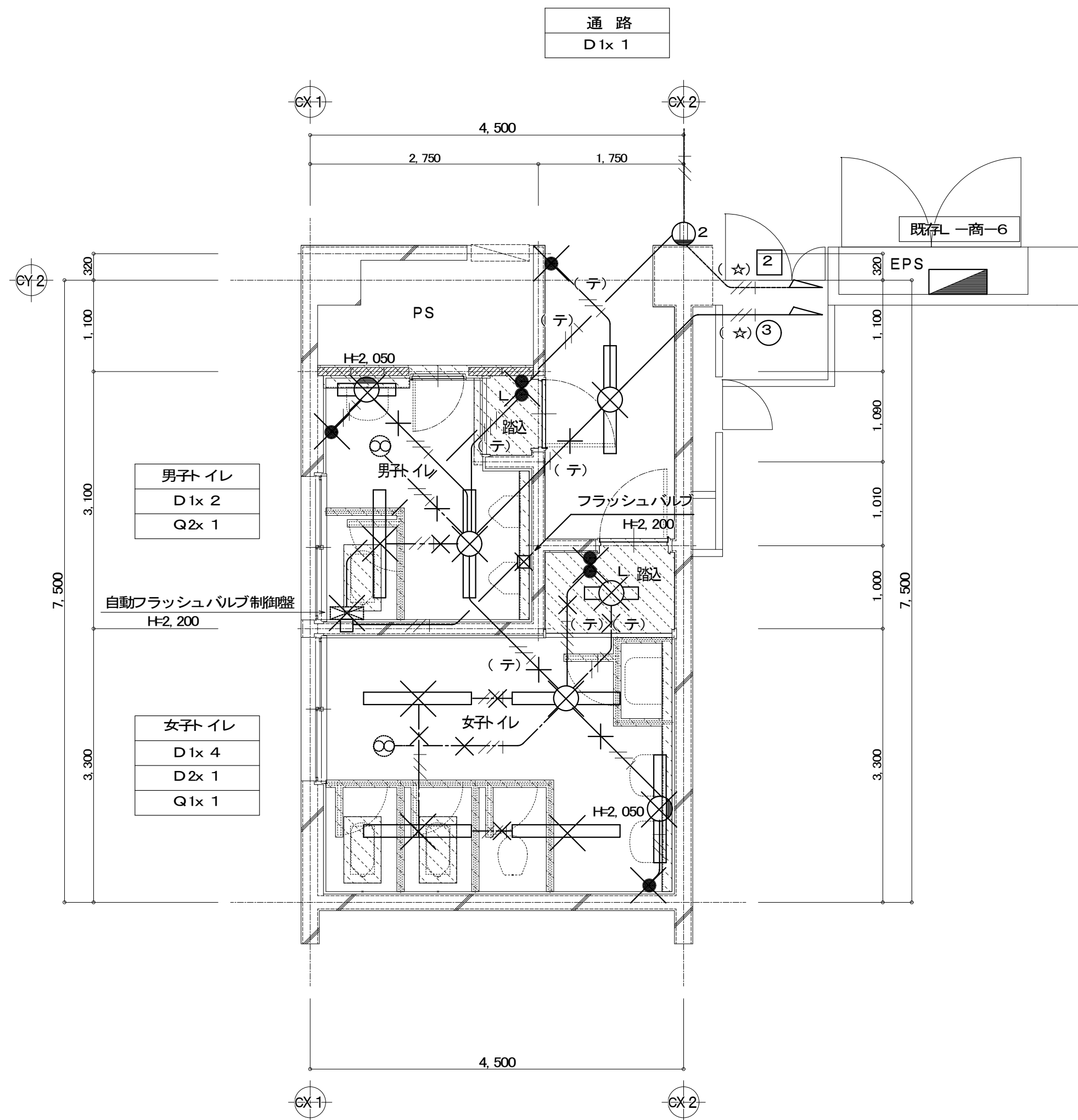
2階平面詳細図 S=1/50



3~5階平面詳細図 S=1/50

現況

凡例
撤去範囲を示す



6・7階平面詳細図 S=1/50

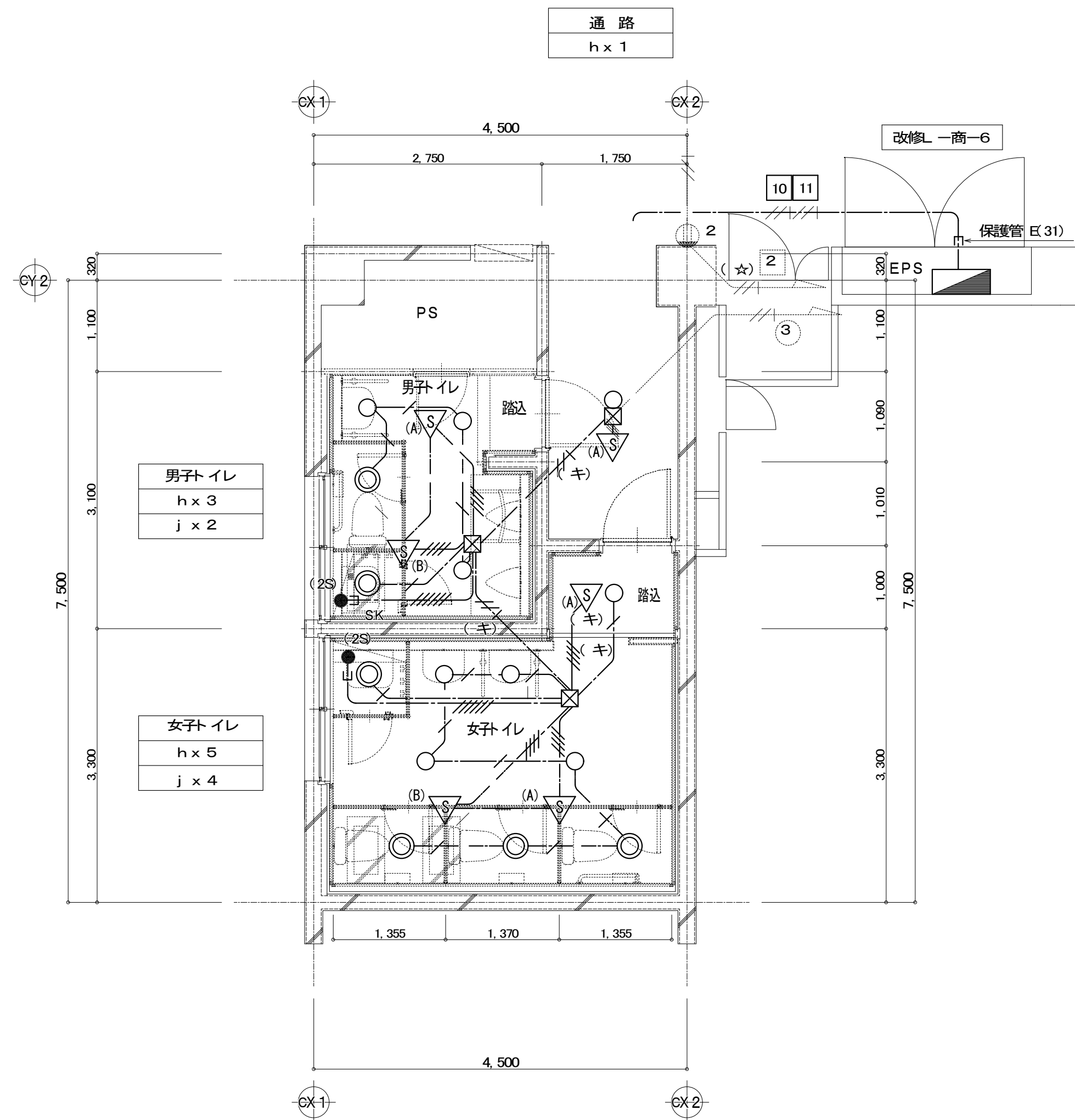
凡例

- (☆) : 既存配管を改線再利用(現状維持)を示す
- (テ) : 既存配管のみ撤去、配管再利用を示す

<配管改線撤去工事特記仕様書>

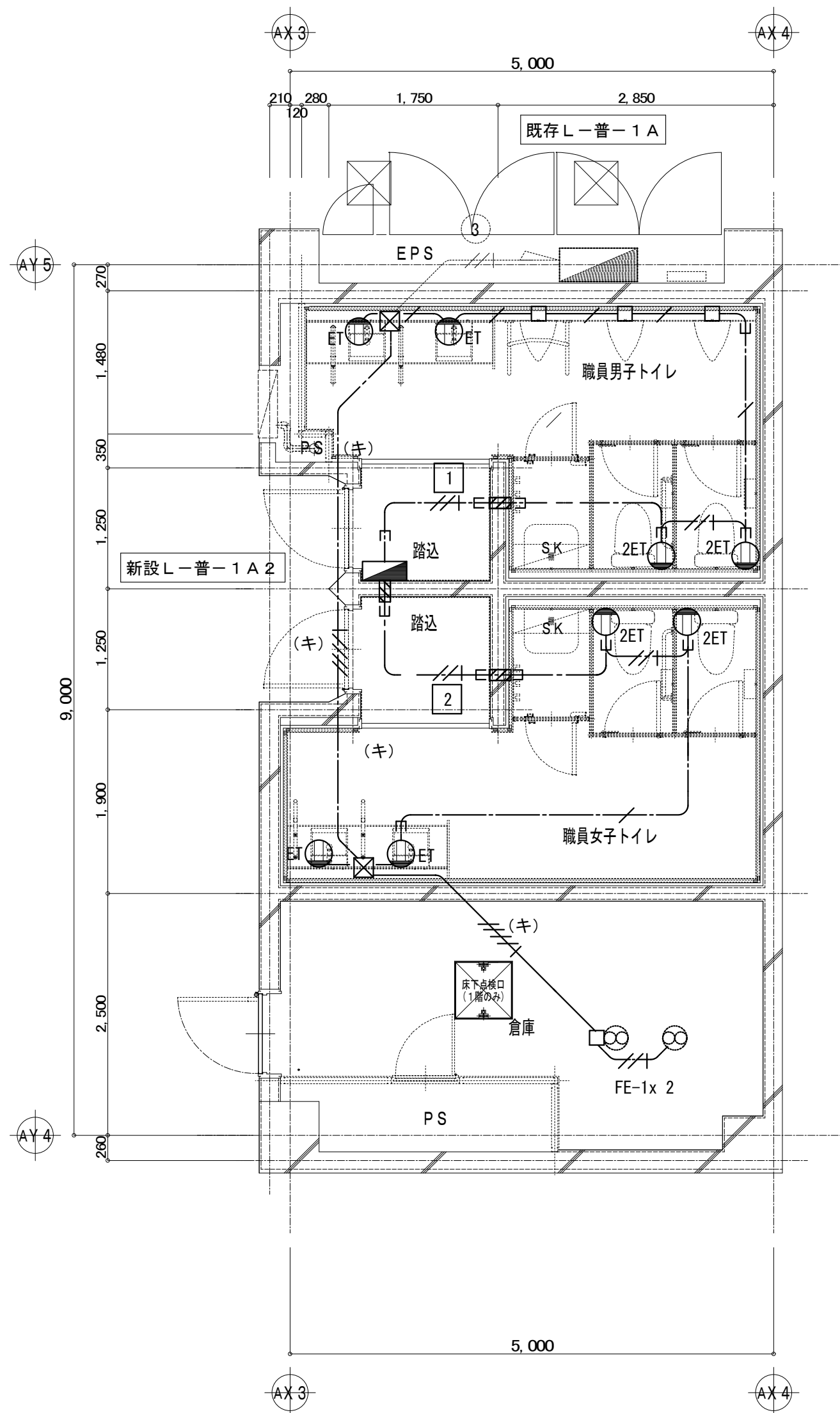
- ・ 既存配管改線撤去について躯体内埋込配管は現状維持とするが躯体より露出する部分については撤去とする。

改修

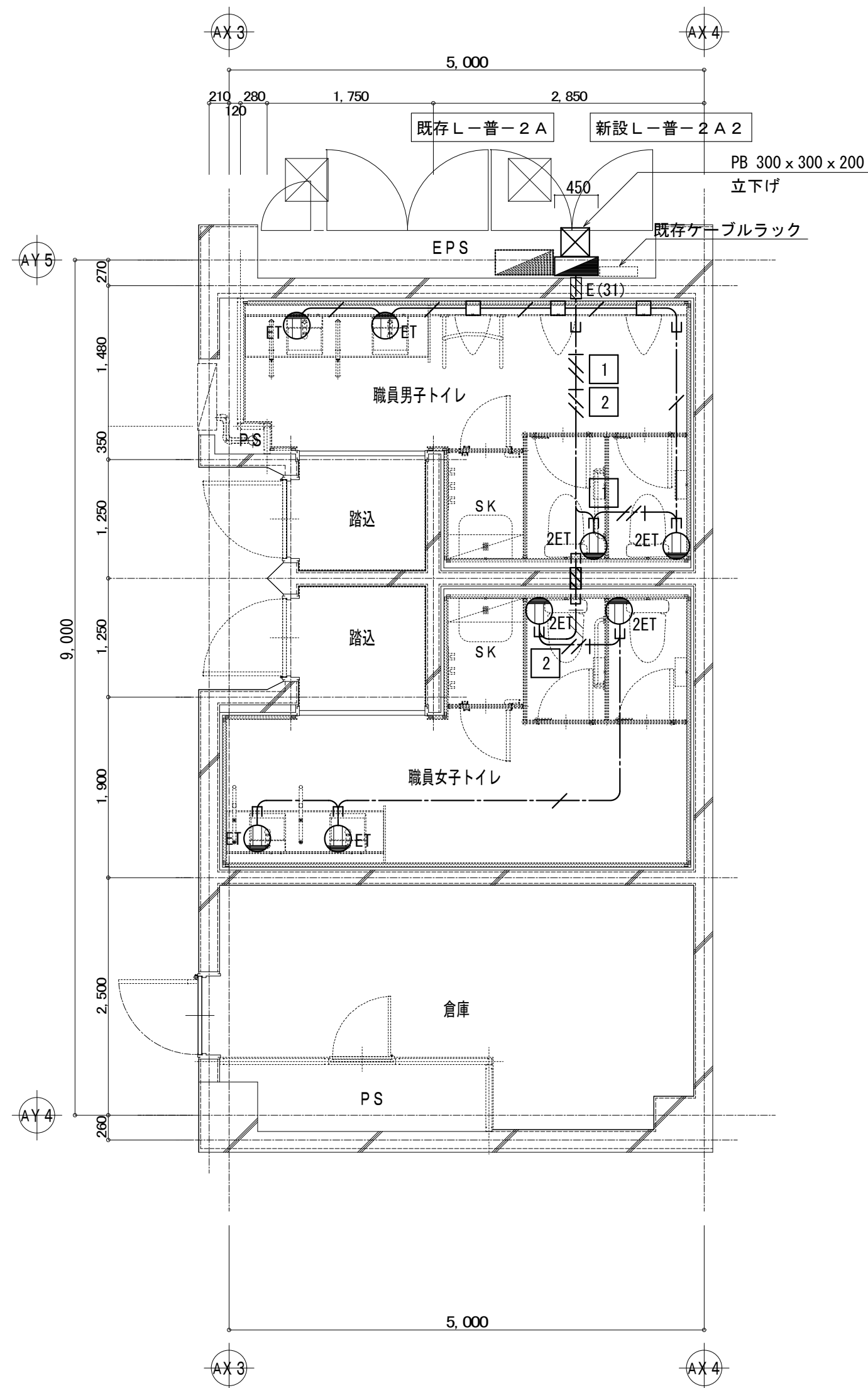


6・7階平面詳細図 S=1/50

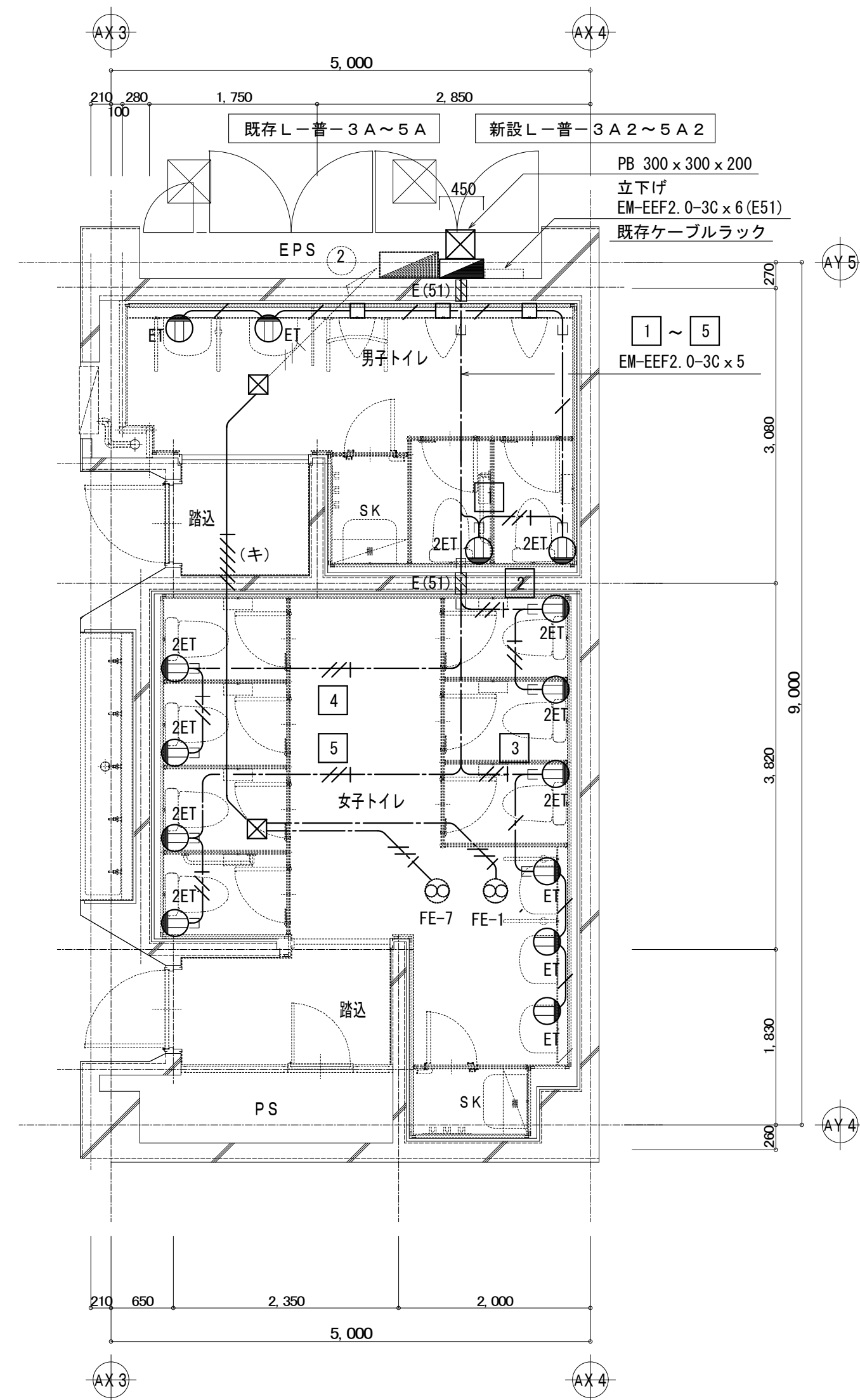
(C棟)



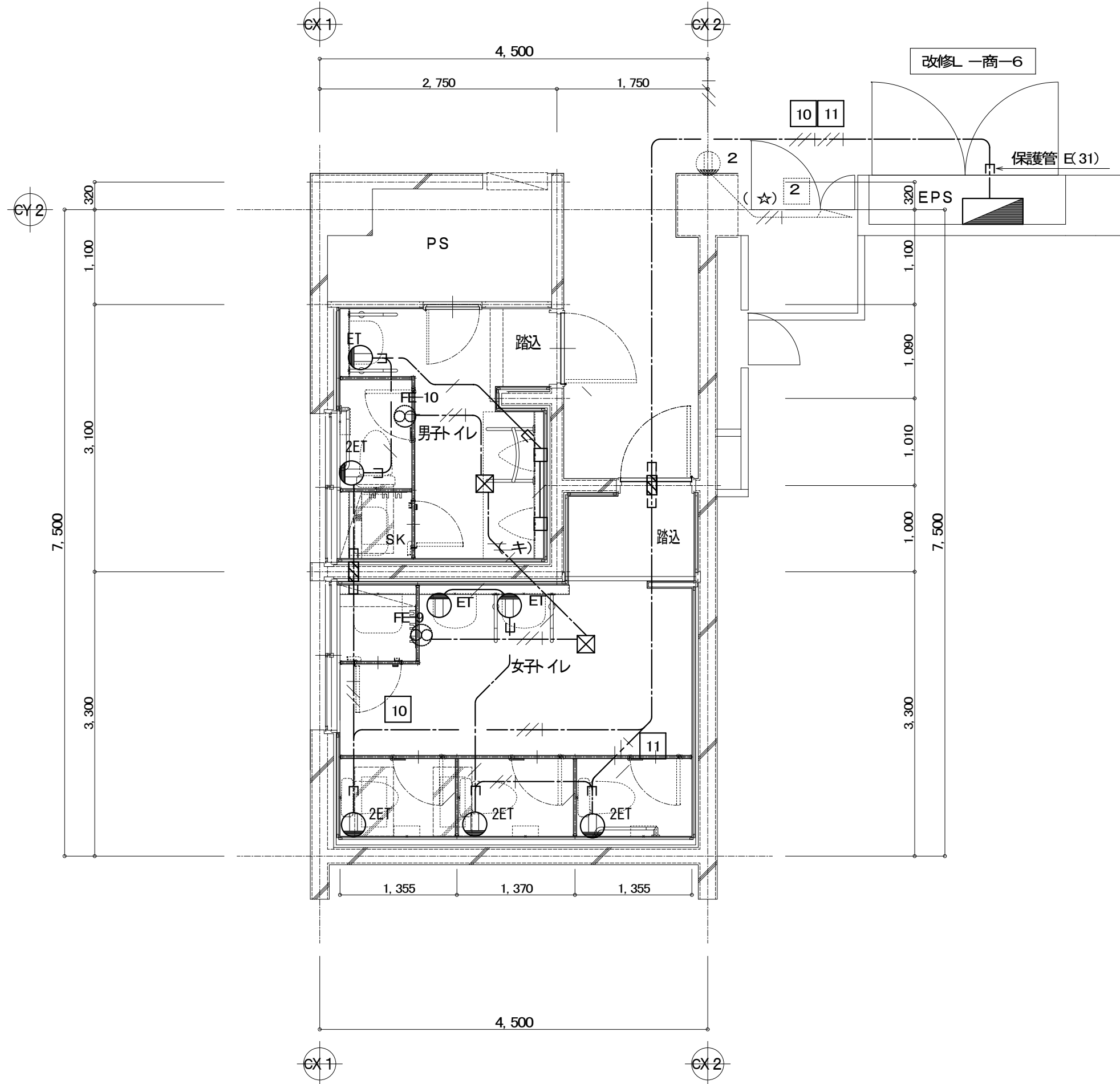
1階平面詳細図 S=1/50



2階平面詳細図 S=1/50



3~5階平面詳細図 S=1/50



6・7階平面詳細図 S=1/50

凡例

- (☆) : 既存配管改線再利用(現状維持)を示す
- (テ) : 既存配線のみ撤去、配管再利用を示す

特記事項	

齊藤出建築設計室
 一級建築士 第326081号 齋藤出

検印 設計
 設計年月日 R 5. 1. 31
 変更年月日

工事名称 川越市立川越高等学校・イレ改修工事(A・C棟)
 図面名称 改修C棟コンセント設備6・7階平面詳細図
 Scale S=1/50.30